横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム
平成 26 年度事業報告書

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

（STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 26 年度事業報告書　目次

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】……05

平成 26 年度事業報告　概要	06
横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラム 連携のしくみ	07
これまでの学校プログラムの取り組み	08
学校プログラム アンケート結果　児童・生徒向けアンケートから	09
学校プログラム アンケート結果　教員向けアンケートから	10

【学校プログラムの個別報告】……14

音楽

西寺尾第二小学校＋かなっくホール	ゴスペル音楽を体験しよう	16
羽沢小学校＋横浜シティオペラ	身近に感じるオペラ１	17
東小学校＋子どもに音楽を	弦楽器の音色	18
南太田小学校＋神奈川県立音楽堂	木管のハーモニー	19
六つ川台小学校＋子どもに音楽を	クラシックを身近に	20
坂本小学校＋横浜こどものひろば	ラテンのリズムにのって	21
峯小学校＋岩間市民プラザ	先輩が唄いにやってきた	22
根岸小学校＋杉田劇場	ボディーパーカッションで合奏	23
並木第一小学校＋Media Global	リズムであそぼう	24
能見台南小学校＋Media Global	歌と言葉で自分を表現する	25
城郷小学校＋横浜みなとみらいホール	弦楽器コンサート	26
新吉田第二小学校＋子どもに音楽を	クラシックへの好奇心	27
名瀬小学校＋さくらプラザ	手作り楽器でリズムセッション	28
俣野小学校＋アートの時間	熱帯バリ島の不思議な音楽“ガムラン”2014	29
下永谷小学校＋ひまわりの郷	くちぶえを吹いてみよう　～唇が楽器になる!?～	30
永谷小学校＋吉野町市民プラザ	音楽で発見！みんなでイメージを伝えよう	31
野庭すずかけ小学校＋横浜シティオペラ	身近に感じるオペラ２	32
日限山小学校＋横浜みなとみらいホール	歌声のひびき	33
今宿小学校＋横浜こどものひろば	ボディーパーカッションで校歌を歌おう、踊ろう	34
不動丸小学校＋サンハート	ボディーパーカッションで音楽を表現しよう	35
若葉台小学校＋サンハート	声を合わせて力の限りに歌ってみよう	36
阿久和小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	”目で聴いて、耳で観る”表現アート体験	37
二つ橋小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	スチールドラム体験	38
瀬谷さくら小学校＋横浜みなとみらいホール	ゴスペルの響き	39
上郷小学校＋リリス	楽器の魅力とアンサンブルの楽しさを知ろう！	40
桜井小学校＋リリス	オリジナルのうたをつくろう	41
豊田小学校＋リリス	サンバ・チャレンジ	42
いずみ野小学校＋テアトルフォンテ	アドリブにチャレンジ	43
上飯田小学校＋テアトルフォンテ	うごいて、たたいて、つたえよう	44
中和田南小学校＋テアトルフォンテ	いろんな音にふれながら遊ぶ、打楽器アンサンブル	45
東中田小学校＋テアトルフォンテ	リズムを感じて歌おう	46
飯田北いちょう小学校＋テアトルフォンテ	はじめまして！コンサート	47
荏子田小学校＋横浜シティオペラ	身近に感じるオペラ３	48
荏田西小学校＋フィリアホール	金管楽器の華やかな世界	49
鴨志田第一小学校＋フィリアホール	スーホと白い馬　馬頭琴とその音楽	50
荏田東第一小学校＋子どもに音楽を	チェロの響き	51
川和小学校＋横浜みなとみらいホール	きれいな声で歌おう	52
北山田小学校＋Media Global	ミュージカルをつくろう	53
鴨志田中学校＋フィリアホール	重なる声を感じる	54
盲特別支援学校＋かなっくホール	心に響くボディーパーカッション	55
北綱島特別支援学校＋よこはま音楽広場実行委員会	音がひろがる空間	56
東俣野特別支援学校＋アートの時間	オノマトペの音遊び	57
港南台ひの特別学校＋ST スポット横浜	耳と目と体で楽しむコンサート	58
日野中央高等特別支援学校＋よこはま音楽広場実行委員会	スチールドラム鑑賞＆体験	59
本郷特別支援学校＋リリス	音楽の楽しさを発見！	60

演劇

屏風浦小学校＋杉田劇場	朗読で伝える、表現する	62
釜利谷小学校＋急な坂スタジオ	未来の釜利谷の歴史	63
大綱小学校＋横浜こどものひろば	空間を考えて演劇つくり	64
東俣野小学校＋さくらプラザ	おしゃべりなパントマイム	65
深谷小学校＋アートの時間	植物と昆虫の成長	66
上大岡小学校＋横浜こどものひろば	二分の一成人式を祝う	67
上山小学校＋みどりアートパーク	ねこはしる	68
鴨居小学校＋Media Global	身体でおしゃべり！パントマイム	69
竹山小学校＋みどりアートパーク	人形劇で手話体験	70
山下小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	「きょうしつ」	71

ダンス

駒岡小学校＋Offsite Dance Project	ダンスで対話する	73
下末吉小学校＋Offsite Dance Project	自由で表現してみよう	74
西寺尾小学校＋Offsite Dance Project	自分らしくダンス！	75
蒔田小学校＋吉野町市民プラザ	ダンスでコミュニケーション	76
桜台小学校＋ST スポット横浜	みんなでつくる、おどる	77
保土ヶ谷小学校＋急な坂スタジオ	からだで歌う、合唱ダンス	78
小机小学校＋象の鼻テラス	からだでコミュニケーション	79
綱島小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	ダンスで心を解放する	80
新羽小学校＋芸術家と子どもたち	からだで会話！？	81
柏尾小学校＋アートの時間	いろいろなモノになってみる	82
相武山小学校＋吉野町市民プラザ	身体で表現してみよう	83
永野小学校＋吉野町市民プラザ	校歌でダンス！	84
日野南小学校＋Offsite Dance Project	新しいダンスにであう	85
さちが丘小学校＋サンハート	校歌で踊っちゃおう！	86
霧が丘小学校＋みどりアートパーク	やってみなけりゃわからない！	87
下和泉小学校＋ST スポット横浜	なりきって踊る	88
勝田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	自分だけのダンス	89
つづきの丘小学校＋急な坂スタジオ	場所で踊ろう！あの場所と踊ろう！	90
中川小学校＋象の鼻テラス	みんなでパフォーマンス	91
泉が丘中学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	うずうずダンス	92
浦舟特別支援学校＋ST スポット横浜	ダンスで知る、音楽で知る	93
二つ橋高等特別支援学校＋急な坂スタジオ	音楽で踊ると心まで弾む	94

美術

末吉小学校＋象の鼻テラス	白い風景をつくろう	96
二谷小学校＋かなっくホール	オリジナルクレヨンをつくろう！	97
間門小学校＋Offsite Dance Project	オリジナルのクレイアニメづくり	98
下田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	ダンボールの活動	99
品濃小学校＋アートの時間	仮面パレード２０１４	100
平戸台小学校＋さくらプラザ	秘密のらくがき	101
都岡小学校＋サンハート	木炭画で似顔絵・自画像を描く１	102
二俣川小学校＋サンハート	木炭画で似顔絵・自画像を描く２	103
万騎が原小学校＋ART LAB OVA	学校の壁に 50 年後の自分の絵を描こう	104
長津田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	みんなで作るクリスマスツリーの森	105
上の宮中学校＋横浜美術館	古着で現代アート１	106
汐見台中学校＋横浜美術館	古着で現代アート２	107
小田中学校＋ART LAB OVA	芸術家ってどんな人？	108
芹が谷中学校＋横浜美術館	古着で現代アート３	109
旭中学校＋横浜美術館	古着で現代アート４	110
希望が丘中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	廃材を使った”いきもの”制作	111
本郷中学校＋横浜美術館	古着で現代アート５	112
上飯田中学校＋横浜美術館	古着で現代アート６	113
市ヶ尾中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	なにも知らない、＜わたし＞の戦争	114
川和中学校＋横浜美術館	古着で現代アート７	115
中村特別支援学校＋ART LAB OVA	なかむらアートライブ	116
上菅田特別支援学校＋ST スポット横浜	たゆたう音楽、光ー時間と空間	117

伝統芸能

潮田小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！１	119
岸谷小学校＋サルビアホール	さわってみよう！日本の楽器	120
汐入小学校＋サルビアホール	日本のカッコイイ音楽	121
寺尾小学校＋サルビアホール	狂言のおはなし	122
東台小学校＋サルビアホール	箏について知ろう	123
浦島小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	みんなで「さくら さくら」	124
神橋小学校＋神奈川県立音楽堂	雅楽を体験してみよう！	125
中丸小学校＋かなっくホール	古典芸能を体験しよう！お能の世界	126
本牧南小学校＋Offsite Dance Project	３日間の弟子入り体験	127
藤の木小学校＋関内ホール	お箏を体験しよう１	128
南小学校＋吉野町市民プラザ	身体で感じる「日本の響き」	129
今井小学校＋岩間市民プラザ	落語って楽しい！	130
川島小学校＋横浜能楽堂	狂言を味わう	131
笹山小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！２	132
瀬戸ヶ谷小学校＋岩間市民プラザ	和太鼓にふれてみよう	133
藤塚小学校＋横浜能楽堂	狂言の世界にふれる	134
星川小学校＋岩間市民プラザ	邦楽鑑賞教室	135
汐見台小学校＋杉田劇場	箏を奏でよう	136
釜利谷南小学校＋横浜にぎわい座	寄席を楽しもう	137
富岡小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！３	138
西富岡小学校＋関内ホール	お箏を体験しよう２	139
日吉南小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！４	140
南戸塚小学校＋さくらプラザ	落語とパントマイム	141
港南台第一小学校＋Media Global	落語の所作を楽しむ	142
港南台第二小学校＋荒馬座	和太鼓を体験しよう！	143
小坪小学校＋ひまわりの郷	いろはに邦楽	144
南本宿小学校＋横浜にぎわい座	落語の世界を味わおう	145
十日市場小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！５	146
小山台小学校＋荒馬座	和太鼓をたたいてみよう	147
千秀小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	和太鼓の響き	148
青葉台小学校＋横浜みなとみらいホール	雅楽の魅力	149
あざみ野第一小学校＋関内ホール	お箏の音色を楽しむ	150
美しが丘東小学校＋関内ホール	「日本の音楽」に親しむ	151
山内小学校＋横浜にぎわい座	落語で笑おう！	152
都田小学校＋横浜能楽堂	狂言の世界を楽しもう	153

【アーティストプロフィール】……154

【コーディネータープロフィール】……164

【各種資料】……168

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 26 年度事業報告　概要

課題認識、目的と事務局体制

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局が事務局を構成し、ＳＴスポット横浜が事務局代表として事業を推進しています。事務局構成団体は、横浜の次世代を担う子どもたちのコミュニケーション力と創造力をはぐくみ、豊かな心を養うことが必要であるという課題認識を共有するとともに、市立学校等において、子どもたちの創造性をはぐくみ、ゆたかな情操を養う機会を拡大するためのプログラムを実施する本事業の目的を共有しています。

今年度は、音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能などの分野で活躍している芸術家が、学校へ出かけました。小学校112校、中学校12校、特別支援学校10校、あわせて134校、14,225人の児童・生徒に向けてプログラムを実施。横浜市内の文化施設や、市内外のアートＮＰＯをはじめとする民間の芸術団体をはじめ34団体が、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして授業づくりを支援しました。

コーディネーター会議

先生のためのワークショップ

ウェブサイトの運営

取組みの蓄積、活動の深化に向けて

事業を担当するコーディネーターが集まり情報交換を行う「コーディネーター会議」を実施し、総勢44名が集まりました。この場では、担当する学校とのプログラムを調整する際に起きる課題の整理や、過去に蓄積したノウハウなどの情報交換を行い、またグループごとでのディスカッションも行いました（2014年７月２日(水)、会場：横浜赤レンガ倉庫1号館）。

教員向けプログラムとしては、先生のためのワークショップを行い、横浜市内の小・中学校、高等学校の主に図画工作科・美術科担当の教員20名が参加。舞台美術家・セノグラファーの鈴木健介によるワークショップを実施しました。舞台美術というジャンルの紹介から始まり、「ことばを形にする」ことをテーマに、A4の紙１枚で様々なものを表現しました。（2014年10月29日、11月26日、会場：横浜市技能文化会館）。

このほか、芸術文化の創造性を学校運営、カリキュラム等に活かしたいと考える学校関係者や、これからプログラムに参加したいと考えるコーディネーターやアーティストのための相談窓口を設置し、随時相談を受けました。また、過去の実績を集積した報告書や、コーディネーター、アーティストなどの情報をＷＥＢサイトで公開しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
学校プログラム 連携のしくみ

連携のしくみ

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方が集まって、つくられています。ねらいは、次の３点です。

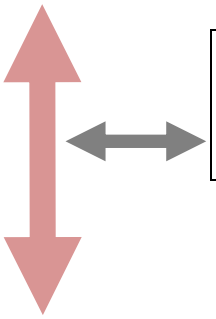
（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり

（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク

（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じて
プログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。



事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局で構成されています。

推進委員会 芸術文化教育プラットフォームの総合的な推進を図ります。

芸術団体／文化施設

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、コーディネーターとして、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

学校プログラムの連携とすすめかた

【アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします】

私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するアート。自由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

【芸術家が、直接学校へ出かけます】

平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。プログラムは大きく分けて２種類。１つは、３日程度にわたり実施し、実技体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの創造活動に取り組み、子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施する「体験型プログラム」。もう１つは、アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞した後、アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができる「鑑賞型プログラム」。音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家が、直接学校へ出かけます。

【コーディネーターと先生が、実施内容を調整します】

学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科・科目のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識がひとつになることで、効果的なプログラムが実施できます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
これまでの学校プログラムの取り組み

平成 16 年度から事業を開始

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この10年間で、のべ約560校の横浜市立の小・中学校、特別支援学校で、８万人を超える児童・生徒たちが、アーティストと時間をともにしました。

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
参加児童･生徒数	**319**	**434**	**1,500**	**9,956**	**11,802**	**13,432**	**8,706**	**9,945**	**7,623**	**9,517**	**14,225**
実施校数	**6**	**8**	**22**	**52**	**67**	**82**	**79**	**77**	**73**	**92**	**134**
音楽	4	−	7	34	40	38	36	34	27	35	45
演劇	1	2	4	8	9	11	10	7	10	9	10
ダンス(舞踊)	1	3	3	3	4	6	6	7	11	14	22
美術	−	3	5	3	8	11	15	15	13	16	22
伝統芸能	−	−	3	4	6	16	12	14	12	18	35
応募校数	−	−	24 校	52 校	76 校	86 校	85 校	94 校	90 校	96 校	136 校

多様なコーディネーターによる、プログラムの実施

平成 19 年度以降、コーディネーターとして活動する団体・文化施設を拡大し、現在の学校プログラムは、コーディネーターとしてかかわる横浜市内の文化施設と、市内外のアートＮＰＯなど民間の芸術団体に支えられています。

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
文化芸術団体	−	−	−	4	10	13	13	12	11	10	10
文化施設	−	−	−	0	4	12	14	16	17	20	23
事務局構成団体	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1
合計	**1**	**1**	**1**	**6**	**16**	**27**	**29**	**30**	**30**	**32**	**34**

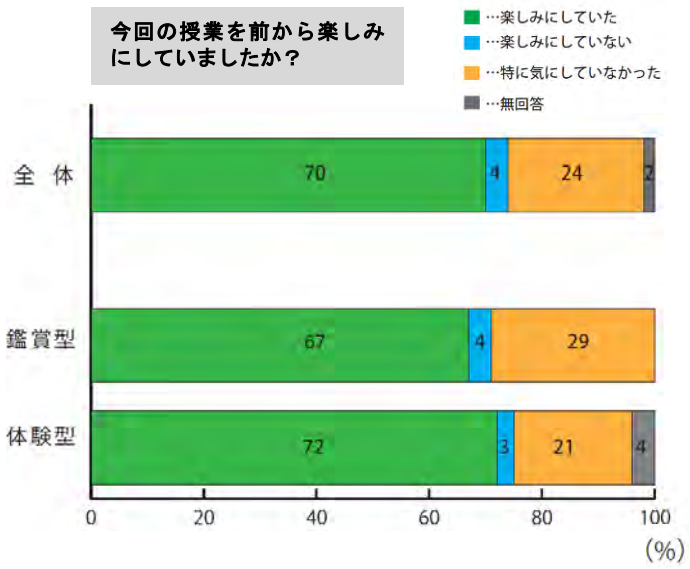
学校プログラム　アンケート結果

児童・生徒向けアンケートから

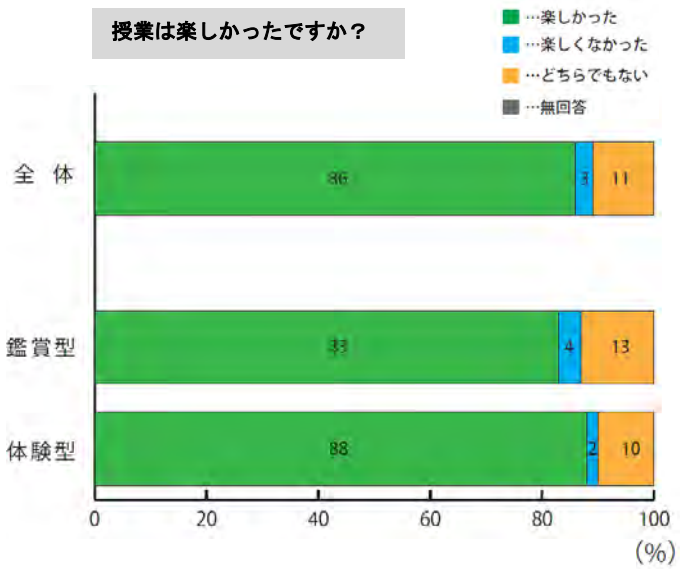
平成 26 年度の「学校プログラム」実施校の児童・生徒に対してアンケートを実施しました。アンケートの集計数は 10,442 人（うち鑑賞型プログラム 4,340 人、体験型プログラム 6,102 人）です。なお、このアンケートは、小学3年生以上を対象とし、複数学年での取り組みではどこか1つの学年でアンケートを実施しています。また特別支援学校では任意で実施しました。設問のうち自由記述は各取組み報告のページに示しました。

いずれも高評価になっています。「楽しかった」、「また受けたい」が8割を超えるなど、次回への期待がうかがえます。

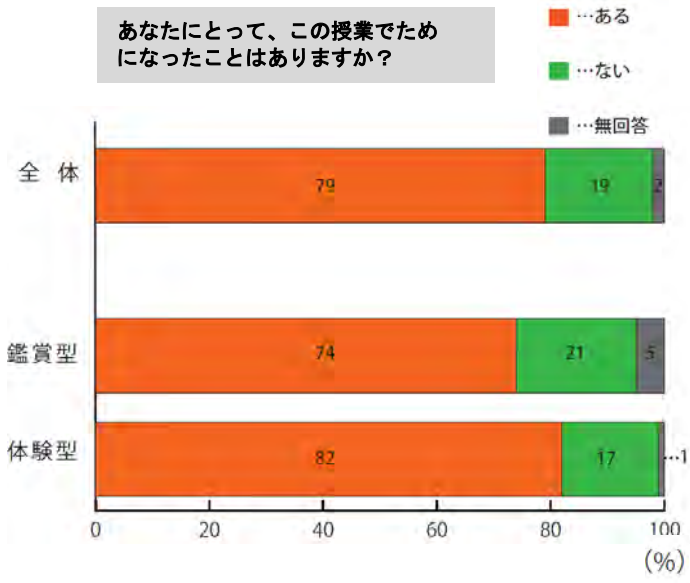
今回の授業を前から楽しみにしていましたか？



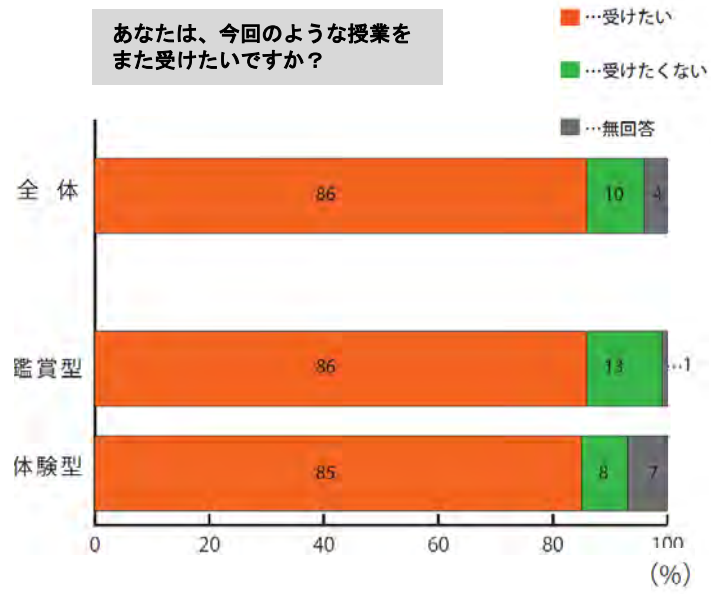
授業は楽しかったですか？



あなたにとって、この授業でためになったことはありますか？



あなたは、今回のような授業をまた受けたいですか？



学校プログラム　アンケート結果
教員向けアンケートから

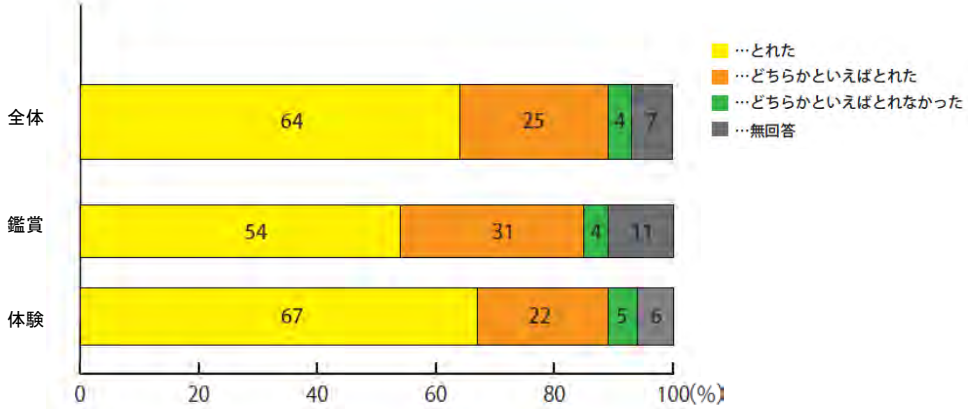
平成 26 年度の「学校プログラム」実施校の学校（もっとも事業に関わった教員）に対してアンケートを実施しました。アンケート回収数は 128 校（全実施校：134 校、回収率：95.5%）でした。

プログラム全体について

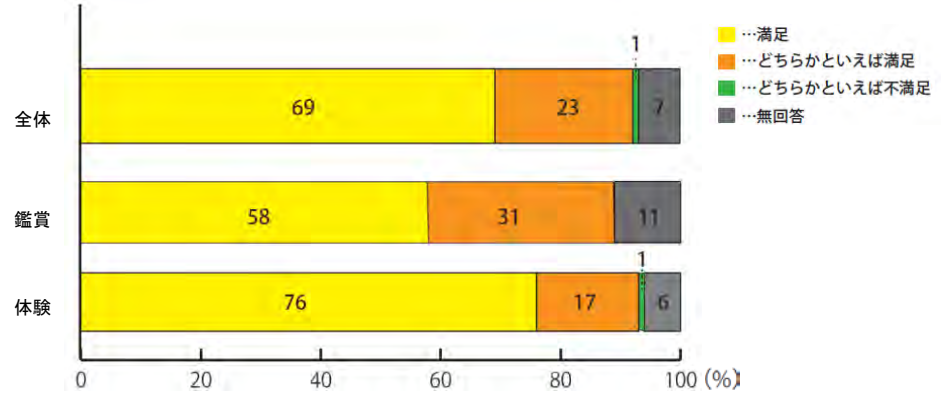
学校での取り組みの実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションが「とれた」「どちらかといえば、とれた」はあわせて 89%。教員から見た子どもたちの満足度、先生のねらいに照らした満足度は約9割と高評価でした。

複数日にわたる体験型プログラムに関しては、教員とコーディネーター間でより密な連携ができる余地があると考えられます。

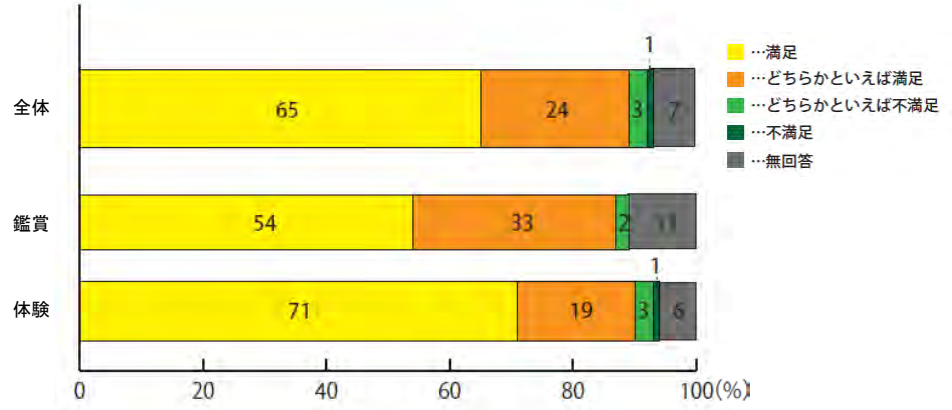
実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか？



子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか？



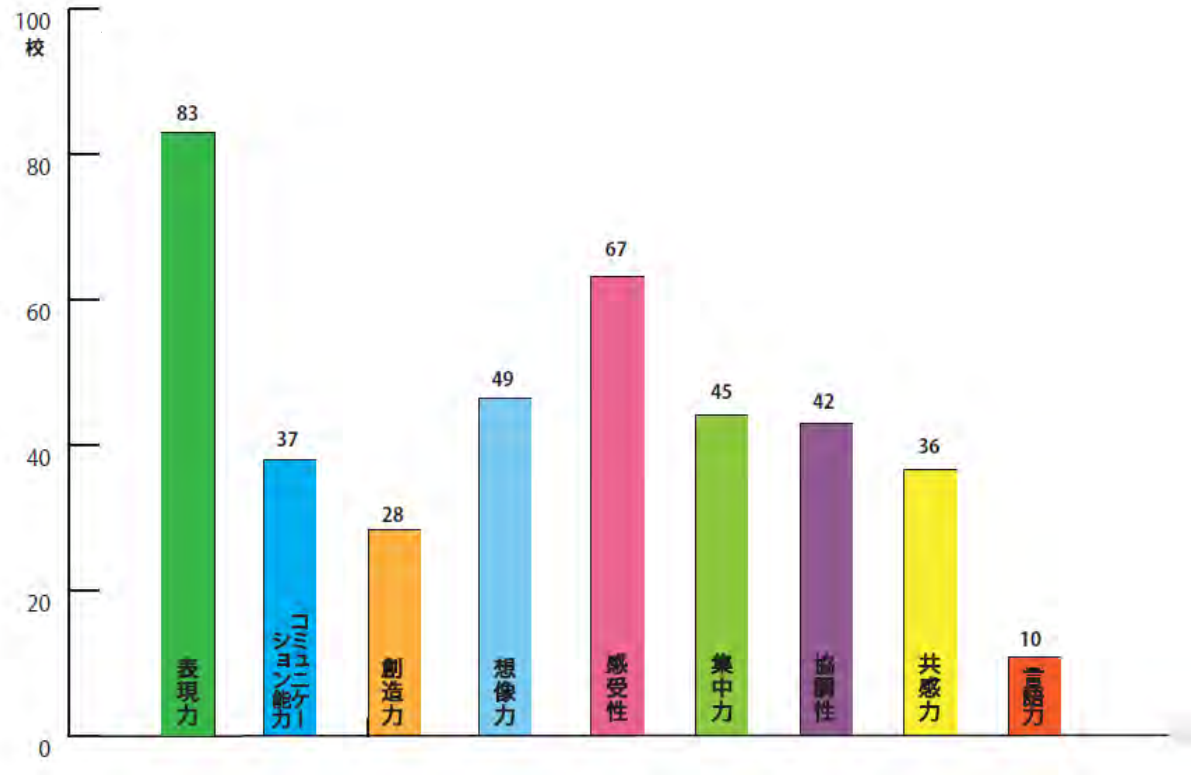
先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか？



実施終了後に子どもたちに「身についた力」

取り組みを経て子どもたちに「身についた力」はどのようなものだったかを調べました。複数回答でもっとも多かった回答は「表現力」でした。次に高かったのが「感受性」。以下「想像力」「集中力」「協調性」「コミュニケーション能力」「共感力」と続きます。目に見えにくい、基礎的な力にも先生の注目が集まっていることが分かります。

今回の取り組みにより、子どもたちにとって力がついたと思われる項目（複数回答）



それぞれの力は、具体的にどのようなものだったか、先生の自由回答を整理したものを、以下にまとめました。

表現力

・動物や自然、普段から慣れ親しんでいるものになって動くことを表現することができた。

・子どもたち一人ひとりが本当に楽しんで思い切り声を出すことができた。取り組み後、今まで以上によく声を出して歌うようになった。

・恥ずかしがりながらも、表現しようとする姿が見られた。

・アーティストと一緒に演奏する時、自分で作ったリズムで合わせていた。

・みんなが笑顔で、自分で作った楽器とアーティストとの合奏を楽しんでいた。

・人前で表現をすることが苦手な子どもたちが、「表現することが楽しい！」と思えていた。

・音や動作で、日常の動きができるということを知った。

・からだ全体を使って表現していた。心が開放されて、表情が明るく穏やかだった。

・日頃、大人しい子どもたちがメンバーと一緒に体を大きく動かしていた。

・まわりの目を気にしたり、恥ずかしがったりすることなく、思い切り自分を出して楽しむ姿が見られた。

・いろいろな表現の仕方を知り、幅を広げることができた。

・最初は周囲をうかがっていた子どもたちが、授業の終盤には、思い思いの動きを楽しそうに行っていた。

・普段の学習では行わない内容に、期待感や不安感を表情や発声、しぐさで表出させた。

・目に見えないものを表現したり、伝えたい事を相手に伝えたりするためには言葉だけではなく様々な方法があることを学び、表情を工夫したり、ジェスチャーを使ったりして相手に気持ちを伝えようとする子どもたちの姿が見られた。

コミュニケーション能力

・子どもたち自身が即興で動きを考え、アーティストや友だちとコミュニケーションをとりながら、体を動かしたりしていた。

・グループで、共に活動する姿が見られた。

・できあがった作品を見せ合う中で、自分とは違う表現を認め、そのよさを伝え合っていた。また製作の際に、友だちと声をかけ合い楽しく活動していた。

・アーティストと子どもたち、子どもたち同士が会話しながら取り組む様子が見られた。

・はじめて出会うアーティストに教わったり、友だちと教えあったりとコミュニケーションがさかんにおこなわれていたのが嬉しかった。

創造力

・本物の表現を見ることができ、子どもたちの動きのバリエーションが増えた。

・鑑賞する場所を変えながら聴くことができ、夢中になっていた。

・新しいものを初めてつくり出すことを楽しんでいた。

・友だちとは違った動きやポーズを考えていた。

・相手の顔の特徴を探し出し、表そうとしていた。

・材料を組み合わせたり、活用の仕方を工夫したりとよく考えながら活動していた。

・あったできごとをどのような動作や音で表せばよいかをよく考えて取り組んでいた。

・子どもたちが撮った映像から音をイメージして話し合っていた。

・自ら工夫して変えてみたり、友だちと一緒に工夫してみたりしていた。

・より魅力的に伝えるための方法や表現を考え実践していた。

・既成の価値観の転換や、自分の目で物事を捉えていく事の大切さを学んだ。

・「新しい生き物」をつくり出すためにイメージを広げようと材料を吟味し、試行錯誤する様子が見られた。

・新しい視点をもって、新しい見方を自分の中にとり入れることができていた子が多かった。

・アーティストの声かけにより色々なことを自分から試し動きを楽しんでいる様子が見られた。

想像力

・舞台には道具がほとんどないのにあるように感じて笑っていた。

・普段、聞きなれない言葉・言い方で内容が理解できないところを話の流れや動きから、理解しようとしていた。

・音楽の授業だけでは味わうことができない音色や歌声を聴くことができ、子どもの音楽に対する世界観が広がったように感じられた。

・他の人の書いた作文を声に出して読む時に、どのように読むと相手に伝わるのか考えながら練習している様子が見られた。

・音楽を聴き、絵を見ながらイメージを深めたり、互いに伝え合ったり、描いたりしていた。

・次にどうなるのか、想像力を働かせながらお話を聞いていた。動きと言葉を照らし合わせながら、イメージを広げていた。

・様々な音色が響き、どんなことを表しているのかいろいろと考えながら聞いていた。

・廃材を利用したため「見立てて表現する」という想像力が必要な制作となった。

感受性

・一番初めの曲を聴いた時に、子どもたちの目が丸く大きく開き、「すごい！」とささやく声が聞こえた。また、多動傾向の子どもがずっと座って演奏を聴いていた時に、その子どもの心に演奏のすばらしさが届き感動しているのだな、と思った。

・「一緒に歌ってもいいよ」と声をかけてくれたので、知っている曲が流れると、大きな声で気持ちよさそうに歌う子どもたちがたくさんいた。

・描いたものをその子なりに受けとめながら、作品づくりに生かされていた。

・初めてふれる楽器に意欲的にかかわり、その楽器の音色に親しみ美しさを感じ取ることができた。

・音を選んでいる時に 2 つの音を聴き比べて、自分が思い描く音楽にどちらがより合っているか考えていた。

・音楽というものの見方が変わったり、キャパシティが広がったりした子も多かった。

・言葉はわからなくても歌われている場面を思い描きながら鑑賞していた。

・光の動き、風船の動き、アーティストの方の声かけのしかたの意外性におどろき、よろこんでいる様子が多々みられた。

・音色、歌声が新鮮で、気持ちよさそうにきく様子や、いくつもの音が重なり合う不思議な響きにじっくり耳を傾ける様子などが見られた。

・曲と一緒にライブペインティングしてもらったことで、視覚優位な子が多いのでぐーっと絵を見入っていた。何を描くんだろうと、目が輝いていた。

集中力

・子どもたちはとてもよく集中して聞くことができ、指示通りに動いたり踊ったりして、ダンスそのものを楽しんでいた。

・はじめは好奇心からざわついていましたが曲が始まるとしんとしてみんなしっかり聞き入っていた。

・実際に楽器の演奏をしている様子は普段見られないような集中ぶりだった。

・集中して、よく聴き合って表現していました。

・自分や友達の顔をじっくり向き合い、とても集中して描く姿や、光の当たり方を意識したり、心から絵に向かおうとする姿が見られた。

協調性

・互いにわからない中で、教え合い、考えて　曲を仕上げていく場面が見られた。

・体で音を出すということを知らなかった子どもたちにとって、その基礎・基本を学んだことで習ったこと以上のことをしてみようとチャレンジする子が目立った。

・お互いのパートを練習する中で休み時間や登下校中に口ずさんだりリズムをとる子どもがおり、発表が終わった後も、楽しむ様子が見られた。

・お互いのパートを聞いて、自分の担当をしっかり行うことができた。

・男女関係なくグループの中で教え合う姿が印象的だった。

・せりふを言ったり、動いたりするときにみんなと合わせることを意識できていた。よりよいものを創ろうと意見を出し合うことができた。

・最初は一人ひとりの音がばらばらで全然合わなかったが、練習を重ねていくうちにだんだんと合うようになっていった。

・クラスとして学年としてのまとまりが少しずつ出てきた。

・友だちと協力して一つのものを作りあげる難しさと喜びを感じていた。

共感力

・姿勢や動きに感動している子どもがたくさんいた。

・どちらかというと控え目であった子が、表情を豊かに活動している場面が見られた。

・日本古来の音楽はこういうものだったんだということを実感できている様子がみられた。

・努力する姿、一緒に音を出した時のうれしそうな表情がみられた。

・みんなで同時に音を出そうと心を一つにしていた。呼吸を合わせ、同時に音が響くととても喜んでいた。

・アーティストと同じようにやってみようと取り組む姿が見られた。

・情移入したり、友だちと共感し合ったりする姿が見られた。

言語力

・劇や音読をする中で、ただ言うのではなく、相手に今使われていない言葉やいい回しなどを、どのようにしたら、伝わるのか考えていた。

・鑑賞の後にいろいろな場面について、感想を言っていた。

・話の仕方や言い方、言葉のスピードなど、取組後の授業で力がついたと感じた。

・言葉の大切さが充分に伝わった。

【学校プログラムの個別報告】

音楽分野の取り組み

目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感していきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立西寺尾第二小学校＋かなっくホール ゴスペル音楽を体験しよう

担当アーティスト	増村エミコ(シンガー)
実施校	西寺尾第二小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／5 学年 3 学級 83 名
実施日程	2014 年 12 月 2 日(火)、12 月 4 日(木)、12 月 5 日(金)

授業のねらい

リズム、メロディ、ハーモニーの有機的な繋がりを学び、歌う、合わせるという体験から、自身と他者の声が響き合い、重なる音の美しさを聴く。この学年でしか出せないサウンドを作ること。

主な内容

＜１日目、２日目＞ゴスペル音楽の歴史や思想、他の音楽ジャンルとの表現の違いや、どのルートを辿って日本に普及したかなど、音楽と社会の密接な関係性についてのレクチャー。クラス単位で各声部にパート分けを行い、それぞれのパートの役割を学び、作品を完成せる。実技では、楽譜を用いないで、耳で少しずつ音を捉えていくソルフェージュを行い、身体の中に旋律とリズム、言葉（歌詞）を取り込んでいく。この作品を歌うことで相手に何を伝えたいのか？作品の中で強調したい部分がどこにあるのか？を考えながら、作品の構造から表現まで学ぶ。＜３日目＞クラス単位で各声部にパート分けを行い、それぞれのパートの役割を学び、作品を完成させる。

アーティストから

今の子どもたちにはどんな可能性が詰まっているのか。いかに自然に自分の中から表現しようとする気持ちがでてくるか、興味がありました。人前で声を出すことは勇気のいる事で、ましてや歌を歌うことが苦手な子もいる。いかに楽しんでゴスペルに触れてもらえるかを工夫しました。最初は、分かり易い言葉で疑問を投げかけながらゴスペルの歴史や思想を説明しました。子どもたちが興味を示してくれているのを感じつつ、その後、歌を歌うための準備運動として、ゲーム感覚で体を動かしながらの発声や、制限内にペアになっての自己紹介など、自己表現を体感してもらいました。そして、３クラスそれぞれに異なる旋律を指導し、最終日に合同で合唱した時には三声のハーモニーになるように仕上げました。歌詞も楽譜も用意せず、体で感じるままに自由に歌ってもらいました。盛り上がってくると、掛け声や手拍子をする子も出てきて、「それもいいね！」とすべて採用しながら大合唱しました。授業後、口ずさみながら教室へと帰って行く子どもたちの姿を見て、ゴスペル「希望の歌」が体に染み込んで、表現する喜びを感じてくれているのでは？と思いました。この３日間、現代を生きる子どもたちの明るいエネルギーを感じました。個性を光らせ元気に成長していくんだろうという希望を感じることができました。「楽譜が読めなくても、音が合っていなくても、手拍子やステップを加えて音楽を楽しむんだ！」ということ、大人になった時の肥やしになってくれていれば嬉しいです。

コーディネーターから

今回の体験授業で重要視した点は、楽譜を用いないで歌うということ。初めて聴く作品の旋律、和声、リズムを身体で覚える。徐々に内から沸き起こる表現したいという気持ちを引き出すことでした。人前で声を出すことや歌うことへの抵抗もなく、楽譜に書かれていない音までも即興で加えていく子どもたち。ユニークな表現、素晴らしい歌声を聴かせてくれました。世界の中でも日本人は歌うことが好きな民族であると言われています。これから子どもたちは、たくさんの音楽と出会い、歌い続けていくでしょう。正確に歌いきることが全てではなく、内から沸き起こる表現のことも思い出していただければと思います。

先生から

今回の取組みで、子どもたちは体全体をつかっておもいきり歌うことの楽しさを十分に感じ取ることができた様に思います。取組み後も今まで以上に楽しく歌う姿が見られます。アーティストの方々による本物を生で聞くことができたことも大きかったと思います。

子どもたちから

とても楽しかった。また機会があれば、体験してみたい。／ゴスペルの原点が知れて良かった。／みんなで歌ったときにもっと曲が楽しくなることがおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立羽沢小学校＋横浜シティオペラ
身近に感じるオペラ１

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	羽沢小学校(神奈川区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年 22 学級 550 名
実施日程	2015 年 1 月 30 日(金)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや楽しさを知る。また今後の音楽表現や人間関係をつくる上でのコミュニケーション能力を養う一助となる体験とする。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

寒い雪の日だったのに、目をきらきらさせて観てくれた。終演後、今月の歌「夢の世界を」を元気に大合唱できたことも楽しかったです。

コーディネーターから

装置の搬入・搬出が大変でしたが、担当の先生はじめ多くの方に協力してお手伝いいただき、とてもスムーズに実施ができました。実施後には給食の時間もご一緒させていただき、交流を深めることができました。

先生から

表現すること、伝えることのすばらしさを感じました。学区内には、オペラを鑑賞できるホールや機会がないので、今回のようなプログラムは、子どもたちにとってとても貴重なものとなりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東小学校＋子どもに音楽を
弦楽器の音色

担当アーティスト	白井圭(ヴァイオリン)、熊谷俊之(ギター)
実施校	東小学校(西区)
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／6 学年 2 学級 48 名
実施日程	2014 年 9 月 22 日(月)

授業のねらい

音楽は人の心をつなぐものであり、そこには創造性、感受性、共感力があふれている。生の音楽に触れることによって、子どもたちの、それらの力を伸ばしていけるような活動とする。今回はヴァイオリンとギターでの演奏を行うことになった。

主な内容

ヴァイオリンとギターによるミニコンサートの鑑賞

アーティストから

これからの日本を支えていく、若い芽と、あのようにふれあえたこと、とても嬉しく思いました。とても意義のあるプロジェクトだと思うので、今後も喜んで協力させていただきます。

コーディネーターから

学校側には丁寧に対応していただいた。子どもたちは熱心に演奏を聴いており、演奏家も子どもたちに丁寧に対応してくださって良い時間を持てた。お礼に副校長先生の指揮による、嵐の「ふるさと」を合唱していただき楽しい交流ができたと思う。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立南太田小学校＋神奈川県立音楽堂
木管のハーモニー

担当アーティスト	風の五重奏団（丸田悠太、池田祐子、西尾郁子、藤田旬、小川正毅）
実施校	南太田小学校(南区)
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／3・4 学年 4 学級 131 名
実施日程	2014 年 7 月 1 日(火)

授業のねらい

横浜市で行っている「心の教育ふれあいコンサート」でのオーケストラ鑑賞に向けて、オーケストラへの理解を深める内容にする。教室ならではの間近での鑑賞、リコーダーでの共演コーナーをつくる

アーティストから

オーケストラ鑑賞に向けて木管楽器の音色や響きと、みんなでひとつの音楽を演奏する楽しさを知ってもらえるようにプログラムやトークを組み立てました。先生からご提案いただいた共演曲「笛星人」は、１音だけでも演奏できる曲だったので、リコーダーを始めたばかりの３年生とも共演できてよかったです。オーケストラの演奏を聴くまでに、たくさん音楽を聴いてもらいたいし、楽器はなんでもいいので演奏も挑戦してもらいたいと思います。

コーディネーターから

翌年オーケストラを聴く機会がある中、弦楽器にくらべ普段馴染みのない木管楽器について知る機会にしたいという教諭のリクエストがありプログラムを決定しました。共演コーナーを作ったこと、(演奏者そばの) 好きな位置で聴いてみよう！コーナーを実施したことで、短いながらも木管楽器の楽しさが伝わる内容となりました。初の取組みでありましたが、今後も改良のうえ続けていきたいプログラムとなりました。

主な内容

木管五重奏の演奏を鑑賞し、木管楽器の特徴を学ぶ木管五重奏の演奏を鑑賞し、木管楽器の特徴を学ぶ

先生から

中学年の鑑賞のカリキュラムに沿った内容をお願いしたところ、展開、場の設定などいろいろなアイディアをコーディネーターの方に提案していただけて、とても勉強になりました。また、演奏者の方の間合いも、柔軟に子どもたちに応えてくださる様子も、本当に子どもたちをひきつけてくださり、時間が短く感じられました。本当に全員の子どもがたのしかった！すごい！また来てほしい！自分もふきたい！と前向きな感想をもつことができていて、おどろきました。

子どもたちから

低い音や高い音いろいろな音色をきけてよかった。／音のしくみや、楽器のふきかたを知ってうれしかった。／すごく感動した。／エーデルワイスをリコーダーでいっしょにふいたのが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

六つ川台小学校＋子どもに音楽を クラシックを身近に

担当アーティスト	南紫音(ヴァイオリニスト)、大須賀恵里(ピアニスト)
実施校	六つ川台小学校(南区)
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／4 学年 2 学級 43 名
実施日程	2015 年 1 月 13 日(火)

授業のねらい

体験を通して、音一つひとつを味わい、子どもの感性をさらに高めることを目標とする。また、音楽には様々なジャンル、スタイルがあることへの認知となるきっかけとする。表現する場面では、互いの声や音をよく聴き合いながら、自分の作った音楽を表現する楽しさを味わわせるとともに、表現の技能も養えるような活動とする。

主な内容

ヴァイオリンとピアノによるミニコンサート

アーティストから

子どもたちととても自然体で向き合えたと思う。心から音楽をを感じてそれを伝える演奏を心がけていますが、子どもたちは本当に静かに集中して聴いてくれました。ヴァイオリンの音色と音楽は、きっと純粋な子どもたちの心の中にしみいったことと思います。

コーディネーターから

ご担当の先生の子どもたちへの思いがとても大きく、演奏会の内容をとても評価していただいた。また、子どもたちも熱心に集中して聴いていただき、嬉しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立坂本小学校＋横浜こどものひろば
ラテンのリズムにのって

担当アーティスト	古川ぴんたろう(音楽家)
実施校	坂本小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ボディーパーカッション／3 学年 3 学級 90 名
実施日程	2014 年 11 月 18 日(火)、11 月 25 日(火)、12 月 15 日(月)

授業のねらい

プロの本物の音楽を直に体験する。その楽しさや感動を学校の仲間と分かち合いたい。

主な内容

＜１日目＞ラテン音楽のリズムと使われる打楽器の紹介、楽器に触れる＜２日目＞ボディーパーカッションにチャレンジする。「坂本小学校校歌」サンババージョンを歌い踊り楽しむ＜３日目＞歌って、踊っての参加型コンサート。１、２年生も参加し、３年生のワークショップの課題発表。

アーティストから

「音楽は楽しい」と感じてもらう事を念頭に、楽しく踊りながらリズムを演奏するボディーパーカッションを試みた。奏でるリズムを先ず口で歌い込んでから、踊るように体の色々な部位を叩くことで３年生にとっては複雑なリズムだが、その音符の長さと休符の関係を肌で感じてもらえたと思う。苦手な子どもも、ポイントを減らすことで集中できたと思う。３年生にとって通常とは違う形での発表を１、２年生に対して行ったことは大きな刺激になっただろう。中でもリズムを口で歌う時の元気で楽しそうな姿が印象的だった。

コーディネーターから

アーティストの古川さんからの授業報告や、コンサートの当日の様子から坂本小学校の３年生たちが真剣に取り組んできた様子が知れました。リズムをカラダで表現することは人間本来の喜びであり、子どもたちがその世界に近く、発表そのものを楽しんでいる様子もたくさん見受けられました。また、出演者の本物の歌唱や工夫された演奏に感動していただいたのではないかと思いました。

先生から

ふだん体験できないような内容を、プロの方に教えていただける機会を与えていただき、とても感謝しています。児童の実態に応じて内容を工夫していただき、子どもたち一人一人が本当に楽しくすごすことができました。音楽のリズム遊び、表現の内容としてもすばらしいものでした。

子どもたちから

体をたたいて音が出るのが楽しかった。／ボディーパーカッションを発表できた。／いろいろな楽器をさわれた。／楽器の名前を知ることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立峯小学校＋岩間市民プラザ
先輩が唄いにやってきた

担当アーティスト	遠峰あこ(唄・アコーディオン奏者)
実施校	峯小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／民謡／1〜3 学年・7 学級・200 名
実施日程	2014 年 11 月 21 日(金)

授業のねらい

今回の民謡の鑑賞授業で、みんなで一緒に音頭をとったり、歌ったりすることで、友だちの表現や創造力を受けいれる気持ちをもてるようにする。

主な内容

民謡ってなあに？いろいろな唄を聞いてみよう！

アーティストから

自分の出身校である峯小学校で唄えたことはとても感動的なことでした。自分が小学生だったとき、同じ体育館で唄っていた校歌や横浜市歌を何十年の年月を超えて、いまの小学生の子どもたちと一緒に唄う。人生というのは不思議だなあと、涙が出そうになりながら唄っておりました。子どもたちはみな素直で元気でにぎやかで！私のほうが「あー楽しかった！」と言ってしまうほどにみな盛り上がってくれました。とても嬉しかったです！

コーディネーターから

今回、子どもたちの先輩にあたるアーティストにお願いしたことで、子どもたちの反応がとてもよかったです。初めて生で民謡を聴く子ばかりでしたが、アーティストが歌いだすと、自然と日本独特のもみ手の手拍子でみんなが音頭をとっており驚きました。民謡だけではなく、普段なじみのある校歌や市歌、動物が次々登場する唄なども合間に取り入れたことにより、最後まで集中力を持って鑑賞することができました。

先生から

昨年度同様、鑑賞型プログラムを利用させてもらいました。今年はアコーディオンとすばらしい歌声が心に響き、なつかしさや心地よさが感じられる演奏でした。

子どもたちから

色々な曲を聞くことができてよかった。／手拍子やリズムが楽しかった。／昔から色々な歌があったのがわかった。／色々な曲を覚えられた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立根岸小学校＋杉田劇場 ボディーパーカッションで合奏

担当アーティスト	杉山智恵子(打楽器奏者)
実施校	根岸小学校(磯子区)
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ボディーパーカッション／3 学年 3 学級 100 名
実施日程	2014 年 10 月 8 日(水)、10 月 23 日(木)、11 月 5 日(水)

授業のねらい

取り組みを通してクラスで一体感を持たせたい。自己の可能性に気づき、何事にもチャレンジする精神を養いたい。くすのき発表会（根岸小音楽発表会）にてお客様に披露できるクォリティでボディーパーカッションの作品を仕上げる。合奏形態の一つとしてのボディーパーカッションというツールを有効利用し、他者の音を聴くことを通じて、音楽的なスキルの向上を目指すだけでなく個々の児童に、集団若しくは合奏・音楽の中で自分がブレンドされているのかそれともリードする立場なのかを気付かせ、ソーシャルスキルの向上を目指す。

主な内容

＜１日目＞ウォーミング・アップとリズム遊びからボディー・パーカッションへの導入。＜２日目＞シンスタイン作曲「ロック・トラップ」全体像の把握。＜３日目＞「くすのき音楽会」本番に向けてディテールの仕上げ

アーティストから

小学校３年生が、一つのボディーパーカッションの作品を仕上げるのに、３回だけのレッスンというのは時間が非常に短かったです。 児童たちの指導に対する反応は素晴らしく、とても充実した内容の取り組みだったと思います。本番でいかにクォリティが高い演奏ができるか、ということももちろん大切だが、ボディーパーカッションのようなアンサンブルのワークショップでは、取り組みの中での児童たちの新たな音楽的発見だけではなく、その過程で得られる例えばコミュニケーション能力向上など人間教育的な部分を常々大事にしようと心掛けています。今回はそれが良い形で実践できたことは良かったと思います。

コーディネーターから

根岸小学校の先生方にとって、今回のボディーパーカッションというジャンル自体が全く目新しく、最初はプラットフォーム実施日以外の指導法などに戸惑いもあったようです。しかし、ボディーパーカッションとの新鮮な出会い、そして「くすのき音楽会」で演奏するという目標が先生方と児童にもたらしたモチベーションを講師の杉山氏が巧みに活用し、先生方の不安を払拭するような非常に充実した授業が展開されました。また、児童たちが回を重ねるごとに正に右肩上がり に作品を仕上げていく様子を目の当たりにし、改めて子どもたちの無限大のポテンシャルに驚かされました。そういった潜在能力の芽を摘まないためにも、本事業のような特色ある取り組みは今後も積極的に実施されるべきであろうと思います。

先生から

「くすのき音楽会」の発表に向けて、講師の方に熱心に指導して頂きました。初回の授業では、ボディーパーカッションがどのようなものか知らない子どもたちに一から指導し、残りの日数、残りの指導回数で本当にできるようになるのか心配になりました。講師の方が練習方法を教えてくださり、学校側で何度も練習できたことがよかったと思います。結果的に、３日の講義で十分満足のいく発表をすることができ、子どもたちも大変満足していました。

子どもたちから

発表会で演奏できて心に残った。／からだで色々な音が出たのがおもしろかった。／チームワークが大切なんだなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立並木第一小学校＋Media Global
リズムであそぼう

担当アーティスト	パーカッションアンサンブル にまるく(打楽器奏者)
実施校	並木第一小学校(金沢区)
コーディネート	企業組合 Media　Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ボディーパーカッション／3 学年 2 学級 70 名
実施日程	2015 年 1 月 29 日(木)

授業のねらい

リズムとアンサンブルのプログラムを希望。身の回りのものでいろいろな楽器になるということに触れる体験。そのうえで音楽本来の目的である「いろいろな音で表現する楽しさ」を体験する。

主な内容

クラスごと各 90 分。マリンバ演奏を鑑賞。身近な材料で楽器を作る。作った楽器とマリンバのジョイントでいろいろなリズムを楽しむ。

アーティストから

音楽を身近に感じ楽しむことを目的に今回のプログラムを構成しました。演奏の鑑賞中には、子どもたちから自然と歌が出たり、身体が動いたり、リズムでこんなことができるんだ！どうやって弾いているのかな？などの様々な感想が飛び交ったりしました。知らないこと、新しいことに触れるたびに目を輝かせるのが印象的であり、音楽に対する強い興味関心を感じました。また楽器製作とリズム遊びのワークショップでは、作った楽器に愛着を持ち、ああしたい、こうしたいと言う子どもたちの積極的な声を聞けました。クラス全体が一体となって音楽を作り、楽しもうとする姿を見ることができ、嬉しく思いました。90 分という授業の中で、楽器製作の難易度は適切であったかという課題は見えましたが、音楽を新しい視点から感じるよい機会を作れたのではないかと思います。

コーディネーターから

マリンバの音色を楽しんでいただきました。クラシックからアニメのテーマ曲まで幅広いジャンルの曲目を演奏しました。知っている曲では自然と歌声や手拍子も出て楽しい時間になりました。後半は部屋の中にある物をなんでも楽器にするパフォーマンスやあき缶やペットボトルで楽器を作り、ジョイントしました。音やリズムを身近に感じてもらえたと思います。

先生から

マリンバの演奏を近くで見たのは初めてだったので、音色の美しさと技術の素晴らしさに感動しました。マリンバの歴史を教えてくれて、児童も興味をもって聴いてきました。・楽器作りに時間がかかり、複数のリズムを重ねていく音楽づくりの時間がもっとほしかったです。児童たちが持ってきた牛乳パック・ペットボトル・空き缶をそのまま楽器として用い、良い音をだすコツを教えて頂けると、もっと楽しい活動になったのではないか、と思いました。

子どもたちから

自分で作った楽器で演奏したことが楽しかった。／家でも楽器を作りたい。／にまるくさんと一緒に演奏できてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立能見台南小学校＋Media Global
歌と言葉で自分を表現する

担当アーティスト	佐山直子(俳優)、中川梨恵(ダンサー)、小林友美(俳優)
実施校	能見台南小学校(金沢区)
コーディネート	企業組合 Media Global
実施科目・教科名	音楽・総合
実施概要	体験型／創作／5 学年 4 学級 150 名
実施日程	2014 年 10 月 21 日(火)、10 月 22 日(水)、10 月 23 日(木)

授業のねらい

表現しようという気持ちはあっても、なかなかそれを表現する場面がなかったり恥ずかしさが先にたってしまったりする子が多いように思われる。身体を使って表現する喜び、友だちと一緒に何かを仕上げて表現する喜びを味わう。また楽器を本格的に習っている子も多いが楽譜などの約束事から解放されて音楽表現を楽しめる時間とする。

主な内容

＜１日目＞シアターゲームでウォーミングアップ。オリジナル曲を歌う。＜２日目＞事前準備した「自分の主張」を表現する。曲とあわせる。＜３日目＞発表会場総仕上げリハーサル。表現を深める工夫を全員で共有する。みんなの前で思いっきり発表する。

アーティストから

「うちの子たちにできるかしら…」という、先生方の不安そうな声を最初に聞いていたので、想像以上に生き生きと表現する子どもたちの姿に驚きました。「完璧」を目指すのではなく、こうした機会を通して、いつもの自分からもう一歩だけ踏み出してみる…そんなきっかけにしていただけていたら嬉しく思います。「自分の思いを思いきり表現したい」という気持ちは、誰の心にもあるのですから。

コーディネーターから

「『好きを力に』自己解放と自己表現」をテーマに実施しました。４クラス 150 名で１・２日目は各クラス 45 分。３日目は学年で合わせるという時間的に厳しい枠でしたが、子どもたちは集中して短時間でオリジナル曲を覚えたりダンスの基本ステップを踏んだりしっかりできたと思います。後日授業参観で保護者のみなさんに自分の主張を発表しました。

先生から

音楽の授業では見られない、自分の内に秘めている思い、そして笑顔を見ることができました。外部からアーティストが来られるということで、子どもたちも新鮮な気持ちで向き合い、自分のことを好きになる、自分の夢を言葉にする大切さが伝わりました。

子どもたちから

自分の目標をみんなの前で言ったことで、叶いそうな気がしてとても嬉しかった。／自分に自信を持った、とっても楽しくパフォーマンスができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立城郷小学校＋横浜みなとみらいホール 弦楽器コンサート

担当アーティスト	海野幹雄（チェリスト／ハマのＪＡＣＫ）、海野春絵（ピアニスト／ハマのＪＡＣＫ）
実施校	城郷小学校(港北区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／6 学年 3 学級 96 名
実施日程	2014 年 11 月 18 日(火)

授業のねらい

弦楽器の演奏を生で間近に鑑賞する。

主な内容

チェロとピアノによるミニコンサート

アーティストから

城郷小学校を訪問し、３回に分けてアウトリーチを行いました。演奏曲は、ピアノソロで「ベートーヴェン：エリーゼのために」と「モーツァルト：トルコ行進曲」チェロとピアノで「サン＝サーンス：白鳥」「ポッパー：ハンガリー狂詩曲」の計４曲を演奏しました。演奏の前後には、楽器の仕組みや、曲の背景、音の出し方等の話をしたり、時には子どもたちに考えさせて意見を言ってもらうなど、交流を交えながらの 45 分間でした。
どのクラスも、演奏中はしっかり集中し、質問を投げかけると多くの返答が返ってくるという、こちらとしては非常にある意味やりやすい、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。

演奏終了後は「旅立ちの日に」という合唱曲を共演。皆しっかり歌ってくれました。最後の「なんでも質問コーナー」では子どもたちからいろいろな質問が飛び交い、楽しい雰囲気の中終わる事ができました。

コーディネーターから

アウトリーチで学校回りが馴れている二人でしたので、クイズなどを交えて参加感のある展開で内容を構成してくれました。最後は児童とともに全員合唱で終わり、充実した内容でありました。

先生から

プロの生演奏を身近で聴くことが、子どもの心にひびくことを思い知らされました。

子どもたちから

また聴きたい。／たくさん練習すると上手になることがわかった／内容がわかりやすくて楽しかった／もっと演奏がききたかった。

横浜市立新吉田第二小学校＋子どもに音楽をクラシックへの好奇心

担当アーティスト	川田知子(ヴァイオリンスト)、鈴木慎崇(ピアニスト)
実施校	新吉田第二小学校(港北区)
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／4・5 学年 4 学級 139 名
実施日程	2015 年 1 月 22 日(木)

授業のねらい

積極的に音楽に親しもうとする児童が多く明るく歌うことができる。音楽何を表現しようとしているのかを感じとり、その情景を想像し、それを普段の授業内でも活かして表現することを目標としたい。

主な内容

クラッシク音楽鑑賞

アーティストから

用意した割とシブイプログラムにもかかわらず、本当に静かに聴き入ってくれました。先生方もとても協力的ですべてがやりやすかったです。音楽室での少人数のコンサートは素晴らしいです。近くで同じ目線で音楽を感じることができたと思います。これからもこのスタイルで続けて行かれることを強く望みます。

コーディネーターから

校長先生も音楽教育の重要さを感じておられ、今回の演奏会を楽しみにして下さっていたが、残念ながら出張で聴いていただけなかったが、学校側が普段使っていない石油ストーブを使わせていくださったり丁寧に対応していただいた。教室に入ってくる時に泣いている子がいたが演奏が始まると泣き止み、全体的に子どもたちも静かに演奏を聴いてくれたように思う。担当の先生のフルートでの共演による校歌の交流演奏も楽しかった。

先生から

いつもは落ち着いていない子どもたちも、ただ静かにしているだけでなくのめりこむように熱い眼差しで見ていました。今まで鑑賞の時間で学んできた、強弱速度の変化を演奏者の息使いや指の動を間近で見て、そして聴いたことで感じとっていたようでした。音楽の持つ力、迫力、美しさを強く感じる心が育ちました。

子どもたちから

ヴァイオリンとピアノの音が重なるときれいだということがわかった。／チャルダッシュが音の強弱・速度の変化があっておもしろかった。／手・腕・指の動きなど全身を使って演奏していたのがすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立名瀬小学校＋さくらプラザ 手作り楽器でリズムセッション

担当アーティスト	萩原広充(パーカッション・ドラム演奏家)
実施校	名瀬小学校(戸塚区)
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽・総合
実施概要	体験型／パーカッション／3 学年 2 学級 74 名
実施日程	2015 年 2 月 16 日(月)、2 月 19 日(木)、2 月 23 日(月)

授業のねらい

学校の先生では教えられないこと、体験できないことに触れ、視野を広げて、様々な文化を知ってもらいたい。また、自由な発想をもって、楽しんでもらう。

主な内容

＜１日目、２日目＞手作り楽器をつくる。サンバのリズムを知る
＜３日目＞全員でリズムセッション！アーティスト演奏。

アーティストから

今回の打楽器ワークショップでは、トラッシュ（ガラクタ）パーカッションを子どもたち一人ひとりへ工作させ、リズム、アンサンブルを指導するといった、自身でも初の試みのワークショップでしたが、制作過程での楽器デコレーションさせる時間では、子どもたちの楽しそうな笑顔や個性を垣間見れたり、演奏指導ではリズムの覚えの良さや集中力、音楽的なセンスを私自身も感じることができ、大変勉強になりました。今回の体験を生かし、今後の音楽指導へさらに役に立てて行けたらと思います。

コーディネーターから

簡単に音が出せる打楽器にふれ、サンバ独特のリズムを感じることができた。こどもたちのリズムに対する順応力が高く、アーティストの演奏にも合わせながら演奏していた。リズムは自然と体で覚え、全身を使って演奏する子もいたりと、楽しんで体験してもらえた。身近なものがちょっとした工夫で楽器になるという発見や、手作りの楽器に愛着を持ってもらえた。

先生から

今回のサンバは、私が苦手な分野でもあり、普段の授業でうまく取り入れることができなかったので、このような授業をしていただけたことに大変感謝しております。プロのアーティストが、子どもの様子をよくみながら、うまくリードしてくださったので、子どもたちは、生き生きと楽しく参加させていただきました。更に、仕上げの発表会をしていただけたので、他の学年（２年生、５年生）にも、サンバの楽しさを味わわせることができました。

子どもたちから

体育館で発表し、多くの人たちにみてもらえてうれしかった。／自分で作ったいろいろな楽器で演奏できて楽しかった。／初めてサンバという音楽を知って楽しめた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立俣野小学校＋アートの時間
熱帯バリ島の不思議な音楽“ガムラン”2014

担当アーティスト	櫻田素子(ガムラン演奏家)
実施校	俣野小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ガムラン／4 学年 1 学級 14 名
実施日程	2014 年 10 月 29 日(水)、2014 年 11 月 7 日(金)、2014 年 11 月 10 日(月)

授業のねらい

・外国の伝統音楽を通じて、異文化に触れ、理解を深める。
・日常の学習ではできない楽器体験や、楽器の響きを体験する。
・音を通した他者とのコミュニケーションの良さを味わう。

主な内容

＜１日目＞ガムラン演奏とバリダンスを観賞し体験する。バリの記録映像を観て理解を深める。＜２日目＞曲に合わせた楽器とダンスの練習。音の響きを描く。＜３日目＞楽器とダンスの練習後、全校児童・保護者に向けて発表。この録画を見て振り返る。

アーティストから

ガムランは、小さな島に大勢の人が住むバリ島の音楽らしく、人と人や音と音との関係性を構築しながら表現に結びつけていく打楽器アンサンブル。俣野小４年の 14 名は、自然にそのスタイルを受け入れ、音色を味わい、互いの音を聴き合い、踊りとの一体感を発見し、楽しんでいました。舞踊も体験、楽器の音色を描く、バリの祭礼風景を映像で観る、全校生徒と父兄の前で発表し、発表後に自分たちの舞台本番の映像を観て感想を述べ合う、等、音楽を中心とした総合的なアート表現を知る良い機会を共に創ることができました。子どもたちのアートな活動が今後も豊かに続きますように。

コーディネーターから

今回で３年目となるプログラム。１年目は演奏体験。２年目はバリダンス体験もできた。そして今回はそこに映像が加わり、バリの人々の暮らしを知ることもでき、更に自分たちの発表の様子を録画しすぐにその場でふり返るということまでできた。スクリーンに映る自分たちの姿を見る子どもたちの真剣なまなざしが、この体験の深さを物語っていた。それぞれの分野の専門家が真摯に取り組んでくださったことに心から感謝したい。

先生から

ガムランの演奏や踊りなど内容もとてもよかったのですが、それに加えてアーティストの方々の人柄や、ガムランに対する熱い思いがとても伝わってきたことが心に残っています。そのような方々と子どもたちがふれ合えたことがすごくよかったと思います。

子どもたちから

みんなとなかよく演奏できるようになってうれしかった。／いろいろな楽器の名前や音色がわかって楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立下永谷小学校＋ひまわりの郷
くちぶえを吹いてみよう　～唇が楽器になる!?～

担当アーティスト	りょうすけ（口笛奏者）、田嶌道生（ギター奏者）
実施校	下永谷小学校(港南区)
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／口笛／3 学年 4 学級 120 名
実施日程	2014 年 12 月 5 日(金)

授業のねらい

くちびるが楽器になる。日頃、特に現代の小学生が「くちぶえ」を吹く行為などほとんど見かけなくなったが、世界大会入賞レベルの奏者による「くちぶえ」の演奏を鑑賞してもらい、「身体の一部（くちびる)」が楽器になるという発見と、実際に自分たちも口笛のレクチャーにより上達できるように努力して達成感を感じてくれることを期待する。

主な内容

口笛によるミニコンサート。口笛レクチャー（音出し練習・呼吸法・ロングトーン練習)。一緒に曲を吹いてみる。

アーティストから

対象人数が多いので皆集中してくれるかが少し心配だったが、最初の演奏からかなり興味深く静かに聞いてくれた。口笛も予想していたよりも多くの生徒がちゃんと音になっていたので感心した。また、生徒たちの一生懸命に吹く練習をして、音が出たときの笑顔がとても素敵だった。物事の多くが一生懸命努力して成せることなのだ、ということを学んでほしい。口笛に限らず、子どもたちにはいろいろなことに興味や関心を持ちチャレンジしてもらいたい。

コーディネーターから

下永谷小学校はこの事業に参加するのが今回が初めてだったのか、担当の先生も打ち合わせ当初は少々戸惑われていたのではないかと思います。何度かうかがったり、電話での打ち合わせをしていくうちにこちらの要望にも協力的に対応していただき、問題無く進めることができました。本番も３年生４クラスと、鑑賞・体験を含むプログラムとしては対象人数の多いので集中できるか心配でしたが、口笛の音色は子どもたちの心をしっかりと捉え、最後まで熱心に聞いてくれました。また質問コーナーでも多くの生徒が積極的に講師に質問をしていて、有意義なプログラムだったと感じました。

先生から

コーディネーターの方には、何度も足をお運びいただき、綿密な打ち合わせができ、安心して当日をむかえることができました。また、アーティストの方の真摯なご姿勢に、子どもたちも職員も胸を打たれました。コンサートでは普段触れることのできない貴重な音色に感激し、子どもたちのこれからの生活に好影響があると実感しました。

子どもたちから

教え方がわかりやすく、いろいろな曲が口笛でふけることがわかった。／口笛の音の出し方がよくわかった。／いろいろな曲がふけてすごい／みんなで“ふるさと”をふけて楽しかった。口笛アーティストの方にあこがれた。／聴いているだけでわくわくした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立永谷小学校＋吉野町市民プラザ
音楽で発見！みんなでイメージを伝えよう

担当アーティスト	大石将紀(サックス)、新居由佳梨(ピアノ)
実施校	永谷小学校(港南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／クラシック／4 学年 2 学級 82 名
実施日程	2015 年 1 月 19 日(月)、1 月 23 日(金)、1 月 26 日(月)

授業のねらい

身近にプロの演奏する本物の音楽に触れ、感性を揺さぶられるような経験を味わってもらいたいです。自分が感じたこと、イメージしたことを言葉や絵で表現してクラスのみんなに発表し、感じ方や表現の仕方がたくさんあるということをみつけ、お互いに個性を尊重し合い、コミュニケーション力を高めます。また、目の前にいる演奏家の表情、表現、息遣い、そして音楽から感じ取れるものをみつけ、自由にイメージする力を高められる機会とします。

主な内容

＜１日目＞イントロダクション「サックスでお話し？！」・楽器を知ろう「サックスとピアノについて」・演奏鑑賞＜２日目＞「この音楽、どんなイメージ？」演奏を聴いて感じたこと、演奏がどの絵を表現していたと感じたか、みんなで話す。＜３日目＞「イメージを表現しよう」音楽を聴いて自由に絵を描く。描いた絵にタイトルをつける・みんなで描いた絵を見ながら、絵のタイトルと音楽を聴いて感じたことを発表する。

アーティストから

同じクラスを対象に３回のアウトリーチを続けてできるというのは大変珍しく貴重な機会です。私のアウトリーチでは絵を見ながら子どもたちから話を聞くというワークショップをするので、子どもたちとの距離感をいかに縮めていくかが彼らの素直な感性を引き出す大切なポイントになりますが、短い期間で回数を重ねることによって子どもたちとの距離感がだんだんと近くなっていくのを感じ、彼らとより深く音楽を通した交流が持てたことを実感しました。また永谷小学校の先生方、吉野町市民プラザのスタッフの方たちのすばらしいサポートのお陰で充実したアウトリーチを行うことができました。

コーディネーターから

不思議な音を奏でながら、大石将紀さんが登場！　金ぴかのかっこいいサックスから面白い音がして、みんな興味津々です。そこに新居由佳梨さんのピアノも加わって、子どもたちが親しんでいる「勇気 100%」のメロディ。子どもたちのハートをしっかりつかんでスタートした本プログラム、楽器のあれこれやクラシック音楽について、楽しく学んだ後は自分たちが感じたことを表現しました。本物の芸術に身近に触れることで、子どもたちの自由な発想と豊かな感性があふれ、表現することの楽しさを実感してもらえた３日間でした。

先生から

通常の授業において、音楽からイメージを広げたり絵と関連付けていく活動に時間をたっぷりかけたりすることは少ないため、自分自身興味深い 3 日間となりました。コーディネーター、アーティストの方と毎回ふり返りながら次時よりよいものとなるよう作り上げ、細部にいたるまで確認しながら準備できました。

子どもたちから

プロの生の演奏を聴けてよかった。／音楽を聴きながら絵をかいたことがおもしろかった。／楽器のことがわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立野庭すずかけ小学校＋横浜シティオペラ
身近に感じるオペラ２

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	野庭すずかけ小学校(港南区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年 19 学級 480 名
実施日程	2015 年 1 月 29 日(木)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれることを望みます。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

とても熱心に聴いてくれて、反応もよく笑いもおきて楽しそうでした。演奏終了後の質問タイムでも積極的に手を上げ、生の声に「どうしたらそんな大きい声が出るんですか？」　と、声楽に興味を持ってくれたことが嬉しかった。

コーディネーターから

ご担当の先生はじめ、多くの先生たちが大道具の搬入など実施に協力的でお手伝いくださり、たいへん助かりました。

先生から

普段、オペラはもちろん、本物の芸術に触れる機会が少ない子どもたちですが、全学年の児童がオペラの世界に引き込まれていました。子どもたちにわかりやすい内容、色彩の美しい大道具、小道具、衣裳、素晴らしい表現力、そして実質 35 分間という、子どもに無理のない時間がよかったのだと思います。

子どもたちから

ヘンゼルとグレーテルはとても自由で楽しそうだった。／声だけではなくて、演技もすごくよかった。魔女がおもしろかった。／体育館中に響く声がすてきだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日限山小学校＋横浜みなとみらいホール 歌声のひびき

担当アーティスト	鶴川勝也(バリトン歌手)、相原郁美(ピアニスト)
実施校	日限山小学校(港南区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年 2 学級 80 名
実施日程	2014 年 11 月 21 日(金)、11 月 26 日(水)、11 月 29 日(土)

授業のねらい

高学年になるにつれて、歌うことを憶するようになるこどもたちに、もう一度大きな声で歌ってもらえるようにしたい。

主な内容

＜１日目＞発声練習＜２日目＞発声と「心から心へ」、「明日へつなぐもの」の曲練習＜３日目＞曲練習と発表

アーティストから

僕の身体を触ってもらうことで空気をからだいっぱいで取り込んで、遠くに届く声で語りかけることを少し感じ取ってもらえたと思います。楽しそうに生き生きと最後の発表に向けて取り組んでいただいたのが印象に残っています。

コーディネーターから

身体全体を使って歌うことを伝えるために、腹式呼吸をご自身の身体を触らせることで、子どもたちに実感させてくれる指導者を選んだ。発声方法もわかりやすく伝えてもらえた。

先生から

音楽・歌唱、コーディネーターには２回、アーティストの方には１回、事前に来校していただき、それ以外にも連絡をとりながら、上手に連携できました。アーティストの方の演奏を聴き、演奏の素晴らしさに感動すると共に、自分の表現にも取り入れたいなと思う箏も発見でき、良い経験ができました。子どもたちはアーティストの方の体を両手でさわらせて頂くことで、声楽家の方が体全体を使って声を出す事を感じ取る学習ができました。今後もぜひ、この様な活動を継続していただき、歌が大好きな子どもをふやしてほしいです。

子どもたちから

声の出し方がわかったし、とてもわかりやすくて良かった。／声楽家やピアノの方の演奏がとてもうまくてびっくりした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立今宿小学校＋横浜こどものひろば
ボディーパーカッションで校歌を歌おう、踊ろう

担当アーティスト	古川ぴんたろう(音楽家)
実施校	今宿小学校(旭区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ボディーパーカッション／4 学年 2 学級 72 名
実施日程	2014 年 11 月 17 日(月)、11 月 28 日(金)、12 月 18 日(木)

授業のねらい

プロの本物の音楽を直に体験する。その楽しさや感動を学校の仲間と分かち合いたい。

主な内容

＜１日目＞ラテン音楽のリズムと使われる打楽器の紹介、楽器に触れる。＜２日目＞マウスパーカッション、ボディーパーカッションにチャレンジする、「今宿小学校校歌」サンババージョンを歌い踊り楽しむ。＜３日目＞歌って、踊っての参加型コンサート。１年生～６年生まで全校参加の中で４年生のワークショップ課題を発表。

アーティストから

「音楽は楽しい」と感じてもらうことを念頭に、楽しく踊りながらリズムを演奏するボディーパーカッションを取り入れると共にサンバに必要とされるいくつかの打楽器をパート別にグループを作り口で表現し、バンドと合奏することを試みた。実際の楽器がどんな役割なのか、奏でるリズムを聴き合いながら踊り口で歌い込むことで４年生にとっては複雑なリズムだが、その音符や休符の長さ、一定のリズムを繰り返す楽しさを肌で感じてもらえたと思う。４年生にとって通常とは違う形での発表を全校生に対して行ったことは大きな刺激になっただろう。２回目の授業後、積極的にリズムを歌いながら自分のパートの楽器を触り、確認していた子どもが多かったことが意外な感動だった。

コーディネーターから

最終的に参加型のコンサートを作り上げる、その過程に自分たち４年生は参加しているという意識を持って臨んでくれたと思う。古川さんのアーティストとしての力量と人柄、子どもへの真剣な気持ちが通じたと感じた。そして先生方の、子どもたちをリードしていこうとする積極的な姿勢が全学年にわたって感じられ、コンサートを盛り上げました。４年生の発表の話という設定が５、６年生にとってどうであったのか、少し課題となりましたが、出演者の本物の歌唱や工夫された演奏に感動していただいたのではないかと思いました。

先生から

子どもたちに期待する姿を日々、様々な学習や生活の中で求めていますが、一人の担任ができること、与えられることにいつも限界を感じていました。音楽でも芸術でも一流の方のパフォーマンスに触れることは大切だと思いました。体育などでプロの選手の動きを映像で子どもたちに見せてイメージ作りをさせているのですが、今回のプログラムのように直接アーティストの技を見てアドバイスをいただいたり、質問をしたりできるのは本当によかったです。子どもたちの内面も変化し、身につけた力が他教科にも生かすことができました。また、担任の個性・特性にも幅を広げることのできるよい機会になりました。

子どもたちから

すてきな歌が心に残った。／もっと長くやりたかった。もう一度やりたい。／音楽を前より好きになり、音楽に興味がもてた。／はじめあまり上手にできず楽しくなかったけど、やっていくうちにだんだんできて、どんどん楽しくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立不動丸小学校＋サンハート
ボディーパーカッションで音楽を表現しよう

担当アーティスト	山本愛香(ボディーパーカッショニスト)
実施校	不動丸小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ボディーパーカッション／4 学年 4 学級 130 名
実施日程	2014 年 12 月 9 日(火)、2015 年 1 月 15 日(木)、1 月 29 日(木)

授業のねらい

よく知っている音楽を、ボディーパーカッションを使って身体全体で表現する事によって、感じ取ること、そして自分を伸び伸びと表現する事の楽しさを感じさせ、想像力・感受性・表現力の成長を促す。

主な内容

＜１日目＞ボディーパーカッションを知ろう（アーティストによるパフォーマンスと、体験）＜２日目＞ボディーパーカッションで世界のリズムを奏でよう（ロック、ワルツ、サンバ、ニッポン）＜３日目＞みんなのオリジナル作品を発表しよう（クラスオリジナル作品の発表、全体リハーサル）

アーティストから

10 才のこどもたち、およそ 150 人と！身体でアート！ 身体でミュージック！子どもたちによるパフォーマンスの大発表は、２月に行われる 「二分の一成人式 」！宿題を出していたんです。各クラスで、担任の先生をイメージした オリジナルリズム を創ってね、と。感じてほしかったんです。“仲間” と一緒に、想像すること 生み出すこと 表現することの、“楽しさ” や “歓び ” を。伝えたかったんです。“ 誰かを 想って 奏でる音”って、ステキでしょ？ って。

コーディネーターから

短期間でボディーパーカッションを体験し、練習し、創造するというかなり欲張りな目標を立ててしまった事に気づいたのは、初日の授業が終わった時でした。果たして時間は足りるのだろうか・・・しかし、２分の１成人式という明確なゴールが、子どもたちや先生方の練習熱に火をつけてくれたようです。家や休み時間にみんなで練習してくれたおかげで、世界のリズムはばっちり身体に染み込んだようです。クラス毎のオリジナルリズムも、音楽の時間などで取り組んでいただき、最終日の発表では、ボディーパーカッションの魅力を、文字通り体全体で感じてくれていたようです。先生方のご協力もあり、全体的に満足度の高い取り組みとなりました。

先生から

４年生の二分の一成人式の発表で取り組みました。学年全員が心を合わせて体でリズムをとり音で表現する楽しさを味わうことができたと思います。各クラスのオリジナルも、それぞれの特色が出ていて良かったと思いました。

子どもたちから

クラスのオリジナルの動きを考えてたのしかった。／またボディーパーカッションをしたいと思った。／二分の一成人式でちゃんとかっこよくできたから、思い出になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立若葉台小学校＋サンハート
声を合わせて力の限りに歌ってみよう

担当アーティスト	金井恵理花(ゴスペルディレクター)
実施校	若葉台小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽・特別活動
実施概要	鑑賞型／ゴスペル／6 学年 3 学級 85 名
実施日程	2015 年 1 月 23 日(金)

授業のねらい

魂の歌とも言われるゴスペルの鑑賞を通して、感受性をより一層育む。自然と沸き上がってくる思いを友人と共有し、さらに一緒に表現する事でコミュニケーション能力を高め、表現力の育成を促す。

主な内容

ゴスペルの鑑賞と校歌の歌唱指導

アーティストから

今時の 6 年生はとてもドライで大人びていて、音楽の授業では誰も歌わないという噂を聞いていました。そんな中でどうやって子どもたちに歌わせるのか。しかも 90 分という短時間でゴスペルを伝えられるのか。……子どもたちは歌ってくれるだろうか……そんなプレッシャーを抱えながら授業に挑みました。違ったのです。子どもたちは大人びてなんかいないし、ひねくれてもいない。自分を出すのが苦手、シャイなだけだったのです。最初は小さな声だった子どもたち、だんだんだんだん恥ずかしさも取れてきて最後には大盛り上がりでした。途中、子どもたちの歌って踊る姿に涙が出そうになりました。私はこの日の事を一生忘れないと思います。かけがえのない時間、素晴らしい一日でした。ゴスペルを歌ってきて本当に良かった。子どもたちの小学校の思い出の中にみんなで歌ったゴスペルがありますように・・・。

コーディネーターから

ゴスペルディレクターとゴスペルシンガー、そして中学生から社会人まで、様々な世代で構成された、アマチュアのゴスペルチームが加わり、総勢 20 名以上によるパフォーマンスとなりました。初めは小さかった子どもたちの声が、回数を重ねるごとに大きくなり、アーティストのパワーとの相乗効果で、最後は肩を組みながらの大合唱となりました。大きな声で歌うことの楽しさや素晴らしさだけでなく、歌を歌うことで生まれる一体感を感じさせることができたように思います。また、ゴスペルの歴史の説明を加えることで、「音楽の前には、みんな平等」というようなメッセージも伝えられ、心温まる時間となりました。

先生から

子どもたちを指導するときの姿にパワーを感じた。子どもたちの気持ちののせ方(大人の入り方　人数、タイミング　声のかけ方)が素晴らしかった。

子どもたちから

踊ったり歌ったりできて楽しかった。／最初ははずかしくて踊れなかったけどみんなが協力して踊れたのでうれしかったです。／ゴスペルの歌声にすごく感動した。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立阿久和小学校＋よこはま音楽広場実行委員会 “目で聴いて、耳で観る”表現アート体験

担当アーティスト	髙木きっこ(美術家・研究者)・高田由利子(音楽療法士)
実施校	阿久和小学校(瀬谷区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／即興／5 学年 1 学級 28 名
実施日程	2015 年 1 月 16 日(金)、1 月 22 日(木)、1 月 30 日(金)

授業のねらい

音と描画を融合した表現芸術の即興体験を通して、自由な発想で表現することの楽しさを学ぶ。また、仲間と協力して図形楽譜を作り上げることから、自分のアイデアを仲間に伝え、また、他者のアイデアや表現を認め合うことを通して、協調性や自尊心の高まるような体験とする。

主な内容

＜１日目＞抽象的な表現（フロッタージュやコラージュ）の体験を通して様々な感覚に気づく。＜２日目＞ｉＰａｄのメディアを使用し、コラージュを動画として作品化することで、表現の多様性を学ぶ。＜３日目＞動くコラージュを音に還元することで、既成概念に拠らない独自の発想やイメージを生み出し具現化する。

アーティストから

３回の活動を終え、小学５年生における創造力の可能性を改めて実感させられました。本ワークショップはフロッタージュ（環境からの情報の取得），映像制作（平面から時間軸への置換），音楽制作と発表(映像から音響表現への展開)という３つのワークを、個人からグループ活動へ、そして他者への共有という構造を備えていました．毎回最終プロダクツに対して正解というものが無いため，子どもたちは戸惑いや難しさを訴えつつも様々な工夫を楽しみながら試み、ファシリテーターの期待を大きく超える結果を出しました。

コーディネーターから

今回のワークショップでは、事前の仕込みも必要となり、訪問回数の頻度が多くなったにも関わらず、先生方は毎時ご丁寧にご対応下さいました。当日も印刷機や暗幕など、学校側の協力体制がなかったら成し遂げることができないワークでしたが、学校側の全面協力があり、無事に終えることができたと思います。特に音楽専科には打ち合わせも含め、何度も連絡のやり取りをし、アーティストがスムーズに取り組めるように多大なご配慮を頂きました。学校との協同体制の在り方についても考えて行くいい機会となりました。

先生から

音楽の主題「音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくろう」で音楽づくりをしていただきました。前もって二度来校していただき、材の質感を紙に写しとる活動や音楽室の場の設定を一緒にしていただき、教師側としても見通しをもって今回の授業にたずさわらせていただくことができました。

子どもたちから

もっといろいろな楽器に触れてみたい。／映像を音で表現するのは初めてで楽しかった。／いろいろな音に触れあえた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立二つ橋小学校＋よこはま音楽広場実行委員会 スチールドラム体験

担当アーティスト	鈴木伴英(スチールドラム奏者)
実施校	二つ橋小学校(瀬谷区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽・総合
実施概要	体験型／スチールドラム／5 学年 3 学級 90 名
実施日程	2015 年 1 月 9 日(金)、1 月 19 日(月)

授業のねらい

打楽器を通して思い切り自己表現を促したい。活発な学年でもあり、新しい事への興味も強いため、スチールドラムを通して表現することの楽しさや仲間の演奏も認め合うような体験に繋がることを目標とする。

主な内容

＜１日目＞スチールドラム奏法の習得と合奏＜２日目＞スチールドラムのアンサンブル体験

アーティストから

今回の学校は音楽に積極的なようでしたが、スチールドラムという特殊な楽器だからこそ伝えやすい音楽の楽しさを感じてほしいと考えておりました。子どもたちは基本的に積極的でした。将来のこのような機会には今回を踏まえてプログラムを構成したいと考えております。

コーディネーターから

スチールドラムという日常では見慣れない楽器に触れる体験ができたことは生徒たち一人一人が音の響きに耳を傾けるという体験に繋がったと思われるが、楽器のセッティングに時間が要する為、前日に楽器搬入するなど、アーティストへの負担は大きかった。しかし、学校側の協力もあり、当日は滞りなくプログラムが進行していたように感じる。

先生から

ふだんなかなかできない体験を子どもたちにさせることは、学校としての大きな役割であり、今回のスチールドラム体験は、ふさわしいものでした。５年生の子どもたちは、２回の体験で簡単な演奏ができるようになり、楽器の特性も感じ取り、楽しむことができました。

子どもたちから

音の出し方の微妙な加減がわかった。／スチールドラムの音がピアノのように感じた。／ふだんの音楽の授業とは違う音楽を感じられた。／もっといろんな曲をたたいてみたくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立瀬谷さくら小学校＋横浜みなとみらいホール ゴスペルの響き

担当アーティスト	河原厚子(ジャズヴォーカリスト／Ya!Voices・リーダー)
実施校	瀬谷さくら小学校(瀬谷区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／6 学年 3 学級 80 名
実施日程	2014 年 10 月 2 日(木)、10 月 7 日(火)、10 月 9 日(木)

授業のねらい

ゴスペルを使って心を開放する。自由な創作を体験する。

主な内容

＜１日目＞自発性を引き出す。＜２日目＞自分たちのペースで自由な創作活動をする。＜３日目＞練習意欲を引き出し、最高のパフォーマンスを本番に向けて

アーティストから

初めて伺う瀬谷さくら小学校、どんなパフォーマンスが生まれるのか楽しみに行かせていただきました。毎年継続して伺う学校とは違って、全く前知識のないにもかかわらず、驚きの完成度に私たちメンバー一同感激してしまいました。アイディアが沢山すぎてどうするんだろう？と思っていたクラスも、いつの間にやら子どもたちが調整して全て組み込んでのパフォーマンス！驚きました！そして、日を増す毎にどんどん輝いていく子どもたちの目、子どもたちの表情！日本の未来に希望が持てる３日間でした。

コーディネーターから

大変頻繁に学校アウトリーチを実施しているアーティストさんたちだったので、任せておいて大変な安心感でした。こどもたちのやる気を引き出すことに大変長けており、まさにこどもたちの変化ぶりにこちらが感動してしまうほどでした。

先生から

今回のゴスペルプログラムでは、河原先生を中心とした４人の先生方のチームワークのとれた授業～子どもたちの心をしっかりととらえ、楽しい会話を通して進められた指導～に圧倒されました。子どもたちのアイディアを取り入れて振り付けを考える場面では、即興的なピアノ伴奏をつけて「アメイジンググレイス」をパフォーマンス作品へと構成していく過程が新鮮で興味深く拝見させていただきました。クラスごとのオリジナル作品の発表では、子どもたち共々感激しました。子どもたちの可能性を引き出し、表現へと導いて下さったアーティストの方々とコーディネーターの皆様に感謝いたします

子どもたちから

みんなでたくさん案を出したり、練習や演技がとても思い出になった。／ゴスペルのおかげでみんなの絆が深まった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上郷小学校＋リリス
楽器の魅力とアンサンブルの楽しさを知ろう！

担当アーティスト	Tree of Music(木管五重奏団)
実施校	上郷小学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／クラシック音楽／5・6 学年 6 学級 230 名
実施日程	2014 年 11 月 25 日(火)、11 月 26 日(水)、12 月 1 日(月)

授業のねらい

楽器毎の構造や音の出る仕組み、音色の違いを知り、興味関心を持てるプログラムとする。また、実際に楽器に触れることにより、楽器や演奏家を身近に感じてもらう。アンサンブル演奏における各楽器の役割を分かりやすく解説し、演奏家同士がコミュニケーションを取りながら一つの曲を創り上げていることを知る。

主な内容

＜１日目＞５年生ワークショップ＜２日目＞６年生ワークショップ＜３日目＞５、６年生コンサート

アーティストから

今回５、６年生にワークショップを行いましたが、どちらの学年とも反応が良く、問い掛けにもすぐ答えてくれて、とても進めやすかったです。木管五重奏の各楽器の説明や簡単な歴史を話し、また管楽器の吹き方の仕組みをビンやストローなど身近なもので説明すると、「お～」という反応をして、驚きや関心の目で話を聞いていました。初めて見る楽器も多い中、「色んな楽器に興味が湧きました」と言ってくれる生徒もいて、とても嬉しかったです。

コーディネーターから

先生からのご要望にお応えできるよう、事前にアーティストと細かく打合せを行いました。クラス毎に実施した１、２日目のワークショップは、子どもたちも適度にリラックスして参加していた様子で、積極的にアーティストに質問する姿が見られました。今回は楽器の種類が多く、子どもたちも興味・関心を持って聞いてくれていましたが、楽器の専門的な話は少し難しかったようです。子どもたちが理解しやすいよう、より説明の仕方に工夫が必要だと感じました。

先生から

若く明るい雰囲気のアーティストで、児童の心情や学習内容に合う選曲やレクチャーをしていただきました。コーディネーターの人選がよかったと思います。木管という、繊細で実際手にとることの少ない楽器の秘密や、歴史にもふれたやさしい語り口のお話が心に残りました。

子どもたちから

校歌をアレンジしてくれてわくわくした。／聞いていて、とてもいい気持ちになった。／今回のような授業を広げてほしい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立桜井小学校＋リリス オリジナルのうたをつくろう

担当アーティスト	加藤昌則(ピアニスト・作曲家)
実施校	桜井小学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／作曲／6 学年 2 学級 54 名
実施日程	2014 年 11 月 5 日(水)、11 月 17 日(月)、11 月 18 日(火)

授業のねらい

「音楽づくり」をテーマに作曲ワークショップを行う。ワークショップでは講師の指導のもと、講師や友だちとコミュニケーションを図りながら、自由な発想のもと身近な楽器を使用して作曲にチャレンジする。児童にとって余りなじみのない作曲というテーマを通して、音楽の楽しさや友だちの表現の多彩さに触れることで、表現することの喜びを実感できるようなプログラムとする。

主な内容

＜１日目＞作曲を身近に感じてみよう＜２日目＞作った詩に音をのせてみよう＜３日目＞作った歌を発表しよう

アーティストから

創りだす喜びを体感することで、音楽がより身近なものになり、将来プラスになる可能性があることを、伝えられたらと思いました。誕生したうたに子どもたちが興奮し、歌うことを通して一緒に味わえたことは僕にとっても幸せな時間でした。

コーディネーターから

作曲という３日間で完成させるには難しいテーマだったが、ワークショップの時間内でできなかった部分を学校が補ってくれたこともあって、無事に曲を完成することができた。アーティストの「作曲のプロセスを体感してほしい」という思いと、先生方の「思い出になる曲を作りたい」という思いが上手く噛み合った結果であったと思う。学校とアーティストが協力することでとても興味深い化学反応が生まれるということを改めて感じた取り組みであった。

先生から

プロの演奏を聴き、プロの技に触れ感動的な授業でした。子どもたちの思いを大切にしながら講師の先生と一緒に一つの曲を創り上げていく貴重な体験ができました。また、子どもの頃の話やピアノとの出会いなどを話してくださり、アーティストとしても人としても魅力を感じました。

子どもたちから

人生初の作曲体験で、歌をつくるのがこんなにおもしろいとは思っていなかったので驚いた。／自分で作曲した曲を演奏した時は、とても感動しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立豊田小学校＋リリス サンバ・チャレンジ

担当アーティスト	金寿規(打楽器奏者)、吉田麻紀(打楽器奏者)
実施校	豊田小学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／4 学年 3 学級 96 名
実施日程	2014 年 12 月 11 日(木)、12 月 15 日(月)、12 月 18 日(木)

授業のねらい

サンバとレゲエ音楽をミックスさせたブラジルの音楽「サンバヘギ」を体験するワークショップを行う。今まで聞いたことの音楽を実際に体験することで、自分や友だちの授業での新しい姿を発見し、お互いの良いところを認め合いながら表現力を身につけられるワークショップとする。また、自由な気持ちで音楽に接し、表現する喜びを時間できるような機会としたい。

主な内容

＜１日目＞楽器体験。＜２日目＞「サンバヘギ」のリズム体験。
＜３日目＞発表。

アーティストから

３時限と少ない時間の中でどの程度までできるかは未知数でしたが、その日にはできなくても指導した内容を吸収し体得する時間の早さに驚かせられました。１クラスを２つのチームに分けて、発表する形にしたのですが、計６チームすべてが違うキャラクターを持っており、同じ曲であってもいわゆる「ノリ」の部分が全く異なったことは予想外で一番興味深く、子どもたちの可能性が大いに感じられる結果であり、機械では無く「人」が演奏することの楽しさを感じてもらえたのではないかと思います。

コーディネーターから

今回のプログラムについては、事前の打ち合わせで先生より具体的な提案を頂き、その内容に合わせてアーティストと相談しながら構成した。小学生は一年学年が異なるだけで、実施できる内容が大幅に変わってくるため、アーティストの独創性も大切だが、こどもの専門家である先生のお話を聴くことも、このプログラムを有意義にしていく上で大切だと改めて感じた。初日に戸惑いながら楽器に触れていた子どもたちが最終日に楽しそうに演奏する姿を見て、学校でアーティストがワークショップを行う意義を再確認することができるプログラムであった。

先生から

専門的知識のある方に具体物を通して合奏のたのしさを味わわせていただけたこと。独特のリズムがとても心地よく、プロの方ならではの構成がすばらしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立いずみ野小学校＋テアトルフォンテ アドリブにチャレンジ

担当アーティスト	伴正人（指揮者・作編曲家）、蜂須みゆ（作曲家・ピアニスト・音楽講師）
実施校	いずみ野小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／6 学年 2 学級 57 名
実施日程	2014 年 9 月 9 日(火)

授業のねらい

言葉でなくても様々な表現ができることを学び、実際に児童一人ひとりが音楽による表現を行う事でそれを実感する。

主な内容

合唱の中に指揮体験・アドリブ体験などを織り交ぜながら、音楽の自由な表現方法を体験する。

アーティストから

慰問活動、ワークショップなどを数多く行ってきましたが、今回行った内容は非常に実験的なものでした。よく知っている楽曲を使い、それに対して子どもたちがいかに反応するかを知ることができました。このような機会をいただけたことが泉区民の方々への演奏活動の幅を広げられることであると考え、他の演奏家や芸術家にもこのような情報を共有できればと思います。

コーディネーターから

「音楽で表現することの楽しさ」を何よりも大事にするアーティストによる、笑いの絶えないプログラムとなりました。いずみ野小学校の児童の皆さんはとても明るく、積極的に参加・体験を行ってくれました。先生方も一緒にプログラムを盛り上げていただき、とても良い雰囲気の中プログラムを行うことができました。表現することの楽しさを感じていただけたのではないかと思います。

先生から

自分で、どう表現したいかを考えて指揮をすることを通して、主体的に表現しようという気持ちをもつことができた。「こうしなければいけない」という思いが強い子どもが多かったので、「音楽はもっと自由に表現していいんだ！」と思えたようだった。

子どもたちから

最初は楽しみではなかったけれど授業を受けた後には、歌の魅力を感じることができて、音楽に感心をもてた。／色々な音楽に関わる仕事があるのだと気づいた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上飯田小学校＋テアトルフォンテ
うごいて、たたいて、つたえよう

担当アーティスト	峯崎圭輔(音楽家)
実施校	上飯田小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ボディーパーカッション／4 学年 3 学級 94 名
実施日程	2014 年 8 月 27 日(水)、9 月 11 日(木)、9 月 16 日(火)

授業のねらい

言語によるコミュニケーションだけではなく、身体を使って相手に気持ちを伝えることができれば言語表現の苦手な子にとってもコミュニケーションツールとなり豊かな気持ちを築くことができる。練習の成果として３日目に発表の場を設ける。

主な内容

＜１日目＞デモ演奏によるボディーパーカッションへの導入、曲目前半までの練習、グループ練習、リズムの作り方、ソロ作ってくる（宿題）、おさらい＜２日目＞前回（曲目前半部分）の確認、宿題（ソロ部分）の発表、後半練習、３日目の進行の確認、通し、おさらい＜３日目＞学習参観での発表会（デモ演奏でのアーティスト登場、先生、各クラス発表）

アーティストから

一つの目標に向かって皆で取り組むことで、仲間とのコミュニケーションの大切さを知ってもらい、一人一人の責任感や協調性を学べる良い機会だと思います。音楽というジャンルから得られる楽しさや達成感、そして「答え」の無い課題は、発想力や好奇心を引き出すことができます。また、各クラスや他のパートをライバル視する事でお互いを高め合うことができたのではないでしょうか。当日は先生方や保護者の方々にも参加していただくことができ、子どもたちも一層楽しんで、その一体感を感じてもらえたと思います。

コーディネーターから

はじめは体や声を出すことに抵抗をもっていた子どもたちも回を重ねるうちに比べ物にならない程しっかり表現をしていました。各回の始めと終わりでも表情は変化し明るくなりました。自分たちで考えたリズムや言葉に叩く位置や動き、ポーズを付けていく事で個人の発想・表現力、グループ・全体の中で自分のパートを担うことでの協調性が一層育まれたと感じました。学習参観で、初めて他のクラスの動きを見たときの競争心や親御様の前で発表と楽しみも多く、これからの成長に活きるプログラムができたと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立中和田南小学校＋テアトルフォンテ
いろんな音にふれながら遊ぶ、打楽器アンサンブル

担当アーティスト	富田真由香(打楽器奏者、音楽講師)、古川玄一郎(打楽器奏者、音楽講師)
実施校	中和田南小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3 学年 1 学級 44 名
実施日程	2014 年 10 月 17 日(金)、10 月 28 日(火)

授業のねらい

さまざまな打楽器と、その多彩な音をご紹介していく演奏鑑賞コーナー、一緒にアンサンブルしていく体験コーナーの二本を柱に組み立てていきます。体験コーナーでは、グループごとに身近な物で「ふる」「こする」「たたく」などのテーマに沿った楽器を自作してもらい、(当日までの宿題) 課題曲に合わせてリズム演奏します。音楽のもつ幅広い魅力に触れ、みんなで楽しむ時間にしたいと考えます。

主な内容

＜１日目＞「音が鳴る」ってどんなこと？というアプローチで自作楽器の作成レクチャー。＜２日目＞打楽器の演奏会と、作成した楽器を使ったアンサンブル体験。

アーティストから

今回は反応の良い元気な子たちでした。珍しい楽器の演奏には「凄い」と驚いてくれましたし、「レットイットゴー」を演奏した時は、まさか一緒に歌ってくれるとも思っておらず、こちらとしては嬉しいサプライズでした。楽器製作の点におきましては、打楽器を弦楽器の様に捉えて作った子、大きさの違う缶を使い音程の違う音の出る楽器を作った子のアイデアに感心しました。しっかり音の出る楽器を作るというのはハードルが高く難しい事ですが、音色という点でこちらが思いつかない様な工夫をしてくれました。

コーディネーターから

昨年と同じプログラムでお伺いしたこともあり、準備や打合せ、当日の授業もスムーズに進めることができました。１クラスで人数が多かった分実施が１回で済み、運営側の負担は減りましたが、それぞれの楽器を紹介したり、音の出し方を探る時間も減ってしまったのが少し残念でした。鑑賞では、児童の皆さんの好きな歌もあり、自然と大合唱になりました。自作楽器のアンサンブル体験を含め、楽しんでもらえたのではないかと思います。

先生から

普段の音楽と異なり、様々な楽器を間近で見、すばらしい演奏をごく近い場所で聴くことで、児童も私もあっという間に音楽の世界にひきこまれていくようでした。３年生の児童によくわかる説明、またリズムの学習では、言葉にあてはめて学ぶことで印象深く心に残り、教室でも何度も口に出して唱えていました。手作り楽器では、あの場の説明のみで家庭での製作となりましたが、これもびっくりするほど工夫したものもあり、関心の高さが伝わってきました。アンケートを見てもほとんどの児童が楽しいと答えている通り、すばらしい時間を体験することができました。

子どもたちから

みんなで演奏して楽しかった。／マリンバの演奏がすごいと思った。／家にある物で楽器が作れて楽しかった。／また演奏を聞きたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東中田小学校＋テアトルフォンテ
リズムを感じて歌おう

担当アーティスト	畑中紫甫(ソプラノ歌手)、三宅信太郎(作曲家・編曲家・ピアニスト・キーボディースト)
実施校	東中田小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／声楽／4 学年 3 学級 92 名
実施日程	2014 年 11 月 17 日(月)、12 月 8 日(月)、1 月 19 日(月)

授業のねらい

子どもたちが歌いなれた学校歌をアーティストが３つのリズム（サンバ・ボサノバ・モータウンビート）にアレンジし、各クラスごと異なるアレンジの合唱にチャレンジします。また子どもたちにはそのリズムに合った手拍子や振付を一緒に考えてもらいます。普段は歌いなれないリズムの音楽に挑戦しながら、自分の思いや考えを思い切り表現できるようになることを目標とします。本プログラムは、２月に学校で行われる“２分の１成人式”で発表されるものであり、アーティストとコーディネーターはその練習をサポートすることとします。

主な内容

＜１日目＞“リズムを知ろう”（リズムに関するレクチャー・リズム遊び・アレンジ校歌の練習）＜２日目＞“声の出し方を練習しよう”（声楽レクチャー・振付・アレンジ校歌の練習）＜３日目＞アレンジ校歌の練習【１組：ボサノバ、２組：モータウンビート、３組：サンバ】

アーティストから

『アレンジ校歌を歌う』という難しいテーマに挑戦してもらった今回の授業でしたが、こちらが投げかけるどんな課題にも楽しそうな顔で一生懸命取り組み、自分たちで一つ一つ考えながら作品をより良いものへと磨いていってくれた子どもたちの姿に、私たちは終始驚きと感動で胸がいっぱいでした。子どもが持つパワーと無限の可能性を感じながら一緒に一つの作品を創り上げることができ、最高に楽しい時間を過ごすことができました。

コーディネーターから

準備から実施終了まで、約半年間の長期にわたるプログラムでした。アーティストのお二人、学校の先生方が大変協力的で、コーディネーターと密に連絡を取り合い、何度も相談を重ねながらプログラムを進めることができた点はとても良かったです。アレンジ校歌の前奏が聞こえると、自然に足を踏み鳴らしたり、身体を揺らしたりする子どもたちの様子が印象的でした。本プログラムでの学校歌の合唱を通じて、様々なリズムに親しんでもらえたのではないかと思います。

先生から

今回はクラスごとに指導を受け、二分の一成人式で発表をすることをゴールに練習を進めてきました。総合的な学習の時間で取り組みましたが音楽専科の先生にも協力していただき取り組みました。コーディネーターの方もアーティストの方もとても親切で丁寧に御指導して下さりおかげで子どもたちはリズムで楽しく歌うことを学んだように思います。また、集会の場で全校児童に発表をしましたが、おもしろい取組みだと言われ、３つのリズムによるアレンジそれぞれをきくと、とてもおもしろいものであったようです。

子どもたちから

みんなの動きがそろってかっこよかった。／二分の一成人式で上手に発表することができた。／下手、上手いなど関係なくできたことがよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立飯田北いちょう小学校＋テアトルフォンテ
はじめまして！コンサート

担当アーティスト	伴正人(作曲家・編曲家・指揮者)、野村亮太(サキソフォニスト)、神﨑えり(ピアニスト・作曲家・即興演奏家)
実施校	飯田北いちょう小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／全学年 8 学級 320 名
実施日程	2014 年 11 月 11 日(火)

授業のねらい

普段芸術に触れる機会の少ない児童が多いため、芸術に触れる機会を用意し、さらにできるだけ興味をもってもらえるようなプログラムにする。また外国籍の児童も多く、日本語が得意でない児童も少なくないので、言葉に頼らない形でのプログラムの実施を目指す。

主な内容

全校児童を高学年と低学年に分けコンサートを実施。普段はなかなか聞けない「生」の音と作曲家による想像を音で表現していく様子を体験してもらうことで授業とは違う音楽の面白さを感じてもらう。

アーティストから

感受性豊かな年代に演奏を届けることができて大変嬉しく思っております。自分自身の小学校の音楽鑑賞教室は内容でなく印象で残っていますが、何か少しでも印象を持ち帰って頂くことを第一に取り組みました。一緒にいただいた給食も美味しく、音楽を一方的に届けることではなく、音楽を通してのコミュニケーションができたことが大きな喜びです。

コーディネーターから

コンサートが始まるまでは、参加された児童の皆さんに少しそわそわした雰囲気も感じましたが、始まってからは音楽の世界に引き込まれていくのがすぐに伝わってきました。アーティスト方々の展開の上手さもあり、低学年の回でも最後まで集中が切れることなく楽しんでもらう事ができました。また、先生方には飛び入りで指揮体験のコーナーにご出演をいただくなど、プログラムへ積極的にご協力をいただきました。児童の皆さん一人ひとりに音楽の面白さを存分に味わっていただくことができたのではないかと思います。

先生から

なかなか「本物」に触れる機会の少ない子どもたちなので、授業では扱わないサックスを取り上げてくださったことがまずよかった点です。また、プログラムも、いっしょに歌える曲や指揮体験、即興演奏などバラエティに富んでいて、関心のうすい子にも楽しめる内容になっていたと思いました。指揮者の伴さんの印象が強烈で、それがきっかけになって指揮に興味をもった子も多くいました。音楽の楽しさが十二分に伝わる鑑賞会でした。

子どもたちから

ピアノの即興がすごかった。／心があたたまった。／サックスとピアノの音の重なりがきれいだった。／指揮に合わせて速さや強弱が変わるのがすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏子田小学校＋横浜シティオペラ
身近に感じるオペラ３

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	荏子田小学校(青葉区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年 18 学級 250 名
実施日程	2015 年 2 月 23 日(月)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや愉しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創る助けになってくれることを望みます。

主な内容

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」ハイライト

アーティストから

とても陽気な感じで、特に魔女の登場からは笑いが止まらないほどでした。「カントリーロード」を最後に歌って終わりましたが、質問をいただいて、感想を聞きたかった・・・とこちらが思いました。

コーディネーターから

大きなストーブで早くから体育館を暖めてくださり、寒さをあまり感じないで演奏することができました。声を出して笑ってくれたり、熱心に聴いてくれる姿を見て、私たちもより頑張れました。初めて、１年生のクラスで、給食をいただき子どもたちとふれあい、楽しくほほえましいひと時を過ごすことができました。

先生から

初めてオペラを見る児童も多く興味をもって鑑賞することができた。コーディネーターの方との事前打ち合わせでは、細部まで説明をしていただき、学校側がどのように動けばいいのかがわかった。また、学校側の要望も聞き入れていただき、横浜シティオペラの方と児童による合唱が実現した。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏田西小学校＋フィリアホール 金管楽器の華やかな世界

担当アーティスト	清水真弓(トロンボーン奏者)、ルカス・ゴットシャルク(トランペット奏者)、フランソワ・キリアン(ピアニスト)
実施校	荏田西小学校(青葉区)
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／金管／6 学年 4 学級 123 名
実施日程	2015 年 1 月 28 日(水)

授業のねらい

鑑賞会を通して、表現力・感受性・集中力の育成を目指す。本物のアーティストによる音楽表現の多様性を知り、自分たちの演奏や日常生活での表現力を高める。音楽をじっくりと聴く事で集中力を高める。さらに音楽を形づくっている要素や面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する力を養う。また、金管楽器の華やかで迫力のある演奏を楽しみ、楽器に触れることで、音楽に親しみ感受性を育てる。

主な内容

トロンボーン＋トランペット＋ピアノコンサート

アーティストから

トロンボーンの音の出る仕組み、いろいろな技術をレクチャーするだけでなく、実際に楽器に触れ、自分たちで音を出す体験を通じてよりトロンボーンを身近に感じてもらうことができたと思います。また、いろいろなタイプの曲・さまざまな技法を使って演奏した曲を興味を持ち熱心に耳を傾けてくれました。今回の演奏を通して音楽の楽しさをさらに学んでいただけたらと思います。

コーディネーターから

清水さんの迫力のある音にびっくり、ルカスさんの超絶技巧に拍手と、金管楽器の魅力を堪能するだけでなく、音の出し方を教えてもらい、カラートロンボーンで音だしの体験をした。簡単に吹いているように見えたが、音を出すのはなかなか難しく体力がいるということが理解できたようだった。その後の演奏はしくみがわかったり、大変さがわかった後だったので、さらに興味深く聴けたようだった。

先生から

世界的な演奏家が演奏をしてくれるというだけでなく、ソロ、アンサンブルなどのいろいろな形態で演奏してくれたことで、子どもたちも強くひきつけらえていた。また、自分が演奏にチャンレンジしたり、楽器や曲のお話うかがったりする様々な活動があったので、意欲的に活動に取り組めていた。

子どもたちから

トロンボーンの経験ができてよかった。／演奏の大変さがわかった。／今まで聞いたことのない曲が聴いた。／曲についてもっとくわしく説明してほしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立鴨志田第一小学校＋フィリアホール スーホと白い馬　馬頭琴とその音楽

担当アーティスト	セーンジャー(馬頭琴奏者)
実施校	鴨志田第一小学校(青葉区)
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／馬頭箏／2・3 学年 4 学級 88 名
実施日程	2014 年 11 月 20 日(木)

授業のねらい

物語に出てくる楽器で演奏される音楽を鑑賞し、物語をより理解し、また主人公の思いを感じ取る手助けになることを期待する。また、音楽を聴きながら情景に思いをはせ、想像力・感受性を育成する。

主な内容

馬頭箏演奏とモンゴルの生活・言語について学ぶ。

アーティストから

今回は故郷のモンゴルを日本の子どもたちに紹介し、音楽という共通のコミュニケーションツールによってモンゴルの風を感じたり、大地をイメージしたりとモンゴルを身近に感じてもらうことができたと思う。子どもたちは積極的に質問したり、クイズに答えてくれたりと、私自身にとっても楽しい時間となりました。

コーディネーターから

モンゴルの民族衣装をきたセーンジャーさんが部屋に入ってきたとたん、生徒たちはすっかり心を奪われてしまったようでした。馬頭箏の演奏中は目をつぶって聞き、スライドに映るモンゴルの風景や生活ぶりには目を輝かしてみていました。クイズや質問コーナーに勢いよく手をあげる子どもたちは、生き生きとしていました。モンゴルの男の子は仲良くなるために相撲を取るそうで、音楽以外にも通じ合うものが多いと感じました。

先生から

小学校２年生の国語の教科書に出てくる「スーホの白い馬」は、子どもたちの大好きなお話です。しかし、モンゴルの草原やそこに暮らす人々の様子を知る機会はあまりなく、想像を広げる手がかりになるものがほとんど無いのが現状です。今回、実際に迫力ある演奏という形で馬頭箏の音色を聴かせていただいたこと、モンゴルの民族衣装を身に着けていただいたこと、草原や人々の生活の様子を映像を通して説明していただいたことは、モンゴルや馬頭箏の理解につながりました。馬頭箏の音色の美しさにも驚いている様子でした。

子どもたちから

モンゴルの文化や馬頭箏について知ることができた。／馬頭箏の実物を見ることができ、音を知れてよかった。／スーホの住んでいた所が分かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏田東第一小学校＋子どもに音楽を チェロの響き

担当アーティスト	山内俊輔、小森谷裕子(チェリスト、ピアニスト)
実施校	荏田東第一小学校(都筑)
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／6 学年／2 学級／55 名
実施日程	2015 年 1 月 28 日(水)

授業のねらい

学年全員で共通体験をすることで、自分の考えや思いを表し、仲間の思いを知り、伝え合う力をつける場としたい。また「生の音」にふれさせ、見るだけではなく、やってみることで音楽の楽しさを味わわせたい。

主な内容

チェロとピアノのミニコンサートの鑑賞

アーティストから

子どもたちにとって非日常で珍しいと思われる、演奏会の正式衣装である燕尾服を着てみました。間近で聴いたチェロの音楽に少しでも興味を持ってもらえたらうれしく思います。(山内)
音楽室の温かい空間で、子どもたちもとても静かに聴いてくれて興味を持ってくれた様子でした。(小森谷)

コーディネーターから

音楽担当の先生もとても協力的でした。会場のセッティングも教室をきれいに片づけてくださり、お花も飾ってくださいました。コーディネーターとしては学校側のちょっとした心遣いが嬉しく思います。帰り際、参加していた子どもたちが何人も声をかけてくれたり、駐車場の門を開閉してくれたり、体格がいい子どもたちでしたが、可愛かったです。

先生から

アーティストにとっては、元気が良すぎる子どもたちもいて、演奏に集中できない場面もあったかもしれませんが、学校現場の生の姿として、その部分も含めて付き合っていただければ幸いです。

子どもたちから

ピアノとのハーモニーもすごくてびっくりした。小学校生活最後の年にこんな経験ができてとてもうれしかった。／チェロのどっしりとした音、ピアノの細かい音が印象的だった。どちらも丁寧で表情豊かな演奏がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立川和小学校＋横浜みなとみらいホール きれいな声で歌おう

担当アーティスト	大山大輔(バリトン歌手)
実施校	川和小学校(都筑区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／合唱／5 学年 2 学級 65 名
実施日程	2014 年 11 月 4 日(火)、11 月 5 日(水)、11 月 11 日(火)

主な内容

＜１日目＞発声練習＜２日目＞斉唱で美しく歌うことを目標に活動＜３日目＞クラス別でお互いの歌を聴き合う。

先生から

クラスや子どもの実態に応じて指導や発声の方法をかえていて、言葉かけ一つ一つが勉強になりました。また、5 年生が“いろいろな合唱”で声部の勉強をするので、生で聴かせてあげることができてよかったです。また、ミニコンサートをすることで他学年の児童にも鑑賞の機会をもつことができ、貴重な経験になりました。

コーディネーターから

実力派で美形の男性歌手の登場で、多くの児童の皆さんが憧れの目で出演者を見つめていたのが印象的でした。また、シリアスな役ばかりでなくセビリヤの理髪師のフィガロなどコミカルな演技が必要な曲もユーモアたっぷりに児童さんたちの座っているところに分け入っていく、「芝居力」というかエンターテイメントな雰囲気が、大変に好印象を全員に与えていました。

子どもたちから

「はずかしがらずに声をだしてね。」と言ってくれて自信がついて声が出せるようになった。／１組と２組のそれぞれ発表で歌の聴き合いをして、思い出になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立北山田小学校＋Media Global ミュージカルをつくろう

担当アーティスト	Rainbow　Jam（佐山直子、中川梨恵、他／俳優・ダンサー）
実施校	北山田小学校(都筑区)
コーディネート	企業組合 Media　Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／創作／5 学年 3 学級 82 名
実施日程	2014 年 11 月 13 日(木)、11 月 14 日(金)、11 月 18 日(火)

授業のねらい

思い切って自分の声で表現する心地よさを味わい、自分の殻を破って精一杯表現する。心を開いて自分の思いを表現したり友だちの思いを受け取る体験。

主な内容

＜１日目＞シアターゲームでウォーミングアップ。全体で歌うテーマ曲練習＜２日目＞歌・ダンス・台詞に担当に分かれて練習。担当の歌・ダンス・台詞部分と全体の歌・台詞を合わせる。＜３日目＞舞台を使ったリハーサル。保護者の前で発表。

アーティストから

２度目の実施ということもあり、何か進化したものを提供できればと思い臨みました。今回は、ダンス、歌、台詞の３グループに分けることで、子どもたちそれぞれの見せ場を作りました。その中で、みんなで作る作品の中に、「自分」という役割があるということを体感して頂きたいと思いました。そして今後、それが社会の中での自分の存在というものにほんの少しでも繋がりを感じて頂ければ嬉しく思います。

コーディネーターから

昨年からの継続校。今年は全学年３クラスで１つの作品を作ることに挑戦しました。歌は三部編成、短い練習時間でしたが見事に歌うことができました。一度だけの発表ではもったいないと他学年にも観てもらえる機会を作ってくださったり、子どもたちの心に残る良いプログラムなりました。

先生から

２年目ということでだいたいの流れや連携がスムーズにできた。子どもたちにとってアーティストのプロの方との出会い、そして授業はとても新鮮であり、今まで見ることのなかった子どもの姿や力を発見することができた。子どもたちにも強く印象に残ったと思うし、今後にも生かせる「自分を表現する」４つのポイントは宝物になると思う。

子どもたちから

姿勢、視線、クリアな発音、イメージの４つを使うということを教えてもらった。／歌も大きな声で歌えるようになりうまくなったような気がしてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立鴨志田中学校＋フィリアホール
重なる声を感じる

担当アーティスト	吉川健一(バリトン歌手)
実施校	鴨志田中学校(青葉区)
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／全学年 8 学級 277 名
実施日程	2014 年 9 月 24 日(水)、10 月 14 日(火)

授業のねらい

プロの歌唱を鑑賞したり、指導を受けることにより、発声法の取得や様々な表現方法を学ぶ。また「自分たちにもできる」という自信から、表現力、邁進力を高める。また、美しいハーモニーを作るための団結力も養われ、強い心を育てる一助になることを期待。

主な内容

＜１日目＞歌の魅力・響き・言葉による表現を学ぶ。＜２日目＞複式呼吸、声を響かせるこつ、言葉をはっきりと発音させる方法を実践し、歌を歌う。

アーティストから

今回、初回は私の歌を聴いてもらい、残りの回は授業形式で合唱指導を行いました。思春期真っ只中の中学生は、各学年ごとに成長の過程が一目で分かり、体格面や精神面でも大人になっていく中学生の指導は、とてもやりがいのある体験でした。そんな中、今回は、各学年ごとに授業を行えたことが、とても意義があったように思えます。鴨志田中学校の純粋な心を持った生徒たちに、少しでも心に残った経験となっていれば幸いです。

コーディネーターから

１回目の授業で外国語や日本語で歌を聴き、歌における言葉の重要性・お腹から出す声の素晴らしさを体感してもらった。生徒たちは間近で聞くアーティストの歌に感銘を受けたようだった。２回目は各学年ごとの授業だったが比較的スムーズに講師を受け入れ、指導にも前向きで、何かを吸収しようとする意気込みが伝わってきた。腹式呼吸・言葉を明快にすること、遠くまで響きを伝えることなどを学び、授業の最後では素晴らしいハーモニーを聞くことができた。

先生から

常日頃「言葉をはっきり！！」と伝えてはいたものの生徒にどこまでその重要性が伝わっていたのか今回ハッとさせられました。『音楽の中でも唯一言葉の想いを表現できるのが“歌”です』と先生が生徒に伝えているのを聞き、そこから生徒達も言葉の重要さに気づいた気がします。風船を使った響きやたのしい歌を歌いながら表現力の無限の力を伝えていただきました。また発声や呼吸法もそののち取り入れて学習しています。

子どもたちから

色々な曲が聞けてうれしかった。／ひとつひとつ丁寧に教えてだきったので思いきり歌うことができた。／プロの声を生で聞くことができる貴重な機会だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立盲特別支援学校＋かなっくホール
心に響くボディーパーカッション

担当アーティスト	若鍋久美子(パーカッショニスト)
実施校	盲特別支援学校(神奈川)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／パーカッション／全学年全学級 56 名
実施日程	2014 年 12 月 9 日(火)、12 月 10 日(水)、12 月 12 日(金)

授業のねらい

体を使って表現することの楽しさや、音の響きや空間での広がりなど、音と空間の関連性について学び、より豊かな感性を育む。同時に、みんなで演奏すること（合奏）の面白さ、楽しみ方を体験し、クラスの仲間の個々の表現に耳を傾け理解し、クラスのコミュニケーション力や傾聴力を高める。

主な内容

＜１日目＞高（普通科）及び中：鑑賞、オノマトペ、語感でリズム、ボディーパーカッション、アンサンブル＜２日目＞中：ボディーパーカッション・アンサンブル 、小：鑑賞、身体でリズム、語感でリズム＜３日目＞高（生活科）：鑑賞、身体でリズム、アンサンブル　　小：アンサンブル

アーティストから

今回、子どもたちから湧き上がるものを大事にして、ただのリズム遊びではなくもう一歩先の表現を目標にワークショップを行いました。言葉やイメージ、触覚などとつなげて、自分にしか出せない音色やリズムを楽しみながら表現してくれたように思います。各々のペースで試行錯誤しながらも友だちの表現の面白さや違いにも気付いたり、とても素直で柔軟な姿がどの学年でも印象的でした。クラップひとつでこんなに良い音が出せるのかと逆に驚いてしまうほど、みなさんの音への探求心はすばらしいものでした。

コーディネーターから

視覚による認知に困難があることから、聴覚や触覚を更に高め、また表現する力も伸ばしたいという学校側の要望を受け、ボディーパーカッションのプログラムをご提案しました。視覚的に加え複合的な障害をお持ちの子どもたちも少なくありませんでしたが、聴覚や触覚の鋭敏さは抜群、また感性が非常に豊かかつ素直で、アーティストとのコミュニケーションも生き生きとはずみ、「音楽に境界は無い」という実感をあらためて共有するプログラムとなりました。アーティストには実質４パターンのプログラムを用意していただくこととなりましたが、豊富な経験と柔軟な対応で、難なく実施していただきました。

先生から

体から出せる音の音色…楽器にはないニュアンスや強弱、テンポ感など体験させたいことはまだまだあった。また、人と人を結ぶコミュニケーションの機能もさらに生かせれば良かったと思う。楽器から出てくる音だけでなく、身体を使う、それもたたくだけではなく、こする、はじく等普通ではまずやらないであろうことに注目して授業を展開していったことがすごくよかった。

子どもたちから

とても新鮮に音楽を感じた。／最初はどうしようと思ったが、体でいろんな音が出せることがわかって表現を考えることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立北綱島特別支援学校＋よこはま音楽広場実行委員会
音がひろがる空間

担当アーティスト	高田由利子(音楽療法士)、井上勢津(音楽療法士)
実施校	北綱島特別支援学校(港北区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／即興／全学年全学級 12 名
実施日程	2014 年 9 月 16 日(火)、9 月 24 日(水)、9 月 30 日(火)

授業のねらい

個別の学習指導計画や医療ケア、および心理的なケアも含めた複合的な教育アプローチの必要な重度心身障碍児を対象に、音楽を療法的に用いることで、より、個別に合わせてアプローチできる事から、個々の潜在的な表現力が引き出される時間がもてるといい。また、様々な楽器に触れることを通して、新しい体験が楽しい体験に繋がるといい。

主な内容

音楽療法の実施（即興と既成曲を取り合わせた個別・集団における表現活動）

アーティストから

今回初めて、重症心身障害児（者）施設サルビアでの活動に関わらせていただきました。北綱島特別支援学校サルビア分教室の教諭をはじめとする、スタッフの皆様のご協力のもと、無事に３回の音楽療法活動を終わらせることができました。子どもたちの音楽に対する豊かな反応に音楽の力を改めて感じると共に、スタッフの皆様の的確なサポートに感銘を受けました。回を追うごとに変化する子どもたちの姿に、継続の重要性を感じました。

コーディネーターから

今回はアーティストとしても関わらせて頂きましたが、初回の訪問時に先生方から具体的なねらいやご希望を伺えたことで、具体的にどのような活動が求められているかを知り、それに向けて準備をする事ができました。また、当日までに楽器を用意して下さったり、部屋の環境を整えていて下さったりと、先生方の協力が活動においても大きな助けとなりました。また、初回の様子からアーティストがより音楽を提供しやすい環境を２回目と３回目にご用意くださったことは本当に有り難く、先生方との共同で行う重要性を感じました。

先生から

超重心児、生徒が主な構成員である本分教室にとって普段の授業活動の内容について考えることは時に難しいことがあります。そんな中、以前よりコミュニティー・ミュージック・セラピーの第一人者として、よくお名前をうかがっていた井上勢津先生のプログラムを間近で見させていただいたことは、今後の授業内容（特に音楽）を考える上で、とても参考になる部分が多かったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東俣野特別支援学校＋アートの時間 オノマトペの音遊び

担当アーティスト	佐藤公哉(アーティスト・ミュージシャン)
実施校	東俣野特別支援学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／音あそび／全学年全学級 48 名
実施日程	2015 年 2 月 3 日(火)、2 月 5 日(木)、2 月 9 日(月)

授業のねらい

生演奏に触れることで感受性を養い、新たな「気づき」を体験する。また実際に楽器に触れたり、身近に音を聞いたり、演奏に参加することで興味・関心を引き出す。

主な内容

・音を出しながら、お気に入りの楽器(声)を見つけてもらう。セッションの時間。
・輪になって一人ずつの演奏を一周まわす。一人の音、一つの音への傾聴の時間。
・事前に選んだいくつかのオノマトペ(「ポツポツ」、「ドンドン」、「フアーッ」など) と、それに対応する図を示し、それに見合う音、音楽を皆で演奏してみる。
・その場でオノマトペを作ったり繋ぎ合わせたりしながら、一つの楽曲のような輪郭を共有する。
※３日間とも同内容で、別クラスに対して実施。

アーティストから

個人としては２年連続伺わせていただき、大変意義深い機会となりました。昨年最も強く印象に残った、子どもたちが持つ優しい雰囲気や、言葉ではないコミュニケーションを取り合っている感覚を大事にしつつ、マンツーマンで学校生活を営む先生方も共に体験できるようなワークを心がけました。オノマトペが持つリズム感や色彩に反応して音楽の場を作るプロセスを共有できたと思います。

コーディネーターから

短時間の関わりだけでは、皆さんの繊細な反応を読み取るのは難しかったのですが、先生方の言葉がけで助けていただきました。１日目でアーティストへの興味や純粋に「聴く」ことへ執着を持つ人が多いことに気づいたため、２日目からは最初にオリジナルを１曲演奏するなど状況に合わせアーティストが柔軟に対応してくださいました。皆で演奏する時間では、それぞれに自分の音を見つけ、それがふわっと一つになった感覚をその場にいた全員が共有することができました。さらに深く彼らの表現に触れたいと思わされる３日間でした。

先生から

学校の実態を理解していただいた上での実施であったので、ゆったりした温かい雰囲気で子どもたちの小さい表出も受けとめてくださり、良い時間が持てた。テーマにやや難しさはあったが、型にはめるのではなく、ひとりひとりが自由に出した音を一つの音楽にまとめ上げていく今回のような活動は、教員ではなかなか難しく、プロならではの独特の空間が作り上げられていた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立港南台ひの特別支援学校＋ＳＴスポット横浜 耳と目と体で楽しむコンサート

担当アーティスト	即興からめーる団（音楽家）
実施校	港南台ひの特別支援学校（港南区）
コーディネート	NPO 法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／創作／小等部全学級 22 名
実施日程	2014 年 12 月 18 日（木）、12 月 22 日（月）

授業のねらい

生の演奏や歌を鑑賞しながら、楽しく体を動かしたり、歌ったりして本物のすばらしさを味わいたい。

主な内容

ミニワークショップ、コンサート

アーティストから

「限られた時間の中でみんなで関われることを」と考え打楽器によるロックのアンサンブルをしましたが、実際やってみるまでは上手くいくのか正直不安もありました。しかし、いざ始めるとそんな心配は全く無用だったというくらいみんな自発的に参加してくれていました。また、音や動きに対する反応の速さや、表現の多様さに驚き ました。鑑賞会でも曲や場面が変わるとすぐに色々な反応が返ってきて、聴いてもらえているのを感じられ、演奏していてとても幸せでした。（正木）

それまでずっと動いていた子が、音楽が始まると止まってじっと聴いている様子が印象的でした。また演奏する曲によって、児童のみなさんの反応が全く違っていて、彼らの音楽に対する感受性の豊かさを感じるとともに、演奏に対してストレートに返ってくる反応に、私自身が非常に刺激を受けました。また、ワークショップ、コンサートの実施にあたり、先生方から曲のリクエストをいただいたり、ワークショップには先生方も一緒に楽しんで参加してくださったことで、先生方のあたたかい雰囲気が子どもさんたちにも伝わって良い場を作ることができたのではないかと思います。先生方と協働できたことも大きな収穫でした。（赤羽）

コーディネーターから

知的障害の子どもたちが通う特別支援学校。事前に「We will rock you」をベースにミニワークショップを実施。リズムの共有することで、コンサートへの興味関心を高めることができました。コンサートでは、生演奏に加えてライブペインティングも行い、聴覚だけではなく、視覚に対してもアプローチをすることができました。途中、子どもたちが参加する場面もあり、全身を使っての体験を行うことができました。

先生から

・音楽とライブペインティングを授業にも取り入れてみたいと思いました。
・ワークショップをしていてよかったです。子どもたちもコンサートに「鑑賞」でなく「参加」できていました。
・クラシックは私も身近ではないのですが、絵もあるとイメージしやすく、親しめました。
・プログラムの順番が、最高でした。ドラえもんで、子どもの心をつかんで→クラシック→ライブペインティング→ワークショップ→踊り（妖怪ウォッチ）→クラシックでしっとり終わる。あっという間の 1 時間でした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日野中央高等特別支援学校＋よこはま音楽広場実行委員会
スチールドラム鑑賞＆体験

担当アーティスト	鈴木伴英(スチールドラム奏者)
実施校	日野中央高等特別支援学校(港南区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／スチールドラム／全学年全学級 183 名
実施日程	2014 年 12 月 9 日(火)

授業のねらい

男子生徒の割合が多いため、打楽器がもつ力強い音や響きなどを全身で感じられるような時間になればと思います。また、鑑賞の中にも体験の時間を持つ事で、スチールドラムをより身近に感じ、自分の出す音色をじっくり聴いてもらえたらと思います。そこから楽器への興味が広がることを期待します。

主な内容

スチールドラム鑑賞＆体験スチールドラム鑑賞＆体験

アーティストから

曲目をクラシック系からＪポップまでと多様としたため、どのように楽しんだら良いのか、戸惑いもあったかもしれません。生徒さんには準備や片づけに積極的にお手伝いいただき、演奏を聴く態度や、挨拶も積極的で明るく、非常に好感を持てました。今回はステージ上での演奏でしたが、機会がありましたら多くの生徒さんに楽器に触れていただき、スチールドラムを通して音楽を楽

コーディネーターから

今回、実施前に２回学校を訪問し打ち合わせしましたが、学校全体を通して本プログラムに対する大きな期待を感じました。２回目にはアーティストにも同行頂き、実際の会場となった体育館の音響の確認や照明の当て方など丁寧に打ち合わせし、アーティストの方たちが心地よく演奏できるような環境づくりにご配慮いただいたことに感謝しております。

先生から

日頃、目にすることができない楽器に触れることができ良かった。また楽器を組み合わせたことによって、より音楽の幅が広がり想像を超える演奏を聴くことができました。コーディネーターには誠意をもって対応していただきました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立本郷特別支援学校＋リリス
音楽の楽しさを発見！

担当アーティスト	橋本淳平(打楽器奏者)、斎藤祥子(打楽器奏者)、上原なな江(打楽器奏者)、冨岡春絵(打楽器奏者)、長谷川剛士(打楽器奏者)
実施校	本郷特別支援学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／中等部 9 学級 60 名
実施日程	2014 年 12 月 5 日(金)

授業のねらい

ふだんの生活ではなかなか触れることのない、プロの演奏家の演奏を観たり聴いたりすることで、音楽への興味・関心を深めることのできるプログラムとする。また、曲目は童謡や唱歌、アニメの歌などを中心に構成し、生徒がより親しみを持って鑑賞できる内容とする。さらに、出演者の歌やダンスに自由なかたちで参加してもらい、表現活動への興味・関心を深め、豊かな感性を養うことのできるプログラムとする。

主な内容

打楽器によるミニコンサート

アーティストから

冬の寒い朝、私は、今日はどんな子どもたちに出会えるのだろか、、、演奏を喜んでくれるだろうかと、ワクワクとドキドキが入り混じった気持ちで学校へ向かいました。学校へ着くと、私たち打楽器奏者にとってはお決まりの楽器の準備が始まります。マリンバやビブラフォン、ドラムセットにアフリカの民族楽器など大量の打楽器をトラックから降ろし、組み立てる・・・とても疲れる作業です。しかし、その日は違いました。廊下で準備を進めていると、通りかかる生徒から歓声や「これ何？」、「がんばってね？」という声がたくさん聞こえてきたのです。この日のために、プログラムを決めているとき、リハーサルのとき、常に子どもたちの笑顔を思い浮かべながら準備をしました。その分、本当に喜んでもらえるのかという不安も大きかったので　朝から、子どもたちの笑顔に心が温かくなったのを覚えています。いざ、演奏会が始まると、元気に手拍子でリズムを取ってくれたり、手を振ってくれたりと、明るい雰囲気で迎えてくれ、私たち自身も楽しみながら演奏することができました。特に、会場全体でアンサンブルを作っていく～みんなでからだをうごかそう～では、大勢の生徒さんが、積極的に参加してくれ、おおいに盛り上げてくれました。演奏会を通して、音楽と打楽器で、本郷特別支援学校の皆さんと、楽しい時間を共有でき、そして皆さんお笑顔から大きな感動をいただけたと思っております。昔から、打楽器を用い、心を通じ合わせていたといわれます。叩けば音がでるからといってしまえばそれまでかも知れません。ただ、今回の演奏会で、それだけではない体と心の芯に響く力が打楽器にはあると強く感じました。

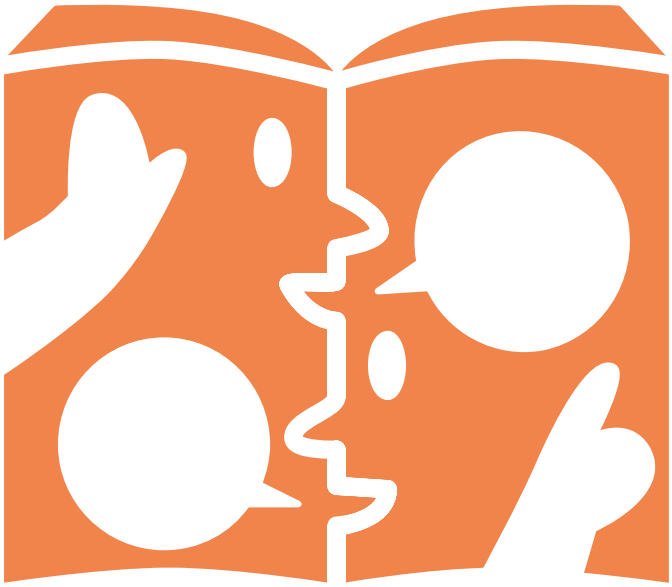
コーディネーターから

今年は、打楽器アンサンブルでの演奏を依頼しました。演奏に合わせて体を動かしたり、手拍子したりと思い思いに演奏を楽しんでいる様子でした。アーティストには生徒さんたちの反応を見ながら音の大きさなどにも即座に対応していただきました。また、学校側から事前に頂いていたリクエスト曲を演奏した際はとても喜んでもらえたようです。体育館の工事の関係で 12 月となったことによりインフルエンザで参加できなかった生徒さんがいたのが残念でした。

先生から

毎年、鑑賞集会に合わせてアーティストの方にコンサートをお願いしています。授業で何度も使ってきた楽器も、プロの手にかかるとこんな音楽になるんだ！こんなに迫力があるんだ！という驚きと発見の気持ちを生徒たちは感じたことでしょう。今回はコーディネーターの方との事前の打ち合わせで、生徒たちの好む曲を詳しくお伝えすることができたので、心地良く聴き入っている姿が印象的でした。

演劇分野の取り組み



自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。
学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立屏風浦小学校＋杉田劇場
朗読で伝える、表現する

担当アーティスト	野村道子(声優)、内藤宏樹(声優)
実施校	屏風浦小学校(磯子区)
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／朗読／4 学年 3 学級 82 名
実施日程	2014 年 10 月 22 日(水)、10 月 31 日(金)、11 月 10 日(月)

授業のねらい

他者と関わりながら自己の表現をすることによって、表現する楽しさを味わう。自己表現としての演技（演劇）、4 年生という学年を考慮し、例えば「もし世界が 100 人の村だったら」といったやや踏み込んだ社会的テーマを題材にして、その題材の考察から得られる各自の考え、フィーリングを演技に盛り込み、表現することを試みる。 3 日間をかけて段階的に展開していくような内容にする。

主な内容

＜1 日目＞色々な声を出してみよう（朗読への導入）＜2 日目＞自分で書いた作文と他者が書いた作文の朗読の観点からの比較／東日本大震災被災地小学校 4 年生が書いた作文の心情・背景考察　・ことばを他者に伝える際のポイント整理＜3 日目＞コンテスト形式による朗読発表会　／総まとめとして講師による朗読鑑賞

アーティストから

初日は何を話しているのか分からない児童が多かったが、3 回目に向けての進歩は目を見張るものでした。 小学校 4 年生はまだ朗読に対する雑念が無いので、授業中アドバイスしたこと が素直に浸透している感触が良かったです。また、やっている内容毎の児童の表情の移り変わりが印象的でした。題材を想像させること、考えさせることで人間的な部分への教育をしている感触を得られたことは、授業前には想像していなかったことだったので、その点で 教育 PF の実施意義を感じました。 内容を深めることを考えると、コマ数ではなくトータルの時間の長さが非常に短 かったように感じます。しかし、コマ数を制限し、各日程を 10 日間ずつ空けたことで 題材を考えるゆとりを与えられたことは良かったです。

コーディネーターから

学校の先生、アーティストとの打ち合わせの段階から、ふだん学校で取り組んで いる音読と今回の朗読との違いが、全体的なアーティスティックな部分での大きなテーマであったように思います。予め目標の中で設定した、4 年生という学年を考慮したやや踏み込んだ社会的テーマということで、今回は東日本大震災が題材として選択されました。アーティストが与えた自身の阪神淡路大震災の被災経験に基づいた心情考察のヒントや、言葉を上手く伝える際のポイントが非常に的確で、最終日のコンテスト形式の発表会では、授業成果が結実した 4 年生なりの実に見事な朗読を披露した児童が多かったことが印象的でした。国民的声優の朗読を目の前で聴けるチャンスはまず無いので、本事業は児童にとって一生の宝となっ たでしょう。できれば全校生徒か学年全体での発表の機会を持てるような回数と 一授業あたり 2 コマ連続での時間設定ができれば、より充実した取り組みになるように感じました。

先生から

今回は「朗読って何だろう」というテーマで授業をすすめていただきました。ふだんの国語の授業で教科書を読む時は「音読」であって朗読ではなかったということが子どもたちにもよく理解できたと思います。今後の授業に生かせる内容でとてもよかったです。

子どもたちから

発音練習でいろんな声があるんだとわかった。／皆の朗読が聞けた。／朗読コンテストが楽しかった。／気持ちを込めて読む意味が分かった。／声の出し方が分かった。／人に聞かせるように読めるようになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立釜利谷小学校＋急な坂スタジオ 未来の釜利谷の歴史

担当アーティスト	中野成樹(演出家)
実施校	釜利谷小学校(金沢区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／創作／3 学年 3 学級 98 名
実施日程	2014 年 11 月 26 日(水)、12 月 1 日(月)、12 月 5 日(金)

授業のねらい

釜利谷フェスティバルでの発表に向けて、歌やお囃子を交えた演劇作品づくりに挑戦します。地域の方々に守られて創立１４１年目を迎えた釜利谷小学校の歴史を学び、声や音、身体を使って総合的な発表を行います。のびのびと表現する豊かさを味わい、体験できるような活動を目指します。

主な内容

＜１日目＞ソング・アクト・ダンスチームにわかれて、発表に向けてのネタづくり＜２日目＞台本をもとに、チームごとでリハーサル＜３日目＞実際の舞台でリハーサル

アーティストから

今回行ったことは大きく二つです。一つは発表に向けた台本作成と練習です。先生方の希望をうかがいつつ、台詞をつくって、歌い踊る音楽を決定して、それからみんなで簡単な練習をしました。一緒に歌ったり、振りをいれたり、演技（表現）をしてみたり。そしてもうひとつ、とても大事なことをやりたくて。それは演劇とか表現の楽しさを伝えること。けれどこれが難しかったです。あらためて演劇の楽しさって何だろうと考え込みました。しかしゲストである我々とギャンギャン、ドキドキしてくれてる小学生たちの姿をみると、みんなとっくにそんなもの知っていたんだな、と思いました。我々はちょっとだけ蓋をはずしてあげるだけでいいのだなあ、と思いました。

コーディネーターから

少ない練習時間の中で発表に向けての枠組みをつくりながら、子どもたちに表現する楽しさや可能性を知ってもらうにはどうすればよいか、が大きな課題となりました。先生方がいろいろなアイディアを出してくださり、地域のお囃子の楽器を借りたり、お囃子の先生が加わってくださったり、また、本番に向けて練習を重ねてくださったりしたことで、とてもスケール感のある作品発表となりました。子どもたちが、自分の興味があることや、力を発揮できることからチームや役割を選んで、自主的に作品発表に取り組む姿が印象的でした。

先生から

演劇は苦手だったが、プロデュースするヒントをもらい、またオリジナルの台本をしっかり提供していただき、お囃子など効果音の入れかた、体の動かし方、ダンスのふりつけ等勉強になり、アクト等一人ひとりの表現の方法などが工夫できました。特に効果音の入れ方の工夫など、全体として伝わりやすくなる演出（音楽・空間の使い方）は、私たちの発想では考えられずプロの方の力を感じました。

子どもたちから

教え方がおもしろく分かりやすかった。／舞う様子がよく表現できておもしろかった。／せりふの言い方がわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立大綱小学校＋横浜こどものひろば
空間を考えて演劇つくり

担当アーティスト	望月純吉(演出家／劇団文学座)
実施校	大綱小学校(港北区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／身体表現／3 学年 3 学級 85 名
実施日程	2014 年 9 月 5 日(金)、9 月 29 日(月)、10 月 20 日(月)、10 月 23 日(木)、10 月 24 日（金)、10 月 29 日（水)

授業のねらい

大倉山芸術祭に向けて、国語・音楽・体育を総合的に取り入れた舞台発表用作品をクラス毎につくる。

主な内容

＜１日目＞台本に書かれていることを立体的に解釈する。「本当だったら？」をみんなでイメージする。＜２日目＞会場の大きさに会わせて、位置や動きを相談しながら決めていく。＜３日目＞どんな風にすればお客さんにわかりやすくなるのかを相談しながら考える。＜４日目＞本番に向けて、セリフや位置を覚えてより作品としての完成度を高める。＜５日目＞本番を前に心配なことを皆で話す。どうすればいいかを考える。

アーティストから

33 人のクラスで３本の演目を実施しました。担任の先生により工夫の質の違いが現れ、それぞれのクラスの色になったと思います。３年生らしい演目にしたいと考えていましたが、最後には演技に対しての具体的な質の高い質問が飛び交いとても驚きました。先生方との連携もうまくいき、実りのある経験を催すことができたと思います。

コーディネーターから

「これからここに書かれてある言葉を３D にしよう！」と子どもたちに呼びかける演出家の望月氏に「人間が声にしたら３D になるんじゃない？」と子どもたち。３D という言葉をゲームや画像でなくイメージし始めた子どもたち。そしていつものように子どもたちとの演劇づくりは始まりました。稽古を何日か重ねる中で「刀はどう持ったら怖く見えますか？」「悲しい気持ちはどんな声にしたら…？」と高度な質問が生まました。当日の発表本番を観て、そうした過程が見えてくるような発表会になっていたと思いました。

先生から

子どもを興味をひき、意欲を高める声かけがとても参考になりました。みんなで心を一つにしてよりよいものを創り上げる楽しさを味わえたと思います。

子どもたちから

望月さんのおかげで最後まで楽しく取り組めた。／みんなで協力してできたことがよかった。／自分の個性を生かして、表現することができるようになってよかった。／人前で発表することは恥ずかしいことではないということを学んだ。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立東俣野小学校＋さくらプラザ おしゃべりなパントマイム

担当アーティスト	カンジヤママイムB（パントマイミスト）、カンジヤママイムC（パントマイミスト）
実施校	東俣野小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／パントマイム／6 学年 2 学級 60 名
実施日程	2014 年 12 月 8 日（月）、12 月 9 日（火）、12 月 11 日（木）

授業のねらい

・自己表現することの楽しさを感じてもらいたい
・その楽しさを感じることで、積極的に発表できるようになりたい

主な内容

＜１日目＞パントマイムって？／“固定”“変身”“想像”＜２日目＞基本の復習／イメージをパントマイムにしてみる＜３日目＞発表／カンジヤママイムによるステージ

アーティストから

あっという間の三日間でした。子ども達はパントマイムの楽しさ、そして演技する難しさなど沢山感じてくれたと思います。そして最後の発表では、それぞれの個性や演出の工夫なども観る事ができました。

コーディネーターから

クラスごとのワークショップでは子どもたちの雰囲気、先生の人柄、それぞれのクラスでもちろん違うので、内容を少し変化させて子どもたちがやりやすい空気をつくった。それが３日目になり、全員が揃うとまた違う空気になり、人が人に与える影響を考えながら作り上げていくカンジヤママイムの空間、舞台がおもしろい。パントマイムは見るのも初めて、やるのはもちろんの子どもたちだったが、興味をもって真剣に取り組んでいた姿がみえ、それぞれ自分のイメージを表現することを「感じる」ことができました。

先生から

ふだんではなかなか接することのできない、アーティストの方と連携をとっていただいたことはとてもありがたかったです。準備や連絡なども細やかに気を配っていただいて、とても助かりました。子どもたちは、パントマイムはもちろん、カンジヤママイムの方のお話もとても心に残っていたようです。アーティストの方の都合もあるので、難しいとは思いますが、もっと長い期間で（３日間でも、最終日までに、宿題を出して本番を迎えるなど）すると、さらにじっくりパントマイムに浸れたかなと思いました。

子どもたちから

発表することが上手になった。／パントマイムが上手になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立深谷小学校＋アートの時間
植物と昆虫の成長

担当アーティスト	とみやまあゆみ(俳優)
実施校	深谷小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／身体表現／3 学年 2 学級 45 名
実施日程	2014 年 11 月 17 日(月)、11 月 25 日(火)、11 月 27 日(木)

授業のねらい

総合の時間に行った農業体験、そして理科で行った昆虫の飼育を組み合わせ　自分の身体を使って植物や昆虫の成長を表現する。この体験を通して日々の学習で得られない自分の姿と友だちの姿を理解しあい、学びあえる態度を育てるきっかけとする。

主な内容

＜１日目＞遊びながら物や動物を身体で表現する。一人から複数で表現するルールにより多くの友人と触れ合う＜２日目＞グループ決め。青虫から蝶になるまでの成長を表現する＜３日目＞（１組）花の成長とそれを食べて成長する虫を表現する（２組）鈴木さんの畑体験を表現する

アーティストから

「花の成長」を身体で表現する友人たちの演技をみて「あれは子葉だ」という感想が出ました。頭で学習したことを身体で表す工夫が、理科で学習したことをより深めることになりました。演劇をつくることは、誰かと相談して合意を得ていく過程です。学校内には既にでき上がった人間関係があり、どうしても誰かの発言が強くなったり意見を聞き入れられない人が出てきがちです。演劇づくりを通して、お互いの新しい面や今までとは違う関わり方を発見するきっかけになるとよいと思います。

コーディネーターから

仲間に入らない友人に「あなたがいないと困る。」と声をかける子、「友だちがいない」と拗ねる子に「オレは友だちだけどな」とかえす子、不登校気味の子がグループの中で指示をだしていたり･･･でき上がった人間関係の中に、外部から「演劇」を持ち込むことで、今回も多くのエピソードが生まれました。「ふだんはどうしても指導をしてしまう。今回は、引いた立場でいることで、こどもたちの発想を待ち、寄り添う時間を過ごせた。」と先生が感想をくださいました。子どもたちにも先生にもいつもと違う何かを感じてもらえることが何よりのミッションだと思っています。

先生から

アーティストの方の子どもへの話し方や関わり方が大変参考になりました。声の大きさや間の取り方、投げかける言葉に惹き付けられるものがありました。また、集団で活動することが苦手な子どもに対しても周りの子どもに対しても一歩踏み込んだ、でも、押しつけでない心に届くような関わり方が心に残りました。コーディネーターの方は活動しやすい環境になるよう心を配っていらっしゃいました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立上大岡小学校＋横浜こどものひろば
二分の一成人式を祝う

担当アーティスト	望月純吉(演出家／劇団文学座)
実施校	上大岡小学校(港南区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	体験型／創作／4 学年 2 学級 67 名
実施日程	2014 年 11 月 13 日(木)、12 月 19 日(金)、2015 年 1 月 15 日(木)、1 月 20 日(火)、1 月 22 日(木)、1 月 23 日(金)

授業のねらい

二分の一成人式に向けて、子どもたちのここまで育ってきた今の姿や未来に向かう気持ちに光を当てて自分たちを表現し、育ててくれた人々や仲間に伝わるように伝える。

主な内容

＜１日目＞話したことを実際にやってみよう。人やモノになり気持ちを考えてみる。＜２日目＞どんなことがやりたいか。「成長」について皆で考える。＜３日目＞流れを作る。二分の一成人式の流れを皆でやってみる。＜４日目＞表現の面白さを体感する。どんな言い方が伝わりやすいかを皆で考える。＜５日目＞本番に向けて皆で練習する。自分が出ていないときの役割などを学ぶ。＜６日目＞本番に向けて、皆で最後の練習をする。

アーティストから

４年生は元気で表現したいことが一杯ありました。２分の１成人式という行事の中で、「成長」をテーマに生まれたころよりの経過を表現してみると、意外に多くの発見がありました。親の気持ちや苦労を演じ、また、自分の親への生意気な態度やケンカの理由などをあれこれ思い返し、親への感謝の気持ちを新たに持てたように思います。椅子を半円にして生徒との距離を近くして伝わりやすく工夫をして、保護者の方々も満足してくれたようです。先生と生徒が一体となり、盛りだくさんですが、内容の良いものにできました。

コーディネーターから

原作のある物語の確かさを演じる良さもありますが、今回のように 10 才という節目に、「二分の一成人式」という行事に合わせて自分たちのこれまでと今と未来を表現してみようという試みでは、自分たちでエピソードを出し合い、先生と講師が一緒に構成していくことで自分たちが作ったという気持ちが湧いてきたと思います。子どもたちが素敵で、いいところをいっぱい見せて頂きました。練習では前日までできなかったことを、当日はしっかり丁寧に「仕上げて」くれて、見せどころを作ってくれました。

先生から

教員だけでは、ここまでの質の劇はできなかったので、子どもたちにとっても保護者の方にとっても心に残る二分の一成人式になったと思います。また、演出家の方に来ていただくことで、本物との出会いが子どもたちにとって大きかったと思います。

子どもたちから

プロの人と演劇つくりができてよかった。／楽しかったから来年もやりたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立上山小学校＋みどりアートパーク
ねこはしる

担当アーティスト	NPO 法人アートイン Asibina
実施校	上山小学校(緑区)
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	国語・音楽
実施概要	鑑賞型／創作／3・4 学年 4 学級 121 名
実施日程	2014 年 12 月 12 日(金)

授業のねらい

ただ座って鑑賞するだけでなく、「ことば」・音楽・動きや表情による客席に語りかける体感型演劇や楽器の体験を通して、子どもたちの「ことば」の感性や想像力を刺激し、コミュニケーション能力の醸成を図る

主な内容

「ねこはしる」上演。劇中に出てきた楽器（ストリングラフィ）の演奏体験(各クラス代表児童２名)

アーティストから

今回の公演は３．４年生のみという珍しい公演でした。とっても好奇心旺盛な明るく元気の良い３，４年生でした。お芝居の中盤からクライマックス、最後に向けて子どもたちの集中度が増していく様子は、舞台上からもはっきり見てとれました。子どもたちの育成に必要な文化的事業を授業のように担える作品として、これからも多くの子どもたちと出会っていきたいです。

コーディネーターから

先生からは、ただ鑑賞するだけでなく体験も入ったプログラムの希望がありました。今回上演した「ねこはしる」は、冒頭に客席に向かって野原や森のイメージを喚起させるような導入部分があり、効果音として観客も劇に参加したり、終演後に劇中に出てきた楽器の体験を行ったりと舞台と客席のコミュニケーションを大事にした演目で、子どもたちもくるくると表情が変わる舞台に釘付けになったり、大きな笑いが起こったりと夢中になって舞台を楽しんでいました。

先生から

役者さんたちが表現力豊かに演じているのを目の前で見ることで、私自身も子どもたちも言葉の力、動作の工夫など、大変勉強になった。今後の劇や音読の指導に生かしていきたいです。

子どもたちから

一人でいろんな役をやっているのがすごいと思った。／最後の場面が感動した。／物語文を書く時、言葉を参考にできた。／友だちにいじわるをするのをやめようと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立鴨居小学校＋Media Global
身体でおしゃべり！パントマイム

担当アーティスト	パントマイムにいさん(パントマイミスト)
実施校	鴨居小学校(緑区)
コーディネート	企業組合 Media　Global
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／パントマイム／2 学年 3 学級 87 名
実施日程	2014 年 11 月 26 日(水)

授業のねらい

自分の思いを自分なりに豊かに表現する。友だちの表現の良さを感じながらみんなのいいところ認め合える活動とする。

主な内容

・講師のパントマイムを観る。　演技を実際にやってみる。
・自分自身で感じる「見える物」を想像して演じてみる。
・大縄跳びのような全員で気持ちを感じて合わせて動く。

アーティストから

始まる前から子どもたちの目がキラキラと輝いてました！集中して耳も心も傾けて、そして最後には殆どの生徒が積極的に手を挙げて、独創的でユーモアたっぷりの素敵な発表を見る事ができました！！担任の先生方にも一緒に参加していただき、とても良い雰囲気の中で教える事ができました。

コーディネーターから

２年生クラスごとに 45 分という限られた時間のなかで､子どもたちは、講師の話を集中してしっかり聞き、楽しく授業を受けていました。クラス全員での大縄跳び、リズムをカウントしながら飛び込む姿。「しっかり縄が見えた！」この体験を今後の表現力につなげてほしいと思います。

先生から

子どもたちがとても楽しんでいた。大人も楽しめました。また、体験が多かったので、子どもたちはあきることなく、意欲的に取り組んでいました。また見たいと話す子どもが多かったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立竹山小学校＋みどりアートパーク 人形劇で手話体験

担当アーティスト	デフ・パペットシアターひとみ(人形劇団)
実施校	竹山小学校(緑区)
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	国語・道徳
実施概要	鑑賞型／創作／１～３学年 6 学級 114 名
実施日程	2015 年 1 月 27 日(火)

授業のねらい

「鑑賞だけではなく体験もできる鑑賞」のプログラムを通し、想像力、感受性、集中力を高めるきっかけとなることが望ましい。また手話が人形劇内に取り入れられており、３年生は手話付コンサートを以前に体験しているため、積極的に生徒をリードすることを期待したい。

主な内容

人形劇「一寸法師」鑑賞。劇中に使用している楽器の紹介。舞台の構造紹介。人形紹介。人形体験。手話体験。

アーティストから

ふだん、私たちは劇場でお客様を迎えて公演をすることが多いのですが、今回のように学校に出向いてそこで直に子どもたちの反応を見て感じることができるというのは新鮮です。劇場とは違った、畏まらないふだんの子どもたちの反応に出会えるからです。演者と観客との近さを感じ、自分たちの表現がどのように伝わっているかをその場で確認できるます。この経験が演者の表現力を高めることに繋がると思います。

コーディネーターから

聾者と聴者による人形劇「一寸法師」は、人形遣いが隠れるのではなく、表に出て表情豊かに演じるため、児童たちも引き込まれて見ていました。１年生から３年生までとやや幅の広い学年構成であったが、１年生も反応がよく、それぞれの年齢に応じて楽しんでいたと見受けられました。伝統的な様式や言葉遣い、伝統楽器も違和感なく受け止めているようでした。

先生から

今回は手話を交えた劇ということで、様々な方が活躍していること、また、耳の不自由な方もお話劇を楽しめる工夫があるということが、子どもも教師も強く感じたことでした。実施に目の前で見ることで、大きな学びがあると思いました。子どもたちに学ばせたいこと、高めたい力を考慮して、コーディネーターの方にもプログラムを組んでいただき、有意義な時間となりました。

子どもたちから

人形であんなに表現できるってすごいと思った。／とても迫力があった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立山下小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館「きょうしつ」

担当アーティスト	石神夏希（劇作家・演出家）
実施校	山下小学校（緑区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／創作／3 学年 2 学級 64 名
実施日程	2014 年 9 月 18 日（木）、9 月 25 日（木）、9 月 26 日（金）

授業のねらい

演劇を通じて、アーティストとの触れ合いの中で相手の意見に耳を傾け、話し合い、考えだした、という体験をする。

主な内容

＜１日目＞演劇を体験するエクササイズ（鏡ごっこ、みんなで誰かのうごきを真似する、等）＜２日目＞前半：配役を決め、筋書きをつくる　後半：登場、位置、動きを決めて組み立てる＜３日目＞前半：練習　後半：発表

アーティストから

演劇は信頼関係がなければつくれない。チームで話し合い協力すること、お互いの表現を認め合うことを体験してもらえたと思う。嬉しかったのは先生から「ふだん、支援が必要な子たちが活躍していて、別の面をみんなに見てもらえてよかった」とコメントを頂いたこと。また練習で泣いた子が最後には満面の笑顔を見せてくれ、子どもたちが「またやりたい」と言ってくれたこと。物語、セリフから演出まで自分たちで考えてもらったが、その過程を見て私も改めて「演劇は面白い」ということを教えてもらい、とても励まされた。

コーディネーターから

当初、学習中の国語の教科書から物語を引用する想定でしたが、事前の授業見学の際に「夏休みの思い出をスピーチする」授業に対面し、今回はこのスピーチに補助線を引くような形で演劇を作ることとなりました。担任の先生をはじめ、学校全体での厚いご協力のもとに子どもたちが自ら考え、協力しながら決めて表現をする体験ができました。

先生から

子どもたちの関心は非常に高く、想像力や協調性が身に付いたという意見が多く聞かれました。また、今まで体験したことがなかったという声も多く聞かれたのでよい機会になったと思います。アーティストの方々に子どもたちの実態や特性を理解していただくことに難しさを感じました。こちらのねらいとアーティストの方々の思いを照らし合わせるのが課題だと思います。

子どもたちから

かがみゲームや想像ゲームがおもしろかった。／想像力や音楽の大切が分かった。／みんなと演劇ができて楽しかった。

ダンス分野の取り組み

言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。
自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだをうごかしてみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感覚の大切さを体験します。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立駒岡小学校＋Offsite Dance Project
ダンスで対話する

担当アーティスト	ジェコ・シオンポ(振付家・ダンサー／JeckoSDANCE 芸術監督)
実施校	駒岡小学校(鶴見区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／6 学年 3 学級 107 名
実施日程	2014 年 11 月 17 日(月)、11 月 18 日(火)、11 月 19 日(水)

授業のねらい

インドネシアの舞踊家ジェコ・シオンポが３日間のワークショップを通じて、言葉を介さず身体をつかっての対話から異文化理解を促し、人間本来がもつ生命力を引き出すことを試みる。本事業は、国際交流基金アジアセンターの助成により実施する。

主な内容

＜１日目＞アニマルポップ体験、講師からの振付に取り組み、アニマルポップダンスと出会う。＜２日目＞アニマルポップ体験、アニマルポップを応用したからだあそび（グループでのゲーム）＜３日目＞アニマルポップ体験、アニマルポップを応用したからだあそび（ペアでのゲーム）

アーティストから

カンパニーメンバーのゲゲとピトスとともに、６年生の子どもたちと３クラス・３日間の授業を行いました。熱帯性気候のインドネシアから来た僕たちにとっては、体育館での授業は体力的に厳しいものでしたが、子どもたちと一緒にアニマル・ホップができて楽しい時間でした。子どもたちは数回の稽古ですっかり動きを覚えて、生き生きとダンスする姿に感心させられました。今回の小学校での体験は、日本の社会と直接に触れ合う貴重な機会で、また日本に戻って子どもたちとの交流したいと願っています。

コーディネーターから

ジェコ・シオンポならびにカンパニーメンバーの２名が講師を務め、パプア民族舞踊から現代舞踊までの発展の過程をデモンストレーションすることから始まり、動物や日常の仕草といった身近なものをダンスにしていく具体的な方法を展開。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験するとともに、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供しました。ダンサーたちが給食の時間にも参加することで、子どもたちとアーティストとのさらなる交流の機会となりました。本校においてはプラットフォームでのダンスの授業は初めてで、かつ海外アーティストとのことで期待も大きく、子どもたちに新鮮な芸術体験になるようにと一緒に取り組んでいただき、円滑に授業を実施することができました。

先生から

子どもたちが興味をもって取り組むことができるように、ゲームを入れたり、パフォーマンスをしてくれたりするなどの工夫があり、楽しむことができていたのがよかった。ただ、ダンスのくり返しが多かったのでもっとアーティストが子どもの中に入って交流する場があってもよかったと思う。今回またとないチャンスにめぐりあうことができ、子どもたちの心から楽しむ姿が見られ、本当にありがたいと思った。

子どもたちから

ダンサーさんのかっこいい姿が新鮮に映った。／最初は踊ることに抵抗があったが、やっているうちに楽しさやかっこよさに夢中になった。／自分たちにできるダンスだったので取り組みやすかった。／新感覚のダンスでよい経験ができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立下末吉小学校＋Offsite Dance Project
自由に表現してみよう

担当アーティスト	Co.山田うん（伊藤知奈美、城俊彦）
実施校	下末吉小学校(鶴見区)
コーディネート	NPO法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3・4学年2学級57名
実施日程	2014年12月16日(火)、12月17日(水)、12月18日(木)

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生がこどもたちの表現の力を引き出し、伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。今年度初のプラットフォーム実施校であること、また、小規模校で芸術鑑賞会を実施することが難しいため、３・４年生の個別クラスを３日間行うととともに、最終日に成果発表ならびに全学年の児童・先生の参加プログラムを実施する。

主な内容

＜１日目＞音楽に合わせてダンス、全員で輪をつくる、２人組で自由に踊る＜２日目＞音楽に合わせてダンス、輪になってポーズ回し、からだで挨拶＜３日目＞音楽に合わせてダンス（自由ダンス、電車ごっこ)、からだをつなげてポーズを作る。

アーティストから

実施１日目は、とにかく極寒の１日に体育館で裸足になることからはじめました。準備体操としてからだを動かしはじめ、少しずつ体を温めていきます。リズミカルに動いたり、バランスをとったりしながらいろいろな動きにチャレンジしていきました。また、今回はお互いの体に触れるというコミュニケーションも大切にし、友だちのからだとつながったポーズをとってみたり、ゲームのようにしながら互いのからだで絡みあったり、ほどいたりしました。人と関わりながら動く事で予想外の方向への発展や、自分ではコントロールできない大きさで動ける鍵になっていきます。音楽に合わせたダンス、自由にのびのびソロや、友だちと踊るダンス、日を重ねるごとにエネルギッシュになりました。最終日には全校生徒の前で３、４年生は元気いっぱいダンスを披露し、私たちメンバーの思い切り踊る姿を見てもらうこともできました。最後の曲では全校生徒、教職員みんなでダンスにチャレンジ！体育館から溢れるほどの笑顔とダンスが巻き起こっていく様子は本当に幸せな時間でした。

コーディネーターから

Co.山田うんの２名による授業はエネルギーにあふれ、初日から最終日まで、一貫してダンスの楽しさを伝える授業が行なわれました。プラットフォームでは、実施学年の生徒と先生以外の情報共有の場がないため、小規模校ならではの取り組みとして最終日に全校生徒と先生が参加するプログラムを実施しました。最終日には、カンパニーメンバー５名も加わり、子どもたちの成果発表からプロフェッショナルなダンスも披露。最後には、全員で音楽に合わせて踊り、体育館いっぱいにダンスの渦が巻き起こりました。今年度初のプラットフォーム実施校でしたが、全校生徒参加のための柔軟な時間割にも対応していただき、学校とアーティストとの良好な関係のもとで授業ができたと考えています。

先生から

ふだんできない経験ができてよかったです。運動会のダンスははずかしがっていた子どももイキイキと活動していたのがとてもよかったです。

子どもたちから

いろいろな振りを教えてくれたから、運動会でも踊りたい。／みんなの前で発表するのは緊張したけど、ダンスが面白かったから緊張がなくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立西寺尾小学校＋Offsite Dance Project
自分らしくダンス！

担当アーティスト	Co.山田うん（リーダー：川合ロン、アシスタント：小山まさし、広末知沙）
実施校	西寺尾小学校(神奈川区)
コーディネート	NPO法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5・6学年4学級110名
実施日程	2014年7月8日(火)、7月10日(木)、2015年1月19日（月）

写真撮影：bozzo

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生がこどもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。ダンスの表現運動を通して、感じること、臆せず表現することの楽しさ、新たな自分らしさに気づくことの喜びに繋がる体験型のワークショップを３日間実施する。

主な内容

＜１日目＞音楽に合わせてダンス、まねっこダンス、想像力のワーク（空気を運ぶ、色んな風船）＜２日目＞音楽に合わせてダンス、あいこのダンス、自由ダンス＜３日目＞輪になってウォームアップ、音楽に合わせてダンス、振付で踊る

アーティストから

今回改めて西寺尾小学校とＣｏ．山田うんはワークショップや鑑賞事業を通して深く交流が出来てきたのだと実感しました。昨年度末にカンパニー全員で全校の生徒と触れあえた記憶が子どもたちの中にも新鮮に残っているようで、相互の信頼構築から体を解放していくまでの速度が速かったように感じます。５、６年生が対象でしたので、複雑なルールや、やや抽象的なテーマを出したりもしましたが、真剣に体でぶつかっていく姿が印象的でした。

コーディネーターから

Co.山田うんの本校での取り組みは３回目。初めてリーダーを務める川合ロンと２名のアシスタントは、2014年２月に学校主催の芸術鑑賞会に出演しており、良好な関係で実施できました。授業では、「あいこのダンス」、「適当ダンス」というキーワードを使いながら、ダンスは自由な発想でいいんだ！ということを示し、子どもたちが心を解放させて自然に踊りたくなる様子が伺えました。教職員も一緒に身体を動かすことで、日常の授業の取り組みにも生かそうという積極的な姿勢が、子どもたちにもよい影響を与えていたと思います。このプログラムを実施した５年生は、引き続き当法人主催の劇場お出かけプログラム「キッズダンスシアター」にも取り組み、ダンスを通じて、広い意味での社会学習の機会となりました。

先生から

今回、体育の表現運動の関連だったが、表現運動能力だけではなく、友だちとのかかわり合いや協調する力など、体育以外にも必要な力を培うことができた取組みだったと思います。ふだん、体験することができない、ステージでの発表。３日間という短期間のワークショップでは、子どもの内面に働きかけ、子どものよさを引き出す指導を目のあたりにしました。教えるのではなく、引き出す。今後の自分自身の指導の在り方に生かしていきたいと思いました。

子どもたちから

ステージでみんなと一緒に楽しめたことが思い出に残った。／ダンスを通して絆が深まった。／たち成感を味わうことができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立蒔田小学校＋吉野町市民プラザ ダンスでコミュニケーション

担当アーティスト	スズキ拓朗(ダンサー・コレオグラファー)
実施校	蒔田小学校(南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年 2 学級 72 名
実施日程	2014 年 9 月 16 日(火)、9 月 22 日(月)、9 月 29 日(月)

授業のねらい

身体を使って自由に表現ができるコンテンポラリーダンスをとおして、物語やできごとを表現し、表現することの楽しさと喜び、多様性を実感できる場をつくります。
ダンスで表現するために、物事をいろいろな角度から見つめ直し、考え方や感じ方を発展させ、新たな発見と出会いにあふれる時間としていきます。また、自由に動いて表現するといういつもとは違うコミュニケーション方法でお互いを認め合い、自分に自信を持って、ひとりひとりが積極的に自己表現をしながら、ダンスを心から楽しめる機会となることを目指します。

主な内容

＜１日目＞コンタクトダンス、２人組で踊る、言葉で踊る、リズムで踊る、ボールを使ったゲーム＜２日目＞ゲーム感覚のダンスを踊る、２人組で踊る、言葉で踊る、リズムで踊る、グループで踊る＜３日目＞２人組で踊る、ボールを使ったゲーム、桃太郎をダンスで表現、２クラス合同発表

アーティストから

今回テーマとしたのは「ダンスで話す」ということでした。コミュニケーションツールが豊富な今、人と人とが直接会話をやりとりする風景が消えてきているのは確かです。伝えることは行動することです。相手のことをどれだけ考えて行動できるかに重きをおきながら、遊ぶ要素を中心に楽しめるワークを心がけました。まずボールでのワークでは連帯意識を高めることを目標に遊びました。これはスポーツではないので、特に盛り上がりすぎても注意はしないのですが、やはり４年生となると男女の意識が強く男子のいる場所にボールが集まってしまうことが少し問題ではあったので、隊形を作る時に改善が必要かもしれないなと思いました。私が繰り出す身体の動きを真似するなどは、過去の経験と比べてみても反応がよかったです。子どもはやはり考える前に動くほうが早いのだということが再確認できました。二人組でのコミュニケーションダンスでは、２人でしかできない動きを経験してもらいました。そのまま音楽をかけて社交ダンス風に自然に動きを発見させるところまで持っていくことができたことで、相手の行動を考えての動きにつながり、非常によかったと思いました。特にグループで物語をダンスとして創作する時間は驚く程の行動力がありました。チームによっては男子がやる気を出さないなどありましたが、最終的にはまとまりよく発表に臨めたので安心しました。これに関しても過去の経験から言うと、ほとんどアドバイス無しに体系変化や表情創りを含め、創作はスムーズに進めることのできる子どもたちなのだと感心しました。子どもたちの感想を元に考えると、創作に必要な考え方や、相手の意見を聞き入れてことの大切さを身につけることのできるワークに繋がっていたのだと思いました。全体を通しては、目的、テーマに沿ったワークを提供でき、身体を通したコミュニケーションを養うことのでる時間だったと思います。

コーディネーターから

素晴らしい子どもたち！スズキ拓朗さんの豊かな身体表現に惹きつけられて、持ち前の発想力、表現力を発揮して、積極的に体を動かし、初めて出会うコンテンポラリーダンスに集中して、身体で表現することを存分に楽しんでいました。ダンスやボール遊びを通して言葉ではないコミュニケーション方法があるということを実感できたひと時だったと思います。

先生から

12 月に出演する体育実技発表会に向けて、子どもたちのモチベーションを上げ、様々な表現方法を学ぶことができ、たいへんよい出会いをさせていただいた。コンドルズという全国的に人気のメンバー、スズキ拓朗さんもとても親身になって接していただき、本当にありがたかったです。

子どもたちから

表現するということが、いろいろな方法があるということがわかった。／友だちの前で踊ることが最初ははずかしかったけど、講師の先生がとっても楽しそうに踊っていたから、自分も楽しくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立桜台小学校＋ＳＴスポット横浜
みんなでつくる、おどる

担当アーティスト	北尾亘(ダンサー・振付家・俳優)
実施校	桜台小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	NPO 法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／2 学年 2 学級 70 名
実施日程	2014 年 10 月 17 日(金)、10 月 22 日（水)、11 月 5 日（水)、11 月 6 日（木）

授業のねらい

体力づくりを目指すとともに取り組みを通して、思いや願いを表現できるようにしたい。来年の創立式典での発表や運動会の表現種目にできるようなオリジナルダンスを一緒につくる。

主な内容

＜１日目＞アーティストによるデモンストレーション。オリジナルダンスづくり。＜２日目、３日目＞オリジナルダンスづくり。＜４日目＞発表。

アーティストから

小学２年生の児童たちは、予想を超えた想像力を発揮してくれました。「動物・植物・教室にある物」など、様々なイメージのものまねを導入にし、そこからオリジナルダンスへと繋げていくプロセスの中で、大人のない豊かな発想でストーリーと身体を紡いでくれました。ジャンルや様式、見栄えに固執しない身体の有り様を「ダンス」として捉えてもらえた事が、何よりの収穫となりました。子どもたちと先生方にとって、この経験の先にカラダとダンスの自由な発想と可能性を、生活の様々な場面から導きだしてもらえれば幸いです。

コーディネーターから

ふだんから馴染みのある校歌を題材として、アーティストがつくった振り付けを踊ることからダンスに慣れていきました。また、校歌が始まる前の導入の部分や、２番の振り付けを遠足などに行った経験をもとに子どもたちが考えて作り上げることで、自分たちで考えて形にする難しさと面白さに触れることができました。

先生から

学年として表現を学習で行う機会が少なかったこともあり、身近なものごとから表現していくという活動がとても勉強になりました。学習が終わったところでの感想や内容について常に打ち合わせができたり、学習前日には必ずご連絡をいただけたので、とても分かりやすく楽しく進んだと思います。

子どもたちから

オリジナルダンスができてよかった。／ダンスが好きになった。／いろいろな振付があり、自分だけの表現できた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立保土ケ谷小学校＋急な坂スタジオ からだで歌う、合唱ダンス

担当アーティスト	KENTARO!!（ダンサー、振付家）
実施校	保土ケ谷小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 2 学級 61 名
実施日程	2014 年 10 月 8 日（水）、10 月 9 日（木）、10 月 10 日（金）

授業のねらい

ふれあいコンサートに向けて、合唱＋ダンスに挑戦する。「風になりたい」の楽曲を声のみならず、手や足、身体を使って表現することで、全身で音楽を味わい、奏でる豊かさを知る活動とします。また、３年生学年全員で一つの動きに取り組むことで、一体感を味わう機会とします。

主な内容

＜１日目＞アーティストによるデモンストレーション。＜２日目＞合唱曲への振り付け。＜３日目＞本番と同じ隊形で練習。

アーティストから

今回、合唱に振りを付けるという余り馴染みのない表現にチャレンジさせていただいたのですが、やってみると制約の中に意外と斬新な試みができることに気づきました。少しのヒップホップ的な要素とベタな振りと日常的な要素を混ぜた振り付けをしたのですが、皆の歌と混ざると不思議な雰囲気を醸し出し、とてもユニークでした。先生たちやコーディネーターの宮武さんも一緒に踊ってケアしてくれたり、何より子どもたちも熱心で非常に自分自身、心あらわれた実りある３日間でした。また機会があれば、トライしてみたいです。

コーディネーターから

ダンスと音楽のジャンル横断的な活動でしたが、どちらの分野でも活動されている KENTARO!!さんがしっかりとひっぱってくださいました。子どもたちは、歌とダンスを同時に覚えなければならず、かなりハードな活動だったと思いますが、持ち前の集中力と吸収力で３日間で着実に身につけてくれました。先生方の細やかな配慮と子どもたちへの声掛けにより、とてもスムーズな取り組みを行うことができました。

先生から

今回のプログラムを体験する前、子どもたちは楽しみにしていました。講師の方に踊りを教えていただいた時には、想像以上にハードな練習で、子どもたちも少し大変そうにしていましたが、少しずつ覚えて踊れるようになり、楽しくなったようです。体を動かすこと、音楽に合わせて表現することを楽しめたひと時でした。

子どもたちから

初めは難しかったけど、できると楽しかった。／ダンスが好きだったけど、もっと好きになった。／みんなでできたことが一番楽しかった。／たくさん体を動かせたので楽しかった。／踊りが少し難しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立小机小学校＋象の鼻テラス からだでコミュニケーション

担当アーティスト	クリシー喜陽(ダンサー、振付家)、高津会(ダンサー、振付家)
実施校	小机小学校(港北区)
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／5 学年 3 学級 129 名
実施日程	2014 年 7 月 2 日(水)、7 月 3 日(木)、7 月 4 日(金)

授業のねらい

言葉だけではなく身体を動かして、身体で表現する楽しさを味わえる体験をする。また仲間と一緒に動く楽しさも味わい、一帯化出来るたち成感も味わえるプログラム内容を目指す。

主な内容

体を使っての表現、ダンス。グループ創作、発表。※各日同内容。

アーティストから

合っている、間違っているということにとらわれず、子どもたちは自由にクリエイティビティーを発揮してくれていました。完璧に踊ることだけが授業ではない、間違えてもよい、安全な場であるということを理解してもらうことに気を配りました。また、どんな動きもダンスであり、ダンスはコミュニケーションであるということに子どもたちが気づいていた様でした。

コーディネーターから

体育の授業でダンスを習うことがあっても、先生や誰かのまねをして上手に踊ることがふだんは多いかもしれません。今回の授業では、生徒自らが体を使って動きを自分の中から生み出す、子どもたち自身に創造してもらう場でしたが、はじめはとても難しかったようです。

先生から

ダンスワークショップというジャンルではあったが表現という大きな部分でアーティストの先生に教わることが多く、大変学びのある時間となりました。例えば真剣にやっていることに間違っていることはないことや一生懸命な姿を笑わないことも話して頂き子どもたちが安心して体で表現する環境を作ってくださったことがとても良かったです。子どもたちの当日の様子に合わせた流れも心地よかった。

子どもたちから

体で色々な表現ができて楽しかった。／みんなでダンスを考えられたことが楽しかった。／ダンスは自由に踊っても良いということがわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立綱島小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館
ダンスで心を解放する

担当アーティスト	叶芙美子(ダンサー)、堂園愛子(ダンサー)、新美咲彩子(ダンサー)
実施校	綱島小学校(港北区)
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫 1 号館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 3 学級 105 名
実施日程	2014 年 11 月 17 日(月)、11 月 18 日(火)、11 月 19 日(水)

授業のねらい

・子どもたちが自由に体を使う楽しさを感じ、知ってもらう。【表現】
・ふだんなかなか自分自身を表現できない子どもも、ダンスを通して殻を破る楽しさを知ってもらう。【開放】
・音楽やダンスの力を活かして他人を知る。クラスが学年のつながりも深くしたい。【連携】
・子どもたちにも少し振り付けをしてもらい、自分で作品を創り上げる喜びや楽しさを知ってもらう。【創作】
・１クラスごと、３分程度の曲に合わせたダンスを完成させる。【達成感】

主な内容

＜１日目＞身体を動かす楽しさを体験、ミニゲーム等も取り入れる＜２日目＞各クラスが選んだ曲目の振り付けを集中的に練習する＜３日目＞５時間目の発表会に向けた仕上げ

アーティストから

今回のダンスプログラムの目標は、子どもたちが殻を破ることを知り、自由に体を動かす！ことでした。プログラム中は終始笑顔で、３日間を通して子どもは期待通りに、みるみる殻を破っていきダンスを楽しんでいました。またふだん引っ込み思案な子が、教室に帰って休み時間も練習していた、という話を聞いてとても嬉しかったです。そしてこのプログラムを通して、少しクラスや学年が一体感を得られたのではないかと思います！最終日の発表会ではみんなとてもよく頑張り、子どもが満足のいく、素晴らしい発表会になったとおもいます。３日間通して子どもも私たちも沢山学び成長することができました。

コーディネーターから

初日のスタートより、アーティストも子どもたちも身構えることなくスムーズにプログラムに入っていけたことで、子どもたちの“自己開放”に繋がったと思います。振り付けを覚えることを難しく感じさせず、むしろ楽しんでいるうちに魔法のように覚えさせてしまうアーティストの手法が素晴らしかった。発表会では、多くの保護者の見守る中、子どもたちは最高のパフォーマンスを繰り広げてくれました。

先生から

プロの指導にふれて、メンタルのカベが取り払われ、自由な表現がうまれた。

子どもたちから

覚えやすかったし、練習が楽しかった。／はずかしさがなかなかとれなかった。／思い切って自分を出すことができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立新羽小学校＋芸術家と子どもたち からだで会話！？

担当アーティスト	21 世紀ゲバゲバ舞踊団(北川結／振付家・ダンサー)
実施校	新羽小学校(港北区)
コーディネート	NPO 法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／2 学年 3 学級 88 名
実施日程	2014 年 12 月 1 日(月)、12 月 2 日(火)、12 月 4 日(木)

授業のねらい

現在２年生の子どもたちは音楽に合わせて身体を動かすことが好きで、自分たちの考えを何らかの形で発信することもできる。しかし教員は学年が上がっていくにつれ、子どもたちの身体が固くなり、イメージや感情の表現ができなくなってしまうことを懸念している。今回の経験が「楽しかった」で終わるのではなく、今後子どもたちが成長していく過程にも何かしらの影響を与えるような体験にしたい。

主な内容

＜１、２日目＞それぞれのクラスで実施。大きな声で自分の名前を叫ぶ「全力自己紹介」からはじまり、そのままアーティストの動きを真似しながら徐々に身体を開放していく。友だちと両手のひらを合わせたまま動くなど言葉のないコミュニケーションをたくさん体験した後、「からだで会話」に挑戦。相手がとったポーズからその人のメッセージを想像し、自分もポーズので応対するというやりとりを繰り返していく。最後は全員でポーズをつなげていく「会話のリレー」も行った。＜３日目＞最終回となるこの日は、３クラス合同で実施。各クラスで行っていた、楽器の音に合わせて動くところからスタート。続いて、「オレ」「ワタシ」などのアーティストのかけ声に合わせて、自分が当てはまると思う言葉のときに各自でポーズを決めるワーク。そのまま、アーティストが発する様々なオノマトペに合わせて児童たちは体育館中を動きまわり、最後は音楽に合わせて、オノマトペのダンスを全員で踊った。

アーティストから

今回は、「身体で会話する」をテーマに、（１）音に反応して動く（２）全身を駆使して勝負する「オシャレじゃんけん」（３）２人組で動く（４）言葉を使わず身体の動きだけで会話する、という４つのワークを中心に進めました。先生方と行った事前打ち合わせで「他のクラスにあまり興味がなさそう」という話がでていたので、最終日には３クラス合同で授業を行いました。２年生はとにかく元気いっぱい。動くことに抵抗がなく、どんどんワークショップが進んでいきました。もちろん「言葉を使わず身体で会話して」という状況に戸惑ってはじめのうちは動けない子どもいましたが、戸惑いながらも最終的には自分の選択を一つずつしていく姿に立ち会えました。また、私たちがあらかじめ決めたルールを子どもたちの身体が飛び越え発展していったという出来事も多々ありました。思ってもみない身体や動きに沢山出会えました。これからも楽しんだり戸惑ったりしながらも、出会っていくものと全身で「会話」をしていって欲しいと思います。

コーディネーターから

身体を通じたイメージや感情表現に挑戦したいという先生からのご要望もあり、身体で会話をしたり、オノマトペに合わせて踊ったりと、子どもたちが想像力を駆使しながら、楽しく取り組める活動がたくさん詰まった内容でした。聴こえてくる音や、友だちの身体から発されるメッセージを、時に俊敏に、時にじっくりと感じ取り、思い思いの反応をしている姿が印象的でした。先生方も子どもたちと一緒に全力でご参加くださり、アーティスト、子どもたち、先生方全員が、お互いの動きに新しい発見をしたり、刺激をもらったり、身体を動かすことの面白さを存分に体感できるワークショップとなりました。

先生から

児童の実態を打ち合わせで伝えてあったので、当日の児童の言動にも柔軟に対応していただいた。打ち合わせも何回も設けていただき、児童のことだけでなく、担任の思いも十分に伝えることができた。低学年のうちにこの様な表現活動を体験することにより、児童は自分の思いのまま自由に表現する喜び、楽しみを味わうことができた。

子どもたちから

動きで会話が楽しかった。／したことのない動きが楽しかった。／最初ははずかしかったけれど、みんなの前で動けるようになったので楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立柏尾小学校＋アートの時間
いろいろなモノになってみる

担当アーティスト	伊東歌織(振付家・ダンサー)
実施校	柏尾小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／全学年個別支援学級 15 名
実施日程	2014 年 10 月 28 日(火)、11 月 4 日(火)、11 月 18 日(火)

授業のねらい

体を動かしたり、表現することを楽しみながら自己を解放する。友だちと協力して何かを作り上げることを体験する。ふだんの自分でないものになりきることで知らない自分と出会う。言葉以外で人と繋がることを体感してみる。

主な内容

＜１日目＞声や身体を使ったコミュニケーションあそび１(声のキャッチボールなど)＜２日目＞声や身体を使ったコミュニケーションあそび２(王様の指揮者、自作メガホンも使う)＜３日目＞グループで見たことのない動物になりきった姿や王様の指揮者あそびを発表

アーティストから

子どもたちに何かを「させる」のではなく、自ら「する」という気持ちを生み出す為には、私たちに心を開いてゆく過程が先ず必要で、その時間は給食や休み時間のリラックスした状況の中にありました。一つの結果や成果への集約も大事ですが、それよりもその瞬間瞬間、変動してゆく心や身体があることが許される場にしてゆくことの方が重要で、一人ひとり本当は常に違う時間の流れがあるという事を柏尾小の先生方や子どもたちはとても大事にしているように思え、それは私が今後アーティストとして様々な場で活動してゆく為に必要なことだと教えられました。

コーディネーターから

今回のプログラムはチャレンジだった。年齢にも身体能力にも差のある子どもたちをどこへ誘えるのか。発表のときに見せた子どもたちの姿はふだんの彼らと変化があったのか、なかったのか。接する時間の短さにやきもきさせられた。しかし今回の取組みを先生が参観者に丁寧に解説されているのを聞き、こちら側の意図がこんなにも伝わっていたのかと驚くとともに、しっかりと受け止めてくださっていた先生方に感謝でいっぱいである。

先生から

授業の前に一度子どもたちの様子を見に来てくださり、教師側の思いと子どもたちの実態を考えてプログラムを組んでいただきました。子どもたちが自分を解放し生き生きと体を動かす姿が見られました。自分に自信をもつことがなにより必要な子どもたちがいろいろな表現方法を体験することができとても有意義な時間でした。

子どもたちから

たくさん動くことができた。／メガホンで話したことが楽しかった。／いろいろな動きを教えてもらえた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立相武山小学校＋吉野町市民プラザ
身体で表現してみよう

担当アーティスト	東野祥子(振付家、ダンサー)
実施校	相武山小学校(港南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 3 学級 105 名
実施日程	2014 年 8 月 28 日(木)、8 月 29 日(金)、9 月 8 日(月)

授業のねらい

言葉を使わない表現芸術であるコンテンポラリーダンス。まずはアーティストのダンスを身近に観て、本物の芸術に触れ、表現の多様さを発見し、言葉に頼らない表現の素晴らしさを実感してもらいます。自分で考えたことを身体で表現することの楽しさを味わい、一人ひとりが積極的に自己表現できるようになることを目指します。また、グループで小さな作品を作り、仲間で協力して創造することにより生まれる広がりや喜びを知って、お互いを認め合い、自分らしさを表現することの大切さを学ぶ機会とします。

主な内容

＜１日目＞アーティスト自己紹介「コンテンポラリーダンスを実際に見てみよう」、ストレッチ、ダンス振り付け、ダンサーの動きを真似る＜２日目＞ストレッチ、ダンス復習・追加振り、身体の一部・関節を意識して動かす、みえないキャッチボール、相手の動きについていく＜３日目＞ストレッチ、ダンス仕上げ、ダンサーの動きを真似る、イメージを動きにする、テーマを自由に身体表現。

アーティストから

今回は、頭で理解し考えたことを動きで表現することを目指しました。また子どもたちの集中力が続くよう、プログラムを細かく区切り行うようにしました。ダンサーや友だち、お互いの動きを見て真似ることで相手を尊重することや自分との違いを感じ、ダンスを使ったコミュニケーションを体感してもらうことができたと思います。３年生３クラスとも、こちらの意図を読み取り積極的に動く姿勢がみられ、各課題に対しても自分たちでアイデアを出したりして主体的に動いてくれました。また少し躊躇するようなモチーフにも、一生懸命、楽しんでついてきてくれました。体育大会でも創作ダンスを行う予定とのことですが、今回のワークショップでの経験が活きた演技になるとのこと、嬉しく思います。今後の展開にも期待しています。

コーディネーターから

子どもたちは初日こそ表情や動きに緊張が見られましたが、日に日に笑顔が増えていきました。生き生き楽しそうに身体を動かせるようなっていくのと同時に、東野祥子さんへの興味が尊敬に変わっていくのが手にとるようにわかりました。「身体の感覚を研ぎ澄ませ、自分自身の思うとおりに動かしてみること」がいかに大変なことなのか、それを難なくこなすプロのすごさを感じられたのではないでしょうか。これがダンスに興味を持つきっかけになり、今後、日常生活の中でもダンスを意識することが増えたら嬉しく思います。

先生から

運動会での演技づくりにおいて、自分たちがイメージしたものをグループで話し合いながらつくっていく姿が見られた。音楽に合わせて自由に楽しそうに表現するアーティストの姿がとてもよく勉強させていただきました。体育の表現の授業の参考となりました。

子どもたちから

身のまわりのものを表現することが楽しかった。／まねをしながら動くのが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立永野小学校＋吉野町市民プラザ 校歌でダンス！

担当アーティスト	遠田誠（ダンサー、振付家）
実施校	永野小学校（港南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 3 学級 99 名
実施日程	2014 年 7 月 8 日（火）、7 月 10 日（木）、7 月 14 日（月）

授業のねらい

自由に体を動かして表現するコンテンポラリーダンスを通して、いつもあるものが違って見える、何だろうという疑問をもつ感覚をもち、これまで気付かなかったことを発見できる場になるようにし、ものの見方は１つではないということを体験してもらう。自由に自分の体を使ってできる表現をたくさん見つけ、一人ひとりが積極的に自己表現をし、他の人々の動きや表現を見て相手を受け入れられることの大切さを実感できる機会となることを目指す。

主な内容

＜１日目＞ダンスで自己紹介、準備体操、一緒に踊る、背中でジャンプ、校歌でダンス＜２日目＞準備体操、背中でジャンプ、２人組で動く、動きをつたえる伝たちゲーム、校歌でダンス＜３日目＞各クラス：準備体操、２人組・３人組でバランスゲーム、相手を動かす・動かされる、食べ物の名前でダンス、校歌でダンス
合同発表会：伴奏ＣＤに合わせ、各組が踊る・歌う・観る

アーティストから

今年で３年目の永野小３年生ワークショップ。３番まである校歌にそれぞれ振り付けた３つのダンスを、３クラスに振り分け教える３日間。もはやお馴染みとなった蒸し風呂体育館で繰り広げられる午前中ぶっ通しの特別授業は、一つ終わってホッとする間もなくわんこ蕎麦のように現れる子どもたちに気が遠くなりつつも、楽しい夏の風物詩となりました。「ものごとの見方は一つだけではないのだ！」などと偉そうな事を言っておきながら「小３向けのワークショップとはこういうもの」という固定観念が知らず知らずの内に芽生えている自分自身にハタと気づき、汗だくの上に冷や汗を重ねる思いもままありました。例えば朝の挨拶ダンス。我々は毎朝の挨拶をダンス仕立てで行っていたのですが「今日はまぁこんなもんだろ」程度の適当さで披露すると、寒〜い反応というシッペ返しが待ち構えているのです。人は騙せないものと常々思っておりますが、子どもはその最たる存在。こちらの曖昧さを決して見逃さない、小さい先生たちに学んだ３日間でもありました。子どもたちは年々モノワカリが良くなっている、という印象。集中力もそこそこあって振り覚えも早く、やる側からすれば大変にありがたい。それはそれで結構なのだけれど、勢いという点はもう一押しだったかな？初年度のように常時３〜４人にまとわりつかれ、誰か一人は必ず泣いていて、脱走者が後を絶たず、大きな声を出し過ぎて声も枯れ…といった状況も大変は大変だけれど、子どもらしくってとても良い。どんなモードでも対応可能な講師を目指しております。そう言えば給食でクラスにお邪魔した時、気を抜いて素で食事していたら隣の女子に「なんかつまらない」と言われてしまった…今回最大の反省材料です、ハイ。

コーディネーターから

素直でまじめに取り組む永野小学校の３年生。子どもたちは遠田誠さんの自由に体を動かして踊るダンスを体験することで身体表現の楽しみを感じとることができました。遠田さん振付の“校歌でダンス”発表会では昨年に引き続き先生が作成した校歌伴奏に合わせて子どもたちがダンスするなど、アーティスト、子ども、学校で作ったコンテンポラリーダンスを踊ることができました。

先生から

体を動かし、表現することの楽しさを感じた授業でした。体育だけでなく、他の教科においても今回の授業を生かすようにしました。２学期は、相手に伝わるような表現を心がけ発表できるようになったのも今回の授業があったからだと思います。

子どもたちから

体育ずわりジャンプができてうれしかった／ダンスがあまりとくいではなかったけれど楽しくなった。／いろいろなダンス（あいさつ、校歌）ができたから楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立日野南小学校＋Offsite Dance Project 新しいダンスにであう

担当アーティスト	平原慎太郎(振付家・ダンサー)
実施校	日野南小学校(港南区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年 2 学級 64 名
実施日程	2014 年 12 月 8 日(月)、12 月 9 日(火)、12 月 16 日(火)

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生がこどもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。ダンスの表現運動を通して、コミュニケーションの大切さ、自己や友だちに対して新たな発見ができ、豊かな感性と創造性を育む体験型のワークショップを３日間実施する。

主な内容

＜１日目＞ペアでからだほぐし、ペアダンス、円になってウェーブ回し＜２日目＞ペアでからだほぐし、ペアダンス（冒頭をこどもたちが創作する)、円でのワーク＜３日目＞講師によるダンス発表、円になってからだほぐし、ペアダンス完成、目隠しペアワーク

アーティストから

日野南小学校の５年生の印象はとても活発だという印象とちゃんと話しができる生徒たちだという印象でした。僕の伝えようとする事を察知する児童、わからないことを解って質問する子、子ども同士でふざけながらもコミュニケーションをとりできることを増やしていく姿に自身の知っている事を丁寧に教えようと心がけました。今回は２人組で踊るという特別な形式で進行したのですがそれでも子どもたちの柔軟性には関係なかったようです。このような機会で僕も何か知らない事の強さと知っていく事への探究心の強さを改めて学ばさせていただきました。

コーディネーターから

小学校の先生方、アーティストの方々ともに円滑な関係の中で事業を遂行することができました。アーティストの平原さんによる授業では、からだでのコミュニケーションを多用したワークが多く取り入れられていました。ペアダンスでは、子どもたちは決まった振りを踊るのではなく、ダンスの中で相手を動かしたり動かされることで独自の動きを発見できたようです。また、全員が一つの輪になって動きを回していくワークでは、からだで伝えていくことの一体感を味わっていました。３日目には３年生以上の全児童の前で講師二人によるダンスが公開されました。授業で取り組んでいるペアダンスにユーモアを交えたプロフェッショナルなダンスに子どもたちは真剣に見入っていました。このように講師が子どもたちの前でダンスを披露することは、子どもたちへの大きな刺激になるため、他の事業でも取り組んでいきたいと考えます。

先生から

今回の授業では、子どもたちがふだん知っているダンスとはちがい不思議な表現としてはじまりました。子どもたちにとってゴールのイメージがないままに授業が進んでいくことで不安に思った子も多くいたと思いました。教室の授業では、分かりやすいことを大切にゴールのイメージをもたせて行っています。しかし、アーティストが伝えたい、「表現にはいろいろあって自分で作り出していくことが大切」というゴールの姿がはっきりしないものに一生懸命に取り組ませる活動の大切さを感じる機会となりました。

子どもたちから

みんなと一緒に踊ったのが楽しかったです。いつかまたやってみたいです。／楽しみながらダンスができました。／音楽に合わせるのが楽しかったです。／ダンスを今までやったことがなかったけど、少しやりたいと思いました。／回ってからのハイタッチが息が合って成功した時はとてもうれしかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立さちが丘小学校＋サンハート 校歌で踊っちゃおう！

担当アーティスト	遠田誠(ダンサー)
実施校	さちが丘小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	体育・総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年 4 学級 127 名
実施日程	2014 年 11 月 14 日(金)、2014 年 11 月 18 日(火)、2014 年 11 月 21 日(金)

授業のねらい

ダンスの表現活動を通して、自分の感じた事や考えた事を伸び伸びと表現する楽しさを味わい、そして表現できた自分への自己肯定感を育成する。

主な内容

＜１日目＞身体を使って色々な動きをしてみる。校歌ダンスの振付＜２日目＞友だちの身体を使って動きと表現の関係を学ぶ。校歌ダンスの練習＜３日目＞校歌ダンスの合同発表会

アーティストから

体育館の扉が開いた途端ワーッと叫びながら走り込んできた子どもの群れ。さちが丘小学校のダンスワークショップは、おとなしい都会っ子を勝手に想像していた我々の度肝を抜く不意打ちと共にスタートした。あそびや即興を随所に差し挟みながらも、メインはあくまで「校歌を踊る！」前回の永野小では３年３クラスに対し校歌も３番までと好都合であったが、さちが丘小は３年４クラスで校歌は１番のみ。学校が変われば当然校歌も変わる。ならば曲を分割し、メドレーリレー方式で異なる４つの振付を各クラスに振り分けよう。ところどころ動きをカブせつつ、サビは全員で元気よく。途中並び順を変えてカオスを生み出した先で、四重の輪をテレコ回し。最後はみんな一斉に寝転んでフィニッシュ！と、文字に起こしてもなんのこっちゃでしょうが、とにかく壮大な目論見を持って臨んだのであった。しかし、果たしてそんな事が 45 分×２回の時間で実現出来るのだろうか？そもそもワークショップの根幹は振りのお仕着せではない。意外なアプローチによって身近な要素からダンスが生み出される瞬間を発見する点にあり、果敢に挑む子どもの姿から我々大人たちも大いに気づかされる点にある。成り行き任せではよろしくないが、決め込み過ぎもノーグッド。その辺のさじ加減を見誤らずに進めなければ。繊細にして大胆に。ふざけながらも大真面目に。初日。振りうつしが驚くほどスムーズに進んだので、あそび要素として給食の献立を動きに変換してみる。「大学芋ってどんな感じ～？」と振ると、子どもたちからどんどん動きのアイディアが溢れてきた。うん、コレは楽しい！２日目はマニピュレート（２人１組で相手のカラダを交互に人形の様に操り合う）にチャレンジ。始めのうちは照れたり笑ったりでフワッとした時間が流れたが、多少のコツを伝授すると感のいい子たちはなかなか見栄えのいいポージングを繰り出してくる。と、そこに１人、天才的な集中力を発揮する女子が現れた。カラダは勿論、目線、表情に至るまで彫刻の様にビタッと決まり、一切ブレる事がない。おちゃらけ男子２人組が自分たちの作業そっちのけで、目前 20 ㎝の距離から茶化しても一向お構いなし。超クール!う～ん、スカウトしたい…

コーディネーターから

学校との初回打合せの場で、「３年生で『校歌でダンス』をやりたいんです。」と明確な希望が出ていたさちが丘小学校。遠田さんの手の込んだ振付、熱い指導法、そしてコンテンポラリーダンスそのものの持つ力によって、子どもたちは「身体を動かし表現する事」を存分に楽しむ事が出来たようです。最終日の発表会では、全４クラスによる大作が完成。体育館のキャットウォークから見学した「校歌ダンス」は歌声+身体表現+笑顔いっぱいのまさに総合芸術でした！

先生から

学年全体で子どもたちが笑顔で元気に踊っているのを見て感激しました。体で表現する活動は実態に合っており、子ども同士が進んでコミュニケーションをとっていたので、得られることが大きかった活動と思います。しかし、学校事情ですべての学習を体育館で行うことができず、多目的室を使いましたが思いのほか狭くて、安全面の配慮がたいへんでした。さらに、アーティストに配慮の要する子どもの実態などもう少し多く伝える必要があったと感じました。

子どもたちから

３年生全体でダンスができて楽しかった。／給食のメニューを体で表現したことがおもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立霧が丘小学校＋みどりアートパーク
やってみなけりゃわからない！

担当アーティスト	谷口國博（たにぞう）
実施校	霧が丘小学校(緑区)
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／創作／5 学年 4 学級 123 名
実施日程	2014 年 11 月 4 日(火)、11 月 5 日(水)

授業のねらい

身体を動かし、みんなで楽しめる体験にしたい。
ゼロからの振付より、型がある方がやりやすいが、生徒に考えさせて自分たちで創ったという達成感を感じて欲しい。

主な内容

＜１日目＞導入：アイスブレイキング（身体を使った何種類もの遊びやゲーム＝実はダンスのヒントがいっぱい！）で心も身体も解放。違う自分になる！恥ずかしさは捨て、見せる時は大きく動き、大きな声で！揃えて！大まかに 3 グループに分けて「ココ☆ナツ！」を踊ってみる。 ２日目への課題：何かみんなの前で表現したいことを考えてみる！創作は 8 小節。＜２日目＞創作：表現したい方法で５グループに分かれる。グループで案を出し合って創る。発表：協力学年の２年生へ向けての発表。かっこイイ、上手い、面白い、５年生になったらああなりたい！と思ってもらえる事をめざす。

アーティストから

小学校での授業はよくあるけれど、２日連続、しかもテーマ表現力と言うのは初めての挑戦だった。まず授業で最初に行ったことは、コミュニケーション力。家族、兄弟、友だちとの関わりが少ない昨今、遊びを通しての関わりは比較的簡単だ。様々な人との関わりの中から、自分らしさを見つけてほしかった。遊び込んでいくうちに自然と子どもたちに笑顔が溢れた。人間関係が豊かになるにつれ、恥ずかしさや、失敗への恐怖心は、消えていく。よって最後のダンスも生き生きと表現してくれた。この経験が子どもたちの更なるステップアップに繋げてくれるのであれば、嬉しい限り。それにしても、私の授業にお付き合いしてくれた無邪気な素直な５年生の子どもたちに感謝したい。あのときの子どもたちの表現力を見て、私の心は感動に溢れた。むしろこの授業で一番勉強したのは、私かもしれない。

コーディネーターから

体験型、しかも創作ダンスとなると一体２日間でどう創っていくのか興味津々。ゼロからより、型や枠組みがあった方がやりやすいタイプの子どもたちということで既に振付の付いている楽曲を選び、その振付を覚え、一部を自分たちで創り上げるというプログラムにしました。選曲が難しく、９月末にやっと「ココ☆ナツ」に決まり、体験日まで CD を色々な時に流して聞いて欲しいと先生にお願いしておきました。１日目はやや緊張。でも、「たにぞう」さんのペースで子どもたちの心も身体もどんどん解放されていくのがわかります。 ２日目は初めからのびのびとした取り組み。体操が得意、組体操が得意、ダンスの経験がある、面白い事をやりたい、そんなグループ分け。もう一つ「何をやったら良いかわからないチーム」は、えりこ先生と一緒に考える。分からないことで省かれないところが素晴らしい。２日間を通し、”この先どんな道を選んでも必要な事”を「言葉」で、時に「身体表現そのもの」で、時に「絵本」を通して、浴びるようにそそがれた子ども達は実に柔軟な心でそれぞれ自分に必要な言葉をしっかりキャッチしたようです。そして発表を観てもらった２年生に「観せてもらった私たちも楽しかったけれど踊っている５年生がとても楽しそうだった」と言って貰えた時、先生方と一緒にめざしたところへしっかり辿り着いている実感を得ました。

先生から

コーディネーターの皆さんが、密に連絡を入れてくださったり、相談にのっていただいたりと、大変熱心に対応してくださいました。本校では初めての取り組みでしたが、安心して当日を迎えることができ、ありがたかったです。 ２日間の体験型プログラムでしたが、アーティストの活動へいざなう雰囲気づくりや子どものせ方など、「すごい！」と感じることが多くありました。活動の合間に未来へのアドバイスや人生観を語ってくださり、子どもたち同様、感銘を受けました。

子どもたちから

はずかしさをなくせた。／新しい自分になれた。／「人の話をよくきく、集中力が必要」と教えてくれた。／みんなで協力してつくり上げた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立下和泉小学校＋ＳＴスポット横浜 なりきって踊る

担当アーティスト	中村蓉(ダンサー・振付家)
実施校	下和泉小学校(泉区)
コーディネート	NPO 法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年 3 学級 85 名
実施日程	2014 年 11 月 25 日(火)、12 月 1 日(月)、12 月 10 日(水)、12 月 17 日(水)

授業のねらい

授業では整理運動が中心になってしまうので、質感が違う動きを知ってもらいたい。いろいろな身体の動かし方や表現する楽しさを体験できる取組にしたい。10 才を祝う「二分の一成人式」という行事にむけて、演目の種になるような取組とする。

主な内容

＜１日目＞アーティストによるパフォーマンス。歌謡曲を踊る。＜２日目＞自分たちで振り付けを考えてみる。＜３日目＞考えた振り付けを練習する。＜４日目＞歌謡曲や自分たちの考えた振り付けを一連の流れにして発表する。

アーティストから

「なりきる！」をテーマに 4 週に渡って共に踊ってきました。最終日は、お題は「出会いと別れ」で２～３人グループで発表してもらいました。恥ずかしい気持ちも見せびらかしたい気持ちも乗り越えて、懸命に自分の動きと向き合う姿があり、透き通るように素晴らしかったです。楽しさの向こう側です。「自分で踊りをつくることができて楽しかった」と感想をくれた子もいて、何かを生み出すことを面倒くさがらず、それをやり通すことの強さが伝わったかなと思います。「また絶対来てね！」と言ってくれました。彼らは日々すごい勢いで新しい物事を吸収し、出会いと別れを繰り返しているので、あっという間に今日のことも忘れてしまうかもしれません。彼らだってそんな予感はしていても、今だけを見て言ってくれる「絶対」に、ちょっと感動しました。私が学ぶことが本当に多かった４日間です。シュールの塊がウヨウヨしていて才能やアイデアを持て余してる。こんなに豊かな時期があるんだな！と発見でした。

コーディネーターから

下和泉小学校の子どもたちは、とても素直で元気でした。自己紹介替わりの中村さんのダンスは、恐らくこれまで触れてきたどのダンスとも違い、驚きながらもどんどん引き込まれていっているのが分かりました。プログラムの主軸は「出会いと別れ」をテーマに子どもたち自身が動きや状況を考え作ってみるということでした。２人～３人の少人数のグループで行うことで、小さなアイディアが消されることなく形になり、最後の発表では作品となって立ち上がっていました。中村さんの子どもたちの繊細な表現を見つけて喜ぶ姿が、子どもたちのモチベーションを高めていき、全員が最後の発表で目標である達成感を味わうことができたと思います。

先生から

子どもたちがこれまであまり経験したことのない分野に触れることができ、とてもよい経験となった。最後の発表に向けて、自分たちで対象の物をじっくり観察したり表現の仕方を工夫することで、自分の思いをもって取り組むことができたように感じる。アドバイスをいただいたことはもちろん、友たち同士で発表を見合ったことで、いろいろな表現方法を知ることができたと思う。子どもたちが表現することを楽しんでいたのでとてもよかった。

子どもたちから

いろいろな表現の仕方を知れた。／物になりきることで、その特徴などを考えることができた。／チームの人と何かをやる力がついた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立勝田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野 自分だけのダンス

担当アーティスト	田畑真希（ダンサー・振付家）
実施校	勝田小学校（都筑区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	音楽・体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／全学年個別支援学級７名
実施日程	2014 年 9 月 12 日（金）、9 月 19 日（金）、9 月 26 日（金）

授業のねらい

各自のペースに合わせて、できることを探しながら色々な動きに挑戦する。

主な内容

＜１日目＞色々な動きをやってみる。＜２日目＞人と関わる動きをやってみる。＜３日目＞それぞれの動きをやってみる。振りを覚える。

アーティストから

ワークショップ初日。恥ずかしそうに、なかなか動かなかった手足。最終日には音楽を止めたら子どもたちに怒られる位、ノンストップでのびのびと自由に踊り続けました。子どもたちのパワーは絶大で、子どもたちのびっくりする位良いダンスや、楽しそうに踊る姿を見ることができて幸せな時間でした。３日間という短い時間でしたが、お別れの時に校門の前で私たちが見えなくなるまで大きく手を振っていてくれた姿は忘れられません。

コーディネーターから

ある程度の時間集中したり、言われた通りにすることは難しいこともありましたが、子どもたちは各自のペースで楽しく関わってくれていたようです。回を追うごとにダンサーや状況に慣れてくる子どもたちの変化は大きく、回を重ねる意義を感じました。今後、個別級については５回程度できる枠もあるといいと思いました。ダンサーは各自の良さを引き出すような関わりをしてくださり、先生方の支えも大きく、よい活動ができたと思います。

先生から

大変有意義な活動でした。コーディネーターの方と子どもの実態も含めてしっかりと話し合いができたことも良かったです。３回という設定も、場面に慣れるのに時間のかかる子どももいる中で有難く、回数をを重ねるごとに子どもたちの表現にも広がりが感じられました。踊って終わりではなく、「子どもたちに残るものがあれば…」という要望も叶えていただき、音楽にあわせて簡単な振り付けを教えてもらえたことも、今後の活動につなげていけるのではないかと考えています。

子どもたちから

たくさん踊れて楽しかった。／みんなと楽しくできた。／ダンスが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立つづきの丘小学校＋急な坂スタジオ 場所で踊ろう！あの場所と踊ろう！

担当アーティスト	ほうほう堂(ダンスデュオ)
実施校	つづきの丘小学校(都筑区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 2 学級 79 名
実施日程	2014 年 11 月 20 日(木)、11 月 21 日(金)、11 月 27 日(木)

授業のねらい

教室、階段、図書室、ホール、アリーナ（体育館）などの学校の中と、通学路にある並木道や緑道の広場など学校の外の、さまざまな場所でその場でしか生まれないダンスに挑戦します。
いつも使っている部屋、通っている階段、また、特別な活動でしか使用しない場所。ふだんは気にしていないけれど、その場所その場所がもつ特徴や、そのまわりにある物、音、風景、季節に目を向け感じながら、のびのびと踊る楽しさを味わうことを目指します。

主な内容

＜１日目＞いつもとちがうからだの動かし方をしてみよう！＜２日目＞いろいろな場所を感じてみよう！＜３日目＞場所で踊ろう！あの場所と踊ろう！！

アーティストから

今回のワークショップでは即興的に身体を使って、他者と関わりながらも自立して選択や決断をするというような少し難しい事にチャレンジしてもらいました。体育館→階段→図書室→並木道と空間を変え、日常的な場で戯れるみんなのダンスは、段々「ダンス」なのかどうかはわからなくなってきて、ただ決断したり、迷ったり、飽きたり、お茶目だったり、大胆だったりする、それぞれの素直な姿、状態に見えました。ふだんの教室での関係性や基準のようなものから、少しだけ自由に新しい距離を見出したり、小さく一歩踏み外したりするような時間の感触を感じました。それらを持ち続けたいと思った人は、ひそかに持ち続けてくれたらと願います。（新鋪）
「楽しい」という感覚には色々な種類があると思います。小学３年生の子どもたちにとって、いつもと違うからだの動かし方をしてみたり、からだで考えたり発見したりすることは「楽しい」にすぐに結びつくものではなく「恥ずかしい」や「わからない」がまず立ちはだかっているようでした。でも、恥ずかしさを感じながらも、少しでも思い切って、自分で考え挑戦して動いてみた先で、授業の最初とは違うそれぞれの動きや表情が見える時があり、そのことが今回１番の手応えでした。（福留）

コーディネーターから

学校内外のさまざまな場所でいつもと違う動きに挑戦した子どもたちは、日常空間が一味違って見えたのではないかと思います。そこには、答えがない問いを自分で考えて動くことだったり、自分がいる空間を客観的に捉えることだったり、友だちの思ってもみない才能を発見することだったりと必ずしも「ダンス」に直結しない多様な経験がありました。保護者の方にも参観にいらしていただき、また、先生方から場所のご提案をいただいたりと、見ている大人の方も場所や動きのことを考える時間を子どもたちとともに持つことができました。

先生から

学校では体験できないことがで、ふだんでは見られない子どもたちの姿を見ることができました。

子どもたちから

ふだん、やらないような動きができた。／いつもとはちがうところで活動することができて楽しかった。／人前で表現するのは難しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立中川小学校＋象の鼻テラス みんなでパフォーマンス

担当アーティスト	くるくるシルク DX(パフォーマンスダンスチーム)
実施校	中川小学校(都筑区)
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	体育・音楽
実施概要	体験型／パントマイム／全学年個別支援学級 14 名
実施日程	2014 年 7 月 8 日(火)、7 月 9 日(水)、7 月 17 日(木)

授業のねらい

講師のアーティストとふれあい、学び、表現したり身体を動かしたりすることの楽しさを感じる。コミュニケーションが苦手な子どもたちが身体を動かすことで少しでも何か表現できるきっかけになれると良い。言葉に頼らず伝えたいことを表現することを体感させる。

主な内容

＜１日目＞デモンストレーション／ストレッチ／道具を使っての簡単遊び。＜２日目＞簡単なパントマイムの動き、一人ずつの発表。＜３日目＞グループでのパントマイムの動き、発表。

アーティストから

はじめは緊張気味だった子どもたちも、回を追うごとに、打ち解けてくれて、提案したことを元気よく楽しんでくれている様を見て、とっても感動しました。熱心に取り組りくんでくださった先生にも大変ご協力いただきました。

コーディネーターから

子どもたちはみな純粋に素直に楽しさを表現してくれました。また個々にアイデアを出し創造性を発揮してくれました。日頃から体を使って遊ぶことが好きな子どもたちでしたが、パントマイムの簡単な道具を使っての表現や、演技的な要素も加え、新しい楽しさを発見してくれているようでした。

先生から

今回の取り組みを行うにあたって、子どもたちが将来の自立や日々の生活に生かすことができるよう、コミュニケーション力や表現力を高めるために、言葉に頼らずに自分を表現して楽しむことができる内容を希望しましたが、コーディネートの方が学校側の思いを真摯に受け止めて考えてくださり、素晴らしいアーティストの方とワークショップを行うことができました。また、私自身授業を通して、このように子どもたちが様々な人と出会い、学ぶ機会をつくっていくことが子どもたちにとってとても大切なことだと感じました。

子どもたちから

からだでエスカレーターや階段を表現できたのが楽しかった。／はじめは何の役立つのかと思ったけれど、パントマイムは人を笑顔にすることができるとわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立泉が丘中学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館 うずうずダンス

担当アーティスト	森下真樹（ダンサー・振付家）、井上大輔（ダンサー・振付家）
実施校	泉が丘中学校（泉区）
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／1 学年 4 学級 160 名
実施日程	2014 年 12 月 16 日（火）、12 月 19 日（金）

授業のねらい

ダンスやリズム運動など、身体を動かす表現活動や、他の仲間と協力して活動する体験を通じて、自分の思いや考えを恥ずかしがらずに伝えることができるきっかけになる。

主な内容

からだも楽器（体で音を作る）、太鼓ゲーム（太鼓の音に合わせて動く）、声だしリレー（発声する）、ペアムーブメント（相手を動かす）、マネっこ（動きをまねする）
※各日同内容を別クラスで実施。

アーティストから

中学１年全４クラス、基本的には同じプログラムを実施。クラスそれぞれの色があり、同じことをやっても反応が異なり興味深かった。小学生のノリや勢いとは異なり、より周りの目を気にする年頃、恥ずかしくてなかなか一歩踏み出せない子もいました。人それぞれ自分らしい表現の仕方があるのだ、自分らしい表現を恐れずに自信を持って前へ進んで欲しい。ダンスに限らず様々な表現に触れる機会を子どもたちが持てることを期待します。

コーディネーターから

太鼓の音に合わせて、またアーティストのマネをしていたら自然と体が動いてた？！周りの目が気になる始める歳ごろの子どもたちの気持ちを、アーティストがほぐし、一人一人自分なりの体の動かし方で表現をしていたことが印象的でした。「表現は十人十色」というメッセージが、体験を通じて子どもたちに伝わっていれば良いと思います。

先生から

４クラスあり、１クラスずつ特徴が違うなかでの授業でした。アーティストの方々はそれぞれのクラスにあった、プログラムを選び、うまく生徒たちを動かしているなと感じました。小学生っぽい生徒たちが多い学年なので、こういうプログラムを楽しんでいる生徒がとても多かったように思います。

子どもたちから

初めて体験したが、自由な発想のダンスも面白いと思った。／活動が終わった後、何ともいえない開放感があった。／初めは、恥ずかしかったけれど、身体を動かしていくにつれて、楽しくなっていった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立浦舟特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
ダンスで知る、音楽で知る

担当アーティスト	池田邦太郎(音楽家)、岡田智代(ダンサー・振付家)
実施校	浦舟特別支援学校(南区)
コーディネート	NPO 法人ＳＴスポット横浜
実施科目・教科名	体育・自立活動
実施概要	体験型／創作／小・中学年全学級 6 名
実施日程	2014 年 10 月 21 日(火)、10 月 28 日(火)、11 月 4 日(火)、11 月 11 日(火)

授業のねらい

[本校]楽しく身体を動かすことで、安心して子どもたちが自己を解放できるようにしたい。型のないものが苦手で、できないと嫌いになってしまう傾向のある子たちに取り組みを通してたち成感を得られるようにしたい。
[横浜市立大学付属病院院内学級］表現することをが面白いと思えるような活動。

主な内容

[本校］自己紹介のダンスづくり、身体の様々な使い方、動かし方を知る[横浜市立大学付属病院院内学級］楽器づくり、音あそび

アーティストから

今回一番苦心したのは、年令や性別、抱えている問題もそれぞれ異なる子供たちのどこに焦点を合わせていくかということでした。子供たちに話したように正しいやり方、正しい答えなどなく、結局は子育てと同じで、どの年令のどの状態の子供に対しても正面から向き合うことしかないのだということに改めて気付かされました。ダンスのプレゼントを受け取る子供たちひとりひとりが何とも言えずよい表情で至福の時間でした。(岡田智代)
今回、初めて院内教室で ONGAKU 教室を行わせていただき有り難うございました。その特殊な環境や子供たちの置かれている状況に様々な発見があり、私にとって大変貴重な経験となりました。今、この経験を活かした新たなアイデアが幾つか生まれています。いつの日かまた院内教室の皆さんと出会えることを楽しみにしています。(池田邦太郎)

コーディネーターから

[本校]子どもたちが自分で決めたささやかな動きをまわりの子どもたちや教員と共有することができました。言葉だけではなく、身体を通したコミュニケーションは、より解放的な時間となりました。最後に、子どもたちの動きをアーティストがダンスとして贈る場面があり、パフォーマンスの循環が行われていました。[横浜市立大学付属病院院内学級]開催当日まで参加できる子どもたちが確定しない状況にある院内学級で、アーティストには臨機応変な対応が求められた。水と空き缶を用いた手作り楽器による静かな音が空間を満たしていきました。院内からなかなか外出ができない子どもたちにとっては、非日常的な時間となりました。

先生から

表現運動というと、子ども達は音楽に合わせてダンスをおどるイメージが強いように感じます。今回の活動を通して、子ども達が自己表現することの良さや楽しみを十分に味わうことができたと感じました。

子どもたちから

日常に活かせることを教えてもらえてよかった。／みんなとダンスを通して一つになれた。／体を動かすと気持ちがいいと実感した。／意外なもので楽器を作って、音が出たので楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立二つ橋高等特別支援学校＋急な坂スタジオ 音楽で踊ると心まで弾む

担当アーティスト	北尾亘(振付家・ダンサー・俳優)、米田沙織(ダンサー)
実施校	二つ橋高等特別支援学校(瀬谷区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 1 学級 18 名
実施日程	2014 年 9 月 16 日(火)、2015 年 1 月 20 日(火)、2 月 4 日(水)、2 月 6 日(金)

授業のねらい

自立活動・スポーツを選択科目としている生徒たちと、２回の HIPHOP 特別授業を通してダンス作品づくりに挑戦。音楽のリズムに合わせて踊ることの楽しさから、振付の制約を越えた自由な発想の身体までを手に掛け、多角的にダンスを捉えることがダンス作品の可能性を広げる事を体感する機会とする。15 分程度のダンス作品を制作し、学習発表会で全校生徒の前で発表を行う。

主な内容

＜１日目＞音楽にのせて踊ってみる＜２日目＞振付をおぼえる＜３日目＞本番に向けて作品をブラッシュアップ＜４日目＞全校生徒に向けて作品発表

アーティストから

２回の授業にてダンスの楽しさと HIPIOP の指導を含め、授業発表まで繋がる時間作りには苦労しました。９月第一回目の授業の際には初めて触れるものに対しての抵抗を感じました。発展させるのは難しいかと思いましたが、その後の懸命な練習に興味が重なり、２回目の授業では見違える程の取り組み方に変化していた事に感動しました。「体を動かして憧れを実現したい！」という強いエネルギーに、ダンスの持つ力を感じました。障害といっても私たちにはほとんど感じられない程度で、むしろその真っ直ぐな姿勢に一般の高校生以上に強く繋がれたと感じています。 これからの彼らの歩みの中に、発表会での経験がほんの少しでも後押しするものになっていれば幸いです。(北尾亘) ダンスをポジティブに捉えて授業に取り組んでもらえたことをとても嬉しく思いました。先生含め全員が懸命にダンスに挑戦し、作品を踊りきるために練習を重ねて下さったことで、私たちが授業に来て共に踊ることの価値が増したのではないかと思います。発表会本番ではひとりひとりが、踊ること、自分の踊りを披露することを楽しむ姿が見られ、また同時にクラスメイトとパフォーマンスの時間・空間を共有する楽しさも感じているようでした。私自身、純粋にダンスを楽しむことの素晴らしさを改めて実感させられました。今回の授業を通して、今までとは違う感覚でダンスに興味を持ってもらえたら幸いです。(米田沙織)

コーディネーターから

今回の取り組みは、生徒さんたちがやりたいから呼ばれた、というのがとても嬉しいことでした。先生方の要望ではなく、卒業前の最後のイベントで HIPHOP を踊ると決めた、子どもたち自身の希望を実現するために力を貸してくださいという依頼でした。やりたいことに一心に取り組む子どもたちの姿勢はもちろん、発表に向けて全力でサポートしてくださる先生方の姿勢からも強い熱意を感じました。そして、アーティストの北尾さん、米田さんには、生徒さんや先生方の期待に沿いながらも、より広い意味でダンスの楽しさを実感できるプログラムを構成していただきました。この出会いがなければ生まれなかった豊かな時間をともに過ごすことができたのではないかと思います。

先生から

子どもたちの希望がありながらも HIPHOP は難しいかなーと思っての挑戦だったのですが、講師の先生のお蔭で子どもたちの吸収も早く、しかもとても楽しんで取り組むことができました。子どもたちの新しい可能性に気づく事ができました。

子どもたちから

あきらめずにできて自信になった。／ダンスが好きになった。／皆でできてうれしかった

美術分野の取り組み

自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。自分や友だちの多様な表現に触れる機会となります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立末吉小学校＋象の鼻テラス 白い風景をつくろう

担当アーティスト	井上唯(アーティスト)
実施校	末吉小学校(鶴見区)
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／5 学年 5 学級 144 名
実施日程	2015 年 1 月 19 日(月)、2015 年 1 月 20 日(火)、1 月 23 日(金)

授業のねらい

１コマ目：最初に　「ｗｈｉｔｅｓｃａｐｅｒ」の写真をスライドで見せて、それから材料ハイパーヤーンを使った基本の編み方＆キノコの作り方の説明をして、実際に各自つくり始める。
２コマ目：引き続き作業。完成し始めたら、どこに生やすかをクラスで相談して決め、残り 20 分前くらいには、キノコを生やし始める。みんなでひとつの風景（作品）をつくる意識でやってみる。最後にみんな＆キノコ風景で記念撮影。

主な内容

アーティスト自己紹介／ものと場所の関係／大勢でひとつの作品を作ることの面白さについて／作品制作／設置／振り返り
※同内容を３日間で各クラスで実施

アーティストから

今回は、子どもたちにモノをつくる楽しさだけでなく、人に見てもらうということや、作品を見てくれる人の目線になって考えることで、もう一歩踏み込んだことまで意識してモノづくりをしてもらいたいと思い、授業を行いました。２コマというスケジュールだったので、子どもたちからじっくり考えていることを引き出したり、場所についてみんなでとことん話し合う時間が持てなかったのが残念でしたが、その短いやり取りのなかでも、おもしろいアイデアを出してくる子がいたり、作っている最中や展示の時に、強いこだわりを見せる子がいたり、また、こちらの提案に対して、自分もいいなと感じたら素直に感動したりと、子どもの持っている柔軟さや可能性、また一人の子どもが持つ世界観のようなものを感じて、ハッとさせられると同時にとても嬉しくなりました。

コーディネーターから

90 分という限られた時間の中で、子どもたちに伝えたいことを伝えきるのはほんとうに難しいと改めて感じました。つい急ぎ足になってしまう中で、それでも子どもたちは理解し感じるのがとても早く、私たちの伝えたいことをすぐ読み取ってくれているようでした。子どもたちが作ったきのこでそれぞれのクラスの雰囲気が生かされた風景が校内に生まれました。自由に柔軟な発想で表現する楽しさを、ずっと忘れないでいてほしいと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立二谷小学校＋かなっくホール
オリジナルクレヨンをつくろう！

担当アーティスト	小原典子(美術家)
実施校	二谷小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／絵画／3 学年 2 学級 40 名
実施日程	2014 年 12 月 5 日(金)、12 月 12 日(金)、12 月 19 日(金)

授業のねらい

小さいころから慣れ親しんでいるクレヨンを、蜜蝋を溶かして顔料などを混ぜ固めて作る。美術の道具としてだけではなく、理科的興味とともに、ものづくりの体験を通じて、作ることの大切さを学ぶ。

主な内容

＜１・２日目＞蜜蝋を溶かしてオリジナルクレヨンを作る※同内容を２日間各クラスで実施＜３日目＞作ったクレヨンを使ってクラス全員で「未来の街」というテーマの作品を作る

アーティストから

クレヨンはほとんどの子どもたちが一番初めに使う画材であり、とても身近なものですが、実際どんなものでできているのかはほとんど知られていません。そして画材はクレヨンから水彩絵具へと代わり、恐らく大半がクレヨンを使わなくなり、忘れていく画材でもあります。作品を制作する道具を実際に作ることにより、物の大切さ、作品を一から生み出す楽しさ、驚きを今後思い出してほしいという意図がありました。結果は様々な予想もしていないような形や配色のクレヨンがたくさんできました。休み時間もほとんど無く、長時間の作業となりましたが、子どもたちの生き生きとした表情と集中して取り組む姿にはとても驚かされました。最後は「未来の街」をテーマに「建物」をクレヨンで描いてもらい、それを大きな紙に貼り付け、「街」にしました。身近な風景が、帰り道に特別な風景に見えてくると嬉しいです。子どもたちと一緒に作品を作り上げることは私にとってとても有意義な３日間でした。

コーディネーターから

初めは見たこともない材料が並んでいて、不思議そうにしている子どもが多かったが、蜜蝋の匂いがほのかにして顔料を混ぜる頃になると、どんな色を重ねるか、夢中になって作っていたのが印象的だった。何気なく使っているものがどうやって作られているかということを体験でき、クレヨンに対する愛着もわいたのではないかと思う。自分の好きなように色や形を組み合わせて作るので、本当にそれぞれ違うものができ、子どもたちの自由な発想や想像力をダイレクトに感じることができた。

先生から

専門性の高い方の授業を見て、私たち担任も勉強になりました。子どもたちにとっても貴重な経験になりました。

子どもたちから

お母さんのプレゼントにもなり、よかった。／クレヨンの作り方を知れてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立間門小学校＋Offsite Dance Project
オリジナルのクレイアニメづくり

担当アーティスト	伊藤有壱(アニメーションディレクター)
実施校	間門小学校(中区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／アニメーション／3 学年 3 学級 104 名
実施日程	2014 年 11 月 6 日(木)、11 月 7 日(金)、11 月 12 日(水)

授業のねらい

美術の創作を通して、子どもたちの表現力、創造力を高めることを目指します。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生がこどもたちの表現の力を引き出し、伸ばすための方法論を学ぶ体験型のワークショップを３日間実施する。

主な内容

紹介ムービーの上映～デモンストレーション～リレーアニメ～つくるオリエンテーション～つくる作業、撮影の説明～撮影～講評
※同内容を３日間、各クラスごとに実施

アーティストから

私はアニメーションクリエイターとして、「動き」そのものの魅力を実感してもらうことを狙いとしました。授業では子どもたちが接しやすい素材として小麦粘土を使ったことでスムースにスタートすることができ、結果として限られた時間内で予想以上の効果があげられました。ワークショップを通して、まず子どもたちのモチベーションの高さ、エネルギーに驚きました。その元気さ素直さが、授業にもいい形で反映され、間門小学校の先生方の環境づくりに感謝したいと思います。また通常のワークショップでは２時間かかるところを、今回は 45 分間２時限の短い時間内で行う事で、動きのイメージに到達するかに不安はありましたが、作家自身がデモンステレーションを行うことで、子どもたちの興味に繋がり、抵抗なく粘土を動かすことができたようでほっとしました。できあがった映像は３クラスそれぞれに特性があり、オリジナリティに溢れた動く絵画ができあがったことに満足しています。新しい表現への挑戦が、子どもたちのイマジネーションを膨らませていく引き出しとなれば、こんなに嬉しいことはありません。

コーディネーターから

２年目となる間門小学校では、国際的に活躍するアニメーションディレクター、伊藤有壱さんに授業を行っていただきました。NHK 教育テレビの「ニャッキ！」でも馴染みがあった子どもたちは、日頃造形の授業で接する機会の少ない粘土を使ってのクレイアニメに夢中になって取り組んでいました。１クラス２時限の授業でしたが、アーティストの進め方は、デモンストレーションを効果的に使い、子どもたちの創造力を引き出し、友達と一緒にひとつのアニメをつくりあげる共同体験でもあり、すばらしい授業でした。これらの成果物は、伊藤氏の編集でひとつの作品としてまとめられ、当団体が主催する「本牧アートプロジェクト 2014」において、もと映画館で発表しました。地元の多くの人々が来場し、プラットフォームでの活動を広め、地域との関わりを深める貴重な機会にもなりました。

先生から

２コマという限られた時間だったが、無事、製作や作品録りが行えて、よかった。初回は準備や手順の説明に時間を要したが、２回目の時はスムーズに行えて、子どもの活動時間が確保できていたと思う。

子どもたちから

粘土をいろいろなものに変えられて、楽しかった。／自分だけのキャラクターを作り、ふだんは動かない粘土が動いて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立下田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
ダンボールの活動

担当アーティスト	うめぐみ(ワークショップアーティスト)
実施校	下田小学校(港北区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年 4 学級 115 名
実施日程	2014 年 11 月 14 日(金)、11 月 21 日(金)、11 月 26 日(水)

授業のねらい

個人でつくる活動とみんなでつくる活動を行う。ダンボール板からそれぞれ形を切り出し、絵の具で模様をつける。最後は切り出したダンボール板に切り出した形を再構成してグループごとに完成させる。

主な内容

ダンボールの活動(切り出し、模様づけ、グループ創作)
※同内容を３日間で各クラスで実施

アーティストから

私が板ダンボールから有機的な形を切り出すと、自然と見立てはじめ、「犬！」「鳥！」「恐竜の上に人が乗ってる！」と口々に発表する子どもたち。２年生の止まらないイメージ力に感心するばかりでした。絵の具で模様をを描いていくときも、自分なりの点の付け方、線の引き方、色合わせなどに子どもたちのこだわりがみられました。私の言葉を受け止め、それ以上に大きく広げて活動する子どもたちの姿勢が印象的でした。

コーディネーターから

不登校傾向にある子どもが、今回は活動に参加でき、またそれをきっかけに登校回数が増えているという報告を後日先生に伺い、「いつもとは少し違う活動」の意義を感じました。学校、アーティスト、コーディネーターそれぞれ立場が異なるからこそできる事業だと改めて思いました。

先生から

子どもたちに、造形活動を伸び伸びと活動させるためには、材と場をしっかり用意してあげることが大切であると感じました。ダンボールという一つの材を通じて、３枚あわせれば、三角形で立つ、横にするとトンネルになるなど、色々な見方をしながら、自然に授業が流れていき、子どもたちのワクワクした気もちが伝わってきました。図工ではなかなかできないことなので貴重な時間となりました。

子どもたちから

ダンボールが色々なものに変身しておもしろかった。／みんなで協力して取り組めてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立品濃小学校＋アートの時間
仮面パレード２０１４

担当アーティスト	深澤純子(アートファシリテーター)
実施校	品濃小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／5 学年 4 学級 123 名
実施日程	2014 年 9 月 2 日(火)、9 月 9 日(火)

授業のねらい

ふだん授業で扱わない素材や題材に触れることで、児童の表現の幅を広げ、自分らしさを発揮する。図工に対する興味・関心を広げる。共同作業の中で、コミュニケーションの能力を養い、互いを信頼する心を育てる。

主な内容

＜１日目＞３人１組で石膏包帯を使い顔の型どり＜２日目＞仮面に装飾をして校内パレード

アーティストから

ここでは、日常から非日常へのプロセスを経験してみることが目的だった。共同でその経験ができることも重要な意味がある。友だちと協力しながら、初めての素材や技法に触れながら、物を作りながら、また部外者であるファシリテーター集団ともコミュニケーションしながら、それらは、感覚に刺激を与えるものであり、だんだんと非日常の領域に入って彼ら／彼女ら自身が興奮していった。教室に戻って仮面を外した素の顔が輝いていた。「非日常から日常に帰ってくる体験が面白かった」という感想があり、そこまで感じ取ってもらえて感動した。

コーディネーターから

仮面をつけたパレードも６年目を迎える。初年度の先生方が校内パレードを行うことに積極的だったお蔭で今や年中行事のようだが、授業中に訪問される側の先生方の当初の対応は様々だった。ほんの数分ではあるが、「非日常」を全校で共有していただけるようになったのは、子どもたちとアートの力ゆえかも知れない。アートは学校を変える。継続できたことによって実感できた感動の現場である。

先生から

一人ひとりの子どもが自分の心を解放して取り組んでいる姿が印象に残りました。子どもたちの多くは、よいものを正解を求めることが多く「～でなければ」と固定観念で考えがちです。自由に思いのままに活動できたのは、専門家の方との交流とサポートがあったからだと考えます。

子どもたちから

自分専用の仮面をつくることができて楽しかった。／友だちと協力してつくり合えたのがよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立平戸台小学校＋さくらプラザ 秘密のらくがき

担当アーティスト	佐藤未来(美術家)
実施校	平戸台小学校(戸塚区)
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／6 学年 1 学級 35 名
実施日程	2014 年 11 月 25 日(火)、11 月 27 日(木)、11 月 28 日(金)

授業のねらい

・アーティストと触れ合い、ふだん学校ではできないような体験にする。
・卒業に向けて自分を見つめ、表現することの楽しさや、伝えることの大切さを感じ、みんなで造り上げていく過程で多くのことを学んでもらう。

主な内容

＜１日目＞グラフティ“ｇｒａｆｆｉｔｉ ”って？／チームサインをつくろう＜２日目＞いろんな場所にグラフィティをつくろう＜３日目＞いろんな場所にグラフィティをつくろう／感想のシェア

アーティストから

グラフティという公共にアプローチする描き方を使って、生徒たちが自分たちの思い出がつまった校舎にからだ全体を使って表現することができたと思います。簡単な素材で発想力やチームワークを強化できたのではないでしょうか。これから中学高校とどんどんと大きな社会に出て行く彼らには、たくさんの仲間と一緒に、また見知らぬ外からの刺激を受けながら、自分の表現を美術に限らず発表していってほしいと思います。

コーディネーターから

単学級で６年間一緒に過ごしてきた子どもたちということもあり、制作の役割分担・チームワークは非常によかった。学校にある場所やものを工夫して、いつもと違う視点で校舎を捉え、新しい空間を創造できた。また、アーティストと接することで授業ではない自分の自由な発想・意見もでていたので、それを具現化した体験になった。“グラフィティ”は消されてしまったり上から描き足すなど、独特のルールや文化があるので、題材を生せると更におもしろくなる可能性を感じた。

先生から

今回は６年生が卒業に向けて自分を見つめ、表現することの楽しさや伝えることの大切さを感じてもらいたいと思い内容を検討していただきました。マスキングテープを使ってグラフティーを行うという発想は大変参考になりました。扱いやすい材料でこのような多様な表現ができるとは思いませんでした。子どもたちは班の仲間と協力しながらとても楽しそうに活動することができました。子ども達は想像すること、表現することの楽しさを充分に感じることができたように思います。すぐはがせる気軽さ、らくがき感覚で（学校にそんなことしていいの…）取り組めたこと、又想像以上に完成度の高い作品ができたことがよかったと思っています。

子どもたちから

言葉以外で感情を伝えることができてよかった。／協力しながら１つの作品を完成できて思い出になった。／自分で自由に想像してつくれた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立都岡小学校＋サンハート
木炭画で似顔絵・自画像を描く１

担当アーティスト	黒田晃弘(木炭画家)
実施校	都岡小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／6 学年 2 学級 74 名
実施日程	2014 年 11 月 27 日(木)、11 月 28 日(金)

授業のねらい

１．似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。
２．友だちの絵を描くことで、相手の友だちそして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。
３．創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

主な内容

＜１日目＞画材（木炭）についての説明、講師による木炭画（似顔絵）実演、似顔絵実習＜２日目＞画法（陰影・顔の描き方）についての説明、自画像実習

アーティストから

自分に子どもができたこともあって、今年の都岡小の 6 年生の授業はふだんとはちがう心持ちで向かいました。これから中学校に入学すること、また大人の階段を登り始めるステップに立つことの意味を、自画像の授業を通して伝えられたらいいなと思いました。そんな気持ちが伝わったのか、皆さんとても描くことに集中してくれました。自主性が高く、どんどん先に進み、「完成した!」と満足の表情を浮かべる子も多かったです。描くことを通して、挑戦すること、達成することの楽しさを感じてくれたと思います。

コーディネーターから

卒業を間近に控え、子どもらしさと大人っぽさが混在する時期に、木炭画を通して「自分を見つめる」というきっかけ作りになったようです。また、純粋に絵を描く行為を楽しむだけでなく、技術向上や、結果（上手に描けたか？似ているか？）を重要視するなど、目的意識の高さが感じられました。でき上がった作品を定着液でスプレーし、廊下で乾かしている最中、低学年の子どもたちが「私たちも６年生になったらこんな絵描けるのかな？楽しみ」と言いながら鑑賞している姿が印象的でした。

先生から

描く相手と対話しながら表していく点が、工夫されていると感じました。相手のことを知りながら描いていくことで、相手の外見のみではなく内面も作品に表せるのだなと感じました。

子どもたちから

いつもとは違う材料、描き方で絵を描いたからとても楽しかった。／立体感のある描き方ができた。／あまり上手かどうか気にしないで自由に描くこと大切だとわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立二俣川小学校＋サンハート
木炭画で似顔絵・自画像を描く２

担当アーティスト	黒田晃弘(木炭画家)
実施校	二俣川小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／4 学年 3 学級 102 名
実施日程	2014 年 10 月 16 日(木)、10 月 21 日(火)

授業のねらい

１．似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。
２．友だちの絵を描くことで、相手の友だちそして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。
３．創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

主な内容

＜１日目＞画材（木炭）についての説明、講師による木炭画（似顔絵）実演、似顔絵実習＜２日目＞画法（陰影・顔の描き方）についての説明、自画像実習

アーティストから

今回の４年生で特徴的だったことは、精神年齢が高い、と感じたことです。楽しいこと＝遊び、よりも頑張って勉強に取り組むことが大切、といった考え方が一様にあるような気がしました。時代の変化のなかで子どもの思考も変わってきているのでしょうか。授業に対しても真面目に取り組む姿勢が伺えました。できた作品は伸びやかで子どもらしい自由な感性を感じるものでした。

コーディネーターから

毎年「開く週間」（保護者や地域の方々が授業を見学できる週間）に合わせて実施している二俣川小学校。今年は例年より多くの見学者が訪れ、常時３～５名の大人に見守られる中、似顔絵・自画像のワークショップが行われました。子どもたちは、初めての木炭画でも、「とりあえずやってみよう！」という前向きな明るいノリで楽しく取り組んでくれました。見学者に木炭紙と画材を渡すと、見学に来たはずが、いつのまにか熱心に似顔絵を描く方に集中している方もいて、絵を描く事を通じて大人も子どもも一緒の目線になれるのだと感じました。

先生から

アーティストの方の人柄がにじみ出るすてきな木炭画の作品と空気感が授業全体を包みこみ、子どもたちを絵の世界へと引きこんで行って下さいました。木炭で何度も直せるという安心感と、明暗の変化がつけやすいところなど魅力ある取り組みやすい題材が、子どもたちにとても合っていて活動しやすかった。技術面で絵を上達させたいという子の欲求に応えてくれるところも良かった。

子どもたちから

完成したときの達成感が思い出に残った。／絵を描くときは、光のあたる所あたらない所などすごく細かいところまで気にして描くことが大切だと分かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立万騎が原小学校＋ART LAB OVA
学校の壁に 50 年後の自分の絵を描こう

担当アーティスト	ART LAB OVA(アーティストグループ)
実施校	万騎が原小学校(旭区)
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／絵画／4 学年 2 学級 60 名
実施日程	2014 年 10 月 28 日(火)、10 月 29 日(水)、11 月 4 日(火)

授業のねらい

創立 50 周年記念として学校内の壁に壁画を作成する。能力が高いのに自己評価が低くなりがちなので、こういう機会に、自由にのびのび創作をさせてあげたい。

主な内容

＜１日目＞技法を学んで、絵の具で壁を塗る。＜２日目＞昨日の壁画をじっくり鑑賞見て、そこに見えてくるものを壁にペンで描く。＜３日目＞50 年後の自分に見せる「大人になった自分」の絵を壁にペンで描く。

アーティストから

通常、私たちは、子どもたちが、評価や結果から開放されるようなプログラムを試みているが、今回は、学校側から依頼された「壁画」というテーマがあったことで、「自由にのびのびと描く」ということと「学校の記念行事として残るものを描く」ということの矛盾にずいぶんと悩んだ。2 日目以降は、先生とこどもたちの反応を探りながら、フレキシブルに内容を変化させて仕上げた。１日目の壁塗りでは生き生きしていた子が、３日目のフィニッシュになると、緊張して頑なになってしまった子もいたが、個々に対応することで、なんとか、全員、絵を残すことができた。特に消火栓の下方に２～３センチの棒人間を描き、なんとかこちらの要求に応えてくれた子のことが、強く印象に残っている。

コーディネーターから

今回は、「記念行事として壁画を描く」という依頼があったことと、担当の先生が途中で変わったことで、状況としては、難しい部分もありました。改めて先生方に横浜市芸術文化プラットフォーム事業の説明をし、ご理解をいただきながら、活動を続けていきました。

先生から

心を解放させて描くことや描くことに没頭する姿が見られ、与えてくださる材の魅力や芸術家の方の具体的なアドバイスが子どもたちの心によく響いていました。

子どもたちから

最後の授業でやった 50 年後の自分を描くことが一番思い出に残った。／失敗は成功のもとだとわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立長津田小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
みんなで作るクリスマスツリーの森

担当アーティスト	近藤晃子(現代アート作家)
実施校	長津田小学校(緑区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／インスタレーション／4 学年 3 学級 110 名
実施日程	2014 年 11 月 25 日(火)、12 月 2 日(火)、12 月 3 日(水)

授業のねらい

のびのびと表現する体験を通じて、表現する面白さや楽しさを深める。

主な内容

＜１日目＞自己紹介～事前説明～ボタンゴムづくり＜２日目＞ボタンゴム張り～弓ユニット設置、フェルトを飾る～鑑賞・まとめ＜３日目＞ボタンゴム張り～弓ユニット設置、フェルトを飾る～鑑賞・まとめ

アーティストから

110 名という大人数での授業は初めてで少々作業量等盛り込みすぎた気もしますが、限られた時間内で体育館ステージいっぱいの大きな作品を皆で完成させる事ができ、子どもたちだけでなく先生方も楽しんで下さっている姿を見る事ができて良かったです。また、お互いに助け合う姿や作品を閃く瞬間が見られて嬉しく思いました。

コーディネーターから

図工の時間では個人制作が多く、今回のような 4 年生全員で取り組むことのできる課題は初めてとのこと。フェルトやボタン、ゴムなど身近な素材を使って、協力しながら体育館の舞台空間に素敵な”クリスマスツリー”を設置できました。設置に時間が割かれ、最後にゆっくり鑑賞する時間がとれなかったのが残念だったが、授業後の図工展で保護者や他学年の子どもたちにも鑑賞してもらう機会があり、制作した子どもたちの自信になったようです。また、プラットフォーム授業外の時間を使ってボタン・フェルト飾りを制作するなど、担任の先生方の理解もあり、子どもたちは期間中楽しく取り組むことができたようです。

先生から

アーティストの発想力は私にはないものなのでただただ驚きだった。子どもたちの発想力(想像力) もついたと思う。

子どもたちから

友だちと協力して仕上げられて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上の宮中学校＋横浜美術館
古着で現代アート１

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	上の宮中学校(鶴見区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／造形／2 学年 6 学級 206 名
実施日程	2014 年 7 月 8 日(火)、7 月 10 日(木)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校での授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ
※同内容を２日で各クラスに実施

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてくれている生徒達に「美術の力」をもっと与えてあげたい。

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。授業を受けた中学生がどの程度ヨコハマトリエンナーレ 2014 を訪れたかは調査し難いが、個人観覧も組み込んだプログラムだったため、中学生の来場者数増加につながった。中学生が現代アートと出会う機会を促すことができたと考える。

先生から

アートイベントに参加する機会を生徒に提供してくださり、本当に感激しています。生徒の反応はそれぞれでしたが、こうした機会を多く作ってくださることに期待しています。

子どもたちから

自分が使っていたものが作品になって感動した。／リサイクルで新しいものができるのを知れてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立汐見台中学校＋横浜美術館
古着で現代アート２

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	汐見台中学校(磯子区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／造形／1 学年 5 学級 185 名
実施日程	2014 年 5 月 28 日(水)、5 月 29 日(木)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校の授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ
※同内容を２日間で各クラスに実施

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてく

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。授業を受けた中学生がどの程度ヨコハマトリエンナーレ 2014 を訪れたかは調査し難いが、個人観覧も組み込んだプログラムだったため、中学生の来場者数増加につながった。中学生が現代アートと出会う機会を促すことができたと考える。

先生から

子どもたちは作ることに興味を覚え楽しんでいた。1 時間の中で子どもたちにわかって体験してもらうなら、もっと、ポコスの説明や、作ることに時間をかけて深めればよかった。

子どもたちから

簡単で物足りなかった。／初めて作って新鮮だった。／みんなで助けあってつくれて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立小田中学校＋ART LAB OVA
芸術家ってどんな人？

担当アーティスト	ART LAB OVA(アーティスト)
実施校	小田中学校(金沢区)
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／現代美術／3 学年 4 学級 144 名
実施日程	2014 年 12 月 10 日(水)、12 月 11 日(木)

授業のねらい

進路を考え始める中学３年生に、芸術と社会、アーティストという職業について学ぶ機会にし、できれば、何かしらの体験も盛り込みたい。

主な内容

それぞれに絵を描きその絵を評価しあったうえで、絵を描くだけではない、多様な芸術と芸術家のあり方や生き方を紹介した。
※同内容を２日間で各クラスに実施

アーティストから

中流家庭の多い、ほとんど問題のない地域と聞いていたので、あえて、日雇い労働やホームレスなどのテーマを盛り込んだ。初めての中学校での授業ということもあり、子どもたちが理解できるかどうか、また、先生たちにも理解されるかどうか、不安だったが、想像以上に真剣に聞いてくれた。おしゃべりをしたり居眠りをしている生徒もいたが、自分の興味のあるトピックには入ってくるなど、一見関係のないように見えて、耳の端では聞いていた。特に、おしゃべり好きな子たちの「質問」や「野次」は、生徒たちの理解度と興味のバロメーターにもなり、授業を進めやすくしてくれた。

コーディネーターから

担当の先生が、この事業に慣れている、とてもやる気のある方で、最小限のやりとりで、すべてがスムーズに運びました。私たちの授業の意図も理解してくださり、様々なお気遣いとご支援により、とても気持ちよく、授業を終えることができました。中学校は、多感な時であるがゆえに、学校によっても状況はまちまちだと思いますが、生徒たちの雰囲気も、校長先生をはじめとする先生たちの雰囲気もとても良い学校でした。中学校での取り組みは、はじめての経験でしたが、改めて、中学生の可能性を感じました。

先生から

アーティストのお二人は、中学生に対し、とても真剣に真摯な態度で向き合って下さった。現代美術を通して、中学生と語り合う形式で授業が行われたが、中学生の本音が授業の中で語られ、日常いかに受動的（知識伝達的）な授業を行っているか、こちらが反省した。授業中に、生徒の中の価値観が変化していく瞬間を見る事ができ、「新しい価値」の気づきに混乱する様子も見られた。楽しいだけでなく、物事の捉え方、見方を教える哲学的な授業になったと考える。

子どもたちから

価値を見直すことで、新たな発想が生まれた。／私は今までただの価値のないものがアートになるにはそれだけの権力と時間が必要だと思っていたが、多くの人が気付かないからこそアートだということを学んだ。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立芹が谷中学校＋横浜美術館
古着で現代アート３

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	芹が谷中学校(港南区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／造形／1 学年 3 学級 140 名
実施日程	2014 年 7 月 3 日(木)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校の授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてくれている生徒達に「美術の力」をもっと与えてあげたい。

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。授業を受けた中学生がどの程度ヨコハマトリエンナーレ 2014 を訪れたかは調査し難いが、個人観覧も組み込んだプログラムだったため、中学生の来場者数増加につながった。中学生が現代アートと出会う機会を促すことができたと考える。

先生から

計画の段階での参加をしたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立旭中学校＋横浜美術館
古着で現代アート４

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	旭中学校(旭区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術・総合
実施概要	鑑賞型／造形／2 学年 3 学級 98 名
実施日程	2014 年 6 月 20 日(金)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校の授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてくれている生徒達に「美術の力」をもっと与えてあげたい。

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。授業を受けた中学生がどの程度ヨコハマトリエンナーレ 2014 を訪れたかは調査し難いが、個人観覧も組み込んだプログラムだったため、中学生の来場者数増加につながった。中学生が現代アートと出会う機会を促すことができたと考える。

先生から

日頃の授業ではなかなか現代アートに触れるきっかけが見当たらなかったが、今回の活動をきっかけとして、表現することに形の決まりはないことや、表現の可能性が無限に広がっていること、自分の中に眠っていること等、これからの子どもたちに対する投げかけ方の工夫などを考えさせられた。

子どもたちから

着られなくなったものを大好きな美術を通して思い出に残せて良かった。／今の自分を見つめ直すことができた。／最初の一つひとつはどのようになるかわからなかったが、完成を見てびっくりした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立希望が丘中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
廃材を使った”いきもの”制作

担当アーティスト	富田菜摘(現代アート作家)
実施校	希望が丘中学校(旭区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／現代美術／3 学年 6 学級 233 名
実施日程	2014 年 11 月 13 日(木)、11 月 26 日(水)、11 月 27 日(木)

授業のねらい

社会のなかでアーティストとして仕事をしている人から直接学び、今まで出会ったことのない表現や、素材の扱い方を通じて子どもたち自身の表現の幅を広げる。

主な内容

＜１日目＞自己紹介～富田さんの作品を鑑賞～作品についてのお話～質疑応答＜２日目＞”いきもの”制作～鑑賞・まとめ＜３日目＞”いきもの”制作～鑑賞・まとめ

アーティストから

全体説明では作品を沢山持っていった甲斐もあり、興味を持って作品を見たり、話をきちんと聞いてもらえたという印象でした。制作の授業では、時間が短く完成させられるか心配でしたが先生の呼びかけもあり、時間内に間に合い良かったです。材料集めに工夫したり、材料から発想してみたり、素材に対する反応も良く、授業の狙いは達成できたかなぁと思います。ふだんの授業ではあまり楽しめていない生徒もクオリティーの高い作品を作っていたと先生から伺い、とても嬉しかったです。私自身とても勉強になりました。

コーディネーターから

全体説明の後の実制作時間が１クラス１コマと短時間で、時間の制約があるなかで苦労する場面もありましたが、全体としては、多感な中学生たちにアーティストの真摯な姿勢が伝わる授業となりました。後日、制作した生き物に生徒たちがコメントを付けて”生き物図鑑”をつくったとのこと。他の教職員たちからは、ぜひ全作品を校内で展示してほしいと要望を受けたそうで、授業後の反響もあり嬉しく思います。

先生から

美術という教科の入り口が教員でない方、特にそれを仕事とされている方であるというのは、子どもたちにも良い刺激となりました。これまでの経験では使っていない材料や用具、そして芸術家からの指導によって、ふだんの授業では苦手意識の強い子どもが、生き生きと活動をしていたのがとても印象に残っています。

子どもたちから

廃材をホットボンドでくっつけていって、どんどん形ができていくのが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立本郷中学校＋横浜美術館
古着で現代アート５

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	本郷中学校(栄区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／造形／2 学年 4 学級 153 名
実施日程	2014 年 6 月 30 日(月)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校の授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてくれている生徒達に「美術の力」をもっと与えてあげたい。

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。授業を受けた中学生がどの程度ヨコハマトリエンナーレ 2014 を訪れたかは調査し難いが、個人観覧も組み込んだプログラムだったため、中学生の来場者数増加につながった。中学生が現代アートと出会う機会を促すことができたと考える。

先生から

今回の「ポコス」は生徒それぞれの受け止め方が大きく分かれてたワークショップでした。子どもによっては「ポコス」の主旨を十分理解し、思いをめぐらせることができましたが、一方で理解不足や逆に物足りなさを感じる子どもは「ポコス」づくりをあまり楽しめなかったようです。この点は一人ひとりの感受性の違いもあり、いたしかたない面もあると思います。ゆえに、本人の意欲や意思に関わらず取り組まなければならない授業の形態として実施する難しさだと思います。しかし多くの生徒にとっては美術という教科、ひいては現代アートを見つめ直すきっかけになったようです。

子どもたちから

自分で製作してみると自分にしかわからない思い出や気持ちがよみがえってきて、作品に対する気持ちが見るのと製作するのでは違っていて自分にとって良い経験になった。／美術館に行ってみたいと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上飯田中学校＋横浜美術館
古着で現代アート６

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	上飯田中学校(泉区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／造形／3 学年 4 学級 127 名
実施日程	2014 年 7 月 9 日(水)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校の授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてくれている生徒達に「美術の力」をもっと与えてあげたい。

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。ヨコハマトリエンナーレ２０１５の個人観覧も組み込んだプログラムだったので、授業を受けた中学生がどの程度ヨコトリを訪れたのか、知りたいと考える。

先生から

プランの段階ではたいへん心配しましたが、完成した作品はきれいに並んでおり、観にいった子どもたちが色あいが美しくて満足していたので安心しました。

子どもたちから

自分たちの作品がひとつの大きな作品になってうれしかった。／昔のことなどを思い出して嬉しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立市ヶ尾中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
なにも知らない、＜わたし＞の戦争

担当アーティスト	新井卓(写真家)
実施校	市ヶ尾中学校(青葉区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／写真／3 学年 6 学級 210 名
実施日程	2015 年 2 月 23 日(月)

授業のねらい

３年間通して学習してきた平和について、アーティストの活動を聴くことを通してより理解を深めます。

主な内容

講演・質疑応答

アーティストから

戦争や原爆、大規模災害といった巨大な事象を、それを体験したことのないものがどうやって個々人の体験に噛み砕いていくか、という難しい発題だったが、講義終了後は生徒たちから核心を突く熱心な質問が多数よせられ、私自身がおおいに刺激になった。ただ大人数で短い時間枠では直接対話することが難しいので、その点が少々心残り。たとえば参加が選択制で、時間に余裕があり協働できるような機会があれば、なおよいのでは、と思う。

コーディネーターから

戦争を経験していない世代は、「戦争はいけない」「忘れてはいけない」と言われることにどう向き合ったらよいのか？が今回の大きなテーマでした。新井さんは直接戦争をテーマに活動されているわけではありませんが、写真についてや原水爆や福島と関わる活動を通してご自身が考えていることをお話しいただきました。学校の勉強で習うことと、自分で調べたり人に会ったりしてわかることと両方あることが伝わるよい機会になったと思います。

先生から

一般的といわれている戦争に対する見方やとらえ方ではなく、自分の感じたままに誠実に語ってくださったことで、子どもたちも「自由に感じ、その感じ方を大切にすること」の重要性が、新井さんの姿を通して充分に伝わったと思いました。

子どもたちから

「教えられたことを反射的に取り入れるのではなく、それが本当に正しいのか、自分で確かめてほしい」という言葉が心に残った。／何かに熱中できることは素敵だと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立川和中学校＋横浜美術館
古着で現代アート７

担当アーティスト	横浜美術大学ポコスプロジェクト(高瀬ゆり)
実施校	川和中学校(都筑区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／造形／1 学年 6 学級 230 名
実施日程	2014 年 6 月 26 日(木)、6 月 27 日(金)

授業のねらい

ヨコハマトリエンナーレ 2014 を、中学生がはじめて現代美術に接する好機ととらえ、全７校の授業を計画した。授業は講義（横浜美術館教育普及グループ担当）と制作（横浜美術大学ポコスチーム担当）のふたつで構成されている。講義では、展覧会の趣旨や作品をわかりやすく紹介し、制作では古着の布を使った立体造形・ポコスを各自が制作することで、展覧会に行く動機付け、および来場の際に内容を理解する一助となるような授業を実施する。

主な内容

ヨコハマトリエンナーレ 2014 紹介・ポコスワークショップ
※同内容を２日間で各クラスに実施

アーティストから

感受性豊かな中学生に「ものづくり」をダイレクトに教えることができて大変有意義な授業ができたと感じている。現代美術は難しいものと考えがちだが、美術館の職員からの説明を聞くことと制作が直結していたのでたいへん親しみやすく「意味」について考えることができたのではないだろうか。作品を制作することは自身が楽しむこと、難しさをクリアする満足感から得るものが大きい。ポコスをつないで大きな作品になることを楽しみにしてくれている生徒達に「美術の力」をもっと与えてあげたい。

コーディネーターから

講義と制作の各担当が短時間でわかりやすく伝える工夫をしたので、授業内に作品を完成させることができた。また美術教諭の事前授業により、生徒の理解力も高かった。皆が同じ方法で制作したので、作業が遅れぎみの生徒には早く仕上げた生徒が補助するという場面もしばしばみられた。授業を受けた中学生がどの程度ヨコハマトリエンナーレ 2014 を訪れたかは調査し難いが、個人観覧も組み込んだプログラムだったため、中学生の来場者数増加につながった。中学生が現代アートと出会う機会を促すことができたと考える。

先生から

学校の外部の方に授業していただくことで、教員も生徒も外に目を向けることができる機会になったと思いました。また、今回は横浜トリエンナーレとの関連プログラムということで、子どもたち自身に美術を身近に感じてもらえるきっかけになったと思います。

子どもたちから

大学の人との交流ができてよかった。／共同で作品をつくることはあまりないので良い体験になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立中村特別支援学校＋ART LAB OVA
なかむらアートライブ

担当アーティスト	ART LAB OVA(アーティストグループ)
実施校	中村特別支援学校(南区)
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／現代美術／全学年全学級 69 名
実施日程	2015 年 1 月 21 日(水)、1 月 22 日(木)、1 月 23 日(金)

授業のねらい

外出など、様々な経験をしたり、いろいろな人に出会ったりする機会の少ないこどもたちなので、ふだん学校では体験できないことを体験させたい。特に五感に訴えるような試みを考える。今年は特にその場にいる人全員でライブ作品を制作した。

主な内容

＜１日目＞光・音・ダンスなど五感を使った場を共有することによる映像作品の作成。＜２日目＞光・音・ダンスなど五感を使った場を共有することによる映像作品の作成。＜３日目＞光・音・ダンスなど五感を使った場を共有することによる映像作品の作成。

アーティストから

暗い空間の僅かな変化を際立たせる為にダンサーとして身に纏う素材や動静を工夫した。予想以上に子どもたちや先生方の集中が深まっていくのを感じた。見え難い中でダンサーに触れる、身を乗り出し動きを追う姿や感想を言う、笑う、などの反応があり、時間とともにそれも変化した。非日常の経験を通し微細な感覚を使う事や、「教える」のではなく個々の感受性に任せる時間を持つ事は他者と関わる上で基本となる重要な体験だと改めて感じた。【ダンサー：大森彩子】

感覚の網の目に静かに訴える事で、環境に対して知覚の幅を広げ、奥行きを感じ取る力を育む試みをした。室内の全ての人に参加をしてもらうことで、そのための緊張感を授業に取り入れることができた。皆が作り出す空間の中、子どもたちの発する音や声だけが浮かび上がり、こども同士の刺激を喚起させる場ともなった。知覚に対するアプローチは芸術の仕事そのものともいえる。継続する事でこどもの可能性を広げることになるだろう。【音楽家：スズキクリ】

何人か「暗い中では緊張して発作が起きる」と聞いていたが、結局、途中退出した子はほとんどいなかった。ドレスコードを設けたので父親の背広で決めて来た子がいた。闇に踊るリボンの美しさに気づいた子。声もない暗闇で先生を特定した子にはみんなが驚いた。今回の試みはそのまま舞台にもできる先駆的なもので、先生たちの戸惑いもあったが、それだけに通常学校ではできない授業として、芸術家が入った意義のある活動だと思う。【アーティスト：蔭山ヅル】

子どもたち自身が身につけることで、それぞれのかたちや動きが、暗闇の中で微かに光る装置を制作した。微かな光が、静寂と共に徐々に消えて行く様を見ながら、周囲の友人や大人たちの発する気配を感じ、探る様子は、彼らの日常から少しはみ出した、特別な体験となったはずだ。無を意識する状況を誰かと共有することは、言葉以外で何かを共有し、自分を開放する重要な機会である。【美術家：岩塚一恵】

子どもたちの微かな反応を引き出しその瞬間を定着するために写真撮影をした。暗闇の中でかすかに聞こえる鈴や木片のふれあう音、ダンサーの踊る気配、呼吸器の規則正しい音、蓄光塗料のひもや手袋のかすかな光。我々も、子どもも初めての体験。子どもたちの本当の気持ちはだれもわからない。暗闇の中の不安な気持ちや安堵感、本当の気持ちを伝えられないもどかしさ。彼らのそのような気持ちを共有できる場で、見えない何かを記録した。【映像作家：大津伴絵】

障害が様々だということもあるが、暗闇と微かな光、静寂と音に対する子どもたちの反応は、ビデオで記録しながら注意深く見るとじつに多様で、それぞれの「個性」というものを強く感じた。怖がって泣き出すだろうと事前に言われていた子どもが意外に平気だったりと、学校や家庭での日常にはない環境を作り出し、そこに身を置いてみることで、子どもたちを知悉している先生方にも新たな気づきや発見があったと聞いた。【映像作家：安藤順健】

コーディネーターから

「体験」から「制作」へシフトした昨年の流れをくみ、4 年目の今年も制作に焦点を当てた。渉外担当の先生が変わったが、新しい担当を始め、教員の半数が過去の活動を体験していたので混乱もなかった。先生のための事前説明会や企画書に明記した「ねらい」も功を奏した。またこどもたちの主体的な参加を求めたことにより、やっと各自の状況も見えはじめた。重度心身しょうがい児のための双方向性の授業の開発は困難だが、継続により少しずつ成果が表れている。

先生から

子どもによっては、日常的ではない空間を抵抗なく受け止め受容できたり、感情を表出したりするなど効果的な刺激になった

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立上菅田特別支援学校＋ST スポット横浜
たゆたう音楽、光―時間と空間

担当アーティスト	ドゥイ(造形作家)、テニスコーツ(音楽家)
実施校	上菅田特別支援学校(保土ケ谷区)
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／創作／高等部 1 学級 22 名
実施日程	2015 年 1 月 13 日(火)、1 月 20 日(火)、1 月 27 日(火)、2 月 3 日(火)

授業のねらい

感覚を媒体とした身体意識の形成。社会性・認知・コミュニケーション能力の拡大。身体で感じ、刺激をうけることのできるような取組。五感を使って空間にひたれるような時間にしたい

主な内容

＜１日目＞アーティストと出会う。紙を題材にとして、視覚と聴覚、両方からのアプローチを試みる。＜２日目＞音、音楽と出会う。風船を題材にとして、視覚と聴覚、両方からのアプローチを試みる。＜３日目＞光、動きと出会う。ミラーボールやプロジェクターを使い、視覚的に変化を感じる。＜４日目＞これまでの総括。一人一人との関わりを深める。

アーティストから

とても楽しく、いろんな刺激や発見がある体験をさせていただきました。初めのうちは、言葉はあまり使えないと思っていたんですが、回を重ねるごとに、言葉ではそもそも伝わらないなにか、みたいなことを意識させられるようになりました。私たちがいろんな事を受け取ったように、彼らの中にも、なにか、が残っていたら嬉しく思います。毎回、直前までなにをやるか決められずにいたにも関わらず、フレキシブルに対応して頂いた先生方にも感謝します。(ドゥイ)

僕は最後には、自分のほうが生徒になったような気分でした。もしくはお客さんかな？最後の回、教室で僕らは準備して待ってて、生徒さん達が入ってきた時、舞台を見てて出演者が登場した時のような感じを受けました。そのぐらい毎回が驚きや喜び、その他の感情でいっぱいになりました。こんな機会に出会うことができて、本当に感謝です。もう子どもたちに会えないのがさびしいです。(テニスコーツ)

コーディネーターから

重度重複障害を持つ生徒に対して、視覚と聴覚、両方からのアプローチを試みました。紙をちぎる音を楽しんだり、ちぎったものを上からつりさげたり、身近な素材を美術と音楽の両面から活用していきました。様々なアプローチを行うことで、子どもたちへアクセスする回路を多様に展開しました。

先生から

自分が想像できる範囲を超えて、さまざまな道具を巧みに使う姿に、発想力の豊かさを感じた。このようにアイディア 1 つで慣れ親しんだ教材も全く新しい教材のようにできることが発見だった。参考にさせて頂き、生徒の心の真まで響かせ働きかける授業を心がけていきたいと感じました。

伝統芸能分野の取り組み

古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している
伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、
ふだん触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。
知らない世界と出会う楽しさがひろがります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立潮田小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！１

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、川野誠一（大蔵流狂言師）
実施校	潮田小学校（鶴見区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 4 学級 119 名
実施日程	2014 年 10 月 20 日（月）

授業のねらい
横浜市内で一番多国籍の学校で学び、多様な文化的背景を持った子どもたちに日本の伝統的な文化を生で体験してもらう事によってより一層の成長を促す事を目標とする。

主な内容
狂言「柿山伏」の鑑賞。所作等のワークショップ。

アーティストから
明るく反応の良い子どもたちでした。鑑賞態度もとても良かったです。また、ワークショップパートでも積極的に参加をしてくれました。

コーディネーターから
明るく積極的な子どもたちが多かったのが、印象的でした。日本文化の一端に「笑い」がある事を覚えて、この先の人生を楽しく歩んで欲しいな、と思いました。

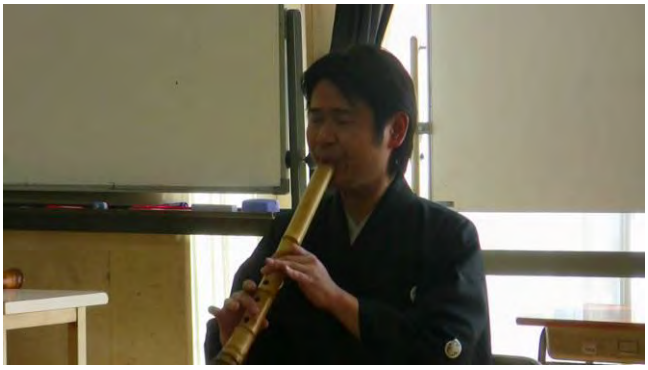
先生から
前任校では、久良岐能舞台まで子どもたちを連れて行っていました。行き帰りは大変ですが、鑑賞する価値があると思っています。それはどういう価値かというと、ふだんあまりふれることのない伝統文化にふれ、感受性を豊かにするということ、そして、いろいろな仕事があり、それを楽しむ人にふれることで、自分の夢についても考えていけるということです。

子どもたちから
狂言がおもしろいと感じた。他の伝統文化についても知りたいと思った。／大変なこともあると思うけど、仕事を楽しんでいるように感じた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立岸谷小学校＋サルビアホール
さわってみよう！日本の楽器

担当アーティスト	田嶋謙一（尺八奏者）、日吉章吾（箏奏者）
実施校	岸谷小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／尺八／6 学年 2 学級 49 名
実施日程	2014 年 12 月 9 日（火）



授業のねらい

日本の伝統的な和楽器・尺八と箏の体験および鑑賞を行う。実施時間の半分は、尺八と箏に実際に触れ、音を出してみる。残りの半分は尺八の古典曲を中心とした鑑賞会。可能であれば、ごく簡単な箏のフレーズを児童に演奏させ、尺八で即興の伴奏をつけるところまでできたらよい。

主な内容

耳慣れた邦楽「春の海」の演奏。／学校の箏、講師持ち込みの尺八に全員触れてみる→代表６人と講師で合奏。／尺八と箏の歴史、構造などの説明。／尺八と箏の古典曲、現代曲を演奏。

アーティストから

学校に箏が６面あるがほぼ使われていないということで、今回は「触る」ということに重点を置いて内容を決めました。どのような構造で何からできていて、こうしたら音が出る、ということが理解できる学年だったので、興味を持って体験してもらうことができ、また合奏もかなり綺麗に音をそろえることができました。達成感を感じてもらえたのではと思います。時間が短かったので本格的な曲を聴いてもらうことはできませんでしたが、今度は是非ホール公演に足を運んでほしいと思います。

コーディネーターから

体験のコーナーは尺八を触るチーム、箏を触るチームに分けて体験してもらっていたが、時間をうまく使って両方に触ることができた。尺八の竹の質感や、胴を響かせる箏の音色を全員に感じてもらうことができて良かったと思う。

先生から

我が国の音楽について、子どもたちの興味や意識がうすいことから。実際目の前で生の音楽にふれることができたことは大変よい経験となったことと思います。私も「春の海」を生で聴け感動しました。

子どもたちから

尺八がふけてうれしかった。／箏がひけて楽しかった。／楽器の難しさを感じた。／お正月によくきく「春の海」を生で聴けてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立汐入小学校＋サルビアホール
日本のカッコイイ音楽

担当アーティスト	ＷＡＳＡＢＩ（新・純邦楽ユニット）
実施校	汐入小学校（鶴見区）
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	鑑賞型／邦楽／全学年 10 学級 196 名
実施日程	2014 年 11 月 19 日（水）

授業のねらい

民謡や古典の要素を使いながら、今の感性にあったアプローチで「和のカッコイイ」音楽を子どもたちに届ける。

主な内容

ＷＡＳＡＢＩの演奏を鑑賞。「ふるさと」など子どもが知っている曲から、オリジナル曲まで幅広い選曲。各楽器の解説なども交え、短いながらも濃い内容だった。

アーティストから

沖縄にゆかりのある子どもが多いという事で、三線を知っている子が多いのは驚きました。そこから派生して伝わった三味線に興味を持ってもらえたようで良かったです。手拍子やコール・アンド・レスポンスにもノリよく応えてくれ、和楽器の一般的なイメージとは違った楽しみを知ってもらえたと思います。

コーディネーターから

邦楽の演奏という事で「おじいちゃんが来ると思っていた」という子どもたちには、思いもよらない内容だったようで、序盤は舞台に上がったメンバーを見て驚き、演奏を聞いては圧倒される、という様子だった。途中、クイズを交えた和楽器の説明や気さくなトークに親しみを持ち、最後はスタンディングで拍手をするほどの盛り上がりを見せた。邦楽のイメージとの意外性・演奏内容の濃さなど、児童の印象に残る公演となったと思う。

先生から

学校の行事として扱わなければこのような文化的なプログラムに触れる機会がない子どもたちが多い。そのためこのようなプログラムは大変ありがたいです。内容的にも本校の希望に沿って高いレベルの企画をいただいて大変うれしく思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立寺尾小学校＋サルビアホール
狂言のおはなし

担当アーティスト	松本薫(大蔵流狂言師)
実施校	寺尾小学校(鶴見区)
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 105 名
実施日程	2014 年 11 月 7 日(金)

授業のねらい

ふだんの生活では触れることのない「狂言」について判りやすく解説する。
・歴史の話
・歩き方・動物の物まねなどの独特な表現手法の実践。
・児童にも狂言での「笑い方」を伝授し、みんなでやってみる。
・その他、児童の反応を見ながら講師が様々な手法で狂言の楽しさを伝える。

主な内容

・狂言のなりたち、歴史の話
・笑い方、歩き方、動物の物まねなどの独特な表現手法の実践。
・その他、児童の反応を見ながら様々な手法で狂言の楽しさを伝える。
・２班に分かれ、国語の教科書に載っている「柿山伏」の節回しを掛け合いで実践。

アーティストから

小学生を相手にワークショップをするということはなかなかないのですが、子どもたちの素直な感性に助けられ、楽しい時間を過ごせました。こちらから投げかけるとすぐに言ってみる、やってみる反応があり、恥ずかしがることなく大きな仕草、声で見せてくれました。狂言の所作を通じてその楽しさを感じてもらえていたようで嬉しいことでした。

コーディネーターから

テレビですらほとんど見る機会が無い狂言を小学生がどう捉えるか心配だったが、逆に先入観なく受け入れてもらえたようで、講師の呼びかけに反応も良く、楽しく体験してもらえたと思う。立会いの教師も一緒に参加し、終わった後に「実際の狂言を観てみたくなりました。どこでやっていますか？」という質問が出たのは嬉しかった。このワークショップに続けて１演目でも実演ができればなお良いと思った。

先生から

国語の狂言「柿山伏」では、ＣＤで声を聞くことができたが、やはり目の前で演じていただくと声量や表情・身ぶりなど、ＣＤとはまったく別のものであった。狂言の成り立ちや身振りの意味についてもお話をしていただき、とても参考になった。一流の「人」から学ぶこと、感じることが大切だと思った。

子どもたちから

家でもまねをしてやってみた。／狂言のわからないところを教えてくれてうれしかった。／声の迫力がすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東台小学校＋サルビアホール
箏について知ろう

担当アーティスト	鎌田美穂子(箏奏者)
実施校	東台小学校(鶴見区)
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／4 学年 5 学級 150 名
実施日程	2014 年 12 月 15 日(月)、12 月 16 日(火)、12 月 18 日(木)

授業のねらい

日本の伝統的な和楽器・箏の体験および鑑賞を行う。
箏の体験・箏の唄を唄う・皆で演奏する・皆で聴きあう・聴きあった後称賛する気持ちを自然に持たせる

主な内容

＜１日目＞箏のレクチャーコンサート、箏の体験＜２日目＞箏の体験＜３日目＞箏の発表会、講師演奏

アーティストから

３日間、充実した楽しいアウトリーチになりました。初めて触れる箏を 45 分間の練習で発表するというのはハードルが高かったと思いますが、子どもたちはみんながんばってくれました。

コーディネーターから

１日目のレクチャーコンサートでは、中には興味のなさそうな子もいたが、体験後の３日目の講師演奏ではみんな目を輝かせ、身を乗り出して演奏を聴いていたのが印象的だった。12 月 17 日に１日空けたことで、講師の模範演奏の録音を聴いたり、曲のことを図書室で調べたりしてくれた子もいたようだ。子どもたちの箏への興味が３日間かけて確実に増していき、成長していく様子が感じられて有意義なプログラムとなった。

先生から

コーディネーターのサルビアホールの担当の方がていねいにこちらの要望に対応して頂きました。曲選び、参加型またプロの迫力ある演奏を鑑賞し、プロの演奏に触れる機会も頂けました。限られた時間の中でことの演奏を（１曲）仕上げるのは大変だったのですが、子どもたちが集中して取り組んでいたので満足感を得る子も多かったと思いました。

子どもたちから

日本の伝統の楽器を弾けた。／一人で箏を弾けて、となりの人もうたっていた。／箏の音がこんなにきれいだとは知らなかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浦島小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
みんなで「さくら　さくら」

担当アーティスト	吉澤延隆・清水有里沙(箏奏者)
実施校	浦島小学校(神奈川区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 2 学級 52 名
実施日程	2015 年 1 月 8 日(木)、1 月 13 日(火)、1 月 15 日(木)

授業のねらい

箏に実際に触れる事で、西欧の楽器とは異なる日本の伝統楽器に親しみをもってもらいたい。また、講師の演奏を聴いたり、楽器の特徴を学ぶ事を通して、箏への興味を持ちながら、自分たちで音色の良さを感じ取ってもらいたい。

主な内容

＜１日目＞基本奏法として「さくら」の主旋律を練習＜２日目＞主旋律に対して伴奏をつける＜３日目＞即興演奏も取り入れた実習と発表

アーティストから

今回の授業では、初日は鑑賞、楽器紹介に≪さくら　さくら≫の体験と発表、２日目は「さくら さくら」をもとに伴奏パートも担当する合奏体験、最終日は紙、割り箸やドラムスティックなどでの即興演奏の実習と発表を行い、３日間それぞれの授業で子どもたちが自発的に楽器へ取り組めるようにすることを中心に行いました。クラスメイトの前でのグループ発表では、少し躊躇してしまう子もいたため、そういったことを講師がフォローする必要もありましたが、全体的には３日間とも楽しんで授業参加してくれていた姿が印象的でした。

コーディネーターから

担当の先生も児童も昨年度の邦楽プログラムを体験していた為、児童は初日から戸惑う事なく「さくら さくら」を演奏し、先生からは難易度を上げた内容へのリクエストがありました。３回の体験を通して、紙や割り箸など、楽器以外の素材との融合や、即興要素も組み合わせ、新鮮な音楽の体験に繋がったように感じられます。

先生から

子どもたちは、体験を通してクラスごとに１曲発表することになったのですが、完成させたい思いが強かったので、練習時間が（結果的に）短く、「箏が難しい」と思うことも多く見られたのが残念だと思うと同時にこんなに真剣にとりくんでいたんだと感心させられることがありました。

子どもたちから

先生の演奏がとてもよかった。／自分で音を見つけられておもしろかった。／箏の歴史がよく分かった。／色々な音が出せて楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立神橋小学校＋神奈川県立音楽堂
雅楽を体験してみよう！

担当アーティスト	中村仁美(篳篥奏者)
実施校	神橋小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／雅楽／6 学年 3 学級 92 名
実施日程	2014 年 7 月 11 日(金)、7 月 14 日(月)、7 月 15 日(火)

授業のねらい

なかなか触れることが出来ない日本の伝統楽器とその音楽に、１度きりの鑑賞ではなく、演奏体験を通して親しむ。演奏だけでなく、歴史についても学べる内容がよい。

主な内容

＜１日目＞模範演奏、３種類の楽器について知る。「越天楽」を唱歌し篳篥か笙に触れる。＜２日目＞「越天楽」を篳篥か笙で吹いてみる。鞨鼓を叩いてみる。＜３日目＞「越天楽」の合奏を発表する。

アーティストから

３日間の篳篥・笙の演奏を通して、楽器を手にとって息を入れて振動させる感覚を味わうこと、音を出す面白さと難しさを知り、そして、雅楽の音楽を体で体験することで、「日本の良さ」や「日本らしさ」について考えるきっかけをつくりたいと思いプログラムを組みました。初めて楽器に触れた初日から３日間という短い時間ではありますが、私たちのアドバイスを素直に吸収し成長して行く姿に、本当に感心し感動しました。

コーディネーターから

西洋音楽中心の音楽授業が行われている中、教諭らがとても熱心に取り組んでくれ、児童にはサプライズで装束を着用してくれたりと、盛り立ててくれました。小学校、音楽堂、アーティスト３者の協力により、良いワークショップを提供することができました。また、子どもたちが目標に向かって真剣に取り組み、最後の演奏を終えてたち成感に満ち溢れた笑顔を見せてくれたのが印象的でした。

先生から

ちょっとかじったような教師が指導するのではなくその道のプロの方に教えていただくことで子どもたちの真剣度も違ってきます。またプロの方が醸し出す雰囲気、一挙手一投足にも意味を感じることができました。体験することは何にも勝る学びだと考えます。

子どもたちから

見たことのない楽器だったので楽しかった。／昔の楽器にふれて貴重な経験になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立中丸小学校＋かなっくホール
古典芸能を体験しよう！お能の世界

担当アーティスト	友枝真也(能楽喜多流 能楽師)
実施校	中丸小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／能楽／6 学年 3 学級 115 名
実施日程	2015 年 2 月 2 日(月)、2 月 3 日(火)、2 月 4 日(水)

授業のねらい

子どもたちの感性（感覚力と創造力）を高め、自己表現の面白さとグループ活動の楽しさを体験させる。また、実技体験を通じて、日本の美徳知識を身につけ、古典芸能が現代に伝承される意味を知り、日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。

主な内容

＜１日目＞能についての講話、実演鑑賞＜２日目＞笛の体験＜３日目＞太鼓の体験

アーティストから

今回は非常に時間が限られた中でのものだったので、能の魅力がどのくらい児童の皆様に伝わったか心許ないですが、子どもさん向けの公演も行っていますので、今回のワークショップがきっかけとなり、ぜひ一度、生の舞台を見に来ていただれば嬉しいです。

コーディネーターから

子どもたちにお能を通じて少しでも日本文化の根本を感じていただける時間を作りたいと思いました。それを短時間でどのような方法で子どもたちへ伝えるのか難しい課題ではありましたが、本物さながらのお稽古として、自分の身体を使って体験するという内容にしました。「古からの心」の部分が少しでも子どもたちが感じてくれていれば嬉しく思います。

先生から

伝統芸能という分野から設定していただいたおかげで、総合とのかかわりを含めて教科をまたいだ学習の機会を得ることができました。ふだんの生活ではできない経験をさせていただき、あらためて日本のもつよさについて触れてみたい、学びたいと強く感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立本牧南小学校＋Offsite Dance Project
３日間の弟子入り体験

担当アーティスト	川野誠一(大蔵流狂言方)
実施校	本牧南小学校(中区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／狂言／6 学年 2 学級 44 名
実施日程	2014 年 12 月 10 日(水)、12 月 11 日(木)、12 月 12 日(金)

授業のねらい

国語の教科書で取り上げられている狂言「柿山伏」をテーマに３日間の体験授業を実施。最終日には、子どもたちの成果発表と講師による実演を行い、全校生徒が日頃接する機会の少ない狂言を通して、現代につながる古典芸能のすばらしさと可能性をともに体験する機会にする。

主な内容

＜１日目＞挨拶、狂言の基礎を学ぶ（姿勢・歩く・発声）＜２日目＞挨拶、狂言の表現を学ぶ（動物や感情の表現）＜３日目＞挨拶、復習、クラスごとの発表／全校生参加：講師による実演

アーティストから

昨年に続き、６年生に狂言を体験してもらいました。昨年は現代劇を意識した狂言ワークショップでしたが、今年は狂言そのものを体験してもらう WS を行いました。先ずは、古典の形式である、師匠と弟子という関係を感じてもらう為、きちんと正座をしての挨拶から始め、そのまま狂言の歴史や表現方法に付いてレクチャーをしました。みんな驚くほど正座が上手で、先ずはそこから感心させられました。他の学校でもやってもらいますが、正座は、なかなか上手く出来ない子が多いのです。今回は３日間という日程があった為、初日はレクチャー後、狂言の構えからの摺り足、発声まで。２日目は、謡いと小鼓とで古典音楽の間を感じてもらい、狂言の感情表現から動物の鳴き真似まで。３日目は、それぞれのクラスに「柿山伏」のシーンを全生徒の前で発表してもらい、最後に僕と今井尋也さんで「柿山伏」を小鼓入りで上演しました。子どもたち、全体の印象としては、大きな声を出す事が難しいようでした。どうしても自分発進が苦手で、人に合わせようとする傾向が見受けられます。リードしてくれる子が現れると一気に盛り上がるのですが。それでも狂言の感情表現や鳴き真似の部分ではかなり WS は盛り上がりました。大きな声は出なくともコツを掴むのは得意なようでした。「柿山伏」は教科書に載っているとは言え、どういう風に喋るのか？どういう風に表現するのか？まではなかなか難しいものです。ですが今回の WS で、子どもたちは、この「風」を感じてくれたのではないでしょうか。表現の基本は「ごっこ遊び」。今回のワークショップで、子どもたちの遊びの発想の中に「狂言」が生まれてくれたらとても嬉しいことです。最後はまた正座でご挨拶をして、３日間の師弟関係は終了。初日に比べ、正座する子どもたちの姿が少しばかり凛として見えました。

コーディネーターから

コンテンポラリーダンスを専門として授業を行っている当団体としては、挨拶、姿勢、発声といった狂言の基礎が子どもたちの体づくりや日常生活に非常に有効だと実感していたため、３日間の体験授業の核として実施。その後、表現～発表へと展開。また、実施学年以外の生徒や先生が狂言を学ぶ機会として、最終日に時間割を変更して全員参加の鑑賞プログラムを組み入れました。学校側の理解で柔軟な時間割を組むことができ、また先生方も積極的に授業に参加されたことで、さらに素晴らしい授業を展開することができたと思います。「大きな声を出して初めてわかることがある」というアーティストの言葉は、ダンス表現においても同様で、コーディネーターが専門分野以外のアーティストから学ぶことは多く、ともに共同してプログラム開発することが重要だと思います。

先生から

国語の教材として「柿山伏」をどのようにして教えるか模索していたが、その最も効果的な学習方法が「プロに学ぶ」「本物に触れる」ことだと痛感しました。ライブ感、プロから実際に聞く話、自信演じる動作など、どれもが児童の主体的な学びにつながっていました。児童は、教科書の字面だけでなく、総合的な貴重な学びが得られました。そして、それは我々教職員にとっても同様でありました。

子どもたちから

正座などの姿勢がきつかったけれど、楽しく学べた。／他の狂言も見てみたい。／教え方がとても上手だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立藤の木小学校＋関内ホール
お箏を体験しよう１

担当アーティスト	荒井靖水(薩摩琵琶奏者)、荒井美帆(箏奏者)
実施校	藤の木小学校(南区)
コーディネート	関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 3 学級 93 名
実施日程	2014 年 10 月 21 日(火)、10 月 24 日(金)

授業のねらい

日本の文化の美しさや所作などに触れる事で、新たに表現力や創造力を発揮できるようにする。また、みんなで協力して演奏し楽しむ。

主な内容

＜１日目＞お箏ってどんな楽器？ 「さくらさくら」を演奏しよう！＜２日目＞練習の成果を発表しよう！

アーティストから

楽譜が漢数字なので、音符に抵抗のある子でも苦手意識なく臨めたと思います。また全員が同じスタートなので協力していたと思います。最後に講師演奏を少ししたのですが、授業で実際に体験してるので鑑賞するときに身近に感じて聞いてくれた印象があります。子どもたちが積極的に参加してくれたと思います。６年生なので、歴史についてもよく理解して授業の理解度、技術の成長が早くびっくりしました。また２回目は授業参観だったので講師演奏はしませんでしたが生徒から「演奏してほしいと言われ」うれしかったです。

コーディネーターから

日本の伝統音楽であるにもかかわらず邦楽＝難しい・敷居の高いイメージがありますが、今回の授業ではお箏クイズなどを取りいれた楽しいお話を中心に練習が行われました。６年生という事もあり理解が早かったので、上達もとても速かったように感じました。４人１グループでの練習でしたが、グループ内で教え合い協力して曲を作り上げていく姿が見られたことはとても良かったです。また、担当の先生のアイデアで、リコーダーを取り入れ、楽器の音色の違いなども学習に組み入れられた事は、講師にとっても新しい手法の１つの提示になったと思います。

先生から

６年の楽器では「春の海」の鑑賞があります。箏についてこの体験学習がなければ、ＣＤのみの学習となります。実際に楽器に触れ、演奏できたことは最高の学びになったと思います。コーディネーターの方には、授業に至る様々な準備をしていただきました。講師の方々も児童にわかりやすく、興味深い内容でクイズ形式で説明、実際の演奏もしていただきました。４人１組の人数設定も丁度よかったと思います。私自身楽しく箏をひくことができました。

子どもたちから

日本の伝統的な楽器にふれ、演奏することができてよかった。／友だちと協力して演奏したことが思い出に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南小学校＋吉野町市民プラザ 身体で感じる「日本の響き」

担当アーティスト	奥田雅楽之一(地唄三弦・生田流箏曲演奏家/作曲家)
実施校	南小学校(南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 4 学級 90 名
実施日程	2014 年 12 月 8 日(月)、12 月 9 日(火)、12 月 10 日(水)

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「箏」を通して伝統文化に触れ、伝統の中にある創造性を身体で感じ、芸術を味わう力や感受性を育てる機会となることを目指します。また、芸術性の高い演奏を身近に感じ芸術体験の場とするとともに、実際に楽器に触れ１曲をクラス全員が演奏できるよう練習し発表する中で、クラスの連帯感と個々の達成感を育みます

主な内容

＜１日目＞箏について学び触れてみる、曲の練習＜２日目＞三味線について学ぶ、曲の練習＜３日目＞「日本の音」について考える、合同発表会

アーティストから

箏を教材とした授業を通じ「身体で感じる『日本の響き』」を学習目的といたしまして、小学校６年生を対象に３日間講義させていただきました。短い期間の限られた時間内で演奏を習得することは、学習能力の高い６年生とはいえ決して容易ではないことではないと思います。しかし、子どもたちは熱心に取り組んでくれ、最終日の発表会では楽譜を見ないで演奏できる人も見受けられるなど、期待以上の成果が得られたことに指導者として大変満足しております。

コーディネーターから

授業１日目、そわそわしながら教室に入ってきた子どもたちは、目の前に並ぶ８面の箏にわくわく、同時に緊張感も伝わってきました。講師のわかりやすい指導と箏の魅力で、日に日に子どもたちの集中力が増していった気がします。空いた時間にも少しでも練習をしようとする積極的な姿も多くみられ、３日間集中して箏について学べた時間だったのではないでしょうか。この経験が、邦楽や古典芸能に広く興味を抱くきっかけになれば幸いです。

先生から

今回の取り組みでは、日本の楽器や音楽を体験したことから、和の心を感じることができたように思います。２回の練習で、子どもたちは何とか演奏できる状態でしたが、みんなで心を合わせて演奏した箏の響きの美しさと、先生のすてきな伴奏で、とてもすばらしい音楽になり、感動しました。子どもたちも、満足しているのが伝わってきて、うれしかったです。そして、最後に先生方が、箏と三味線で演奏してくださった曲が、心に響きました。本物の演奏を聴かせていただき、日本の音楽のすばらしさを感じることができました。

子どもたちから

日本の楽器についてあまり知らなかったので、自分の国の文化について知れてよかった。／箏を弾くのは、最初は難しかったけどやっていくうちに弾けるようになって楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立今井小学校＋岩間市民プラザ
落語って楽しい！

担当アーティスト	金原亭馬治(落語家)
実施校	今井小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	岩間市民プラザ
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 2 学級 49 名
実施日程	2014 年 11 月 26 日(水)

授業のねらい

子どもたちが見聞きし、知識としては知っているけれども、ふだんはなかなか味わえない「落語」を間近に体験してもらう。「落語」を通して、想像する面白さ、自らが表現をする楽しさを知ってもらうことで、相手に共感する力、コミュニケーション力をのばす機会となるようにする。

主な内容

落語の所作を真似てみる。落語をきいてみる。

アーティストから

今回、今井小学校にお邪魔しまして、落語を口演させていただきました。岩間市民プラザのスタッフの皆様の御協力のもと、円滑に進行する事が出来ました。授業では落語の基本的な構造の説明から、実際の落語実演まで、子どもたちを飽きさせない事に重点をおいて進行させていただきました。こういう、取り組みを通じて、「落語は難しくない。面白いもの。」と、いう印象を生徒さんたちに持って、戴ければ担当させていただいた者としては幸いです。

コーディネーターから

金原亭馬治さんは子どもの落語鑑賞会や落語講座の講師経験がある噺家さんのため、今回のプログラムの構成もスムーズに決まりました。割り箸を使って落語の所作を一緒に演じてみましたが、蕎麦を食べたり、釣りをするなど、生徒たちそれぞれが自分なりに考えて楽しそうに演じている姿がとても印象的でした。後半の落語二席も笑い声がたくさん聞こえ、この授業をきっかけに落語って楽しいと感じてもらえたのではないかと思っています。

先生から

ふだん、何気なく発している言葉、使っているしぐさも、相手にどのように伝わっているのか、どのように伝えたいのかを意識することで変わってくる、ということを今回のプログラムで特に感じました。落語では、せんすやてぬぐいなど限られた小道具、目線や話し方で様々な場面、状況を演出する、そこには見てくれている人の心理を考えた細やかな配慮があります。これは我々教師が子どもたちに何かを伝えるときにもとても大切なことであり、それを学ばせていただきました。

子どもたちから

言葉や表現の仕方は、単純ではなくよく考えてするべき。それができればみんなが笑ってくれたり、わかってくれたりする。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立川島小学校＋横浜能楽堂
狂言を味わう

担当アーティスト	狂言方大蔵流　山本東次郎家(狂言師)
実施校	川島小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 98 名
実施日程	2014 年 9 月 22 日(月)

授業のねらい

・狂言の世界の奥深さ、面白さを感じること。
・動きや所作を味わうこと。
・ことばや音などの現代とは違う表現の仕方を体験すること。

主な内容

狂言「柿山伏」(大蔵流) 鑑賞、おはなし、ワークショップ(立ち方、座り方、歩き方など)

アーティストから

予想外に外国籍と思われる子どもが多く驚きましたが、素直に受け止めていただけたと感じます。

コーディネーターから

「じっとしていられないかもしれない」という担任の先生の心配をよそに子どもたちは、鑑賞はもちろん 50 分にわたるおはなしもじっと聞いていました。決して子ども向けではありませんでしたができなかったとしても、一流の芸に触れた経験は、後々まで心に残るのではないかと思いました。また、先生に本物を見ていただけたことも大きな成果ではないかと思います。

先生から

初めて狂言を見ました。教科書の資料・ＣＤでしか知らなかった狂言の世界が山本さんのお話や目の前で繰り広げられる狂言、体験などによって、ぐっと身近なものになりました。狂言をはじめ、日本の伝統芸能を見る機会はなかなかないので、子どもを含め、大人にとっても　とてもすばらしい時間になりました。

子どもたちから

日本の文化を知ることができたのでよかった。本物の柿山は、迫力があった。／学習したことが、目の前で見ることができたから。／笑い方、歩き方、話し方を教えてもらうことができたから。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立笹山小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！２

担当アーティスト	善竹富太郎、大藏教義(大藏流狂言師)
実施校	笹山小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／全学年 8 学級 129 名
実施日程	2014 年 11 月 19 日(水)

授業のねらい

子どもたちに伝統芸能に触れる機会を設け、彼らが成長した時に、伝統芸能に対する喰わず嫌いを起こさせないようにする。

主な内容

狂言「柿山伏」の鑑賞。所作等のワークショップ。

アーティストから

様々な学校を訪問しますが、今日の子どもたちは声も大きく、積極的にワークショップに参加してくれたので、非常に良い公演が出来たと感じております。

コーディネーターから

最初は１年生には少し退屈させてしまうかな？と思いつつ臨んだ会でしたが、意外な事に１～３年生は最初から低学年の子どもたちの方がノリノリでした。良い意味で「遠慮」を知らない世代の強さと素直さに自分の心配がただの杞憂でしかなかったことに気付かされました。小規模校で全児童が互いを認識して幼い頃から暮らしているためもあるのか、これまでお邪魔した学校よりも積極的にぶつかってきてくれた事にやって良かったな。と思える日でした。

先生から

国語の教科で 6 年生対象として「狂言　柿山伏」をお願いしていましたが、小規模校ということで、全校 120 名程度、1 年生からの鑑賞をさせていただきました。狂言師の方が、低学年にもわかりやすいように説明していたので、どの子にもわかりやすい内容になっていた。

子どもたちから

とてもおもしろかった。／わらいかた。／昔の言葉や歩き方。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立瀬戸ヶ谷小学校＋岩間市民プラザ 和太鼓にふれてみよう

担当アーティスト	和太鼓集団 撥當
実施校	瀬戸ヶ谷小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／和太鼓／2 学年 3 学級 85 名
実施日程	2014 年 10 月 23 日(木)

授業のねらい

日本の伝統楽器である和太鼓に触れ、太鼓の音の響きや、演奏する楽しさを感じてもらう。また、自分が演奏していないときでも、アーティストや友だちの演奏をみたり聞いたりすることにより、互いの違いや良さを認め合える関わりができるようにする。

主な内容

和太鼓鑑賞、実際に打ってみよう！

アーティストから

撥當の演奏を導入に、その後、実際に子どもにも和太鼓を体験してもらいました。まずは私たちが簡単なリズムを叩き、子どもたちが真似て繰り返す形式のワークショップを行った後、自由に思い思いに演奏をしてもらったが、子どもたちの形にとらわれない演奏は、私たちにとっても刺激的で、子どもも大人も共にワクワクした体験となったと思います。何よりも終わった後のニコニコした子どもたちの表情が、今回の取り組みを行って良かったと思わせました。

コーディネーターから

今回は鑑賞プログラムということで、太鼓演奏の鑑賞を予定していましたが、担当の先生より太鼓を演奏する機会も取り入れたいという要望があったので、アーティストと一緒にプログラムを考えました。全クラス鑑賞とせずに１クラス毎にプログラムを実施したことで、太鼓に触れる時間も多くとれ、１日プログラムとしては、とても密度が高い内容になったと思います。運営も当初より先生が積極的にプログラムに関わってくださったので、スムーズに進めることができました。

先生から

ふだんあまり触れる機会のない太鼓に触れてとても目が輝いていました。その後音楽の授業でまつりの太鼓のリズム作りの学習があったのですが、とてもうれしそうに、意欲的に取り組んでいました。毎年こんな機会があればうれしいです。学校に和楽器が少ないので大変貴重でした。太鼓のグループの方々との触れ合いもとてもいい体験になりました。

子どもたちから

初めて太鼓をたたいた！たたけたことがうれしかった。／音が響いてびっくりした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市市立藤塚小学校＋横浜能楽堂
狂言の世界に触れる

担当アーティスト	大蔵流狂言方 山本東次郎家(狂言師)
実施校	藤塚小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／狂言／6 学年 2 学級 63 名
実施日程	2014 年 10 月 27 日(月)、10 月 28 日(火)

授業のねらい

・日本のよさ、狂言のおもしろさを味わうこと
・知らない世界（現代とは違う、狂言独特のことばやしぐさ）を体験すること。

主な内容

＜１日目＞クイズ、狂言「柿山伏」(大蔵流）鑑賞、ワークショップ（立ち方、座り方、歩き方）＜２日目＞ワークショップ（扇の扱い方、声の出し方、感情表現、謡「蝸牛」）

アーティストから

たいへん元気のよいお子さんたちでした。２日間がんばっていただけました。

コーディネーターから

伝統芸能に詳しい校長先生の申し込みでした。一方、６年生担任の先生方は、狂言鑑賞もワークショップも初めてとのことで、お互いに少し不安を感じながらのスタートとなりました。担任の先生方への情報提供がより丁寧にできていればという反省点はありますが、２日間の体験の後、担任の先生が目を輝かせ、「ワークショップを取り入れるのは初めてでしたが、本物に触れるのはいいなと思いました」と語ってくださったことが印象的でした。

先生から

６年を担当する際、この狂言（伝統文化）の単元は、音読やＣＤ鑑賞だと子どももイメージしにくく、ビデオを使うことが多かったのですが、さすがに迫力に欠けて、理解はできても、感動・興味という点で弱いと感じていました。実演（しかもプロ）によって、理解、感動、興味のどれも満たすことができました。また機会があったらお願いしたいです。

子どもたちから

プロの方の動きはふつうに見えていたけど、やってみるとすごく難しく、プロはすごいと思った。／昔の伝統文化を受け継ぐのはいいことだと思った。／歩き方やせんすの使い方を体験できてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立星川小学校＋岩間市民プラザ 邦楽鑑賞教室

担当アーティスト	米澤浩・熊沢栄利子(米澤邦楽研究所)
実施校	星川小学校(保土ケ谷区)
コーディネート	岩間市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／6 学年 2 学級 66 名
実施日程	2015 年 1 月 14 日(水)

授業のねらい

・日本の伝統芸能に楽しみ、興味を持ってもらう機会をつくる。
・みんなで活動を行うことの楽しさや一体感を味わう場をつくる。

主な内容

尺八とお箏（箏、二十絃箏）の演奏と、それぞれの楽器の成立、西洋音楽との対比、古典、現代曲の演奏

アーティストから

今回のアウトリーチ実施校には「事前学習」をしないようにお願いしましたが、アーティストが行うアウトリーチにおいて内容が把握できない事前学習は弊害にもなりうるためです。45 分という限られた時間の中で伝えられることには限りがあるのは明白ですが、児童の皆さんの表情や反応を見ながらプログラムを進める中、即自的にその反応はアーティスト側に伝わってきます。知識獲得型のプログラムでは無く、「鑑賞」というかたちではあっても「体験型」のアウトリーチが実施できた実感を持ちました

コーディネーターから

子どもたちは尺八や箏に興味津々で、始まる前からワクワクしている様子が伝わりました。実際の演奏を間近で聞いたときの驚きや感動は、ずっと心に残るものになることでしょう。45 分の短い間でしたが、西洋音楽との対比や、どういう情景で曲が生まれたのかなど、ふだんとは違う新しい視点に気づくことができるプログラムだったと思います。担当の先生は、打合せの段階から細部まで色々気配りをいただき、快適に運営をすることができました。

先生から

素晴らしいプロの方の生演奏と子どもに寄りそいながら楽器や曲についてをとてもわかりやすくお話なされておだやかな鑑賞の時間を持つことができました。

子どもたちから

生演奏で日本古来の楽器の演奏が聴けてよかったです。／楽器の説明と箏や尺八についての日本の歴史にふれた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立汐見台小学校＋杉田劇場
箏を奏でよう

担当アーティスト	外山香(箏演奏家)
実施校	汐見台小学校(磯子区)
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 3 学級 120 名
実施日程	2014 年 12 月 10 日(水)、12 月 11 日(木)、12 月 12 日(金)

授業のねらい

当事業では、箏を体験することで日本音楽史への導入的側面も含め、対象児童が雅楽「越天楽」で触れた日本固有の伝統的な音楽や楽器の学習を発展させます。箏が、地域のまつりに登場するような太鼓等の和楽器に比べて直に見て触れることができる機会が少なく体験する価値が高い点と、音を出すこと自体は管楽器よりも幾分難しくない点、それに加え音が出る瞬間を目視できる点を児童の興味を呼び覚ます一助になるよう最大限活かし、敬遠せずに日本の伝統音楽の理解を深められるような事業を実施します。

主な内容

箏の楽器解説と簡単な奏法解説及び「さくら」の体験

アーティストから

現代では、邦楽器の音を耳にしたことはあるが目にしたことがない人が多いなど、邦楽というジャンルは非常にマイナーとなってしまった。そんな邦楽の将来を考えた時に、今回のような事業は草の根活動的側面から非常に重要だと思います。実施時間を１クラス２コマとしたことは、簡単な短い曲が１曲弾けるようになるという点で達成感を味わえるので、長すぎず短すぎず良かったと思います。今回授業を受けた児童の世代が主体となる東京五輪で、日本の代表的文化として邦楽を世界に紹介して欲しいです。

コーディネーターから

アーティストの話に対し真剣に話を聴くなど、邦楽に対して強い好奇心を持って授業に取り組んでいる児童が多かったのが印象的でした。授業に際し、児童に対してアーティストの紹介をするなど、コーディネーターがもっと積極的な役割を担うべきだったと感じました。

先生から

本校には箏が２面しかありません。今回 10 面お借りすることができ、子どもたちが思う存分演奏を楽しむことができました。今回の体験を通し、箏をもっとやりたい、習いに行きたい、学校の音楽の授業でも、もっとやってほしいとの声も聞かれ、たいへん有意義な取り組みとなりました。

子どもたちから

箏が竜をモチーフにして作られていることなど、箏の歴史が知れた。／音色が美しくてきれいだった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立釜利谷南小学校＋横浜にぎわい座 寄席をたのしもう

担当アーティスト	春風亭笑松(落語家)　鏡味初音(色物)
実施校	釜利谷南小学校(金沢区)
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／落語／全学年 13 学級 340 名
実施日程	2014 年 10 月 17 日(金)

授業のねらい

日本の伝統芸能である「落語」と「寄席芸」を全校で鑑賞。
独特な表現手法と魅力に生で触れることで、非日常の体験を楽しみながら、子どもたちの言語活動や表現活動の幅を広げる。

主な内容

小咄、落語、太神楽曲芸の鑑賞

アーティストから

ほとんどの人が、落語と寄席芸を観るのが初めてだったことと思いますが、とてもよく笑っていただきました。低学年の人には低学年の人、高学年の人には高学年の人の理解や納得がそれぞれにあって、笑いに繋がっているのだと思いました。

コーディネーターから

学校でのプログラムになれたアーティストの上手な導入もあって、子どもたちにとっては短くない時間にも関わらず、大半が集中して鑑賞してくれていました。鑑賞後も、講師や落語に興味を持ったり、マネをしたりする子どもたちも多かったので、非日常空間の体験という点では、効果が高かったと感じました。

子どもたちから

体育館が笑いにつつまれたことが思い出に残った。／見た事ない曲芸が見られてうれしかったです。／練習を頑張れば、あんなに長い物語もおぼえられるのだなとわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立富岡小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！３

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、前田侑太郎（大蔵流狂言師）
実施校	富岡小学校（金沢区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 94 名
実施日程	2014 年 9 月 2 日（火）

授業のねらい

金沢文庫等、日本の伝統文化の息づく金沢区に暮らす子どもたちに日本の伝統文化の一端を解り易いカタチで体験させる事を今回の目標とする。

主な内容

狂言「柿山伏」の鑑賞。所作等のワークショップ。

アーティストから

子どもたちのノリの良さ、元気の良さに助けられました。担当の先生からは前任校から続いて、２年連続でお声掛け頂いて有難く思っております。

コーディネーターから

ライヴでしか伝えられない事、その大切さ。アートの答えは一つではないと言う事の片鱗を伝えられたように感じます。教科書に載っているお話だけど、それが全部じゃないよ。これからもそうした事が伝えられるようなショーを創り続けたいと思いました。

子どもたちから

初めて狂言をみて　はじめは関心がもてなかったけれど実際に見ることでとてもおもしろいものだとわかった。今後、また見てみたい。／教科書で読んだだけではわからなかったことや動きがよくわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

西富岡小学校＋関内ホール
お箏を体験しよう２

担当アーティスト	荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、日原暢子（箏奏者）
実施校	西富岡小学校（金沢区）
コーディネート	関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／5 学年 2 学級 80 名
実施日程	2014 年 10 月 25 日（土）、10 月 28 日（火）、11 月 7 日（金）

授業のねらい

４人１組のグループで体験。友だち同士で協力して教え合う事も視野にいれ、コミュニケーションを図ると共に協調性を養う。
また、日本の文化の美しさや所作などに触れる事で、新たに表現力や創造力を発揮できるようにする。

主な内容

＜１日目＞お箏ってどんな楽器？／「さくらさくら」を演奏・発表をしよう！＜２日目＞新しい曲「カントリーロード」を演奏しよう！＜３日目＞練習の成果を発表しよう！

アーティストから

楽譜が漢数字なので、音符に抵抗のある子でも苦手意識なく臨めたと思います。また全員が同じスタートなので協力していたと思います。最後に演奏を少ししたのですが、授業で実際に体験してるので鑑賞するときに身近に感じて聞いてくれた印象があります。３回の授業があったので課題曲２曲を体験してもらいました。２曲目は難しい曲をあえて用意しましたがそれが生徒の火をつけたように感じとてもうれしかったです。子どもたちの秘めたる力を感じましたと同時に上限をこちらが予測してはいけないことを教えてもらいました。

コーディネーターから

日本の伝統音楽であるにもかかわらず邦楽＝難しい・敷居の高いイメージがありますが、今回の授業ではお箏クイズなどを取りいれた楽しいお話を中心に練習が行われました。児童の皆さんもとても興味を持って取り組んでいました。４人１グループで１面のお箏を使用しての練習方法で進みましたが、グループ内で児童同士が教え合う姿がとても印象的でした。また、曲は全曲ではなく一部分を練習し最後に合奏をする形でしたが、ほぼ全員が満足のいく演奏ができていたようでクラスの皆で演奏する連帯感と演奏ができた達成感というのが感じられました。また、お箏だけではなく薩摩琵琶の紹介・演奏もあり、日本の伝統音楽・文化に触れるよい機会になったと思います。

先生から

４年生で学ぶ「さくらさくら」では、箏は写真で学習するのみが多く実際に子どもが体験できる機会はなかなかありません。5 年生で、生の箏の音色を聴いたり体験することができ、6 年生の「春の海」の学習へもつながると思います。

子どもたちから

はじめての体験で、箏のことを知ることができた。箏の楽譜が読めるようになった。／努力すれば何でもできると分かった。／ただひけただけでなく、自分の気持ちを表すことを知った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立日吉南小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！４

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、前田侑太郎（大蔵流狂言師）
実施校	日吉南小学校（港北区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 4 学級 129 名
実施日程	2014 年 9 月 9 日（火）

授業のねらい
実際の舞台を見せる事により伝統芸能に触れるきっかけづくりとする。

主な内容
狂言「柿山伏」の鑑賞。所作等のワークショップ。

アーティストから
子どもたちの理解力が高く、反応も早くてとても気持ちの良い授業が実施出来た。何年後かに彼らが能楽のファンとして能楽堂に来てくれるようになれば良いなと思いました。

コーディネーターから
地域性も大きな要因だと思うが、話題が少し年齢高めのものであっても子どもたちがしっかりついて来てくれて、きちんとリアクションをしてくれたことに少しびっくりしました。何よりも自分が面白いと感じた所で素直に笑ってくれたのがやっているこちらにとって何よりの心の報酬となりました。

先生から
今回は狂言「柿山伏」の鑑賞とワークショップを行っていただきました。生き生きとした豊かな語りかけで、狂言のおもしろさや伝統、約束事などについて教えてくださいました。実際に生で拝見した「柿山伏」は私自身も子どもたちも思っていた以上に迫力があり、心に響きました。子どもたちは日本の伝統文化「狂言」にとても興味がわいたようです。豊かな生き方の一助となるすばらしい体験をさせることができました。

子どもたちから
また狂言を見たいと思った。／本物の狂言を見ることができて、本当によい経験ができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南戸塚小学校＋さくらプラザ 落語とパントマイム

担当アーティスト	林家きく麿(落語家)
実施校	南戸塚小学校(戸塚区)
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／落語・パントマイム／2 学年 3 学級 100 名
実施日程	2014 年 10 月 29 日(水)、11 月 5 日(水)、11 月 7 日(金)

授業のねらい

ことばを使わないコミュニケーションを通して、相手の動きや気持ちを考える。グループで話し合いながら、パントマイムの体と表情で伝えるストーリーを考え、発表をしてもらい「相手に伝える」ことを意識してもらう。

アーティストから

パントマイムの基本から自分たちで工夫してストーリーを作っていて、それぞれが楽しんで取り組んでいたと思います。子どもならではの発想や動きはとても面白かった。最後には落語と仕草のワークショップもやりましたが、先生方も一緒に参加し、子どもたちとともに楽しむことができました。

主な内容

＜１日目＞パントマイムの基礎を学び、体験する＜２日目＞グループ発表＜３日目＞代表グループの発表／全員でパントマイム／“仕草”のレクチャーと高座

コーディネーターから

今回のワークショップは、低学年にパントマイムは少し難しいかもしれないという不安もあった。しかし、アーティストから『大事なことは「できた」かではなく「考えた」ということ』という話があり、グループごとの発表ではそれが体現できていたと感じる。グループで簡単なストーリーをつくり、どんな表情や動きで表現するかを考え、見ている人に伝えようとする姿勢がみえ、考えることができた。また、「演奏会」「運動会」などの小学校ならではのストーリーから「探検隊」まで、習った基本のパントマイムを自分たちで工夫し、発展させることもできた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立港南台第一小学校＋Media Global
落語の所作を楽しむ

担当アーティスト	林家木りん(落語家)、三遊亭わん丈(落語家)
実施校	港南台第一小学校(港南区)
コーディネート	企業組合 Media　Global
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語／6 学年 2 学級 70 名
実施日程	2014 年 11 月 5 日(水)

授業のねらい

演劇や伝統芸能系で、体を動かして表現できる活動。恥ずかしがらずにコミュニケーションをとりながら、みんなで一体感を味わうことができるとよい。

主な内容

２クラス合同で落語鑑賞と所作の体験。三遊亭わん丈さんの落語を楽しむ。手ぬぐいや扇子を使った落語の代表的な所作を全員が実際に練習。児童の中から数名が高座で発表。林家木りんさんの落語を楽しむ。

アーティストから

この度、港南台第一小学校で落語教室をやらせて頂きいろいろな発見をさせて頂きました。子どもたちの発想力、表現力など教えているこちらも学ぶところがありました。お互いに学ぶ大切さを改めて感じました。この落語教室で子どもたちにも伝統芸能である、落語に少しでも興味を持って頂けたら嬉しく思います。

コーディネーターから

初めて落語の授業を担当することになり、安全な高座の作り方から学びました。１日だけの短い時間でしたが、お二人の落語家さんの楽しい授業でした。６年生のみなさんも高座での発表も初めてと思えないほどしっかりできていました。みんなで伝統芸能を楽しんでいただけて良かったと思います。

先生から

国語の授業で狂言を学習しており、ちがう伝統文化に親しませたかった。「落語」を実際に見て聞くことにより現代に通じる昔の人のものの見方や表現の仕方、落語の面白さを感じとっていたようです。

子どもたちから

木りんさんとわん丈さんのコンビでの会話が楽しかったようです。／落語に興味がもてておもしろかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立港南台第二小学校＋荒馬座 和太鼓を体験しよう！

担当アーティスト	民族歌舞団荒馬座
実施校	港南台第二小学校(港南区)
コーディネート	民族歌舞団荒馬座
実施科目・教科名	音楽／総合的な学習
実施概要	鑑賞型／和太鼓／6 学年 2 学級 60 名
実施日程	2015 年 1 月 21 日(水)

授業のねらい

・和太鼓体験はほとんどの児童が初めてなので、どんな音がでるのか、どのように作られているのかなど、学習しながら楽しく体験する。
・友だちと一緒に叩く楽しさを味わう。
・プロの人たちが叩く音や演技を目の前で見ることで、表現力や和太鼓の奥深さを知る。

主な内容

思いきり叩いた時の音の響きと友だちと一緒に叩く楽しさ感じながら、プロの叩く表現に近づけるようにする。

アーティストから

おとなしい雰囲気の子どもたちだったが、話しはしっかり聞いており、座員が叩く時には集中して見てくれていた。口頭での説明でもすぐに実現できる所はさすが 6 年生。腰を落としてしっかり腕をあげて大きな音を出そうとしていた。恥ずかしさもあり、照れる場面もみられたが、後半ダイナミックな動きで、見本で見た座員の動きをまねて表現する姿が見られたのは嬉しかったが、もっと元気に叩けるよう盛り上げられると良かった。

コーディネーターから

思春期の難しい年頃の子どもたちが、初めての体験で恥ずかしさを上回る楽しさを感じる体験までになりきらなかったのではと感じていたが、どの子も楽しかったと話していたという連絡があり、ホッとした。心を解放し、表現する楽しさや協同する喜びは様々な活動の積み重ねの中で培われていく事を思うと、子どもたちの心を耕すさまざまな表現活動を数多く行なうことが大事だと感じた。

先生から

当日の子ども達の様子を見ていると、6 年生ということもあり、周りの目を気にして恥ずかしがっている子も多数いた。しかし、子ども達の感想を見ると、「本物の演奏は体に響いてきた」「音に迫力がある」「たたいてみると快感」「みんなの前での演奏ははずかしかったけど面白かった」…などと、本物と触れ合えなければ感じることのできないものであったと思う。保護者の方にも一緒に参加していただければよかった。

子どもたちから

初めて和太鼓をたたいて楽しかった。／友だちと協力して演奏できてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立小坪小学校＋ひまわりの郷
いろはに邦楽

担当アーティスト	渡辺由布子(箏奏者・講師)、渡辺峨山(尺八・篠笛奏者)
実施校	小坪小学校(港南区)
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／5 学年 2 学級 60 名
実施日程	2014 年 11 月 10 日(月)

授業のねらい

ふだん、体験の機会が少ない邦楽の鑑賞及び邦楽についての講義、体験を通じ、日本の伝統芸能・芸術のすばらしさ、奥深さを体感することで幅広い音楽、芸術等への感性を養う一歩として期待する。

主な内容

楽器（箏、三味線、尺八）の起源や歴史、奏法等などのレクチャー。箏、尺八による演奏。楽器体験。

アーティストから

限られた時間の中で、邦楽器（箏、尺八、三味線）、邦楽について、どれだけ生徒たちにに伝えられるか少し不安な部分もあったが、皆熱心に講義に集中してくれので用意した大方のプログラムをこなすことが出来た。邦楽と楽器の起源や歴史についても資料を基に説明したことで理解しやすかったのではないかと思う。なかなか、学校の中で邦楽についての教育は難しいと思うが、市の教育プログラムだけでなく、学校単位でこういった時間を設けることが出来れば、日本の伝統芸能などに、より興味を持ち、関心を持ってもらえるのではないかと思う。

コーディネーターから

今回のプログラムは校長先生が担当窓口で、最初の下見、打合せから本番終了まで熱心にご協力をいただき、とてもスムーズに進めることが出来た。会場も程よい広さで生徒の対象人数も６０名ということで、アーティストとも、より近い距離で接することができ、独特の「空気感」を味わえたと思う。生徒たちも楽器体験で音が出せたときはとても満足そうな顔をしていた。※学校にお箏が２双ありました。もったいないのでこれを機にぜひ活用できる場を設けてもらうことを願います。

先生から

ＣＤではない本物の音色で「春の海」を聴くことができ、子どもたちも真剣に聴いていた。体験コーナーもあったので、尺八の吹き方の難しさや、弦をつまびいてよい音を出す難しさを知ることができた。本校としては今年度初めて申し込んだのだが、来年度以降もぜひお願いしたいと考え、各学年に検討してもらっているところである。また、今回は管理職が対応したが、来年度は各学年、あるいは教務主任がコーディネートできるようにしていきたい。

子どもたちから

箏はおもしろいんだなと思いました。／尺八がなかなか音が出なくて、プロの人はすごいと思った。／プロの日本楽器を「生」で聞けてとてもうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立南本宿小学校＋横浜にぎわい座
落語の世界を味わおう

担当アーティスト	三笑亭可女次(落語家)
実施校	南本宿小学校(旭区)
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／落語／6 学年 2 学級 75 名
実施日程	2014 年 9 月 17 日(水)、9 月 19 日(金)、10 月 3 日(金)

授業のねらい

日本の伝統芸能である「落語」と「寄席芸」を鑑賞し、その独特な表現形態と魅力に触れることで、子どもたちの表現活動の幅を広げる。また、総合学習で行う地域の伝統文化の発表の機会に向けて、伝統文化への興味を掘り起こす機会とする。

主な内容

＜１日目＞落語実演・レクチャー＜２日目＞発表に向けたレクチャー・小咄・謎かけ練習＜３日目＞児童発表

アーティストから

今回６年生という事で、お年頃です。体験落語、高座に上がるのを嫌がる生徒さんもいるだろうと思っていましたが、皆さん恥ずかしながらも一人一人自分の考えてきた、調べてきた小噺を発表してくれて嬉しく思いました。これを機に言葉、会話の楽しさ、伝える事の面白さをちょっとでも感じてもらえたら幸いです。

コーディネーターから

高座での発表に向けて、クラスごとの性格も手伝って、積極的なクラスと消極的なクラスがあったものの、全員が「高座に上がって、観客と対峙する」という経験はしてもらえました。良く知ったクラスメートであっても、日常とは異なる表現をする体験は、その場での発表の成功・失敗とは別の「経験値」となっていたと思います。

先生から

「失敗してもいいんだ」ということを子どもたちに伝えて下さったことで、子どもたちがのびのびと活動できていた。

子どもたちから

表現がわかりやすかった。／落語を楽しく知ることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立十日市場小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！５

担当アーティスト	善竹富太郎（大蔵流狂言師）、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
実施校	十日市場小学校（緑区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 94 名
実施日程	2014 年 9 月 24 日（水）

授業のねらい

CD 等の音の教材だけでは子供達に狂言の要素を伝えるのは難しく、いつも授業で苦戦を強いられているので、実際に動きも交えて舞台を見てもらう事で「狂言」のコメディーとしての面白さを感じ、伝統文化に触れる喜びを感じられるようにする。

主な内容

狂言「柿山伏」の鑑賞。所作等のワークショップ。

アーティストから

学校の施設、設備がとてもきれいな事にまず、歓心しました。次に子どもたちの元気の良さ。とても気持ちの良い１時間を過ごすことが出来ました。

コーディネーターから

学校側も含めた全関係者が、実施の為に動きました。先生方も可能な限りのアイデアで私たちに少しでもやり易い環境を提供してくださった事が印象的でした。

先生から

国語の教科書で、「柿山伏」の単元があったので、リンクした部分がたくさんあって子どもも教員も勉強になった。また、アーティストの子どもとの接し方や関わり方がとても上手だったので、集中して取り組むことができました。今後の期待をもてる内容がったのでよかったです。

子どもたちから

表現の仕方や声の大きさなど、とてもおもしろかった。／柿山伏の意味や狂言のおもしろさがわかったのでよかった。／伝統芸能独特のセリフの言い方や表現、伝え方がとても勉強になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立小山台小学校＋荒馬座
和太鼓をたたいてみよう

担当アーティスト	民族歌舞団荒馬座
実施校	小山台小学校(栄区)
コーディネート	民族歌舞団荒馬座
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／和太鼓／3・4 学年 2 学級 76 名
実施日程	2014 年 12 月 18 日(木)、12 月 19 日(金)、12 月 24 日(水)

授業のねらい

身体全体でリズムを感じ、笛や鉦、締太鼓のリズムにのって太鼓を叩く。お囃子体験を通して、友だちと一緒に取組む楽しさや表現する楽しさを体感する。2 分の 1 成人式での披露を目標にする

主な内容

身体全体でリズムを感じ、笛や鉦、締太鼓のリズムにのって太鼓を叩く。
※各日とも同内容。

アーティストから

各学年 45 分ずつの練習のため太鼓を多めに持込み、なるべく太鼓に触れる時間を多く取れるようにしました。担任が小太鼓を一緒に叩いてくれたり、人数を合わせる際には校長先生や担当の先生もに加わっていただき盛り上げてくれました。短い時間でしたが、学年毎に内容を若干変えどちらの学年も楽しんで取り組みんでくれていたのがよかった。

コーディネーターから

両学年共に元気で意欲的に取り組みんでくれました。一つの太鼓を大勢で叩く時にはバチがぶつからない様に工夫したり、友だち同士で目を合わせて気持ちを合わせながら叩いたり、和太鼓体験を通して様々な子どもたちの様子が見られ、担当の先生からはふだんと違う子どもの姿が見られたという感想もいただきました。今後の学校行事等に結びついていけるような手応えを感じました。

先生から

和太鼓を打って体験し、そのよさを感じることができた。子どもたちにとっては、ちょっと難しいかな位に思える、ほどよい挑戦で「かがやけばやし」が演奏できるようになった事は、大いに自信がついた。たくさんの人と一緒にやる楽しさも感じることができた。

子どもたちから

みんなでやったのが楽しくて思い出になった。／一番楽しかったのは、自由に動くのです。／上手だと言われた。／分かりやすくリズムを教えてくれて楽しかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立千秀小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館 和太鼓の響き

担当アーティスト	岡村竜司(和太鼓奏者)
実施校	千秀小学校(栄区)
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／和太鼓／全学年 10 学級 200 名
実施日程	2014 年 11 月 28 日(金)

授業のねらい

和太鼓の鑑賞を通じて、豊かな感性を育む

主な内容

和太鼓演奏鑑賞

アーティストから

今回の学校公演プログラム内容は、和太鼓演奏、和太鼓説明、代表生徒による和太鼓体験、また千秀小学校和太鼓クラブの演奏と我々もその中の１曲に参加いたしました。和太鼓クラブの演奏は、子どもたちの演奏に真摯に取り組む姿に触れることができ、我々も良い刺激になりました。和太鼓未経験者、クラブの経験者共に体験、演奏を通じ和太鼓への興味や関心を持つことによって、これからの学校生活、和太鼓クラブの発展などに生かされればと思いました。

コーディネーターから

和太鼓と近い距離での鑑賞だったため太鼓の音や叩いた時の振動が体に響き、また代表生徒の和太鼓体験では生徒のバチの動きに合わせて全員で手を叩いたり、体全体で和太鼓を感じる時間となりました。学校には和太鼓クラブもあり、今回はアーティストが和太鼓クラブの演奏に参加しました。既に和太鼓に触れている子どもにはさらに興味を持つような、また今回初めて触れた子どもには「すごい・楽しい！」と思ってもらえるような体験になっていればと思います。

先生から

全校で和太鼓の音色に親しみ、演奏を聞く活動を通して、子どもたちが太鼓の迫力ある音に触れることができた。本校の和太鼓クラブとのコラボレーションもあり、やはりアーティストの方の生の演奏とのちがいを体感できたと思う。具体的に“あんな風に演奏してみたい”と子どもたちが思っていたようだ。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立青葉台小学校＋横浜みなとみらいホール 雅楽の魅力

担当アーティスト	石川高(伶楽舎)
実施校	青葉台小学校(青葉区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／雅楽／6 学年 3 学級 108 名
実施日程	2014 年 11 月 5 日(水)、1 月 13 日(火)、1 月 16 日(金)

授業のねらい

日本人古来の音楽文化でありながら、あまり体験出来る機会のない雅楽を２時間体験してもらい、親しみを感じてもらう。洋式の楽器では味わえない迫力のある音色と響きを体験させる。また楽器によって難易度が異なることを実感させる。

主な内容

雅楽の楽器体験。※各日ともに同内容。

アーティストから

子供達がとても集中して演奏を聴いていたのが印象的でした。青葉台小学校では、文化芸術に触れる機会を積極的に作っていらっしゃるとのことで、雅楽にも大変活発に反応してくれました。演奏やお話に対して、いつも明確に感想がかえってくるので、私達も楽しく進めることができました。実際の響きに、新鮮な驚きを感じていることがよくわかりました。理解が早く、そのことをしっかり表現できる子供達だと思いました。楽器体験では、なかなか音が出ず、辛くなってしまった子もいたと思います。
しかし、みじかい時間で楽器を響かせるようになるのはとても難しいことですので、その事実を知ることにも意義はあると思います。永い日本の歴史と共に伝承されてきた、雅楽の大切さを理解してくれた子が多かったのに感動しました。将来何かの機会で雅楽を聞いたときに、この時間を思い出してくれるよう、願っております。

コーディネーターから

昨年度に続いての２回目の開催となりました。出演者の３名もだいぶ馴れた感じで、講師を務めてくださいました。１日のうちで楽器体験、アーティストとともに演奏、アーティストの模範演奏と盛り沢山ですが、とにかく体験する機会の少ない雅楽器が、人数分揃う貴重な機会なので、少しの時間となってしまいましたが、体験は必ず３クラスとも体験してもらいました。

先生から

日本の伝統音楽を学習するとしたら、ＤＶＤで映像を見せたり、楽器の実物を見せたりすることぐらいが精一杯です。今回、本物の伝統楽器の演奏を聴かせていただいた上に、全員が体験するというチャンスを与えてくださったことに大変感謝しています。音楽と言えば、クラシック音楽やポピュラーなものに触れることが多いので、このような時間をすごすことができたのは、子どもたちにとって一つの財産になったことと思います、

子どもたちから

日本の昔からの楽器を学べたり、体験したりできていい経験になった。／３人の演奏が息があっていてすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立あざみ野第一小学校＋関内ホール
お箏の音色を楽しむ

担当アーティスト	荒井靖水（薩摩琵琶奏者）、荒井美帆（箏奏者）
実施校	あざみ野第一小学校(青葉区)
コーディネート	関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／4 学年 3 学級 119 名
実施日程	2014 年 12 月 10 日(水)

授業のねらい

日本の音楽への興味・関心を高めて理解を深める。

主な内容

・箏ってどんな楽器？…箏について簡単なレクチャー
・箏の体験＆発表会…箏で「さくらさくら」の演奏
・箏と薩摩琵琶の演奏の鑑賞(講師の先生の演奏)

（演奏曲）アナと雪の女王より「レット・イット・ゴー」
「さくら さくら」

アーティストから

楽譜が漢数字なので、音符に抵抗のある子でも苦手意識なく臨めたと思います。また全員が同じスタートなので協力していたと思います。最後に講師演奏を少ししたのですが、授業で実際に体験してるので鑑賞するときに身近に感じて聞いてくれた印象があります。４年生なので体験演奏を主におきました。個人だけでは処理できない部分が見えましたが協力しあって補っていました。私たちもあえてあまり手を出したいのを我慢して見守りました。１時間でしたがミニ発表会を重ねるごとにその成果が出てくることに非常に感動しました。

コーディネーターから

子どもたちはお箏にとても興味を持って練習していました。４年生という事で、難しい内容を覚えるより体験を重視してできるだけ楽器に触れるように進めた事はとてもよかったです。また、グループ練習で友だち同士教え合い、短い時間の中で良く発表まで演奏できるようになったと思います。４年生で１日のみ、また体験もさせたいという事で、少し駆け足での内容になってしまったのが残念でした。

子どもたちから

とても楽しかった。また箏を弾いてみたい。／先生たちが演奏してくれた「さくらさくら」と「レットイットゴー」はすごく上手で感動しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立美しが丘東小学校＋関内ホール「日本の音楽」に親しむ

担当アーティスト	奥田雅楽之一(箏奏者)
実施校	美しが丘東小学校(青葉区)
コーディネート	関内ホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年 3 学級 87 名
実施日程	2014 年 12 月 15 日(月)、12 月 16 日(火)、12 月 22 日(月)

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「箏」を通じて、邦楽曲とふだん耳にする機会の多いクラシックやポピュラーの曲との違いや、「日本の音」「日本らしい音」とは何かについて考えていきます。さらに、１つの曲をクラス全員で仕上げていくことで、クラスの連帯感や個々の達成感を育みます。

主な内容

＜１日目＞「日本の音」ってなんだろう＜２日目＞箏になじむ＜３日目＞発表会に向けてのリハーサル

アーティストから

先生方が教育熱心であられ、またプログラムに対しても非常に協力的であられるため、限られた時間内で高い成果を上げることが出来ました。特に、欠席などの理由による学習の遅れを取り戻そうと、休み時間を利用して積極的に楽器に触れようとする子どもたちの姿勢などは学習意欲を彷彿とさせる現象でありました。このような学びの環境が整った学校に携わることが出来ましたこと、やり甲斐を感じ、また大変嬉しく存じました。

コーディネーターから

毎年このプログラムに参加されているので、「生徒たちもやっと自分たちが体験できる！」と言う思いがいっぱいのようで、皆真剣に取り組んでいました。交代制で１人ずつの練習でしたが、待っている時でも譜面を見ながら練習したり友だち同士教え合う姿がみられました。また、箏だけではなく尺八の実演や、礼儀や所作などの指導もあり日本の伝統文化を知る・体験する良い機会となっていました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立山内小学校＋横浜にぎわい座
落語で笑おう！

担当アーティスト	春風亭笑松（落語家）
実施校	山内小学校（青葉区）
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／落語／6 学年 3 学級 139 名
実施日程	2014 年 9 月 22 日（月）、9 月 26 日（金）、9 月 29 日（月）

授業のねらい

古典芸能である「落語」を、「生で」、かつ、間近に観る機会を設けることで、日本の伝統と、落語の独特な表現手法に触れます。また、落語家から習ったネタや、自分で考えたネタを、高座に上がって話すとことで、ふだんと違う自分を表現することに挑戦してもらいます。

主な内容

＜１日目＞落語実演／レクチャー＜２日目＞発表に向けたレクチャー／小咄・謎かけ練習＜３日目＞発表

アーティストから

ふだん一緒にいる時間の長い相手であっても、高座の上に座って話すという事は、いつもと違う緊張をしたこととと思います。うまくできた人、もう一つだった人、楽しくなかった人もいるかもしれません。色々な人がいたと思いますが、この経験を、何かに

コーディネーターから

子どもたちが、「落語」「落語家」「高座」という、非日常的な存在や空間を楽しんで受け入れていたためか、２日目の練習にも積極的に取り組んでくれていました。３日目の発表も、ネットなどで調べてくれたのか、オリジナリティのあるネタが多くみられ、クラスごとの特徴も出た良いものとなりました。

先生から

やはり、本物の芸を見たり聞いたりすることが子どもたちの学びに大切だと感じました。演者さんの芸を見たり体験する時の子どもたちの目がとても輝いていました。また、ふだんでは表現をすることが苦手な子どもでも、意外な一面を見ることができる貴重な体験になりました。

子どもたちから

ふだんの授業ではできないことができてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立都田小学校＋横浜能楽堂
狂言の世界を楽しもう

担当アーティスト	大蔵流狂言方 山本東次郎家(狂言師)
実施校	都田小学校(都筑区)
コーディネート	横浜能楽堂
実施科目・教科名	国語・総合
実施概要	体験型／狂言／6 学年 2 学級 67 名
実施日程	2014 年 10 月 15 日(水)、10 月 31 日(金)、11 月 10 日(月)

授業のねらい

・体や声を使って自分を表現する体験を通して、自分のよさ、友だちのよさに気付くこと。
・自分でも声を出してみようという意欲を引き出すこと。
・「やりたい」「知りたい」という意欲をいかして、作品の内容や古典芸能への理解を深めること。
・狂言は、もともとは娯楽のひとつ。子どもたちの構えをとること。
・昔の人のものの見方や感じ方を知る学習を深めること。

主な内容

＜１日目＞クイズ、狂言「柿山伏」(大蔵流)鑑賞、ワークショップ（立ち方、座り方、歩き方）＜２日目＞ワークショップ（扇の扱い方、声の出し方、感情表現、謡）＜３日目＞ワークショップ（小舞「うさぎ」、謡「蝸牛」）

アーティストから

大きな声で取り組んでいただくことができました。質疑応答の中では、『今後家族で能楽堂に連れて行ってもらえることになった』とも仰っていただき、嬉しく思いました。

コーディネーターから

「総合的な学習の時間」での実施ということで、横浜能楽堂に見学に来てくださるなど、奥行きのある学習として古典芸能の普及に携わる取り組んでいただきました。古典芸能の普及に携わる立場としては、子どもたちには能舞台で鑑賞してこそ味わえる真髄に触れてもらいたいですし、また、横浜市の財産でもある能楽堂を活用しつつ、本物に触れる機会を提供できないかと思っています。

先生から

日本の伝統芸能を実際に教えていただいたことでこれまで触れることがなかった世界を知ることができました。伝統の深さを感じ、言葉だけではない充実感がありました。もっと知りたいという意欲にもつながりました。能楽堂に見学に行かせていただいたのもよかったです。国語「柿山伏」のわくを越えた総合としての学習に広がりました。打ち合わせもしっかりとしていただいたので何の心配もなく、実施ができました。

子どもたちから

今まで知らなかった伝統芸能の知識が広がった。／謡や謡に合わせて踊ったり歩き方などを教えてもらったかった。

【アーティストプロフィール】

■アーティストプロフィール

担当したアーティストのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

NPO 法人アートインあしびな

アートイン Asibina（アシビナ）は 2004 年に、芸術による社会貢献を目指す NPO（特定非営利活動）法人として設立されました。主として児童青少年を対象とする舞台芸術作品の企画・創作・上演を柱に、地域や学校などへの芸術体験プログラムの提供や、国際交流などの事業に取り組んでいます。

ART LAB OVA

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして 1996 年から活動をしています。2010 年から、多文化な下町に拠点「横浜パラダイス会館」を置き、日常的に、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開しています。

荒井靖水

薩摩琵琶奏者。6歳より祖父・中谷襄水、母・荒井姿水に薩摩琵琶の手ほどきを受ける。また、高校よりフルートを始め、洗足学園音楽大学管楽器科卒業。その後、NHK邦楽技能者育成会（第 42 期）にて研鑽を積み、1995 年日本琵琶楽コンクールにて秀位入賞。現在、古典ならびに現代邦楽を軸に、他ジャンルとの競演を試みている。CD，DVDの録音やプロモーションビデオへの出演、また、舞台での音楽担当も多数。NHKはじめメディア出演も多く、国内海外問わず広く活動している。国際交流基金主催・各国大使館共催 Group BAKK にてロシア・東欧6都市ツアー参加。長野オリンピック開催記念事業演・EU 大使歓迎演奏・日本スイス協会交流記念演奏・成田山新勝寺絃楽器セッション参加・NHK 主催熊野世界遺産登録記念一青窈熊野コンサート・高徳院（鎌倉大仏）野外コンサート、また海外ではチェコ、スペイン フランス、韓国アメリカサンフランシスコにおける桜祭り演奏など国内外で演奏活動を精力的にこなしている。 神奈川県立近代文学館・サントリーホール・矢来能楽堂・鎌倉鶴岡八幡宮、その他料亭・ジャズバー・ホテル・寺院・庭園・学校など形や大きさにとらわれずに、一人でも多くの方に邦楽器を身近に感じていただけるよう、様々な場所・シチュエーションで演奏している。幼稚園や学校公演等の活動では、楽器体験コーナーを設けるなど、「聴いてさわって楽しめる」音楽をコンセプトにしている。 薩摩琵琶錦心流中谷派襄水会会員。 また、荒井美帆と共に唯一の「薩摩琵琶・二十五絃箏DUO」としても活動中。第2回和の響邦楽グループコンテスト 最優秀賞受賞。桂座音楽賞受賞。全自作曲によるCD「忘れ水」を発表し、活動の幅を広げている。

新井 卓

主な展覧会に、森美術館「六本木クロッシング 2013: OUT OF DOUBT」（2013）、東京国立近代美術館「写真の現在 4:そのときの光、そのささの風」（2012）、尼崎市総合文化センター「百の太陽に灼かれて／EXPOSED IN A HUNDRED SUNS」（個展／2013）、原爆の図丸木美術館「福島からひろがる視線 2 MIRRORS HALF ASLEEP 新井卓銀板写真展」（個展／2012） 、 大阪・銀座（巡回）ニコンサロン「Here and There － 明日の島」（個展／2012）、 川崎市市民ミュージアム「夜々の鏡／Mirrors in Our Nights」（個展／2011） 、 北京・泰吉軒「Dream of Images」（個展／2011）、横浜美術館「鏡ごしのランデヴー／Rendezvous on Mirror」（個展／2006）など。2013 年 ニューヨーク、The Center for Alternative Photography で開催された Image Ocject Exhibit にて大賞受賞。作品はサンフランシスコ近代美術館（SFMOMA）、フランス、ブリの Musée Adrien Mentienne に収蔵されている。講師歴に、京都造形芸術大学、東京綜合写真専門学校、和光大学（現職）、日本写真芸術専門学校（現職）がある。

新居由佳梨

東京藝術大学音楽学部器楽科、及び同大学大学院修士課程音楽研究科を経て、スイス国立ジュネーヴ音楽院を修了、ソリストディプロム取得。第7回イタリア・モノポリ国際ピアノコンクール第 3 位、併せてアジア人賞受賞。第69回日本音楽コンクール入選ほか、国内外のコンクールでの受賞多数。オーケストラとの共演の他、パリでのショパン・フェスティヴァル、フランス、スイスでのピアノフェスティヴァルやリサイタルシリーズに出演。シャネル㈱「Pygmalion Days」シリーズ2007年度アーティスト。著名な弦楽器・管楽器奏者との共演やレコーディングも多く、2009年3月には伝説のヴァイオリニスト、イダ・ヘンデルとの共演 CD をリリース。第76回（2007年）および第79回（2010年）日本音楽コンクールにおいて、ヴァイオリン部門のピアノパートナーとしてコンクール委員会特別賞（共演賞）受賞。ピアノを上野敬子、田中修二、渡辺健二、故 ハリーナ・チェルニー=ステファンスカ、ドミニク・メルレの各氏に、室内楽を漆原啓子、本荘玲子の各氏に師事。2007年度より3年間東京藝術大学弦楽器科伴奏助手を務める。現在、東京藝術大学管楽器科伴奏助手および洗足学園音楽大学ピアノ科非常勤講師。スタインウェイ・アーティスト。

池田邦太郎

小学校教諭を経て現在フリーの音楽プランナー。2008 年より帝京平成大学講師。小学校では、「心身をリラックスさせて目を閉じ、耳を澄ませて音を聴く」活動や「既製の楽器を一切使わず、身の回りにある様々な物から出せる音を使って音楽 をつくる」活動を行うユニークな授業を展開した。1980 年、NHKテレビ「ワンツードン」で手づくり楽器の製作を担当。84 年「幼児と音楽」（音楽之友 社）に『音のでるもの作ってあそぼう』を連載。85 年、「音のでるもの作ってあそぼう」（音楽之友社）を出版。90 年、「音楽広場」（クレヨンハウス）に『いい音さがそ！いい音あそぼ！』を連載。91 年「教育音楽」（音楽之友社）にて『音って何？音楽って何？』を連載。2001 年、「ヨイサの会」の一員と して、『「音」を「楽」しむ『音楽』の旅』（音楽之友社）を出版。

石神夏希

1980 年生まれ。99 年「ペピン結構設計」を設立以降、全公演の作・演出を担当。他団体への脚本提供、役者として出演も行う。02 年、「東京の米」にて第2回かながわ戯曲賞最優秀賞受賞。

石川 高

1963 年東京生まれ。笙を宮田まゆみ、豊英秋両氏に師事、雅楽合奏を芝祐靖氏に師事する。雅楽団体「伶楽舎（れいがくしゃ）」に所属。国立劇場公演をはじめとし、世界各地の音楽祭に参加。雅楽古典曲のみならず、現代作品や自主作品の演奏も数多い。2006 年には Berlin で開催された Maerzmusik Festival にて演奏のほか、Mexico の作曲家 Julio Estrada 氏の新作 opera「Murmullus del Paramo」に参加し、Madrid、Stuttgart、Mexico、Venice で演奏。2007 年には Huddersfield Contemporary Music Festival に参加。2008 年には、Washington D.C.での Japan / Culture + Hyper Culture にて演奏した。

伊東歌織

1980 年生まれ。ダンスカンパニー『time and locus』・『輝く未来』の在籍を経て、2010 年よりフリー。現在は「身体は所詮、お供えもの？」をコンセプトにしたダンスグループ『アマキオト』を主宰する傍ら、ダンサーとして演劇や映像、音楽ライブなどにも出演し活動の幅を広げている。また、子育て支援のベビーダンスや幼稚園、大学、福祉センター、アートギャラリー等で独創的なダンスワークショップを重ね好評を得る。主なワークショップに 『越後妻有を応援！ツマリズム体操をつくろう』／『キッズアートキャンプ山形 2012 新訳“てぶくろ”』／『恋の処方箋でポーズをつくろう』／『色々な線を描いてみる』などがある。

伊藤有壱

1962 年、東京生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン学科卒業。1998 年、I.TOON Ltd.設立、同代表。クレイを中心にあらゆる技法を駆使し、幅広く活動。主な作品に、ミスタードーナツ『ポン・デ・ライオン』CM、平井堅『キミはとも だち』ミュージックビデオ、松竹 110 周年記念『ノラビッツ・ミニッツ』などがある。また、I.TOON では、NHK 教育テレビの「ニャッキ！」や NHK みんなのうたの「グラスホッパー物語」なども手がける。近作『ハーバーテイル』で、2012 年チェコの映像祭「ZLIN FILM FESTIVAL」アニメーション部門の最優秀賞と観客賞を同時受賞。日本アニメーション協会常任理事。東京藝術大学大学院映像研究科アニ メーション専攻教授。大阪芸術大学キャラクター造形学科客員教授。

井上勢津

洗足学園音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業。レズリー大学表現療法学科音楽療法・メンタルヘルスカウンセリング科修士課程を修了後，ニューヨーク，ノードフ・ロビンズ音楽療法センターにてディプロマ取得。

現在、障碍児・者，精神科領域で実践。横浜市で地域社会におけるコミュニティ・ミュージックセラピー(CoMT)プロジェクトを展開している。日本音楽療法学会認定音楽療法士。ノードフ・ロビンズ音楽療法士。

井上 唯

1983 年愛知生まれ。″織″ から始まった興味が、次第に空間へと広がり、特定の場に対してモノをつくることにおもしろさを感じるようになる。また移動生活を楽しむ一方で、ひとつの土地に根差してしかできないことがあることに気づき、湖と山と川に惹かれ滋賀県に移り住む。生活のなかでやりたいことと、制作とが繋がってくるとおもしろいなと思っている。

上原なな江

東京藝術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。現在、国立音楽院講師、「ズーラシアンフィルハーモニー管弦楽団」リトルシスタードールのお友だち。

うめぐみ

うめぐみは廣島佐映子、遠山和美、川崎　信の3人のユニット。横浜美術館子どものアトリエでの指導補助の経験を活かした子どもが自ら描きつくる気持ちを大切にした指導をする。今回は廣島氏に依頼。

海野幹雄

音楽性溢れるマルチなチェリスト。抜群のリズム感、驚異的な暗譜力を持ち、その心の箏線に触れる様な深い表現力は高い評価を得ている。室内楽奏者としての信頼も厚く、現代音楽の演奏にも積極的、また編曲家としての評価も高い。その他、学校訪問コンサート等、次世代へのクラシック音楽普及活動にも力を入れている。現在ソロ活動、室内楽活動、各種アウトリーチ活動に加え、各オーケストラへのゲスト首席出演など、多方面で活躍している。

遠田 誠

1995 年、「伊藤キム＋輝く未来」に旗揚げより参加。2001 年、様々な物事のハザマに立ち、表現行為の越境を試みる部活「まことクラヴ」を結成。劇場空間はもとより美術館、博物館、商店街などで脱領域型の活動を展開。美術のフェスティバルにも多数招聘され、ジャンルとしての越境を試みる。2011 年、「D-BOYS STAGE 2011 ヴェニスの商人」(主催:ワタナベエンターテイメント/ネルケプランニング)にステージングとして参加、「ヨコハマトリエンナーレ 2011」PRキャラバン隊長に就任。また2008年度より東京造形大学にて非常勤講師も勤める。2005 年東京コンペ #2 ダンスバザール大賞受賞、2006 年トヨタコレオグラフィーアワード 2006 オーディエンス賞受賞、2007 年第 1 回日本ダンスフォーラム賞受賞。

大石将紀

東京藝術大学院修士課程修了後、2001 年渡仏しパリ国立高等音楽院に入学。サクソフォン科、室内楽科、即興演奏科を全て最優秀の成績で卒業後、さらに大学院課程室内楽科に進み 2007 年に修了。文化庁派遣芸術家海外研修員、明治安田生命クオリティオブライフ財団奨学生として研鑽を積む。フランス国内のコンクールで入賞後2008年に日本に帰国。東京オペラシティ文化財団主催「B→C 100」に出演し、朝日新聞などの批評欄で高い評価を得た。その後は故ピナ・バウシュプロデュースの国際ダンスフェスティバル NRW2008(ドイツ)への招待出演、地域想像おんかつ登録アーティストとして全国各地でのワークショップ、リサイタルの開催、また NHK-BS「クラシック倶楽部」で「ガーデン・オブ・ラブ大石将紀スタジオコンサート」が放映されるなど活躍の場を広げている。東邦音楽大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。

大藏教義

社団法人能楽協会会員。昭和 56 年生。2世大藏吉次郎長男。第 24 世宗家故大藏彌右衛門及び父(大藏吉次郎)に師事。4歳で「業平餅」の稚児役で初舞台。これまでに狂言における大曲・秘曲である「末廣がり」、「千歳」、「那須」、「三番三」、「釣狐」を披く。各能楽堂での活動の他、学校狂言や海外狂言、船上狂言等の活動も積極的に行っている。

大須賀恵里

桐朋学園大学音楽学部卒業。1983 年蓼科高原音楽祭音楽祭賞受賞。

大山大輔

1982 年生まれ。鹿児島県出身。東京藝術大学を首席で卒業。同大学院修士課程オペラ科修了。学部卒業時に松田トシ賞、アカンサス音楽賞、同声会新人賞を受賞。これまでに平野忠彦、寺谷千枝子、西澤明の各氏に師事。オペラでは、藝大定期公演にて『セビリアの理髪師』フィガロを演じデビュー。その後『フィガロの結婚』フィガロ、『魔笛』パパゲーノ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『蝶々夫人』シャープレス、『カルメン』エスカミーリョと、主要なバリトンのレパートリーを広げ、何れも好評を博している。特に、2008 年 6、7 月の兵庫県立芸術文化センター主催・佐渡裕プロデュース『メリー・ウィドウ』ダニロでは日本を代表する歌手たちと共演し注目を集め、また“題名のない音楽会”でも同じくダニロで出演した。11 月には日生劇場オペラ『魔笛』パパゲーノ、12 月には文化庁による“本物の舞台芸術体験事業”にてフォークオペラ『うたよみざる』やまいち役での好演と活躍目覚しく、また、モーツァルト『レクイエム』をはじめ、『ハ短調ミサ』、『ヴェスペレ K.321』や、ベートーヴェン『交響曲第九番』、フォーレ『レクイエム』、プッチーニ『グロリアミサ』、メンデルスゾーン『ラウダシオン』のバスソロを務める等、活動の幅を広げている。その他、国立競技場での国歌独唱(なでしこジャパン対ベトナム戦)や、近松門左衛門原作:音楽劇『冥途の飛脚』での忠兵衛役、三島由紀夫:近代能楽集『葵の上』若林光役では役者として出演する等、オペラ・コンサート以外の活動にも積極的に取り組んでいる。日本声楽アカデミー会員。

岡田智代

1956 年生まれ。幼少より踊る。大学卒業後ダンスを手離し、ダンスを呑み込んだまま長い年月を過ごす。取り戻したのは15年後の三児の母になった後。2005 年トヨタコレオグラフィーアワードのファイナリスト。ソロ活動の他、山下残、セレノグラフィカ、ジェローム・ベル等の作品に出演。「おやつテーブル」のメンバー。中高年対象のストレッチクラスやヨガクラス、親子ダンスWSも行う。演劇という枠に揺さぶりをかけ続ける FAIFAI の野上絹代とゆるやかなユニット「OYADORI」を組みあちこち出没中。ただ生きるように踊る。

岡村竜司

和太鼓創作芸能集団 蒔穫堵～Ma-Ka-Do～(まかど)メンバー。日本古来からの営みを主題に和太鼓を軸とした芸能を研鑽。また新たな表現手段を創作していく事を目的とした集団。
蒔・・・地に種を蒔き「稽古、創作」
穫・・・実りを収穫し「表現、発信」
堵・・・日常の平和に安堵する「成果、成功」
をコンセプトにする。

奥田雅楽之一

1979 年東京生まれ。祖母中島靖子に生田流箏曲を師事。祖父唯是震一に地歌三弦を師事する。後年、名古屋の今井勉に平家琵琶を師事。胡弓を森雄士に師事。又、作物を二代富山清箏に師事する。(平成 16 年度文化庁国内研修生)1985 年国立大劇場にて初舞台。1994 年、歌舞伎「黒塚」に出演後、熱望していた西洋音楽(作曲)の勉強の為、5年間邦楽器から遠ざかる。復帰した 1999 年以降は歌舞伎や日本舞踊の地を務める他、「NHKラジオ」等にも出演。2002 年、「雅楽之一(うたのいち)」の名を受く。年々増える大舞台を一つ一つ大切に務め上げる一方、西洋音楽を中心とした作曲活動にも積極的に取り組んでいる。しかし何より、古典の習得に余念がない。

小原典子

再生というテーマで町の灯りや生物、忘れられたもの、タカラ等に焦点を当て、その町の特色を生かした光のオブジェを制作し、インスタレーションを展開している。また、会場内でダンス公演の演出等も行っている。主な展示に 2000 年「虫・むし・ワールド」(群馬県立近代美術館)、2008 年「ワークショップコレクション～光のらくがき」(川口市立アートギャラリーアトリア)、「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2009」、「水と土の芸術祭 2009」、「松戸アートラインプロジェクト 2010」、「神戸ビエンナーレ 2011」、2012 年「徳島 LED アートフェスティバル 2013 HOP」等。

風の五重奏団

東京都三鷹市の(公財)三鷹市芸術文化振興財団による“市内小学校での訪問演奏とニューイヤー・ファミリーコンサート”をきっかけに 2005 年に結成。以来、毎年三鷹市内の公立小・中学校でを行い、三鷹市芸術文化センター“風のホール”での“ニューイヤー・ファミリーコンサート”にも毎年出演している他、文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」に参加し全国各地で活発に活躍している。

加藤昌則

東京芸術大学作曲科首席卒業、同大学大学院修了。

いわゆる「現代音楽」とは全く異なる視点で書かれた、美しく斬新な抒情性に満ちた作品は、多くの愛好者を得て、次代を担う作曲家として注目を集めている。05年「スロヴァキアン・ラプソディ～サクソフォンとオーケストラのための～」はスロヴァキア・フィル東京公演で初演、ブラチスラヴァで再演、サックス奏者須川展也のCDにも収録(金聖響指揮、東京交響楽団)。06年オペラ「ヤマタノオロチ」、神奈川フィルの委嘱作品「刻の里標石」、12年≪福島復興・復活オペラプロジェクト≫作品「白虎」(第11回佐川吉男音楽賞受賞)はじめ、作品はオペラ、管弦楽、声楽、合唱曲など幅広く、村治佳織、山形由美、宮本益光、奥村愛など多くのソリストに楽曲提供をしており、共演ピアニストとしても評価が高い。独自の視点、切り口で企画する公演や講座などのプロデュース力にも評価が高い。http://www.masanori-music.com/

金井恵理花

10 歳の時に地元の横浜少年少女合唱団に入団し、「歌」と出会う。21 歳でミュージカル女優の付き人としてプロの門をたたき、その後はユニットを主宰、ライブ活動、舞台、テレビ出演等を経験。現在は2012年にオープンしたプライベートスタジオで個人のヴォーカルトレーナーとして門下生の指導をしながら、ボディケアセラピストとして音楽とリラクゼーションの融合を実践中。

叶芙美子、堂園愛子、新美咲彩子

音楽やダンスのショーと音楽教育の活動を 2 本柱で行う米国の特定非営利団体『ヤングアメリカンズ』のオーディションを受けメンバーとなり渡米。米国や欧州・アフリカ・アジア、また日本各地で子どもたちを対象にしたワークショップの講師を多く務める。現在はダンス講師等として活躍している。

鎌田美穂子

箏・三絃を幼少より宮城道雄直門宮城社大師範・山田ミサ氏に師事。東京芸術大学邦楽科生田流箏曲専攻を卒業。後、現代箏曲を西陽子、二十五絃箏を中井智弥の各氏に師事。宮城道雄記念コンクール第3位受賞。現在、箏奏者、宮城社師範として箏・三絃の教授活動も行う。「人・生」→「音・言葉・色」→「環・和」から「庭」を追求。音のみにとどまらず、映像も交えての表現追求もしている。宮城会、森の会、横浜市民広間演奏会、つるみ邦楽連盟に所属。

川田知子

東京芸術大学付属高等学校を経て、東京芸術大学に入学、1991年卒業。ソリストとしての活動の他、室内楽、ジャパン・チェンバー・オーケストラでも活躍。

川野誠一

2002 年より大蔵流狂言方／眞船道朗を師事、2008年より善竹十郎(重要無形文化財)を師事し、狂言を学ぶ。多くの古典芸能に興味を持ち、国際演劇協会(ITI)の伝統芸能 WS にて「歌舞伎」「能」の課程を修了。また無外流居合兵道／江戸無外会に所属し、無外流の居合剣術を学ぶ。日本俳優連合会員(総代)。

河原厚子

東京・高円寺に生まれ育つ。成蹊大学時代よりジャズクラブで歌い始める。その後コーラス・ヴォーカリストとしてスタジオワークをはじめ、ピンクレディー、郷ひろみ等のツアー、数多くのテレビ番組のレギュラー、東京電力をはじめとするCM製作等をこなす。1983年にニューヨークへ渡り、ハーレムのジャズスクール・ジャズモービルで本格的にヴォーカルを磨き直す。帰国後、東京・横浜のジャズクラブで精力的にライブ活動を展開する。一方、親子のためのコンサート、障害児の為のバリアフリーコンサートをプロデュースし、また地元の横浜大倉山で3歳からシニアまでの「河原ジャズファミリー」を主催している。又、Jazz Vocalの指導も人気を博しており横浜 BarBarBar 音楽院その他で未来のジャズ歌手を育成。近年は横浜市からの依頼で横浜の小学校でのワークショップが好評を博している。そして、この 10 年近くは、年に数回アジア各地で演奏し韓国アリランフェスティバル、バリジャズフェスティバルペナンジャズフェスティバル等に出演。アジアミュージックとジャズとの融合を極めているY.A.A.楽団に属し、2枚のアルバムを発表し又、ソリストとして活躍するヴォーカリトを集めたアカペラコーラスグループ Ya!Voices のリーダーとして太く深いコントラアルトの声でファンを魅了している。2005年9月、待望のソロCD「WATER SPRITE」では岩崎大輔とのピアノDUOで幅広い歌唱力を披露した。ますます成長を続けるジャズヴォーカリストである。

神崎えり

国立音楽大学作曲学科を首席で卒業後渡仏、パリ国立高等音楽院ピアノ即興演奏科に日本人として初めて合格・卒業。作曲家として国内外の演奏家への作品提供多数。近年はピアノ即興演奏による映画伴奏に力を入れており、欧州の国際映画祭にて招待演奏を行う。2008 年、イタリアで開催された無声映画伴奏国際コンクールにて観客賞受賞。

カンジヤママイムB

アメリカ仕込みの本格派マイム。子ども、若者、お年寄り、そして演芸場からアカデミック、あるいはポリティカルな 会合まで、あらゆる客層を惹きつける「おしゃべりなマイム芸人達」。1985 年アメリカはメーン州で結成された。「感じる」心が「山もり」になったマイムという意味で命名された。現在、大爆笑と感動の涙の舞台を全国で展開中。テレビ出演に、「笑いがいちばん」、「演芸特選」(以上 NHK)、「笑点」、「遠くへ行きたい」(以上読売日本テレビ)などがある。徹底的に訓練された身体的至芸を道具に、洗練された発想と学問的な裏付けで、「人生に憧れをもつ」ことの大切さを伝えるべく、日夜努力を続けている。 現在のテーマは笑いと教育の融合。英語教育などに身体芸を応用したユニークなアプローチを開発している。2012 年4月よりNHK テレビ「おかあさんといっしょ」の身体表現コーナー「パント！」のマイム振付、指導として参加。現在全国で放送中。

北尾 亘

クラシックバレエからストリートダンスまで幅広くダンスに触れる。大学にて木佐貫邦子に師事。近藤良平にも出会い両氏の作品に出演する傍ら、役者としても 活動。2009 年ダンスカンパニー《Baobab》を立ち上げ、全作品の振付・構成・演出を行う。グループとして様々なフェスティバルへの参加やパフォーマンスイベントの主催を行う。コンドルズ振付コンペティション 2010 準グランプリ受賞。トヨタコレオグラフィーアワード 2012 にてオーディエンス賞受賞。個人の活動としてソロ作品の創作や演劇作品への振付など多岐にわたる。http://dd-baobab-bb.boo.jp/

金原亭馬治

一般社団法人 落語協会所属。平成 12 年4月 11代目金原亭馬生に入門。平成 12 年7月 「駒丸」で前座。平成 15 年1月 金原亭馬冶で二ツ目昇進 。平成 27 年春 真打昇進。

金 寿規

東京都世田谷区生まれ。韓国籍。芸能指向の父との車の助手席で幼い頃は韓国の民謡・歌謡曲だけを聴いて育つ。初めての楽器は小学校 5 年製の春に始めたクラッシックギター。その後打楽器の魅力に惹かれドラムに転向したのちジャズドラマーの海老沢一博氏に師事。8 年間アシスタントを務める。その後勉強目的で聴いていたブラジル音楽のパーカッションに魅せられ、00 年からサンバチーム G.R.E.S.フェスタンサに所属し、打楽器隊の代表を務めながらも、ブラジル各地の音楽を演奏・研究し、2008 年ブラジル北東部の音楽”マラカトゥ”をベースにしたパーカッショングループ”バッキバ”立ち上げに参画、2010 年から代表を務める。現在は自分のルーツを感じるために韓国の伝統打楽器を叩く他にも、面白そうなパーカッションはとりあえず叩いてみるスタンスで精力的に活動中。

熊谷俊之

旭川生まれ。10代の頃より国内のコンクールに多数優勝し、昭和音楽大学ギター科に給費生入学し同校を特別賞を得て卒業。2008年ウイーンに渡る。ルネッサンスから現代までのレパートリーを取り入れ、活動している。

クリシー喜陽

コンテンポラリーダンス、Matt Mattox ジャズ、アフリカ・カリビアンダンス等を得意とする。2008 年北京オリンピック・パラリンピック閉会式にはカンドゥーコダンスカンパニーと出演、ダンス指導や振付も行った。プロはもちろん、障害者や子どもなど幅広い対象にダンスを伝えている。

くるくるシルク DX

金井圭介、立川真也、藤居克文、高橋徹による大道芸のパフォーマンスチーム。全国各地で講演やワークショップを行い、学校でのワークショップ経験等も豊富。ヨコハマ大道芸等にも参加している。

黒田晃弘

木炭での似顔絵描きをライフワークとし、画風や表現技法のみに落とし込んだようないわゆる絵画作品としてではなく、画家とモデルの関係性、またはコミュニケーションの内容によって、表現の種類さえも変える。2005 年横浜トリエンナーレ正式招待アーティスト。

KENTARO!!

ソロとしての活動と同時にダンスカンパニー「東京ELECTROCK STAIRS」を結成。2008 年には横浜ダンスコレクション R「若手振付家のための在日フランス大使館賞」とトヨタコレオグラフィーアワード 2008「オーディエンス賞＆ネクステージ特別賞」、2010 年には「第4回日本ダンスフォーラム賞」を受賞。国内外、問わず精力的に活動中。

小林友美

尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル学科卒業。卒業後 S&S Entertaiment School、Rainbow Jam に所属。NHK紅白歌合戦や思い出のメロディーにバックダンサー、ボランティア公演やライブステージなどに出演。

小森谷裕子

桐朋学園大学音楽学部卒業。第9回チャイコフスキー国際音楽コンクールで最優秀伴奏賞を受賞。現在桐朋学園大学附属「子どものための音楽教室」講師。

Co.山田うん

2002 年設立の山田うん主宰のダンスカンパニー。機知に富んだユニークな振付、緻密な構成、ダンサーのビビットな身体は観る者の知性と感性を同時に触発する。 これまでにこれまでに国内 29 都市、海外 14 カ国 22 都市で公演、話題を呼ぶ。近年は劇場公演のみならず歴史建造物や野外における公演も多い。毎新作ごとにオーディションを開催し、常時 10 数人のダンサーが所属する。公演活動のほか、全国の学校や施設の様々な要求に対応するワークショップも高い評価を得ている。

近藤晃子

大分県出身。2012 年多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術コース(現メディア芸術コース)卒業。布やボタンなど身近な素材を使い、観客参加型の作品を制作している。近年の展示に「夢現代アート展」(浜田市世界こども美術館)、「多摩美術大学校友会事業出前アート大学～ぼくらの巣をつくろう～」(和歌山県紀美野町)、「みんなでつくる森展」(東京都 ATELIER MUJI 無印良品有楽町店)、「pic up artist 展」(大分市アートプラザ)などがある。

斎藤祥子

東京芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。東京マリンバ四重奏・東雲打楽器二重奏メンバー。

櫻田素子

横浜生まれ。ガムラングループ・Terang Bulan(トゥラン・ブーラン)主宰。日本女子体育大学非常勤講師。日本各地で演奏の他、バリ島芸術祭に度々招聘され参加。日本人として現在進行形のガムラン音楽の創作、様々なアーティストとのコラボレーションにも取り組む。国立音楽大学卒、日本児童育成協会こどもの城を経てフリーランスに。芸術教育研究所客員研究員。音の森ガムランスタジオ講師。

佐藤公哉

シュルレアリスムの影響のもと幼少より画家を志し、後に音楽へ転向。東京藝術大学音楽環境創造科卒業後、声、ヴァイオリン、ヴィオラ、ギター、 ホーメイ等を用いて作曲、演奏、ワークショップを各地で行う。主な活動にカルテット「表現(Hyogen)」、デュオ「3 日満月」、子どもたちと作る音楽サーカス「音のてらこや」がある。白石かずこ、川俣正、山川冬樹等様々な領域のアーティストと共演。

佐藤未来

その場所が持つ環境、歴史、人々、問題、矛盾などの地域性をきっかけに、さまざまな表現を用いてサイトスペシフィックなプロジェクトを行い、新しい風景、新しいパースペクティブを提示。

佐山直子

大学卒業後、専門学校ミュージカル科にて舞台表現の基礎を学ぶ。小学校音楽科教諭を経て S&S Entertaiment School、Rainbow Jam に所属。ストレートプレイ、ミュージカルショーライブ、朗読劇など舞台多数出演。近年は脚本執筆や演出も手がけ若手アーティストや子ども達の育成にも携わり、幼稚園、小中学校、児童施設、サポート校にて表現をツールとしたコミュニケーション能力育成のための授業を行っている。子ども達の内なる声を拾い上げ、表現する力を広げる指導からは、自信と成長を実感できる。現在S＆S Kids(キッズミュージカル教室)責任者を務める。

三笑亭可女次

平成6年 先代古今亭志ん馬に入門「志ん吉」。没後小笠原諸島父島でウミガメの調査に従事。 平成 14 年 九代目三笑亭可楽に入門し「可女次」に改名。平成 19 年 二ツ目昇進。

三遊亭わん丈

前座。滋賀県初の落語家。師匠円丈の古典落語を観て入門を志願。古典でも新作でもお客様に喜んでいただける落語家を目指し精進したい。

ジェコ・シオンポ

1975 年生まれ、インドネシアのジャヤプラで育つ。ジャカルタ在住。幼少のころより伝統舞踊を学び、1994 年にジャカルタ・アーツ・インスティチュートに入学し、ダンスを専攻。1999 年、米国ポートランドにてヒップホップを学び、2002 年ジャカルタのゲーテ・インスティテュートより奨学金を得てドイツのフォルクヴァンク・ダンス・スタジオに留学。パプアの地方のダンスと、ヒップホップを融合させ「アニマル・ポップ」という独自のスタイルをつくり、インドネシアのコンテンポラリーダンス・シーンやヒップホップ・シーンにおいて重要な役割を果たす。近年は、インドネシアを代表するダンサーとして活躍し、世界各国の劇場や組織からの助成を受け作品を創作・上演している。欧米の舞台芸術シーンからは、アジアの振付家の中でもっとも旬なアーティストとして注目を浴びている。また、本拠地ジャカルタでは子どものダンスクラスも開催しており、ダンス教育に熱心に取り組んでいるアーティストの一人である。

清水真弓

南西ドイツ放送交響楽団首席トロンボーン奏者。ドイツの放送交響楽団において日本人の首席トロンボーン奏者は初である。神奈川県生まれ。10 歳よりトロンボーンを始め、春山和雄・三輪純生の各氏に師事。慶應義塾大学理工学部卒業。05～10 年フライブルク音楽大学にて、10～12 年ベルン芸術大学にてブラニミール・スローカーに師事。同時に07～09年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団「カラヤン・アカデミー」に所属、首席奏者クリストハルト・ゲスリングに師事。09 年秋、オーストリアで初の女性首席トロンボーン奏者として、リンツ・ブルックナー管弦楽団に就任。12 年秋、南西ドイツ放送交響楽団に移籍。トロンボーン独奏では、ドイツ・ワインガルテン音楽祭トロンボーンコンクールにて第 1 位、グダニスク国際金管楽器コンクールにて第 1 位を受賞。

春風亭笑松

平成 13 年5月 春風亭小柳枝門下に入門「小まさ」。平成 17 年7月 二ツ目昇進 春風亭笑松(しょうまつ)と改名。平成 26 年 第4回城源寺二ツ目選手権優勝。

白井 圭

1983 年トリニダード・トバゴ生まれ。東京芸術音楽高校を経て、同大学を卒業。99 年全日本音楽コンクール優勝。01 年日本音楽コンクール第2位、増沢賞受賞。ソリストとしてオーケストラとの共演や、室内楽でも精力的に活動している。

杉山智恵子

東京藝大卒業。東京藝大・同大附属高・桐朋学園大・埼玉大教育学部・聖徳 大・同大附属高・金城学院大・警察音楽隊各講師。日本打楽器協会副理事長・日本ジャック＝ダルクローズ協会理事。全日本吹奏楽コンクール審査員。 東京吹奏楽団団員。打楽器奏者・マリンバ奏者として多くのコンサート・レコーディングに出演。近年は、多くの音大・教育機関に招聘され、リトミックと打楽器 を融合させたコンサートや特別講座を国内外にて精力的に展開している。

スズキ拓朗

振付家・演出家・ダンサー。演劇×ダンス、言葉×身体を追求。ダンスカンパニーチャイロイプリン主宰。劇団たまごプリン主宰。コンドルズ所属。横浜DANCE COLLECTION EX奨励賞、トヨタコレオグラフィーアワードファイナリスト。劇場版「牙狼」振付。演出家コンクール最優秀賞、第3回世田谷区芸術アワード飛翔受賞。CO. 山田うん、ニブロール、BABY－Q、フィリップ・ドゥクフレDCA、さいたまネクストシアターなど客演。

鈴木伴英

1992 年にトリニダード・トバゴより来日したスチールドラム・バンドに興味を持ち、翌年、スチールドラムの情報交換ネットワークとして「日本スチールドラム振興会」を立ち上げる。1995 年よりスチールドラム・バンド・パンタジアを主宰して演奏活動を始める。また「日本スチールドラム振興会」として神奈川県、横浜市の施設等でワークショップ等の講師を務めるとともに、

テレビ番組等へ出演等の協力も行っている。

鈴木慎崇

札幌市出身。東京芸術大学音楽部卒業。リサイタル、FM，CDなどで数多くの演奏かと共演。国内外の音楽祭、コンクールにおいて公式伴奏を務めるなど活動の場をひろげている。

セーンジャー

内モンゴル出身、内モンゴル芸術学院卒業後来日。大東文化大学大学院修了。2005 年「スーホと白い馬」映画主演、音楽監督を自ら行い、文部科学省選定作品に選定される。2008 年北京オリンピック、ギネス世界記録イベントにおいて馬頭琴を演奏。2013 年に内モンゴル国際文化交流宣伝大使に任命され。 実力を発揮するなど若きアーティストとして活動の場はさらに拡がりを見せている。

善竹大二郎

社団法人能楽協会会員。 昭和 56 年生。善竹十郎次男。父及び故善竹圭五郎に師事。5歳にて「靭猿」の子猿役で初舞台。「三番三」「那須語」「釣狐」を披らく。駒沢大学文学部卒。

善竹富太郎

社団法人能楽協会会員。昭和 54 年生。 善竹十郎長男。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。3才より稽古を始め、5才の時に狂言「靭猿」の子猿役で初舞台。その後 20 才で「三番三」、22 才で「那須」、24 才で「釣狐」を披く。「SORORI の会」「狂言道場」主宰。昭和音大講師。

即興からめーる団

赤羽美希（音楽家）と正木恵子（打楽器奏者）の二人による音楽ユニット。参加者を巻き込んだワークショップ形式の即興演奏が持ち味。2007 年 10 年から港区にある三田の家で「うたの住む家」を主催。いろいろなバックグラウンドを持つ参加者とともに、楽しみながら歌を創作する活動を続けている。うたの住む家 HP http://utanoie.is-mine.net/

高木きっこ

多摩美術大学を卒業後、インスタレーション及び映像を使用した作品や壁画を国内外の美術館、ギャラリーなどで発表。作品は、M.O.M.A. 、Artist Space (N.Y.)他で収蔵されている。2011 年より美術家としての経験を活かし、アートの創作プロセスについて、東京大学大学院にて認知科学の観点から研究している（研究者名：髙木紀久子）。また、デザイン専門学校にて映像の企画制作を中心とした作品創作の教育指導を行っている。

高瀬ゆり

1987 年多摩美術大学大学院美術研究科デザイン専攻修士課程修了。テキスタイルワークによるファブリックアーティストとして活動。（株）ファイバーアートステューディオのアートクリエイターとしてアートタッセルデザイン（'10～'12)アートとデザインのボーダレスなファブリックを模索している。近年フックドラグ技法を研究し、作品を制作。2010 年より横浜美術大学テキスタイルコースで教鞭をとっている。2013 年～横浜美術大学内で学生と共に「ポコスプロジェクト」を展開中。

高田由利子

音楽療法士。洗足学園音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業。レズリー大学表現療法学科音楽療法・メンタルヘルスカウンセリング科修士課程を修了後、ニューヨーク、ノードフ・ロビンズ音楽療法センターにてディプロマ取得。現在、障碍者、高齢者領域で実践。成人のスーパービジョンを行う。横浜市において地域社会におけるコミュニティ・ミュージックセラピープロジェクトを展開している。日本音楽療法学会認定音楽療法士。ノードフ・ロビンズ認定音楽療法士。よこはま音楽広場実行委員会代表。

高津会

イギリスの Orpheus Centre（障害者施設）で子どもたちや大人にダンスを教え、障害者との交流や創作の経験を持つ。

田嶋謙一

12 歳より尺八を始め、父・直簫流尺八宗家・田嶋直士に師事。2006 年東京芸術大学邦楽科尺八専攻を卒業。2009～2012 年同大学邦楽科教育研究助手。日本各地、及び海外で古典を中心とした数々のリサイタル・招待演奏を行う。ジャズ、クラシック、ポップス等様々なジャンルの音楽とコラボレート、各種イベントの尺八に関する特別講義、舞台での音楽監督などの活動のかたわら、水道管尺八を用いたワークショップなどの講師をつとめ、尺八の可能性を広げるべく活発に活動している。

田嶌道生

ギターデュオグループ「ドゥーズ・コルデ」のギタリスト。平倉信行と共にクラシック、ブラジルのショーロ、ピアソラ等の演奏で活動している。ブラジルのミュージシャン等のツアー及びレコーディング、各メディア等に出演。ブラジルの伝統音楽「ショーロ」のグループ「ホーザ・ホーシャ」のメンバーとしても活動中。また「沢田知可子」米良美一」「ピーター」「秋元順子」他、アレンジ、サポート等多彩に手掛けている。ギター教本等の著書や曲集のアレンジも数多く、幅広いジャンルで活躍中。

谷口國博（たにぞう）

東京都の保育園に5年間勤務した後、フリーの創作あそび作家になる。子育て雑誌、新聞、保育雑誌にあそびやエッセイなどを執筆するとともに、TV アニメのテーマ曲や CM の振付、自身の作詞・作曲による楽曲の提供、町のプロデュースや「遊びの達人」として TV 番組へ出演するなど多技にわたり活躍中。現在、NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」「ブンバ・ボーン！」の作詞・振り付けを担当。OFFICE TANIZOU 代表。

田畑真希

3歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トゥシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、更なる表現を追及するため、桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、ジャズダンス、アクロバット等を学び、卒業後演劇、ダンス、ミュージカル、TV など様々なジャンルで活動するが、2000 年にコンテンポラリーダンスに出会いコンテンポラリーダンスの世界へ。以降 co.山田うん、伊東キム＋輝く未来、レ二・バッソ、杏奈等の作品にダンサーとして国内外の舞台に多数出演。2007 年より地震作品を創り始め、タバマ企画を立ち上げる。タバマ企画主催。

Tree of Music

2011 年5月の「モーツァルトの午後」をスタートに、これまでに「ベートーヴェンの午後」「バッハの午後」「木管五重奏の午後」「フランス 音楽の午後」を開催し、2013 年8月には、これまでに好評を頂いた曲を集めた「アンコールコレクション」を開催。木管楽器だけではなく、弦楽器や声楽も加わることもあり、本格的なプログラムでありながらも、MC を交えながら分かりやすいコンサートを開催している。木管五重奏のメンバーでは福祉施設、区役所でのコンサートなど活動の幅を広げている。

鶴川勝也

国立音楽大学卒業。横浜みなとみらいホール『オペラの音符たち』では《カヴァレリア・ルスティカーナ》アルフィオ、横浜オペラ未来プロジェクトでは《フィガロの結婚》伯爵で出演。 みなとみらい小ホールオペラでは《ジャンニ・スキッキ》《こうもり》に出演。「第九」等のソリストを始め数々のオペラやコンサートに出演。ニューヨークへ 留学。カーネギー・リサイタルホールにてピアニスト相原郁美とジョイントリサイタルを行い好評を得る。

テニスコーツ

さやと植野隆司を中心とした歌と音。日本のみならず、様々な場所で様々な人と音に出会いながら活動中。様々なキャリアがありながらも、いつも結成当初のような状態で、全く型にはまらない活動／演奏を続ける、日本では数少ない稀な演奏家たち。近年ではマイクやアンプを使わず、より音やうたの根源に近づくような演奏活動を行っている。

デフ・パペットシアターひとみ

デフ・パペットシアター・ひとみは、日本で唯一、ろう者(耳が聞こえない人)と聴者(聞こえる人)が協力して公演活動を行っているプロ人形劇団です。人形劇が持つ「視覚的」な魅力に着目し、新しい表現の可能性に挑戦し続ける人形劇団くそれがデフ・パペットシアター・ひとみです。

ドゥイ

小野亜斗子・轟岳によるユニット。1999 年より5年間、絵画造形教室「アトリエ・ラピン」のスタッフとして勤務。（小野）2005 年より轟が加わり、 2007 年 3 月まで 深沢アート研究所／馬車道の土曜日コースを担当。2006 年より、横浜・石川町の洗濯屋さん店舗跡を改

装した「ドゥイの実験室 」にて、こども造形教室をスタート。2009 年より、鎌倉山ナワールガーデンにある竹林での活動「本気根気狸」。2010 年より、葉山おひさま学童あおぞらでの「ドゥイの出張こども造形教室」。その他、各地イベントにてワークショップを考案・実施。参加者それぞれの面白さやひらめきと即興性を大切に考える、「クリエイティブな遊びの時間」を研究しています。

遠峰あこ

横浜うまれ 横浜育ち 唄うアコーディオン弾き。日本古来の民謡の現代風アレンジや、今の時代を唄う新しい民謡を作り、アコーディオンで弾き語る。日本民謡を愛し、唄い継ぎながらも新しい自主制作民謡を手がけ、100 年後 200 年後の日本のみなさまにも歌い継がれているような唄を、そんな願いを込めて日々、活動しております。大道芸、祭、などのイベント、 ライブハウス演奏、落語会の色物、野毛の居酒屋流しまで、様々なライブを開催中。

冨岡春絵

武蔵野音楽大学卒業。打楽器アンサンブル「東京 Percussive pedia」「GimmiC」各メンバー。吹奏楽団「Blitz Philharmonic Winds」打楽器奏者。

富田菜摘

2009 年多摩美術大学絵画学科油画専攻卒業。 金属廃材の動物や、新聞紙や雑誌を素材にした人物作品など、身近な素材を用いてユニークな作品を制作。 佐藤美術館、中京大学 C スクエア、日本橋高島屋をはじめ、シンガポール、香港など、国内外で個展を開催。 また、浜田市世界こども美術館、越後妻有アートトリエンナーレなど多くのグループ展で作品を発表。 国立新美術館、埼玉県立近代美術館、新宿歴史博物館等で、廃材を使ったワークショップを開催。町田市民病院や「所さんの目がテン」スタジオ作品設置、ショーウインドウや店舗とのコラボレーション等、多方面で活動。

富田真由香

洗足学園音楽大学卒業。同大学ソリストコース修了。ダルクローズジャパン・リトミックスクールにて、即興演奏、ソルフェージュ、内的聴取力の養成等学ぶ。現代音楽演奏コンクール競楽Ⅷにて入選、審査員特別奨励賞受賞。ヤマハ主催によるソロリサイタル開催。各地芸術祭や AOI コンサートシリーズ、NHK(TV)「にっぽんの歌」オーケストラ、新作歌舞伎『GOEMON』等にも出演。カワイ音楽学園講師(2008 年まで)、洗足学園音楽大学附属音楽教室講師。

とみやまあゆみ

神奈川県出身、横浜市在住。桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業。舞台・映像などの俳優活動と並行して、学校や劇場での演劇ワークショップの進行役もつとめる。NPO 法人演劇百貨店。世田谷パブリックシアター年間契約ファシリテーター。

友枝真也

能楽シテ方喜多流職分。能楽協会会員。東京在住。1969 年、東京生。喜多流職分故友枝喜久夫の孫。3 歳のとき仕舞「月宮殿」にて初舞台。能楽シテ方喜多流 15 世宗家故喜多実師に入門。喜多流宗家内弟子を経て現在、友枝昭世、塩津哲生に師事。2004 年「猩々乱」、2008 年「道成寺」、2011 年「石橋(赤獅子)」を被く。

外山 香

川村昌子、沢井忠夫、中山いずみに師事。第 30 期 NHK邦楽技能者育成会卒業。日本音楽集団に所属中、二十絃箏を始める。箏、十七絃でNHK邦楽オーディションに合格。国内では9回、海外2回リサイタルを開催。2007 年、横浜交響楽団 600 回記念公演にソリストとして出演。2010 年、横浜で開催された APEC レセプションにて演奏。 NHK TV「芸能花舞台」に出演。 2011 年、2012 年、The Swing Herd Orchestra と協演。 2012 年、神奈川フィルハーモニーの公演にソリストとして参加するなど、邦楽のみならずジャズ、クラシックとの共演も多い。二枚目のソロ CD「ハギオン・プネウマ」は第 62 回文化庁芸術祭参加作品に選ばれる。現在は沢井箏曲院師範。沢井忠夫合奏団員、国内外に於いて演奏活動を行う傍ら、教授活動を行う。

内藤宏樹

1998 年より声優として活動。2009 年からはフリーランスのナレーターとしてバラエテ ィ番組のナレーションを中心に、ボイストレーナー、朗読・演技指導・及び舞台やイ ベントの企画/脚本/演出などの活動に従事している。主な出演作品は外画「沈黙の激突」やTBS「イカ様タコ様」など。2013 年には杉田劇場にてミュージカルの演技指導、 2014 年は脚本/演出に従事。

中川梨恵

尚美ミュージックカレッジ専門学校ミュージカル科卒業。在学中にバレエ・モダン・ジャズ・タップなど様々なダンスを学び、卒業後日本舞踊も学ぶ。S&S Entertaiment School、Rainbow Jam に所属。俳優・ダンサー・振付家として活動している。Rainbow Jam 公演『I's』『ｷﾞﾌﾄ』 、S&S Musical Show Live 、THE REDFACE『繭汝の社 福来』等多数出演。小学校や福祉施設でのワークショップにも積極的に参加している。パワフルでエネルギッシュな指導では、身体を動かす楽しさを存分に味わうことができ子ども達のいようと表現力を引き出す。現在 S&S Entertaiment School ショークワイアコース、 S&S Kids ダンスインストラクターを務める。

中野成樹

1973 年東京生まれ。演出家。中野成樹+フランケンズ主宰。有明教育芸術短期大学准教授。「かた苦しい」「古くさい」むか～しの名作を、誤意訳(誤訳+意訳)なる手法で「いまに楽しく」仕立て直す。舞台以外にも、演劇を駆使した「おばけ屋敷」や「コスプレ教室」、「商店街の BGM」などを手がける。

中村仁美

篳篥を中心に、雅楽古典曲・現代作品の演奏を行う。篳篥、楽箏、左舞、雅楽全般を大窪永夫、芝祐靖、上明彦など各氏に師事。東京芸術大学大学院音楽学専攻修了。一柳慧、伊左治直、吉川和夫、芝祐靖、中川俊郎、細川俊夫、増本伎共子、三浦寛也など現代作曲家の作品を多数初演するほか、様々な和・洋楽器、オーケストラとの共演、舞踏とのコラボレーションなど多彩な活動を続けている。

中村 蓉

早稲田大学モダンダンスクラブにてコンテンポラリーダンスを始める。 2009 年より小野寺修二氏のアシスタントを務める。現在は近藤良平氏の振付作品に参加・アシスタントを務めつつ日々精進。『音楽劇 トリツカレ男』／近藤良平『リンゴ企画』／NY Japan society Contemporary Dance Showcase／ダンストリエンナーレトーキョー2012『恋のバカンス』／郷ひろみ『笑顔にカンパイ！』MV 出演 郷ひろこ役／BeeTV「映画はスマホで」TVCM、ヒロセ通商 CM、パナソニック企業 PR 映像 出演／2012 年 NEXTREAM21 ダンスコンペティション審査員特別賞／第1回セッションベスト賞／2013 年横浜ダンスコレクション EX 審査員賞・シビウ国際演劇祭賞。

21 世紀ゲバゲバ舞踊団

【井上大輔・伊佐千明・入手杏奈・北川結・辻田暁・遠江愛・名取秀樹・矢嶋里美】2011 年2月舞踊団結成。メンバーは桜美林大学卒業後、各々の手法でダンスを模索してきた8名で構成される。集団創作という手法で互いに現在抱く興味や疑問を交換・共有し、“対話”から生まれた“身体”をシーン・振付として構築し、ダンス作品に昇華させ上演する。2011 年処女作品「ワカクマズシクムメイナルモノスベテ」を発表。2013 年「崩壊寸前」、2014 年「カウントアップ」、「解けましょう」を上演し好評を得る。その他『ダンストリエンナーレトーキョー2012』『吾妻橋ダンスクロッシング』『韓国芸術見本市インターナショナルショウケース』等に参加。また、小学校、中学校等の教育機関での WS も多く行い、定期的に一般向けのダンスワークショップを開催する等アウトリーチの活動にも力をいれて取り組み、ダンスを通した地域社会との交流の場の拡大にも力を注ぐ。

パーカッションアンサンブル にまるく

玉川大学芸術学部出身者により2011年結成。川崎市で活動を開始。現在は神奈川県を中心に、子どもから大人まで一緒に参加できる打楽器のワークショップを企画するとともに定期的にコンサートを行っている。川崎市のイベント「In Unity2013、2014」 TVK「ありがとッ！」 港北みなもアニバーサリーHappy Event などに出演。その他保育園、老人ホームやカフェなどで音楽の楽しさを伝える活動を行っている。

野村道子

【アニメ】「サザエさん」(磯野ワカメ)、「ドラえもん」(しずかちゃん)、「マッハゴーゴー ゴー」(ミッチィ)、「さるとびエッちゃん」(エッちゃん)、「タイガーマスク」(ルリ 子)、「けんぷファー」(ハラキリトラ)、「昆虫物語みなしごハッチ」(アーヤ) 「みつばちマーヤの冒険」(マーヤ) 【外画】リタ・モレノ、フランソワーズ・アルヌール、マリナ・ブラディ、デビィ・レイノルズ 他【テレビ】CX 朝番組開局時の天気予報のお天気お姉さん(初代)、NHK「ものしり博士」 (アシスタント)、

NHK「受信相談」(アシスタント)【ラジオ】TBS「パックインミュージック」(パーソナリティ)、TBS「ヒットキットアルバム」 他【CM】「おかめ納豆」 他 その他、PR映画・司会・DJ・ナレーション 多数

野村亮太

洗足学園音楽大学卒業後、渡仏。2008年オルネイスボワ音楽院を審査員全員一致の 1 等賞及び特別賞を得て卒業。2009 年同音学院最高過程を 1 等賞及び優等賞を得て卒業。ピカルディーヨーロッパ音楽コンクール1等賞。UFAM国際音楽コンクール2位入賞。サクソフォンを遠藤朱実、冨岡和男、服部吉之、ファブリス・モレッティ、ルマリエ千春、ジェローム・ラランの各氏に師事。

萩原広充

神奈川県横浜市出身。S60.1.8生まれ。2012 年2月バンド『inspire』結成。2012 年4月 専門学校 国際新堀芸術学院ドラム・パーカッション教授に就任。2010 年～2013 年 数々の演奏会に出演。海外での公演も行う。現在、国際新堀芸術学院ドラム・パーカッション教授、新堀ギター音楽院平塚教室にて約 20 名の個人指導を行いながら、海外や日本各地でのコンサートなど、幅広く活動している。

橋本淳平

国立音楽大学器楽科打楽器専攻卒業。2011 年度より神奈川県立海老名高校の指揮者を務めている。

長谷川剛士

洗足学園音楽大学を卒業。打楽器トリオ『３－SHUTS』、和楽器オーケストラ『あいおい』、コミックバンド『楽団☆つっとこまーゆ！』等メンバー。

畑中紫甫

フェリス女学院大学音楽学部演奏学科卒。同大学院音楽研究科演奏専攻修士課程修了。ウィーン国立音楽大学ディプロマ取得。2013 年、第 29 回江戸川区新人演奏会声楽部門 1 位、および総合 4 位。参加作品に映画『テルマエ・ロマエⅡ』挿入歌など。J:COM 湘南『夕なび 湘南～横浜』にレギュラー出演中。

和太鼓集団 撥當

平成元年の設立以来、横浜を中心に活動。撥當は他の和太鼓団体には少ない、お互いの氣を感じ合わせる、即興演奏を主体としている。お三の宮日枝神社例大祭や水天宮平沼橋神社例大祭などの祭りや、12 月の蒔田公園で行われる「光のぷろむなぁど」といった多くのイベントに参加している。

蜂須みゆ

3歳よりピアノを、17歳より声楽を始める。 早稲田大学第一文学部演劇映像専修、国立音楽大学音楽学部作曲学科卒業。2009 年、第1回広島作曲コンクール第一位(エリザベト音楽大学賞)受賞。 現在、TV番組「しまじろうのわお」などに楽曲提供の他、「みゆ音楽教室」主宰として後進の指導にも当たっている。

林家きく麿

昭和 47 年7月 16 日生まれ。福岡県北九州市八幡東区出身。福岡県立東筑高校卒。平成8年 林家木久蔵に入門。平成9年 上野鈴本演芸場にて初高座「寿限無」。平成 12 年 二ツ目昇進 「きく麿」と改名。平成 22 年 真打昇進。子どもからお年寄りまで年齢を問わず喜んでいただける噺家を目指して日々修行に励んでます。古典落語・新作落語・パントマイム等で幅広く活躍中。

林家木りん

二つ目。白山生まれ、浅草育ちの江戸っ子。小さいころから落語が好きで、日本橋生まれの喜久扇に入門。明るく楽しい落語でたくさん寄席にお客様を呼べるような落語家になりたい。

伴 正人

日本大学卒業後、某企業の編曲家としてエンターテインメント事業に携わる。昭和音楽芸術学院作曲コース、昭和音楽大学音楽学部作曲学科指揮コースに進学。ドイツ留学を経た後、TIAA(東京国際芸術協会)の指揮者オーディションに合格。様々な現場での指揮活動を開始。日本作曲家コンクールにて 2 度の受賞新潟県五泉市の依頼によりゆるキャラ「サクラーナ」の主題歌を担当するなど、幅広く活動。

パントマイムにいさん

埼玉県与野市生まれ。桐朋学園大学演劇専攻科卒。19 歳の時、カンジヤママイム著『おしゃべりなパントマイム』に出会い弟子入り。アメリカマイムの第一人者、トニーモンタナロ氏に師事。テレビ、舞台、TDS、寄席など様々なジャンルで活動。最近では NHK 教育テレビおかあさんといっしょ『パント！』のコーナー振付指導に参加。

東野祥子

ダンスカンパニーBABY-Q 主宰。身体から織り成される感情の起伏や衝動、個々の人間の本質をダンスの根底に置き、ダークかつカッティングエッジな電子音響と機械仕掛けの硬質な美術、様々なモチーフの交錯する舞台を創りだす。ソロダンス活動として、煙巻ヨーコ名義で即興アーティストとのセッションをクラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2004 年 TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2004『次代を担う振付家賞』、2005 年横浜ソロ×デュオ〈Compe´tition〉＋群舞部門『未来へ羽ばたく横浜賞』、2006 年オン★ステージ新聞『ベスト新人振付家賞』、2009 年『舞踊批評家協会新人賞』等、受賞多数。

平原慎太郎

1981 年北海道生まれ。クラシックバレエ Hip Hop やコンテンポラリーダンスのキャリアを経て現在に至る。04 年から 07 年まで Noism に所属。その後フリーランスに転身。その後は北海道を中心に「瞬 project」、大植真太郎、柳本雅寛らと「C/ompany」、近藤良平主宰「コンドルズ」として日本のダンス界を縦横無尽に駆け回る。また舞台の活動の他、ミュージシャンとのセッション、能楽師津村禮次郎との共作や歌手のミュージックビデオなどにも出演。振り付け家としての活動も活発化し最近は年に3本程度新作を発表している。一方、楽曲製作や映像製作も行い自作品ではそれを用いる場合が多い。またワークショップ講師としても活動。北海道では WS から派生させた参加者の独自の活動を展開している。

深澤純子

多摩美大卒。89 年まで同校勤務。アート、ジェンダーのワークショップを女性センターや社会教育施設等多数手がける。現在、NPO法人ヒューマン・サービスセンター主宰、港区コミュニティカフェを運営。ジェンダー論で神奈川大学の講師を務める。横浜在住。

古川ぴんたろう

多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する東京カンソンのメンバー中から、個性的でアフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーと透明感のある歌声で、日本の童謡叙情歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回は、東京カンソンから、4人のメンバー選出による企画。

ほうほう堂

新舗美佳と福留麻里による身長 155cm ダンスデュオ。これまでに国内外 20 都市以上で作品を発表。2009 年からは劇場から飛び出し、その日の天候や道行く人々を含め、その場所にしかない魅力や特徴を背景に、そのとき限りのサイトスペシフィックなスペシャルダンスを披露する「ほうほう堂@」シリーズを展開している。カフェ、建物の廊下、学校、トンネル、民家をはじめ、日常と隣り合わせにある面白そうな場所や、旅先で出会った場所、紆余曲折の果てに辿り着いた穴場スポットなど、月に 1 回さまざまな場所で踊り、YouTube にアップ。また、ほうほう堂の振付に、複数のミュージシャンが異なる音楽を合わせることで、これまでとは違う作品の見え方を引き出す「ほうほう堂×DJs!!」シリーズを行うなど、ダンスの拡張を多種多様な方法で試みている。

前田侑太郎

昭和 63 年生。善竹富太郎に師事。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒。各種公演、アウトリーチに活躍中。

増村エミコ

ゴスペルグループ「亀渕友香&The Voices Of Japan」所属。様々なアーティストのコーラスサポートとしてライブコーラスCDレコーディング参加、CMサウンドロゴなど活動範囲は広い。紅白歌合戦、HEY!HEY!HEY!、ミュージックフェア、僕らの音楽、ミュージックステーションなどその他多数のTV番組に出演。VOJA のリハーサルリーダーを担当しながらVOJA のコーラススクール「Voice Art College」でのクラスも担当。

松本 薫

十二世 茂山千五郎(現 四世 千作)の芸に惚れ、現在で言うところの「追っかけ」をしているうちに入門を決意。1974 年立命館大学在学中に十二世茂山千五郎(現 四世 千作)に入門。23 歳の時 狂言『瓜盗人』のアドで初舞台。狂言ファン出身ということもあって、常に観客の気持ちを大事に考える姿勢は舞台のみならず、随所で垣間見ることができる。師 千作を永年の目標としながらも日々自分自身の狂言を研究、精進を続けている。

南 紫音

2005 年ロン・ティボー国際音楽コンクールにおいて第二位を受賞し、一躍国際的注目を集めた。2008 年にはCDデビューも果たし、現在最も期待されている若手実力派ヴァイオリニストの１人である。大須賀恵里 桐朋学園大学音楽学部卒業。1983 年蓼科高原音楽祭音楽祭賞受賞。

峯崎圭輔

神奈川県出身。国立音楽大学打楽器科卒業。同大学アドヴァンスド・ソリストコース修了。'05 年、TIAA 全日本クラシック音楽コンサート優秀賞受賞。同年、日本クラシックコンクール全国大会出場。'06 年、日本クラシックコンクール全国大会第二位(一位なし)'07 年、安倍圭子・ジブコヴィッチのマスタークラスを受講。'09 年 12 月、ソロパーカッション・デビューリサイタルを開催。'10 年 4 月、打楽器エンターテイメントグループ「Funcussion」のメンバーとして TV に出演。'12 年 4 月、ソロパーカッションライブ「Recitalive」を開催。クラシックのみならず、ドラムやラテン楽器などのポピュラー演奏や、マーチングにおけるスティックパフォーマンスなど多彩なテクニックを持ち合わせ、ソロやアンサンブル、吹奏楽、オーケストラ、ミュージカルなど幅広い分野で活動中。その他、打楽器アンサンブルの作編曲や吹奏楽指導、後進の指導にも力を入れている。これまでに打楽器及びマリンバを、上野信一、新谷祥子、奥田真広、木次谷紀子の各氏に師事。伊勢原ミュージックアカデミー打楽器&ドラム講師。

三宅信太郎

1988 年、東京都生まれ。桜美林大学総合文化学群音楽専修卒。国立音楽院にて音楽療法を専攻。「歌で語るストーリー」をテーマに、子どものための“歌い聴かせ”に取り組む童謡ポップスバンド UTAKATA のメンバーとして活躍する他、幼児音楽教室や私立高校などで合唱曲の作編曲を数多く手掛け、合唱指導を行う。

民族歌舞団 荒馬座

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して 「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。

望月純吉

劇団文学座所属、演出家。2001 年に文学座座員になり、演出作品は『THE CRISIS－ザ・クライシス』『ダウト DOUBT－疑いをめぐる寓話－』『運転免許 わたしの場合』他。アメリカ・ブロードウェイ作品の日本初演プロデュースについても積極的に活動し、ロングランヒットを記録した『ダウト』の日本初演を実現させた。

森下真樹

幼少期に転勤族に育ち、転校先の友だち作りで開発された遊びが踊りのルーツ。これまでに 10 カ国 30 都市以上でソロ作品上演。演劇、音楽、美術、漫画等とコラボ、ジャンルにとらわれない活動をウリとする。

山内俊輔

10 歳よりチェロを始める。桐朋学園大学卒業。1994 年にNHK交響楽団へ入団。現在オーケストラを中心にクアルテット・レゾナンツァなどのメンバーとして、室内楽でも活躍している。

山本愛香

富山県小矢部市に生まれる。幼少の頃、町内の祭りの和太鼓に出会う。10歳よりピアノを、19歳よりパーカッションを始める。桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業、ピアノ科卒業演奏会に出演、その後研究生となる。童謡フェスティバル最優秀賞受賞(作詞作曲部門)、太鼓打ち大会最優秀賞受賞(和太鼓)、富山県新人演奏会最優秀賞受賞(ピアノ)をはじめ、数々のコンクールやオーディションに入賞。研究生時に、秋山和慶(指揮)とガーシュウィンのラプソディー・イン・ブルーを共演、ニューヨークでのインターナショナル・キーボードフェスティバルに出演等、在学中より演奏活動を始める。以後、SINSKE(マリンバ)、木村大(ギター)、藤原道山(尺八)、伊藤かずえ(女優)、大平貴之(プラネタリウムクリエイター)、古澤巌(ヴァイオリン)、葉加瀬太郎(ヴァイオリン)等、各界のトップアーティストともコラボレーションを活発に続け、コンサート、ショー、イベント、テレビ、ラジオ等に出演している。桐朋学園大学附属子どものための音楽教室仙川教室・富山教室打楽器非常勤講師。

大蔵流狂言方 山本東次郎家

徳川幕府の式楽の伝統を継承する大蔵流狂言の家柄。初世山本東次郎則正(隠居名・東 1836(天保7)-1902(明治 35))に発する。現在、長男の四世東次郎則壽(1937(昭和12)-)、三男則俊(1942(昭和17-)、および その子息たち、泰太郎、則孝、則重、則秀が杉並能楽堂を拠点に公演、普及活動に努めている。

横浜シティオペラ

1983 年創立、2004 年にNPO 法人化。横浜を拠点に地域密着型のオペラ及びコンサートを企画運営している。上記出演者は同団体会員。NPO 法人横浜シティオペラ主催の各種オペラ・歌曲コンサートに出演の他、その他の歌劇団公演や、コンサートに出演活躍中。

吉川健一

高い音楽性と企画力で注目を集めるバリトン。国立音楽大学卒業、同大学院修了。イタリアで研鑽を積み、各地の歌劇場に出演。帰国後も東京二期会『魔笛』パパゲーノ、新国立劇場『沈黙』通辞、日生劇場『夕鶴』運ず、東京・春・音楽祭『ファルスタッフ』タイトルロール等出演。「第九」や宗教曲のソリストのほか、(財)地域創造の音楽活性化事業で地域に密着した親しみやすいアウトリーチやコンサートを展開している。二期会会員。

吉澤延隆

東海大学大学院芸術学研究科音響芸術専攻修了。在学中に、平成 18 年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員に採用。2008 年、第 15 回賢順記念全国箏曲コンクールにおいて最高賞の賢順賞受賞。2009 年、NHK-TV 芸能花舞台「今かがやく若手たち」に出演。2011 年、今後の活躍が期待される芸術家へ贈られる第 10 回「宇都宮エスペール賞」を宇都宮市より受賞。また、近年では国内のみならずトルコ共和国、アメリカ、フィンランド、イギリスなどで海外公演も行っている。現在、沢井箏曲院講師。

吉田麻紀

大阪府堺市出身。3歳からピアノを始め、中学・高校時代は吹奏楽部でパーカッションを担当。 03 年から東京のサンバチーム G.R.E.S.仲見世 BARBAROS に所属し、浅草サンバカーニバルやイベント等に出演。ブラジル音楽の様々なジャンルのバンドのサポートメンバーとして活動する中で、ブラジル北東部・バイーア州サルヴァドールのリズム"Samba Reggae(サンバヘギ)"に出会い、女性パーカッション・グループ Banda GIRASSOL に加入。GIRASSOL メンバーとして、数々のブラジルイベントや都内ライブハウスに出演。現在は girassol の他に、横浜を中心に活動する"mocidade vagabunda bateria nota 1000"のメンバーの一員として、SAMBA,ROCK,FUNK 他数々のリズムの融合をブラジル打楽器で表現するグループで活躍中。

米澤 浩

邦楽奏者。尺八。宮田耕八朗氏に師事。78 年日本音楽集団入団。内外のオーケストラとの共演経験も多く、現在に至るまで 200 公演以上の海外実績を持つ。コンサート活動の以外にもワークショップや専門的な講習会の講師など活動の幅は広い。日本音楽集団団員。(財)地域創造邦楽コーディネーター。《島根邦楽集団》顧問。

米田沙織

千葉県出身。幼少よりクラシックバレエを習い、桜美林大学総合文化学群演劇専修にてコンテンポラリーダンスに出会い傾倒する。以後、舞踊家 木佐貫邦子に師事。在学中よりダンサー・役者として活動し、鰐[hatahata]、ミクニヤナイハラプロジェクト等に出演。また、北尾亘率いる〈Baobab〉の所属メンバーとして

数多くの作品に出演する。升水絵里香とのダンスデュオ〈ヨネエリ〉やソロでの作品創作も行う。

りょうすけ

2005 年より「くちぶえ奏者」として活動を開始。ヒールト・シャトロー、分山貴美子に師事。日本では数少ない「のどウォーブリング」(トリル奏法)スタイルのくちぶえ奏者でもある。2012 年1月に口笛のクラシックCD「バロックくちぶえ～精霊の踊り～」をリリース。2013 年第 40 回国際口笛大会(アメリカ)でアライドアーツ成人部門第 2 位。コンサート、ライブ、TV、ラジオ出演等でも活躍中。

若鍋久美子

千葉県君津市出身。2008 年東京芸術大学器楽科を卒業。現在はフリーの打楽器奏者としてオーケストラ、吹奏楽、室内楽、打楽器アンサンブルなどクラシックを中心に活動する他、即興セッション、ハワイアンバンド、コンテンポラリーダンサーとのコラボレーションなどジャンルを問わず挑戦中。また、親子向けのリズムワークショップや、NPO 法人ミュージック・シェアリングの「楽器指導支援プログラム」に参加し、特別支援学校にて楽器指導も行っている。打楽器トリオ「Tripcy」メンバー。これまでに打楽器を藤本隆文、百瀬和紀、植松透、堀尾尚男の各氏に師事。

ＷＡＳＡＢＩ

「WASABI」は津軽三味線ユニット「吉田兄弟」の兄、吉田良一郎が取り組む新しい試み。三味線だけではなく、他の和楽器も交えた伝統音楽の良さを伝えるために始めた、学校公演のためのプロジェクト。メンバー：吉田良一郎(津軽三味線)元永拓(尺八)美鵬直三朗(太鼓)市川慎(十七絃箏)

渡辺峨山

9 歳より、父渡辺蚕山に尺八の手ほどきを受ける。12 歳のときに初めて聞いた「ビートルズ」に感動。東京芸術大学邦楽課卒、同学大学院修了。大学院在学中、皇居内桃華楽堂にて御前演奏。「箏座」メンバーとして本格的に演奏活動開始。ジャンルにとらわれず多方面で演奏活動。現在、邦楽演奏会、レコーディング、邦楽普及活動の「綾の会」、学校訪問、教授活動などに活躍中。

渡辺由布子

港南区在住。4歳より生田流箏曲を始める。16 歳で衛藤公雄師の直門となる。「NHK邦楽技能育成会」第 50 期修了。NHK邦楽オーディション合格。第 13 回長江杯国際音楽コンクール邦楽部門優秀賞受賞。生田衛藤流大師範。生田衛藤流会、50 期の会所属。箏アンサンブル「麗糸」メンバー。

【コーディネータープロフィール】

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターの団体概要は、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

企業組合　Media　Global（メディアグローバル）

2005 年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は 1998 年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。
2006 年より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」のコーディネーターを担当。
http://www.mediaglobal.info/

よこはま音楽広場実行委員会

よこはま音楽広場実行委員会は「地域にひらかれた音楽（コミュニティ・ミュージック）」を実施するため、平成 19 年に発足しました。
平成 19～20 年度には横浜市市民活力推進局による「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」として横浜市鶴見区に在住の外国人と近隣の住民を対象としたワークショップを行い、演奏家を交えたコンサートを行いました。平成 20 年度から「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」「クラシック・ヨコハマ　サロンコンサートブリッジ」の事業に携わり、病院や小学校などに演奏家を派遣し、体験型のコンサートを行いました。平成 23～24 年度「横浜アートサイト」の事業に携わり、神奈川県立こども医療センターにて、コミュニティ・ミュージックセラピー（CoMT）を実施しました。

特定非営利活動法人 子どもに音楽を

世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成 18 年の設立以来、各地の小中学校等で 129 回の演奏活動を実施しています。協力下さっている演奏家は国際的にも活躍、NHK 音楽番組にも度々出演なさっている、現在第一線で演奏活動を行っている方々です。又、これまでにイ・ムジチ合奏団をはじめ来日中の海外演奏家にもご協力頂いています。
http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/

特定非営利活動法人 横浜こどものひろば

あそぶ・まねる・つくる・みるなどをテーマに、神奈川県認証の NPO 法人として横浜こどものひろばを設立。これまでに 440 回（法人化以前も含む）の舞台の創造的鑑賞体験の機会と、多くのあそびのひろば等々を開催しています。横浜こどものひろばは、子どもの日常と子どものための「あそび」「芸術文化体験」を結ぶことが、日本の子どもが育つ環境を考えた時に、子ども自身の大切な育ちの場となると考えています。そこでは、子ども自身が参加して創り出す「瑞々しい子ども時代」、「豊かな子どもの時間」を大人と一緒に生み出し、子どもにとって必要な子どもの文化が豊かになることを目的としています。参加者は0才～80代まで、様々な年令の異なる人たちで創ることも大切にしています。近年は、従来行なってきた4才以上のプログラム以前の時代、0才～3才までの子どもとその親たちの芸術文化体験による子育てひろばを毎月開催しています。
http://www.yokohama-kodomo.com

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

NPO 法人芸術家と子どもたちは、2001 年に設立された特定非営利活動法人です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動をしています。「ASIAS（エイジアス）」（Artist's Studio In A School の略）は、公立の小中学校、特別支援学級、幼稚園、保育園などにおいて、アーティストと先生が協力してワークショップ型の授業を実施する活動です。横浜市芸術文化教育プログラムでは、平成 19 年度より毎年いくつかの授業をコーディネートしています。。
http://www.children-art.net/

ART LAB OVA アートラボ・オーバ

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして 1996 年から活動をしています。横浜唯一の独立系映画館「シネマ・ジャック＆ベティ」1 階の横浜パラダイス会館を拠点に、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開しています。
http://www.facebook.com/artlabova

民族歌舞団　荒馬座

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。
自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して 「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。
http://www.araumaza.co.jp/

アートの時間

アートの時間は、戸塚区を拠点に音楽・演劇・美術・ダンスといった分野のアートイベントやアートプログラムの企画運営をやっています。大きなホールや劇場では味わえないアーティストの息遣いまで感じられるような場づくりを目指しています。特に学校でのワークショップは、子どもたちが「日常」をより豊かに生きるために、アーティストの感性に触れるという「非日常」の体験を通して、『いつもと違う自分』の発見をしてもらえたらと思っています。
https://www.facebook.com/artnojikan.totsuka

NPO 法人 Offsite Dance Project（オフサイト・ダンスプロジェクト）

Offsite（オフサイト）は、「日常の場を離れて」の意。Offsite Dance Project は、劇場以外のさまざまな場所でダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進するチームとして 2008 年 3 月に結成。2009 年 6 月 NPO 法人設立。公共交通機関や近代建築、美術の建物資産、商業空間、ストリートなど、横浜を拠点に国内外の都市空間で、多分野のアーティストによるアクセスビリティの高いプロジェクトを企画・制作。また、2009 年より、アート教育のコーディネートを実施し、パフォーミングアーツの普及に取り組んでいる。
http://www.offsite-dance.jp

NPO 法人横浜シティオペラ

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住の音楽家 30 名によって、発足した。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成 3 年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの3本による『神奈川オペラフェスティバル』を 22 年間連続で催している。地域の文化発展に貢献した功績により、1993 年に神奈川文化賞、1995 年に横浜文化賞を受賞。
http://www.cityopera.jp/

青葉区民文化センター フィリアホール

フィリアホールは 1993 年にオープンしたクラシック音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの公演を年間約 30 回主催し、また、音楽愛好家・アマチュアの方々の音楽の練習や発表の場として数多く利用され、地域密着型のホールとして地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいています。ファミリー・コンサートや2、3 才児向け音楽ワークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、2007 年度からは青葉区・緑区の公立小学校への訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い普及に日々努めています。

http://www.philiahall.com

泉区民文化センター
テアトルフォンテ

テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る――この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。一般公募の市民が出演する市民参加型ミュージカルを始め、子供から大人までを対象にした演劇・音楽・ダンスなどのワークショップの開催、また暮らしの中で役立つものづくりを行う創作講座、地域のアーティストを招いてのコンサート事業など、芸術鑑賞の場を提供するとともに、文化活動支援にも力を入れ、「ものづくり」を行う場所としての使命と役割を担います。
http://www.theatre-fonte.com

栄区民文化センター
リリス

1998 年にオープンしたリリスは、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センターです。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開しています。また、2007 年度より継続して実施している「アウトリーチコンサート」や、0 歳から楽しめる「ファミリーコンサート」、気軽に参加できる「リリス de 講座」や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など区民の皆さまが文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めています。
http://www.lilis.jp

神奈川区民文化センター
かなっくホール

かなっくホールは 2004 年の開館以来、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民のみなさまへの上質の芸術鑑賞機会の提供にとどまらず、地域の中に芸術文化の担い手を増やす働きかけにも積極的に取り組んでいます。地元の若手アーティスト支援事業「From かなっく」や、区民のみなさまにイベント企画制作の様々なスキルを身につけ、実践していただく「アートマネジメント講座」と「区民プロデュース企画」、地元アーティストや講座受講者による区内での様々なアウトリーチ活動、また地元の文化活動団体の初めてのホール公演をサポートする「ステップアップ・プログラム」など、区民が日常生活の中でアートに触れ合い、自らの手で芸術文化を発信するための拠点として区民文化センターを活用する、“区民がつくる文化のかたち”をめざした事業展開を行っています。
http://kanack-hall.jp/

港南民文化センター
ひまわりの郷

私共、京急グループ共同企業体は平成 18 年度より、指定管理者として、上大岡の中心にある「港南区民文化センター」を運営してまいりました。地域の方々のニーズに答えながら、年間 50 本程度の様々な事業を展開しております。子どもからシニアまで幅広い年齢層に対応するコンサートや体験型イベントを行なっています。（低料金で質の高いクラシックコンサート、乳児も対象の親子で楽しむ音楽コンサート、シニアを対象にした日本の伝統芸能（邦楽、落語）、小・中・高生のストリートダンスコンテスト他）
http://www.himawari-sato.com

NPO 法人アートプラットフォーム
急な坂スタジオ

急な坂スタジオは、舞台芸術（現代演劇・ダンスなど）の創造拠点として、2006 年 10 月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小5つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。
http://kyunasaka.jp/

株式会社シグマコミュニケーションズ
久良岐能舞台

横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会等、市民に開かれた能舞台として利用されています。四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理、ホール運営事業を推進しております。そんな中で平成 18 年 9 月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より受託しております。一年間に自主事業を 10 公演程開催しており、10 月にはメセナ活動として近隣地区小学校を無償招待する小学校向け狂言鑑賞教室を開催する等、地域から愛される能舞台を目指して活動しております。
http://www.kuraki-noh.jp/

鶴見区民文化センター
サルビアホール

2011 年 3 月に開館した横浜市鶴見区にある文化施設。通常時 548 名を収容し、音楽・演劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールの他に、100 名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、リハーサル室、練習室を兼ね備えています。貸館業務・自主事業制作を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠点として、近隣学校等においても多角的な活動を目指しています。自主事業の中ではレジデントアーティストを起用した公演を行っており、特に音楽系プログラムにおけるご協力ができるものと思います。それ以外にも、他文化施設、文化団体とのネットワークを活かして多彩なアーティストのコーディネートをさせていただきます。
http://salvia-hall.jp/

戸塚区民文化センター
さくらプラザ

さくらプラザは、2013 年 8 月開館の芸術文化施設です。戸塚駅に直結し、アクセスの良い場所で文化の発信・拠点としてさまざまな芸術活動の普及・支援をおこないます。本格的なクラシックコンサート・伝統的な古典芸能など世界で活躍する多彩なアーティストを招き、上質な芸術体験を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチ活動など地域への普及事業をアーティストと協力して実施します。そこに暮らす人々が文化芸術に触れる時間と空間を創造し、区民のステイタスの向上に貢献します。
http://www.totsuka.hall-info.jp/

緑区民文化センター
みどりアートパーク

平成 25 年 10 月5日にオープンする横浜市緑区民文化センター（みどりアートパーク）は、文化活動の練習・発表・鑑賞・情報収集の場を提供するだけでなく、地域における活動や人材の育成・支援、地域と連携し文化の力によるまちづくりを進めることで、(1)文化活動・情報発信の拠点(2)地域の文化振興を担う人材を育成する拠点(3)地域の連携の拠点として、「地域に根差した個性ある文化づくり」に役立つことを目的に、横浜市が設置した施設です。
http://www.m-artpark.com/

株式会社ワコールアートセンター
象の鼻テラス

象の鼻テラスは、横浜市・開港 150 周年事業として、2009 年 6 月 2 日に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースを兼ね備えたレストハウス（休憩所）として、横浜市が推進する新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、象の鼻テラスは、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、アート、パフォーミングアーツ、音楽など多ジャンルの文化プログラムを随時開催しています。併設した象の鼻カフェでは、文化プログラムに連動したメニューの提供などを行っています。
http://www.zounohana.com/

旭区民文化センター
サンハート

横浜市旭区民文化センター「サンハート」は、相鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ 5F にあり、交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々のための文化センターです。多目的にご使用いただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」では美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミーティングルーム」や各種練習室等を兼ね備えています。～人を愛するサンハート、人から愛されるサンハート～をコンセプトに、各施設の貸し出しだけではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづくり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を通して、旭区からパワーを発信しています。
http://www.sunheart.info/

磯子区民文化センター
杉田劇場

横浜市磯子区民文化センター 杉田劇場は 2005 年2月5日に開館しました。以来、磯子の地域力・区民力を活かし、文化で地域や人をつなぐため活動をおこなってきました。地域の人たちが望むことを一つ一つ丁寧に拾い上げ、地域と一体になって事業を展開してきました。地域の皆様のおかげで 2015 年2月5日に開館 10 周年を迎えることとなりました。これからも"地域の文化拠点"として一緒にできることに取り組み続けてまいります。

http://www.sugigeki.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市吉野町市民プラザ

吉野町市民プラザは、ホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習の場として、開館以来、多くの方にご利用いただいております。地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。

http://www.yaf.or.jp/yoshino/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野

横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。

http://artazamino.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜美術館

1989 年開館の横浜美術館は、みる、つくる、まなぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、制作プロセスを通した美術館普及に力を入れてきました。今回の学校訪問のプログラムは、当館の教育プロジェクトと市民のアトリエの職員が担当します。横浜美術館を主会場におこなわれる3年に一度の大きな国際展であるヨコハマトリエンナーレ 2014 を伝え、併せて来館していただくことで、ヨコトリをよりよく理解していただくための、お話と制作です。

http://www.yaf.or.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜にぎわい座

横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、大衆芸能の専門館として生まれました。 かつて寄席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ横浜の町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わっていただく場、そして新しい芸能を生み出す場として、横浜にぎわい座は歩んできました。芸能ホール（391 席）は、やぐらをイメージした舞台廻りや桟敷席、仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間で、毎月 1 日～15 日は落語、漫才、マジック、民謡など様々な主催公演を開催しています。また、その他に、小ホール・練習室・制作室を備え、各種の練習や創作活動にご利用いただけます。施設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が行っています。

http://www.yaf.or.jp/nigiwaiza/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫１号館

1913 年に創建された横浜赤レンガ倉庫 1 号館は、2002 年にリニューアルされ「芸術文化の創造発信」と「賑わいの創出」を目指した文化施設として運用されています。2・3 階は「ホール＆スペース」となっており、コンサートやギャラリーなどの貸出施設として、幅広いジャンルのイベントに使われています。主催事業はコンンテンポラリーダンスと現代アートを中心に展開し、芸術文化活動と賑わい創出を総合的に振興しています。

http://www.yokohama-akarenga.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜みなとみらいホール

横浜みなとみらいホールは、横浜の新都心「みなとみらい21地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。1998 年2月に小ホールが稼動を開始し、同年5月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間 600 回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。

http://www.yaf.or.jp/mmh

神奈川県立音楽堂

神奈川県立音楽堂は、1954 年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館し、今年 60 周年を迎えました。ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは人々に感動をあたえつづけています。

http://www.kanagawa-ongakudo.com/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 岩間市民プラザ

横浜市岩間市民プラザは、保土ケ谷区の天王町駅そばに立地する文化施設です。上映会・コンサート・発表会など、様々な目的に使用できる 181 席のホールの他に、音楽練習ができる大小４つのスタジオ、 会議や講座に最適なレクチャールーム、ギャラリー、リハーサル室を備えています。また、「午前の音楽会」などをはじめとしたコンサートや、映画の上映会の他にも、横浜ビジネスパークや橘樹神社への出前公演なども行うなど、地域に密着した自主事業を数多く行っています。

http://iwama.exblog.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂

本舞台は旧染井能舞台として長く親しまれてきた能舞台を復原したものです。この舞台は明治 8 年（1875 年）東京・根岸の旧加賀藩主前田斉泰（なりやす）邸に建てられ、後に東京・染井の松平頼寿（よりなが）邸に移築されて昭和 40 年まで広く利用されてきました。関東地方現存最古の舞台で、全国的に見ても 8 番目に古く、建築史上、能楽史上貴重なものです。横浜能楽堂には本舞台の他にも研修室や練習、発表にご利用いただける第二舞台、展示廊などもあります。

http://www.ynt.yaf.or.jp

横浜市市民文化会館 関内ホール

芸術文化の楽しさと感動を幅広く提供し、市民に親しまれる文化の拠点を目指して活動しています。

◆主な自主事業

・陽だまりコンサート（気軽に楽しめるクラシック）

・関内寄席（桂歌丸師匠、他）

・馬車道ショートパフォーマンス（若手アーティスト支援）

http://kannaihall.jp/

NPO 法人 ST スポット横浜

STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。

http://stspot.jp/

【各種資料】

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　平成 26 年度事業報告書

発行：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
（ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

作成：ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　　公開開始：平成 27 年 6 月 23 日

《お問い合わせ先》〒220-0004　神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部　内　横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
電話：045-325-0410　ファックス：045-325-0414　メール：toiawase@y-platform.org

※本報告書に掲載されている肩書や名称などは平成 26 年度時点のものになります。